

**令和 6 年度**  
**「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」**  
**調 査 報 告 書**

長 野 市



# 目次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査の対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計 報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的なこと	21
	職場における「女性活躍と就労」に関することについて	55
	仕事と生活の調和に関することについて	111
	地域社会に関することについて	145
	男女の人権に関することについて	155
	「性」の多様性に関することについて	167
	男女共同参画施策に関することについて	175
	資料	179
	単純集計	181
	調査票	207



# I 調査の概要



## 1 調査の目的

市民の男女共同参画・女性活躍等の推進に関する意識と実態を統計的手法によって把握・分析し、長野市の男女共同参画施策の基礎資料を得るとともに、今後の施策に反映することを目的とする。

## 2 調査の対象

令和6年7月1日現在で長野市に在住する18歳以上75歳未満の男女各1,000人  
(計：2,000人)

## 3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

## 4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒(料金受取人払)により調査票を返送してもらう郵送調査法による(調査票は別紙のとおり)。

## 5 調査時期

令和6年8月1日(木) ～ 令和6年8月30日(金)

## 6 送付・回収状況

送付数：2,000票

回収数：627票 (回収率：31.4%)

【男性票：268票、女性票：351票 性別無回答他：8票】

## 7 調査事項

### ● 回答者の属性

F1性別 F2年齢 F3職業 F4家族 F5配偶者の有無

F6子の有無 F7配偶者またはパートナーの就業の有無

- (1) 一般的な質問
- (2) 職場における女性活躍と就労に関する質問
- (3) 仕事と生活の調和に関する質問
- (4) 地域社会に関する質問
- (5) 男女の人権に関する質問
- (6) 「性」の多様性に関する質問
- (7) 男女共同参画施策に関する質問
- (8) 自由記入

## 8 調査票の集計

電子計算機による集計(委託)

### 報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記している。従って、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。
- ⑤回答者数が少ない場合参考値として掲載。データの精度が低くなる為その分析は行わないものとする。



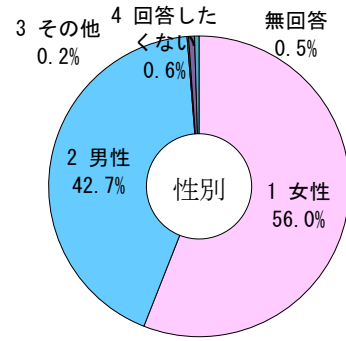


## II 回答者の属性



### F 1 性別

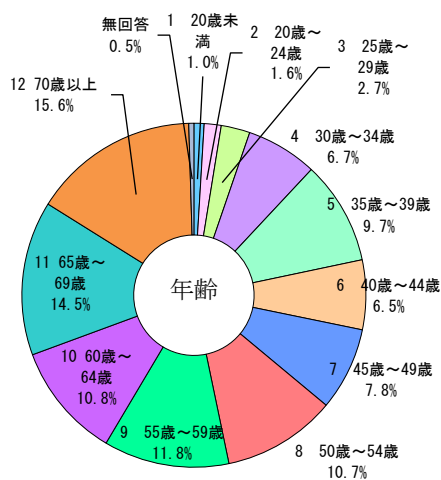
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 女性	351	56.0%
2 男性	268	42.7%
3 その他	1	0.2%
4 回答したくない	4	0.6%
無回答	3	0.5%
合計	627	100.0%



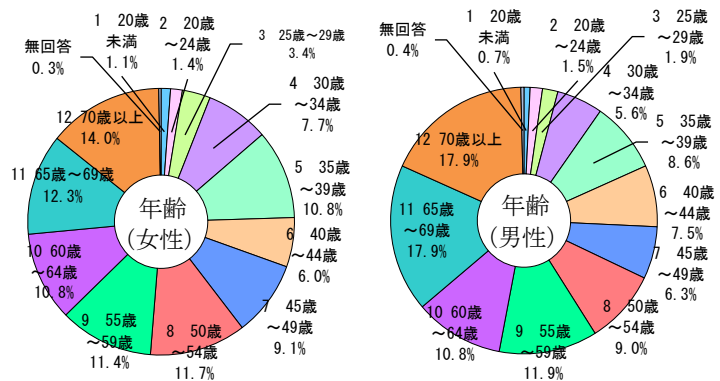
### F 2 年齢

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 20歳未満	6	4	2	0	1.0	1.1	0.7	0.0
2 20歳～24歳	10	5	4	0	1.6	1.4	1.5	0.0
3 25歳～29歳	17	12	5	0	2.7	3.4	1.9	0.0
4 30歳～34歳	42	27	15	0	6.7	7.7	5.6	0.0
5 35歳～39歳	61	38	23	0	9.7	10.8	8.6	0.0
6 40歳～44歳	41	21	20	0	6.5	6.0	7.5	0.0
7 45歳～49歳	49	32	17	0	7.8	9.1	6.3	0.0
8 50歳～54歳	67	41	24	1	10.7	11.7	9.0	100.0
9 55歳～59歳	74	40	32	0	11.8	11.4	11.9	0.0
10 60歳～64歳	68	38	29	0	10.8	10.8	10.8	0.0
11 65歳～69歳	91	43	48	0	14.5	12.3	17.9	0.0
12 70歳以上	98	49	48	0	15.6	14.0	17.9	0.0
無回答	3	1	1	0	0.5	0.3	0.4	0.0
合計	627	351	268	1	100.0	100.0	100.0	100.0

#### 【全体】



#### 【男女別】

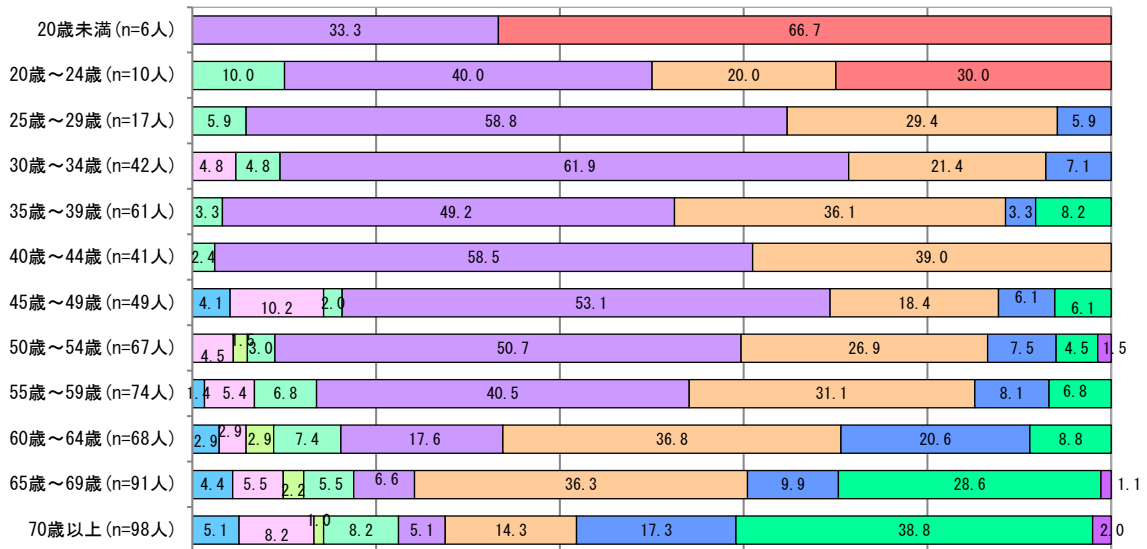
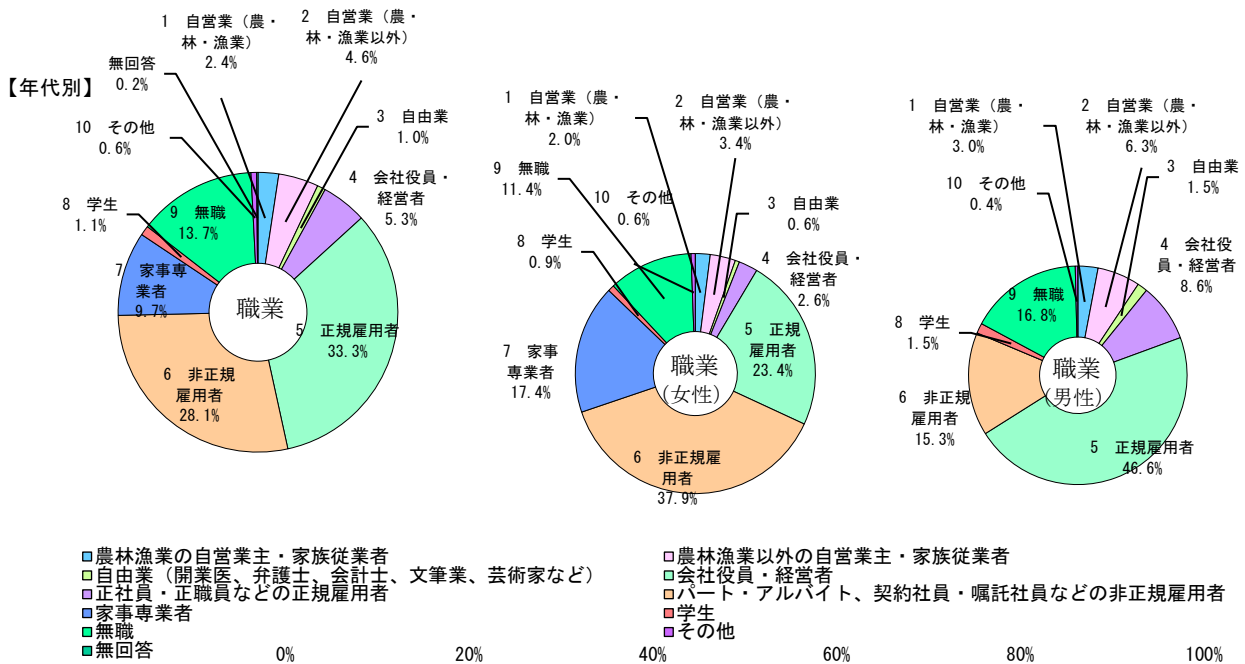


F 3 職業

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 自営業 (農・林・漁業)	15	7	8	0	2.4	2.0	3.0	0.0
2 自営業 (農・林・漁業以外)	29	12	17	0	4.6	3.4	6.3	0.0
3 自由業	6	2	4	0	1.0	0.6	1.5	0.0
4 会社役員・経営者	33	9	23	0	5.3	2.6	8.6	0.0
5 正規雇用者	209	82	125	1	33.3	23.4	46.6	100.0
6 非正規雇用者	176	133	41	0	28.1	37.9	15.3	0.0
7 家事専業者	61	61	0	0	9.7	17.4	0.0	0.0
8 学生	7	3	4	0	1.1	0.9	1.5	0.0
9 無職	86	40	45	0	13.7	11.4	16.8	0.0
10 その他	4	2	1	0	0.6	0.6	0.4	0.0
無回答	1	0	0	0	0.2	0.0	0.0	0.0
合計	627	351	268	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

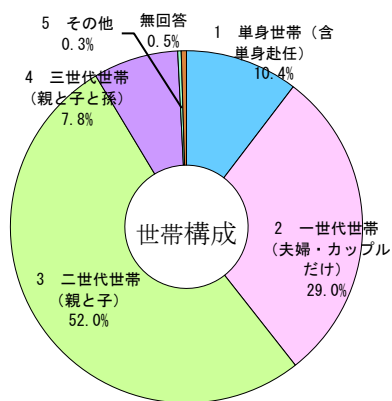
【男女別】



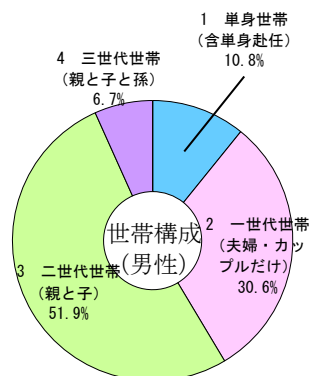
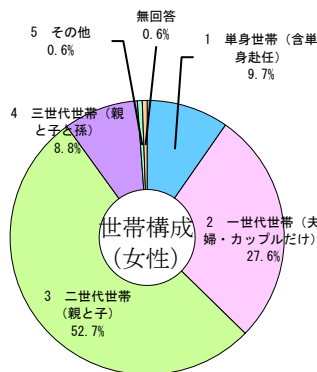
F 4 あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。

	回答者数（人）				割合（%）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 単身世帯（含単身赴任）	65	34	29	1	10.4	9.7	10.8	100.0
2 一世代世帯（夫婦・カップルだけ）	182	97	82	0	29.0	27.6	30.6	0.0
3 二世世代世帯（親と子）	326	185	139	0	52.0	52.7	51.9	0.0
4 三世世代世帯（親と子と孫）	49	31	18	0	7.8	8.8	6.7	0.0
5 その他	2	2	0	0	0.3	0.6	0.0	0.0
無回答	3	2	0	0	0.5	0.6	0.0	0.0
合計	627	351	268	1	100.0	100.0	100.0	100.0

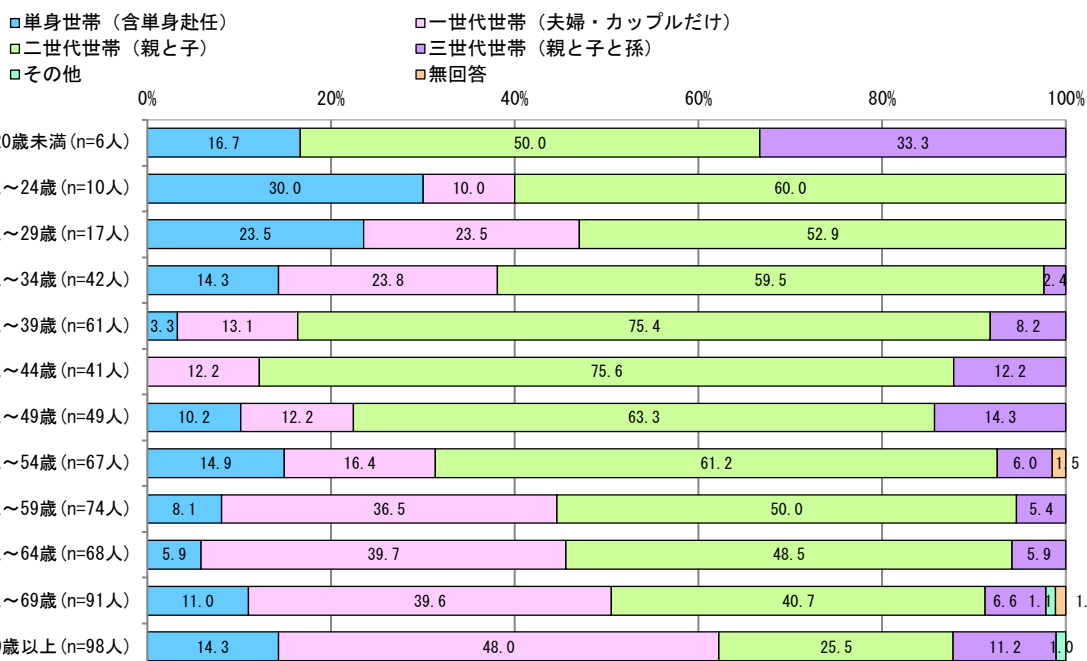
【全体】



【男女別】



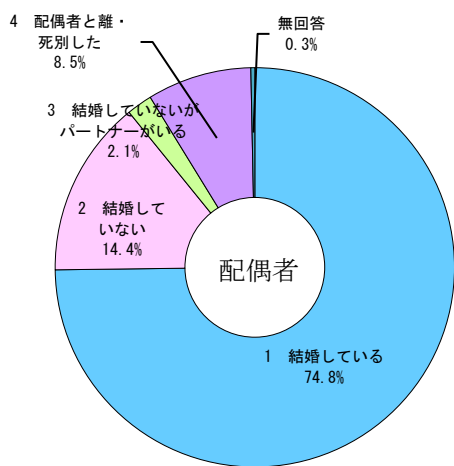
【年代別】



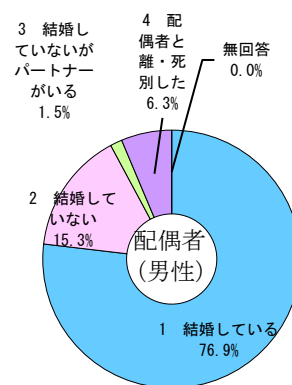
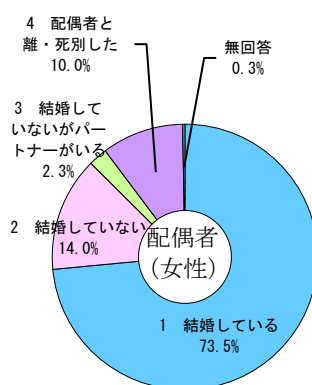
F5 あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 結婚している	469	258	206	1	74.8	73.5	76.9	100.0
2 結婚していない	90	49	41	0	14.4	14.0	15.3	0.0
3 結婚していないがパートナーがいる	13	8	4	0	2.1	2.3	1.5	0.0
4 配偶者と離・死別した	53	35	17	0	8.5	10.0	6.3	0.0
無回答	2	1	0	0	0.3	0.3	0.0	0.0
合計	627	351	268	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

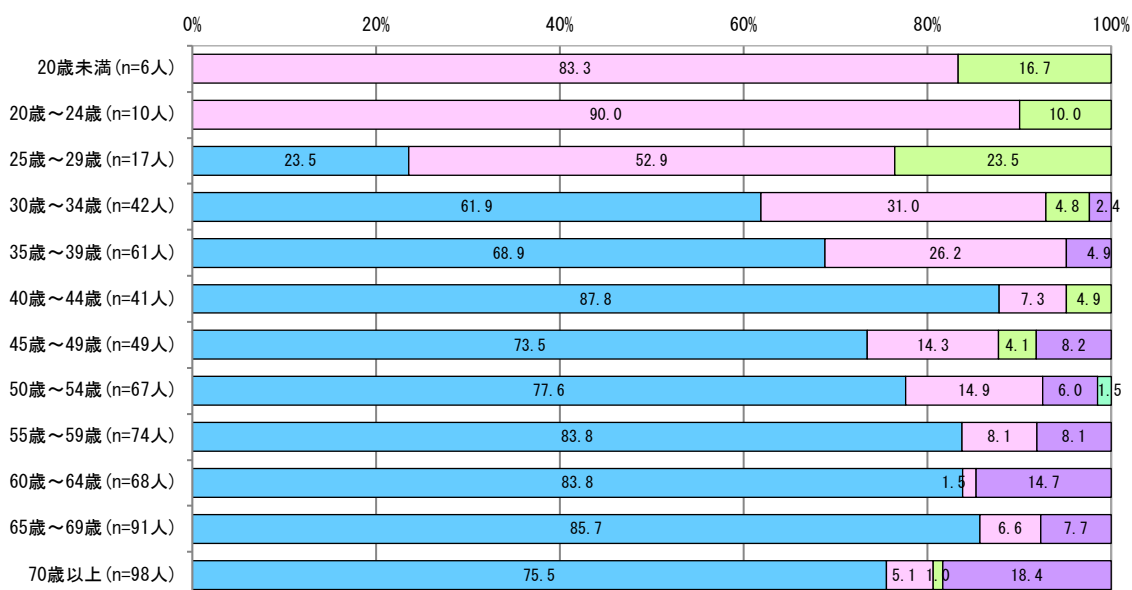


【男女別】



【年代別】

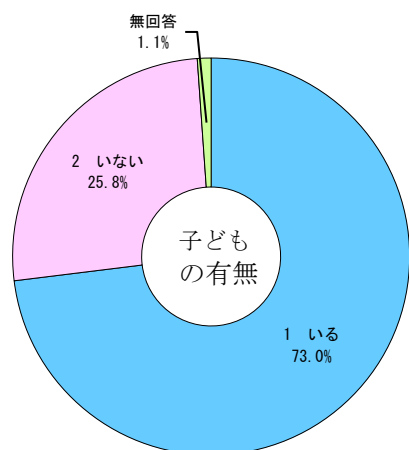
■結婚している □結婚していない ■結婚していないがパートナーがいる □配偶者と離・死別した ■無回答



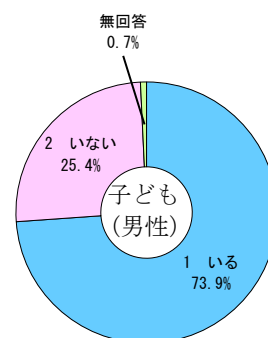
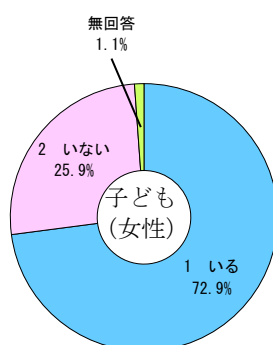
F 6 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 いる	458	256	198	1	73.0	72.9	73.9	100.0
2 いない	162	91	68	0	25.8	25.9	25.4	0.0
無回答	7	4	2	0	1.1	1.1	0.7	0.0
合計	627	351	268	1	100.0	100.0	100.0	100.0

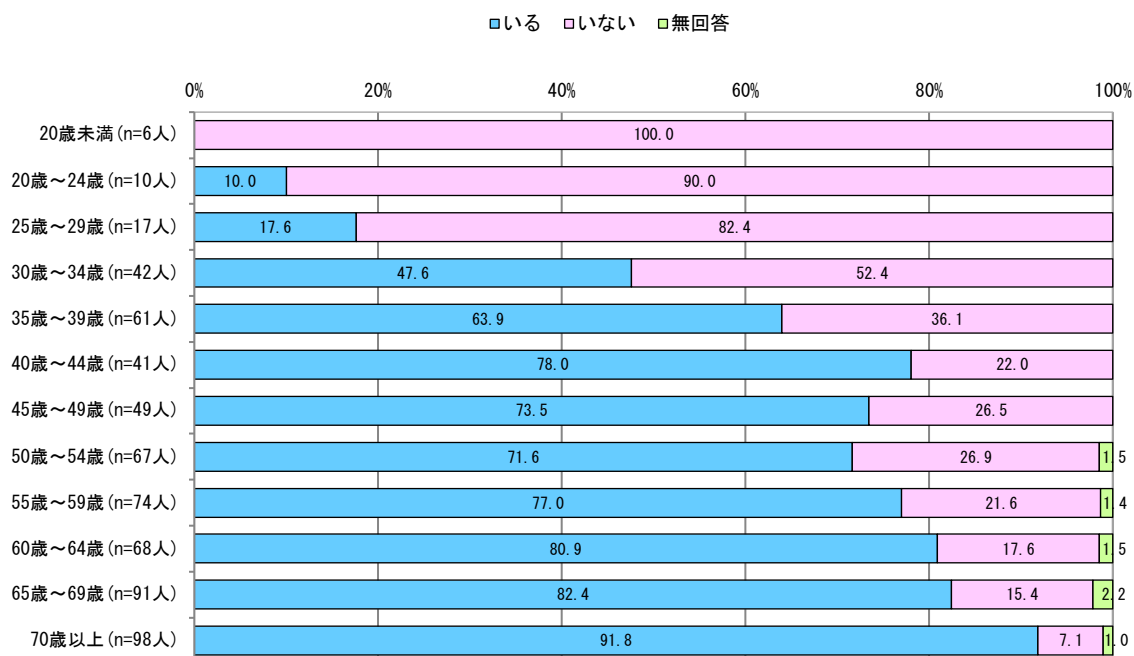
【全体】



【男女別】



【年代別】

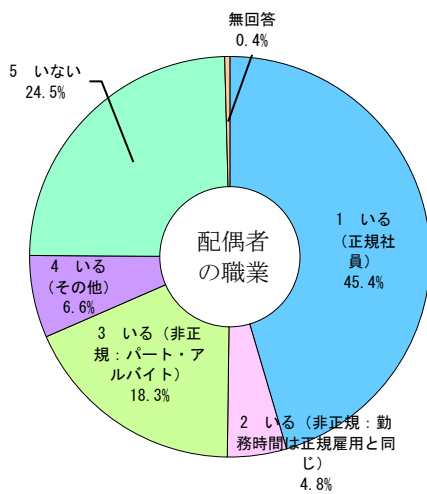


結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

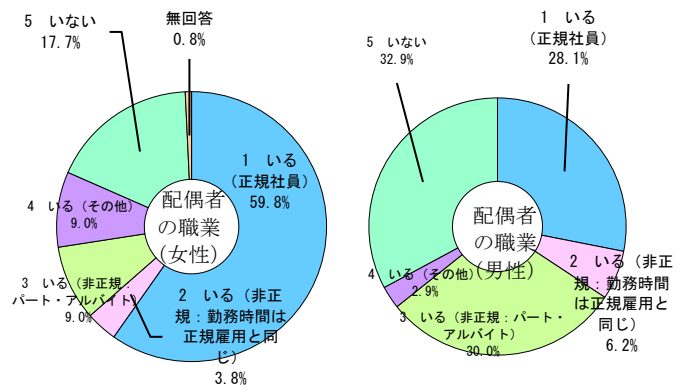
F 7 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	その他	全体	女性	男性	その他
1 いる (正規社員)	219	159	59	1	45.4	59.8	28.1	100.0
2 いる (非正規:勤務時間は正規雇用と同じ)	23	10	13	0	4.8	3.8	6.2	0.0
3 いる (非正規:パート・アルバイト)	88	24	63	0	18.3	9.0	30.0	0.0
4 いる (その他)	32	24	6	0	6.6	9.0	2.9	0.0
5 いない	118	47	69	0	24.5	17.7	32.9	0.0
無回答	2	2	0	0	0.4	0.8	0.0	0.0
合計	482	266	210	1	100.0	100.0	100.0	100.0

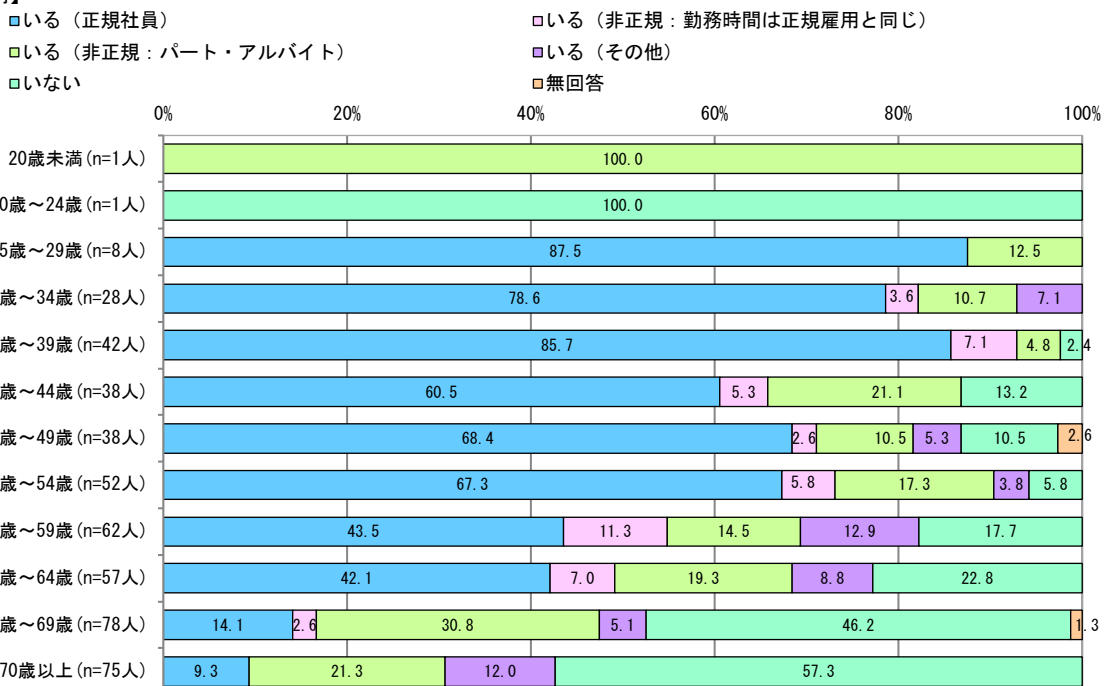
【全体】



【男女別】



【年代別】





### Ⅲ 結果の概要



## 1 一般的なこと

### (1) 社会における男女の扱いについて

「家庭生活」、「学校教育の場」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度の上」、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育の場」(59.3%)の1分野であった。それ以外の分野では「男性の方が優遇」という回答割合の合計が最も多くなっている。特に「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」では「男性の方が優遇」という回答割合の合計が約8割となっている。

分野別でみると、「家庭生活」においては、「男性の方が優遇」という回答割合の合計は、男性が45.1%に対し、女性が63.3%となり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度の上」においても、「男性の方が優遇」という回答割合の合計は、男性が30.6%なのに対し、女性は50.2%となっている。また、「地域社会」、「職場」、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」、「社会全体」といった分野でも、「男性の方が優遇」という回答割合が多く、男女とも約5割～8割となっている。

### (2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」に関する7つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「ジェンダー」(95.1%)、「男女共同参画社会」(82.6%)となっている。また、「女性活躍推進法」(64.8%)、「女子差別撤廃条約」(56.3%)も、5割以上となっている。それ以外の3つの用語の認知度は、5割を下回っている。

### (3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は15.5%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は75.1%となっている。前年に比べ、前者は2.1ポイント減少し、後者は2.5ポイント増加した。平成22年調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答の合計が、半数を上回っている。世代別性別でみると、25歳～29歳の男性、30歳～34歳の女性、35歳～39歳の男女、55歳～59歳の女性、65歳～69歳の男性で「賛成」がいる結果となっている。

### (4) 「女らしさ・男らしさ」などを言われたり、期待されることについて

「たまにある」という回答が、男女とも約5割となる。20歳未満の男女、40歳～44歳の男性、70歳以上の男性を除く、いずれの世代別性別でも、「よくある」、「たまにある」の回答割合の合計が6割以上となっている。

言われる場としては、「家庭」、「職場」、「地域・近隣」がそれぞれ4割以上となる。男性では「職場」、女性では「家庭」が多い傾向にある。

内容としては、「家事・育児・介護」、「働き方や仕事内容」、「行動の仕方」が4割以上となっている。

### (5) 女性が職業をもつことについて

女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が5割以上と、最も多い回答となっている。

## 2 職場における「女性活躍と就労」に関することについて

### (1) 方針決定の場などへの女性活躍の必要性について

方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性に関しては、男女ともに「必要だと思う」という回答が最も多い回答となっており、「必要ないと思う」という回答は1.3%となっている。

## (2) 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」、「経験や能力を発揮する機会」の5つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、いずれの項目でも「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「平等である」がやや多いものの、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答と拮抗している。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答が最も多いのは、「仕事の内容」で8.8%となっているが、この項目における「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は21.6%と女性を上回っている。

## (3) 就労意識について

職業に就いている方に尋ねたところ、「そう思う」と考えている割合が高いのは、「あなた自身は活躍したい」(32.9%)、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」(25.2%)、「現在の生活や仕事に満足している」(23.3%)「女性も管理職として活躍している」(23.1%)の4分野であった。「思わない」と考えている割合が高いのは、「女性の管理職の部下には、なりたくない」(53.8%)、「退職して仕事に就かない」(41.5%)、「管理職への打診があれば受けてみたい」(26.9%)の3分野であった。

## (4) 職場における女性の雇用や登用の推進について

女性が活躍するために企業が取り組むべきは何かと尋ねたところ、「とても重要だと思う」と考えている割合が高いのは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」(62.4%)、「企業内託児所や学童保育所などの設置」(56.9%)、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」(55.9%)、「非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善」(46.4%)の4分野であった。

## (5) 再就職について

離職されている方に、再就職の際の雇用形態の希望を尋ねたところ、全体で見ると「パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみなど)」(36.1%)という回答が最も多くなっている。女性は、次いで「その他」(7.9%)となり、男性は「正規の社員・職員」と「パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみなど)」(17.8%)が同率で並んでいる。

「派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員」、「パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみなど)」を回答した理由を尋ねたところ、女性は、「仕事より家庭生活を優先したいから」、男性は、「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」が最も多い回答となっている。

## (6) 離職の原因(理由)について

離職の原因(理由)について尋ねたところ、「出産」という回答が全体で16.1%、「結婚」が全体で16.1%となっているが、「出産」では男性が1.8%なのに対し、女性は27.6%、「結婚」では男性が2.3%なのに対し、女性は26.0%となり、性別により差がある。

## (7) 女性の就労について

女性の活躍を進めるうえでの問題について尋ねたところ、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」(80.1%)という回答が最も多くなっており、次いで「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(46.9%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(33.3%)となっている。

女性が意欲をもって働き続けるために何が必要か尋ねたところ、「育児・介護に関する制度の充実」(40.8%)が最も多い回答となっており、次いで「家族の理解や協力」(33.3%)、「職場の理解や協力」(31.4%)、「賃金の男女平等」(26.8%)と続いている。

離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか尋ねたところ、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(80.5%)が最も多い回答となっており、次いで「保育所などの保育施設の充実」(62.0%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(51.4%)と続いている。

### 3 仕事と生活の調和に関することについて

#### (1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の39.6%となっており、認知度は依然として低い。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が43.3%と女性の37.0%より多くなっている。

#### (2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先が最も多い回答となり、現実の生活では、女性は『家庭生活』優先が35.6%と最も多い回答となっている。しかし、同項目で男性は13.4%となっている。男性では、『仕事』優先という回答が32.5%と最も多い回答になっており、性別により違いがある。

#### (3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」(44.4%)、女性では、「食事のしたく」(77.3%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「洗濯」(36.4%)で、女性では、「ごみ捨て」(14.7%)であった。

また、男性は、「食料品、日用品などの買物」、「掃除」「食事の後かたづけ」については、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合が3割を超えている。

家事従事時間に関しては、平日では「0～1時間未満」という回答は、男性47.0%、女性4.6%と差が大きくなっている。休日では「0～1時間未満」という回答が男性29.5%、女性3.4%となっており、平日に比べて差が小さくなっている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、男性は23.6%、女性は51.5%と差が大きい。介護に関しては男性が14.9%、女性が20.0%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(58.4%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(57.9%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(49.6%)、「昇給、昇格に影響すると考えるから」(29.3%)といった理由で利用が進まない状況となっている。

### 4 地域社会に関することについて

#### (1) 自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAなど、地域での活動における事例について尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である」で、47.7%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている」(41.1%)、「自治会やPTAの会長は、男性と決まっている」

(37.8%)、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」(35.9%)となっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」という回答が最も多く、2割(24.6%)となっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」(20.4%)と「役員の中での女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」(12.8%)と続いている。

## 5 男女の人権に関することについて

### (1) DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が23.9%に対し、女性は39.3%となっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が15.3%、女性では3.7%、「受けたことがある」という回答が女性では17.4%、男性は3.4%となっている。

DVにあったときの相談窓口として、「知っている」という回答が最も多かったのは、「県警（警察安全相談窓口）」で4割(41.0%)となっている。次いで、「相談できる窓口は知らない」(40.0%)、「女性の人権ホットライン」(12.4%)、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」(11.6%)、「長野県女性相談センター」(8.8%)、「長野市福祉事務所」(7.3%)の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、約6割(59.2%)となっている。

## 6 「性」の多様性に関する質問

### (1) 性的マイノリティ（性的少数者）について

性的マイノリティ（性的少数者）についてどのような考え、イメージを持っているか尋ねたところ、「性の多様性として認めるべきである」(61.7%)が最も多く約6割となっている。次いで、「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」(48.2%)、「身近な存在だと思う」(27.4%)と続いている。

### (2) 性的マイノリティ（性的少数者）の人権について

「社会全体での教育や啓発」(47.7%)で、約5割となっている。次いで、「学校等、子供のころからの教育や啓発」(41.1%)、「社会制度（法制度や条例制定等）の整備」(19.5%)と続いている。「学校等、子供のころからの教育や啓発」の回答割合は、男性が35.8%、女性が45.3%となっており、性別により違いがある。

## 7 男女共同参画施策に関することについて

### (1) 男女共同参画社会実現に向けた行政に期待することについて

行政に期待することについては、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」(64.6%)が最も多くなっている。次いで、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」(59.2%)、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」(54.7%)の順となっている。

## IV 調査の結果





---

---

## 一般的なこと

---

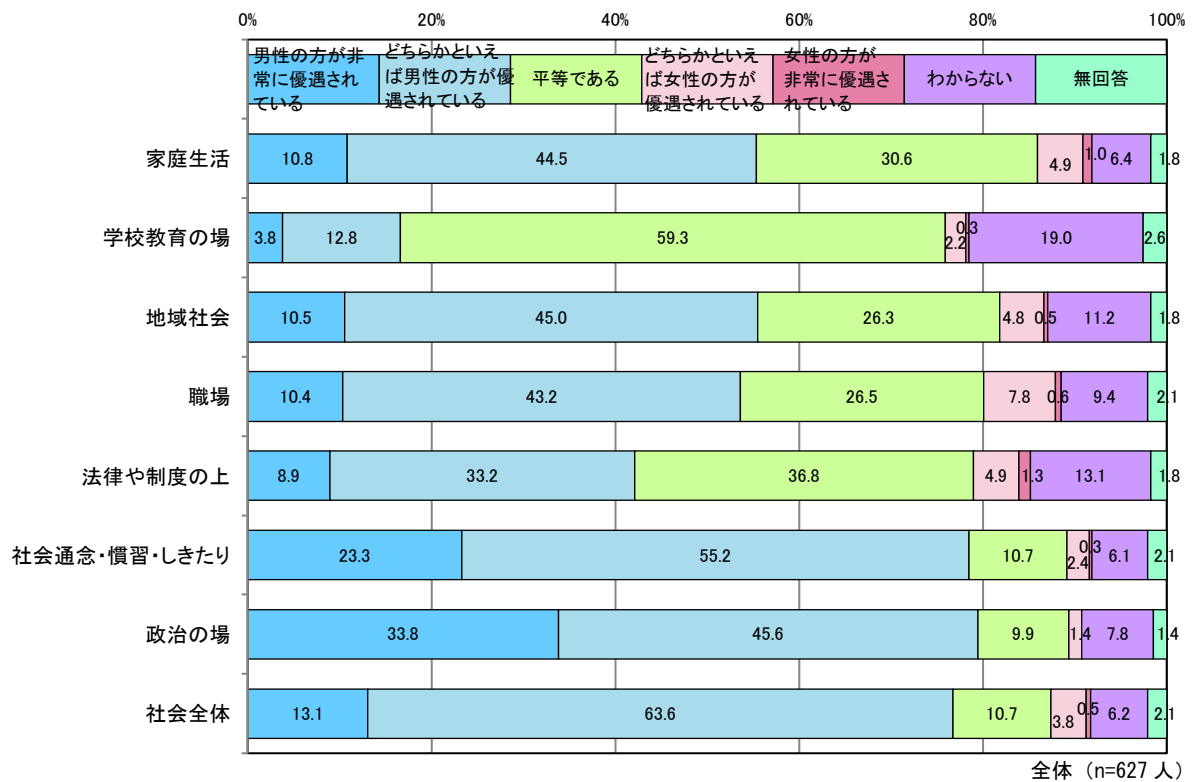
---



問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。（それぞれ〇は1つ）

- ・「平等である」と考えている割合が多いのは、「学校教育の場」（59.3%）、「法律や制度の上」（36.8%）、「家庭生活」（30.6%）の3分野となっている。
- ・一方、「政治の場」は79.4%、「社会通念・慣習・しきたり」は78.5%、「社会全体」は76.7%となり、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」、「女性の方が非常に優遇されている」、「わからない」という回答割合の合計は、いずれも約8割となっている。

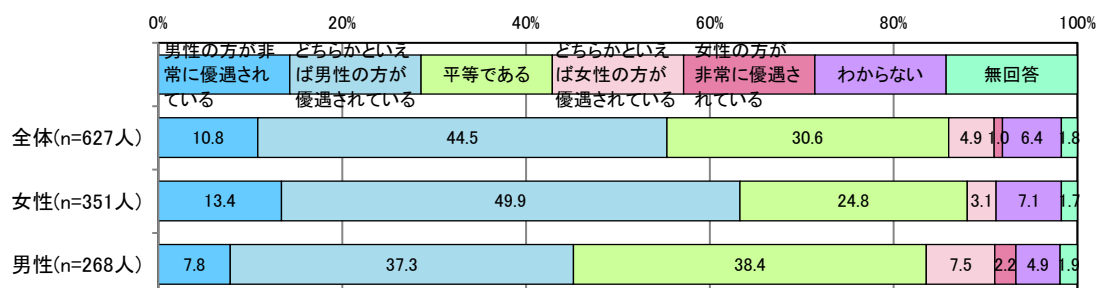
【全分野】



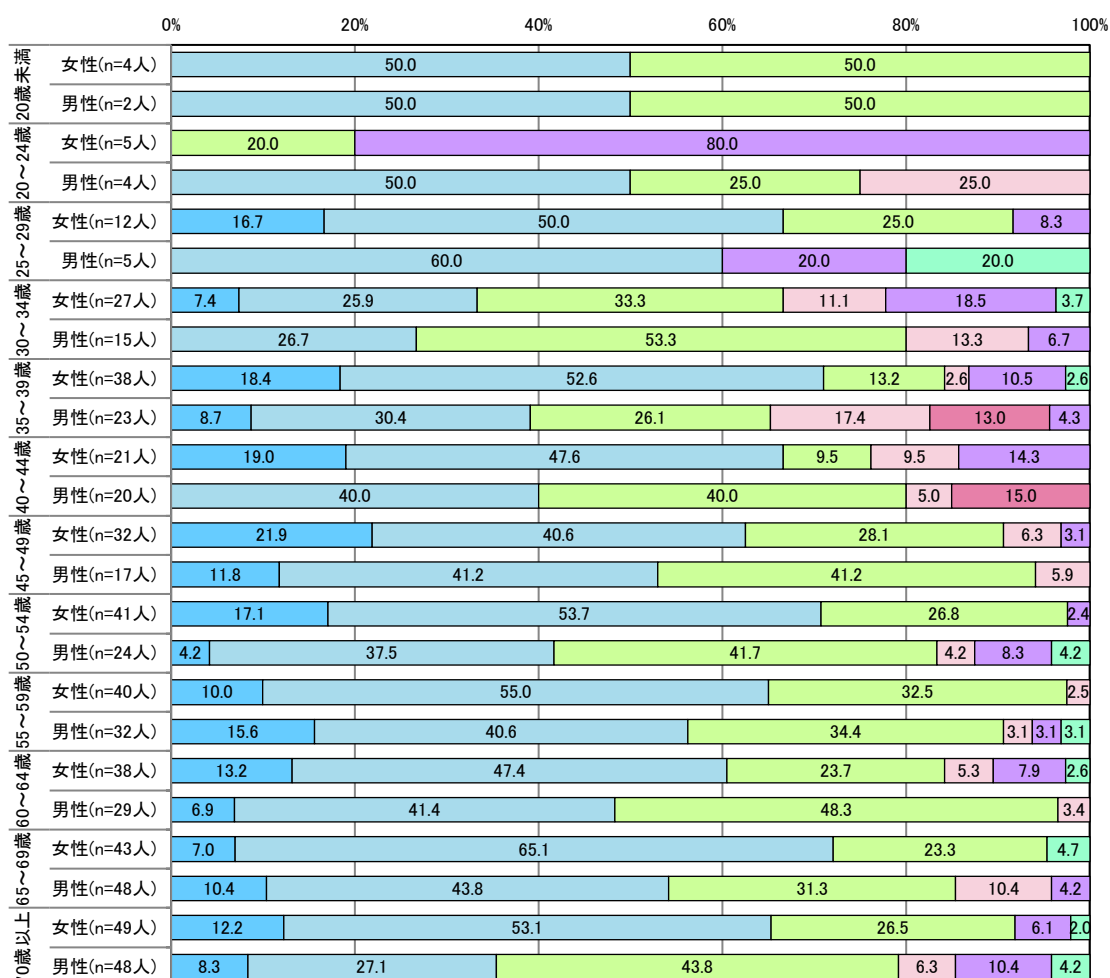
# 1 家庭生活

- 性別でみると、男性は、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」（37.3%）という回答が最も多く、約4割となっている。女性も「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（49.9%）が約5割となっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計は、男性では約5割（45.1%）となっているが、女性では6割以上（63.3%）となっている。
- 世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計は、女性では25歳～29歳、35歳～44歳、50歳～54歳、65歳～69歳で約7割となっている。男性でも、25歳～29歳、55歳～59歳で約6割となっている。

【性別】



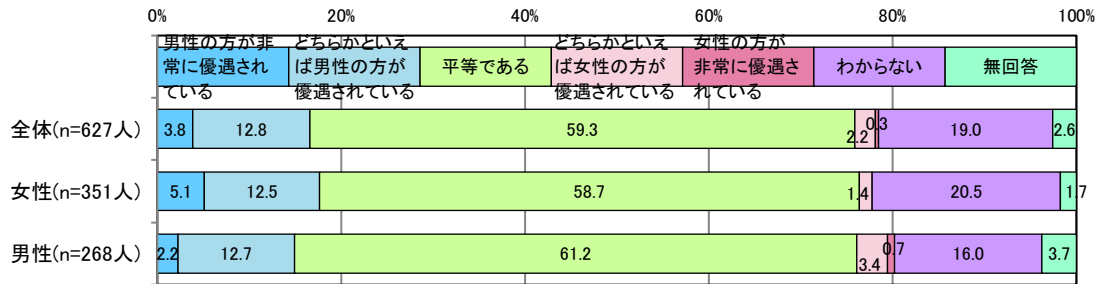
【世代別性別】



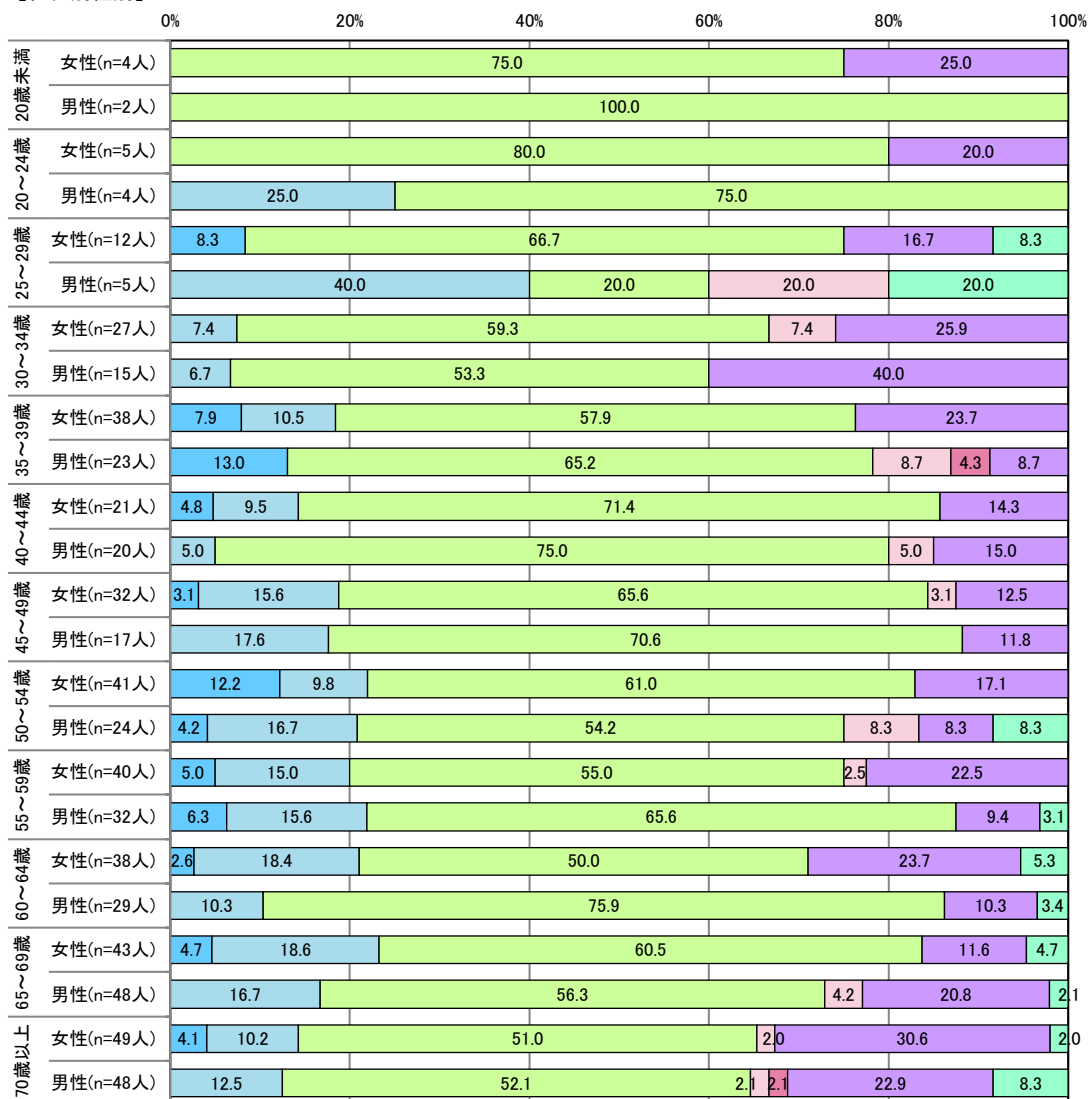
## 2 学校教育の場

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性は 61.2%、女性は 58.7%と、約 6 割となっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計は、男性よりも女性の方がやや多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25 歳～29 歳の男性を除く、いずれの世代でも「平等である」という回答が最も多くなっている。25 歳～29 歳の男性では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が 4 割となっている。

【性別】



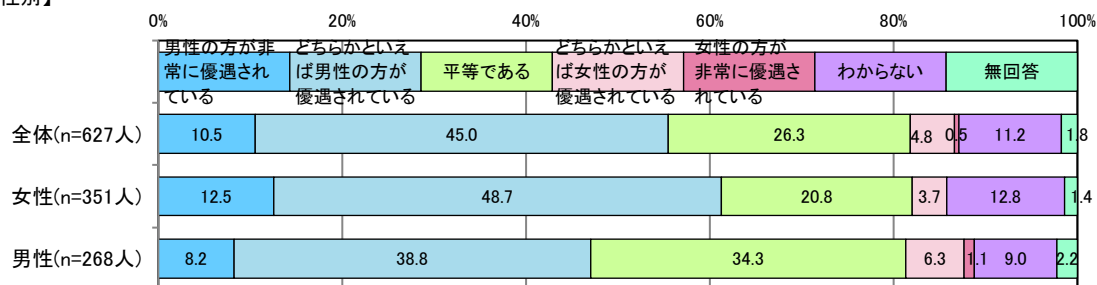
【世代別性別】



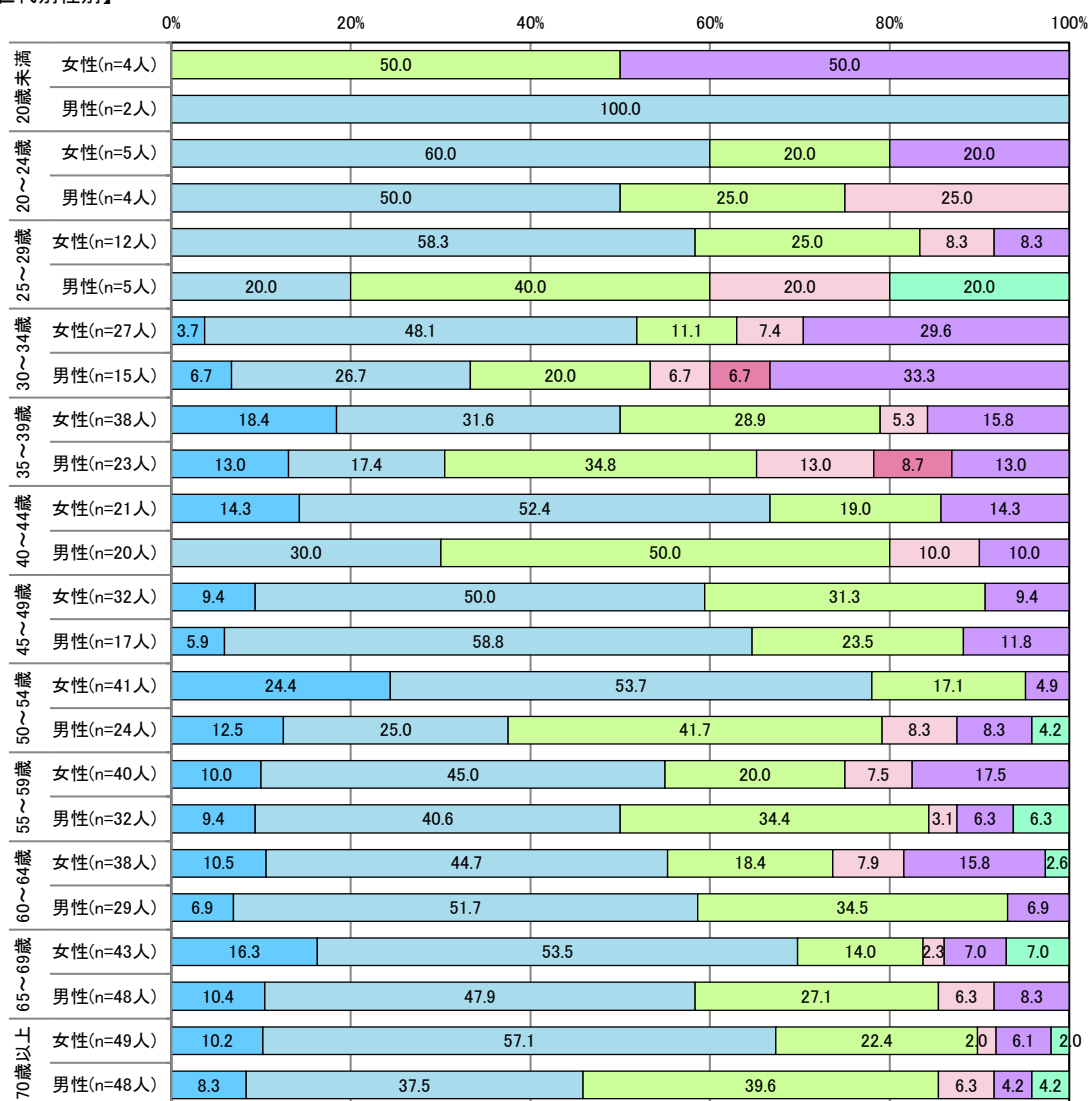
### 3 地域社会

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性は38.8%、女性は48.7%となっている。一方、「平等である」という回答は男性が3割以上(34.3%)であるのに対し、女性は約2割(20.8%)となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となる世代は、20歳未満男性、40歳～44歳の女性、45歳～49歳の男性、50歳～54歳の女性、65歳以上の女性となっている。

【性別】

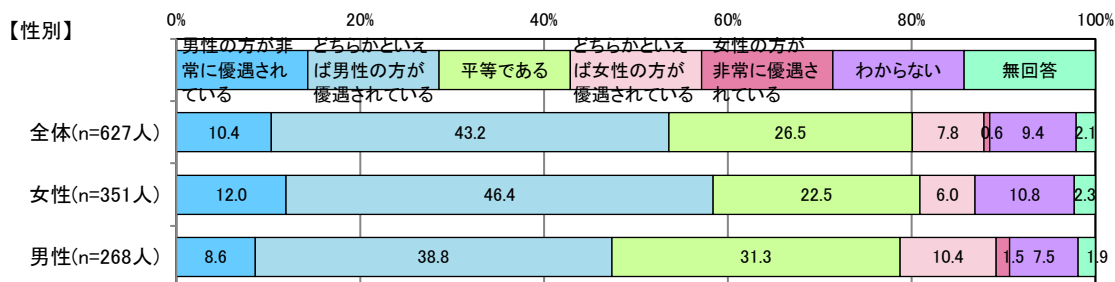


【世代別性別】

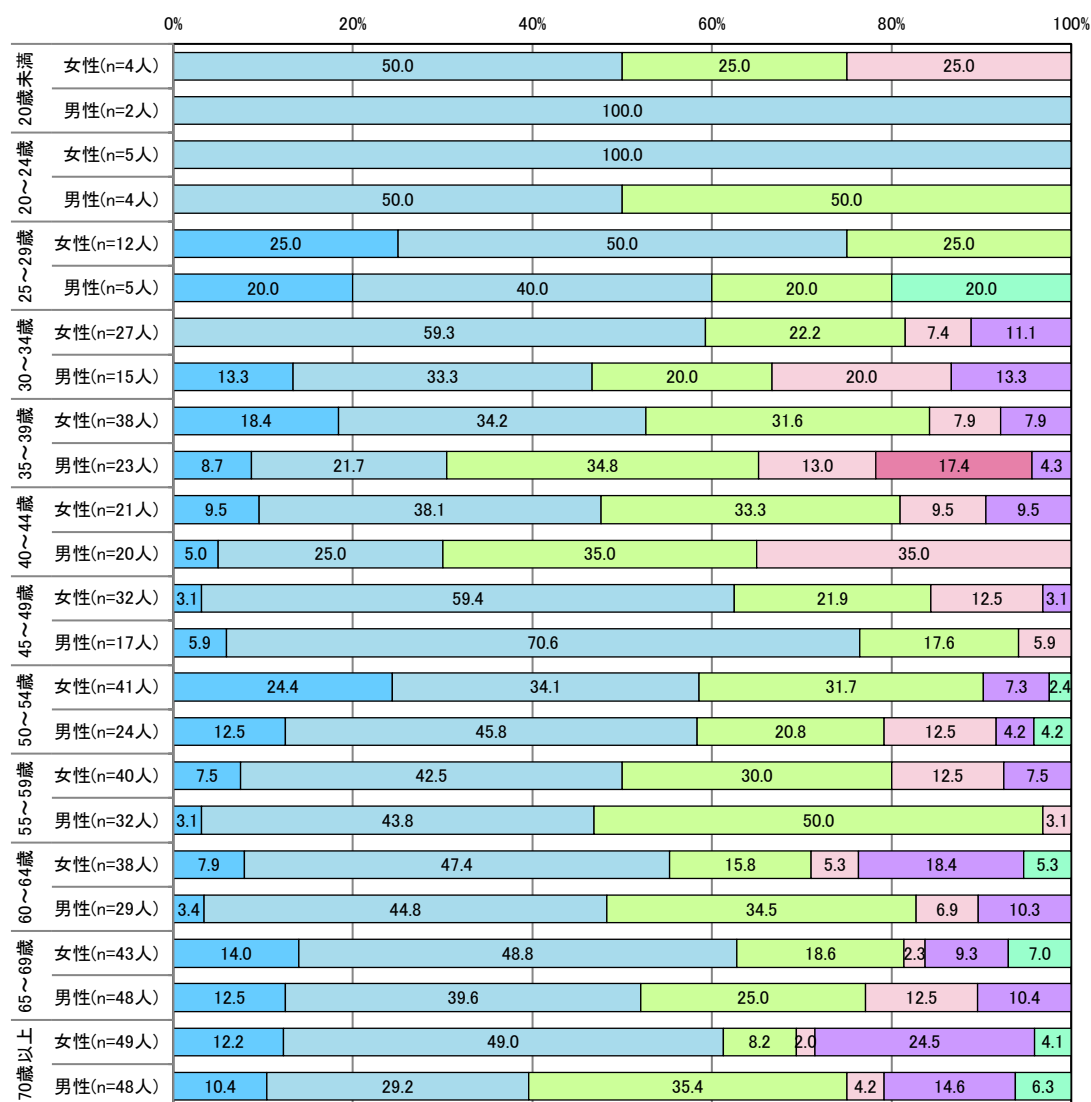


## 4 職場

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性は38.8%、女性は46.4%となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となる世代は、20歳未満の男性、20歳～24歳の女性、25歳～29歳の男女、45歳～49歳の男女、65歳以上の女性となっている。

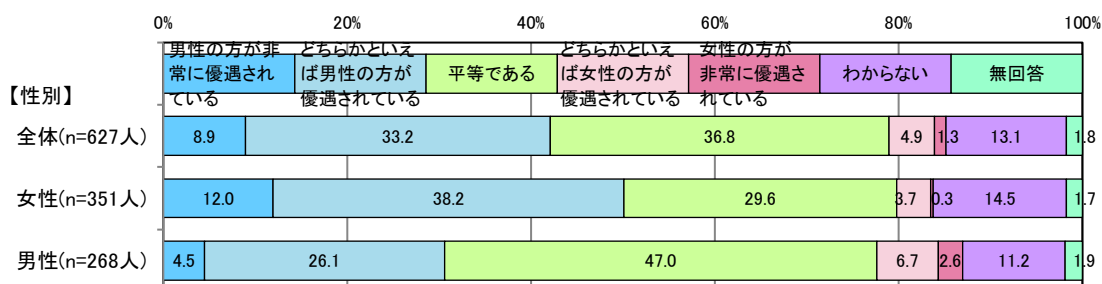


【世代別性別】

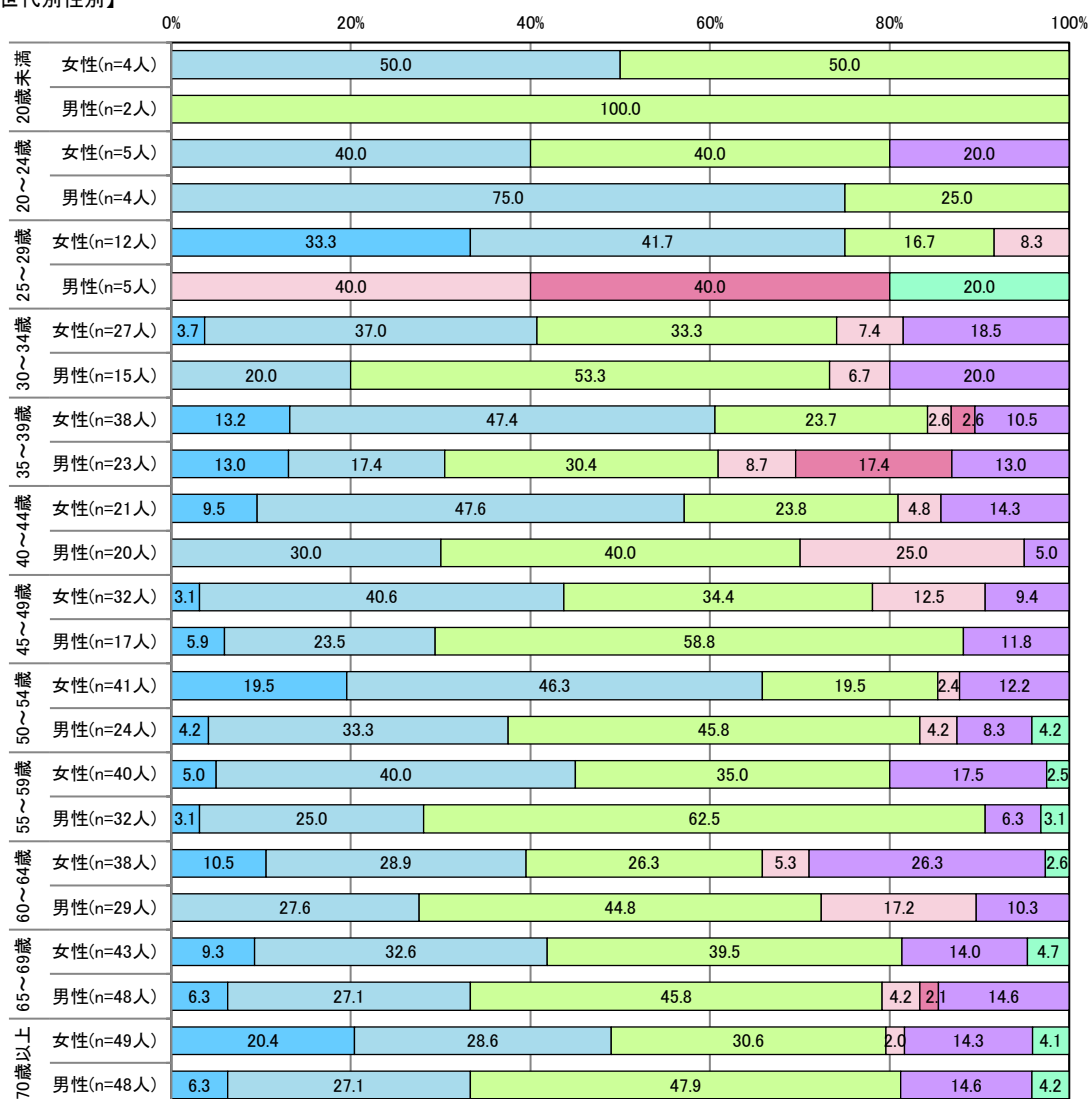


## 5 法律や制度の上

- 性別でみると、男性では「平等である」という回答が最も多く、約5割（47.0%）となっている。一方、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（38.2%）という回答が最も多く、法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- 世代別性別でみると、男性では、20歳未満、30歳～34歳、45歳～49歳、55歳～59歳の世代で、「平等である」という回答が5割以上となる。女性では、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となる世代は、25歳～29歳、35歳～39歳、50歳～54歳となっている。



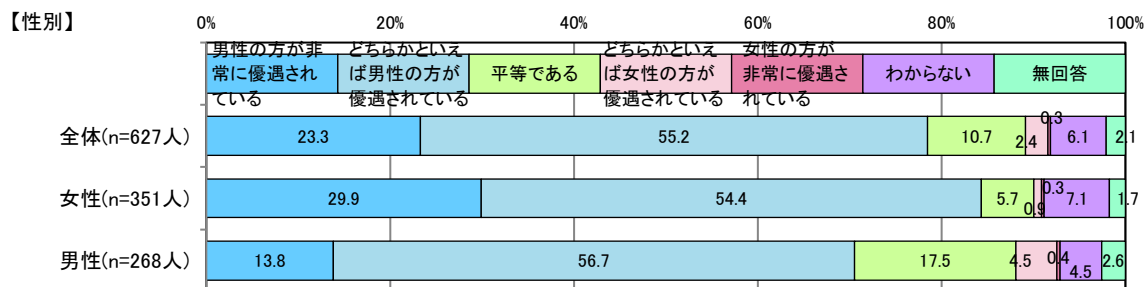
【世代別性別】



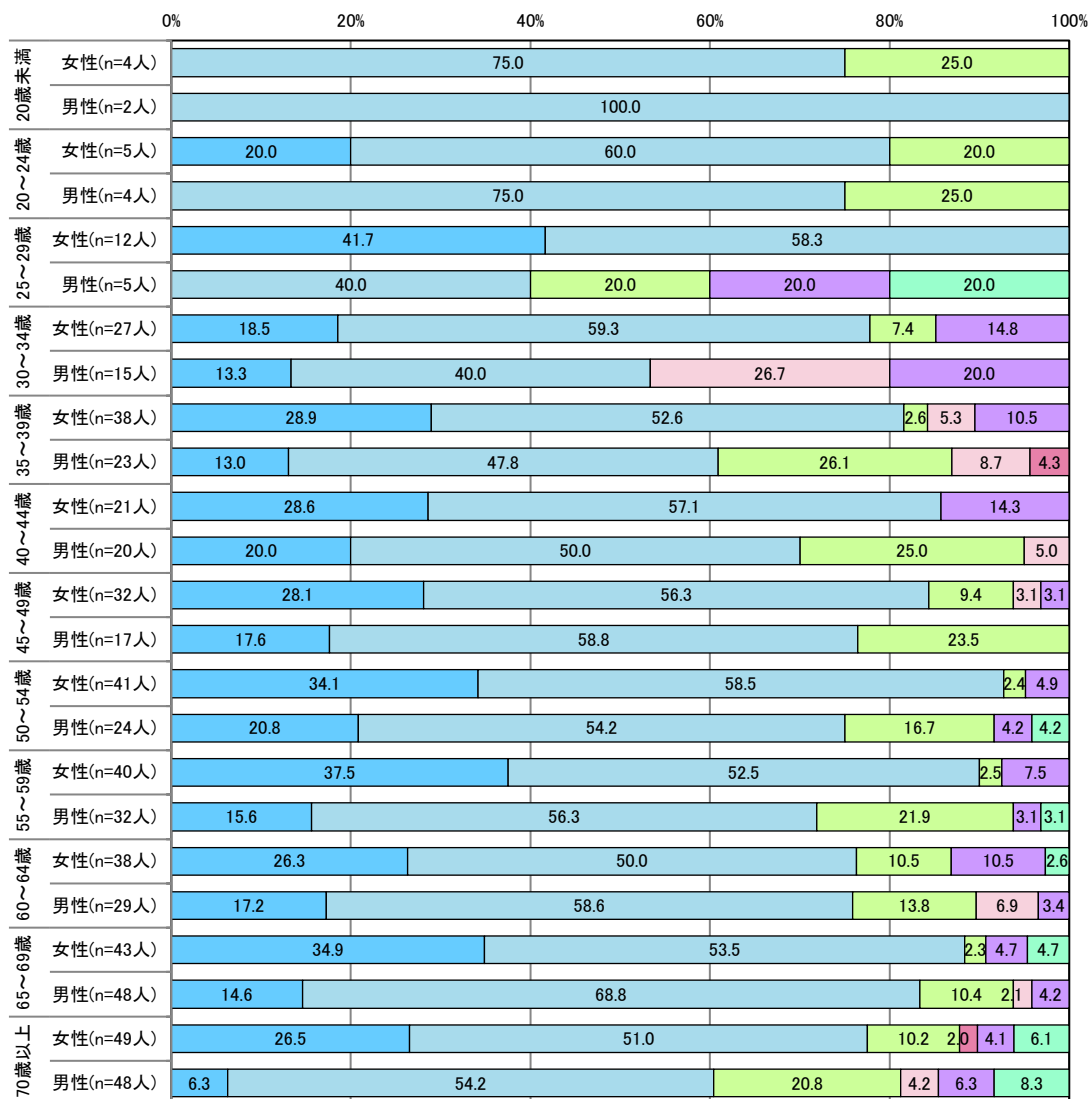


## 6 社会通念・慣習・しきたり

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性は56.7%、女性は54.4%となっている。
- ・世代別性別でみると25歳～34歳の男性の世代を除いて、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となっている。
- ・特に女性では、20歳未満、60歳～64歳、70歳以上を除いて、回答割合の合計が8割以上となっている。



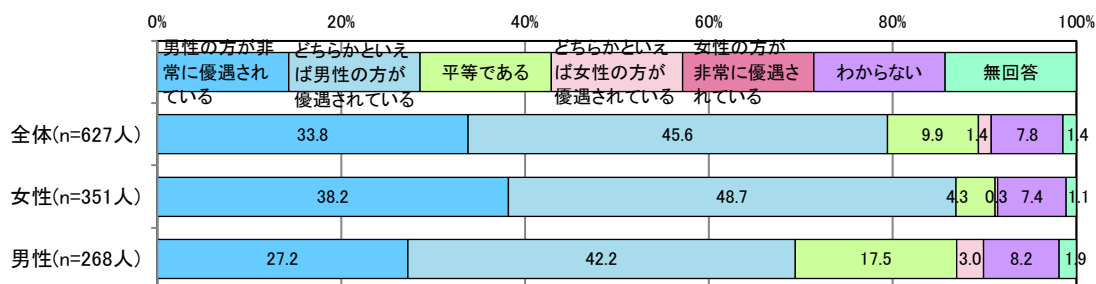
【世代別性別】



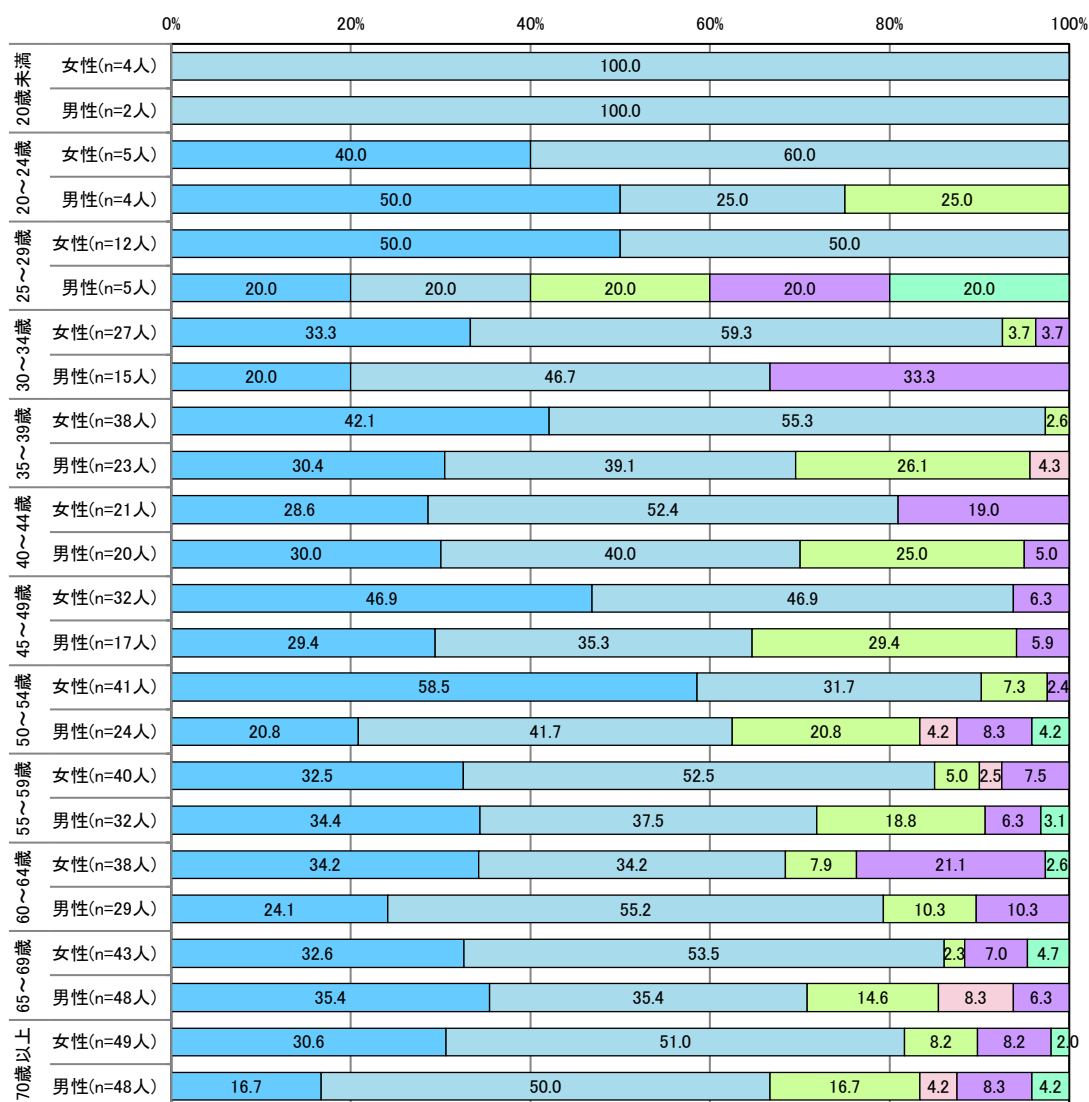
## 7 政治の場

- ・性別でみると、男性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が約4割（42.2%）、女性は「男性の方が非常に優遇されている」が約5割（48.7%）と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性の世代を除いて、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となっている。

### 【性別】

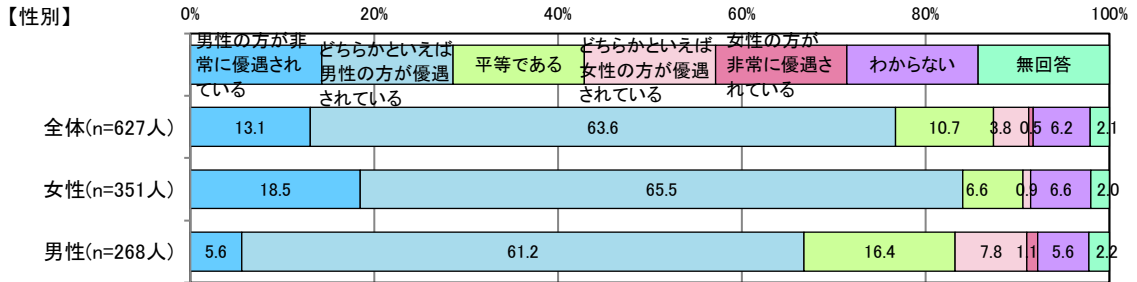


### 【世代別性別】

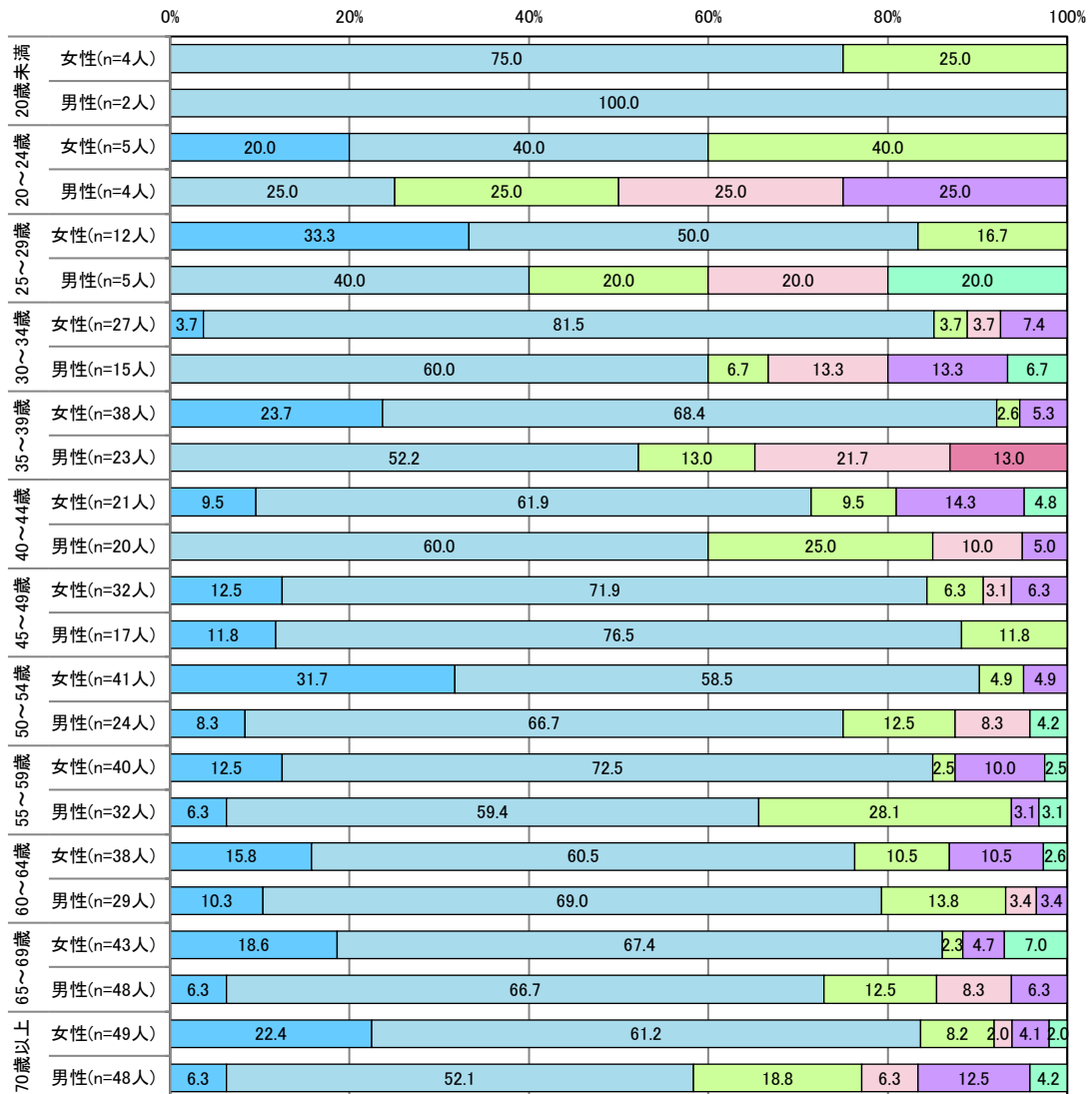


## 8 社会全体

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性は61.2%、女性は65.5%と6割以上となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（16.4%）、女性が約1割（6.6%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～29歳の男性、35歳～39歳の男性、70歳以上の男性を除き、いずれの世代においても「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計が6割以上となっている。

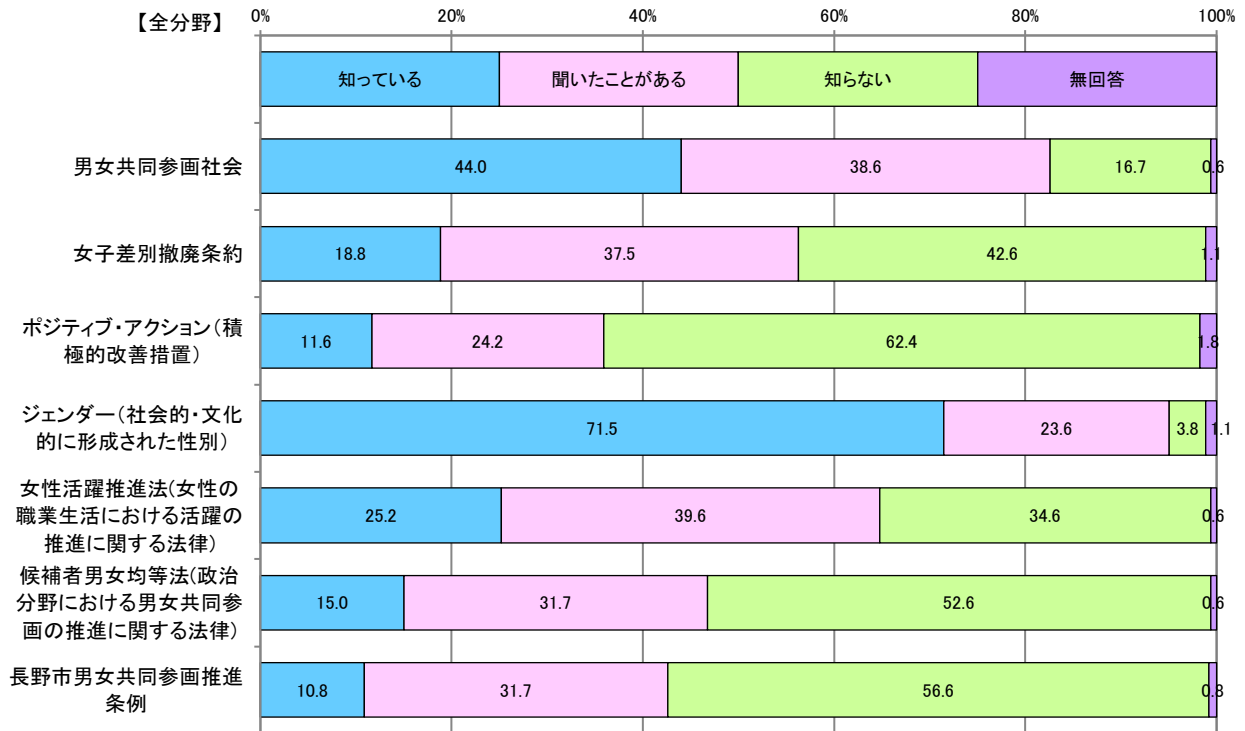


【世代別性別】



問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。  
(それぞれ〇は1つ)

- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合を合計すると、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」（95.1%）、「男女共同参画社会」（82.6%）が8割以上と認知度が高い。次に、「女性活躍推進法」（64.8%）、「女子差別撤廃条約」（56.3%）が5割以上、「候補者男女均等法」（46.7%）「長野市男女共同参画推進条例」（42.5%）と続いている。

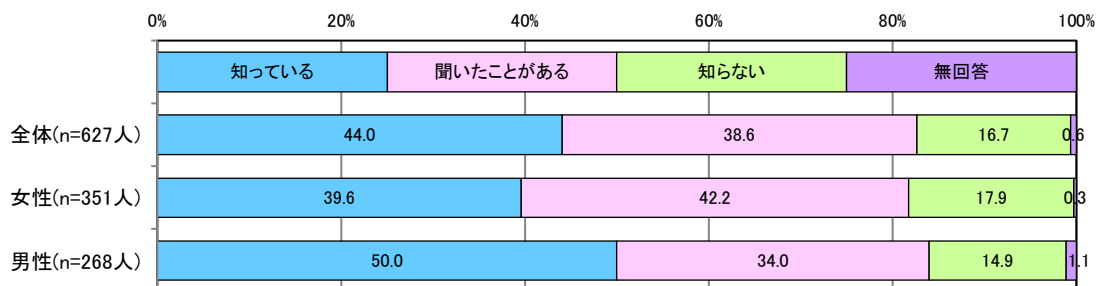


全体 (n=627 人)

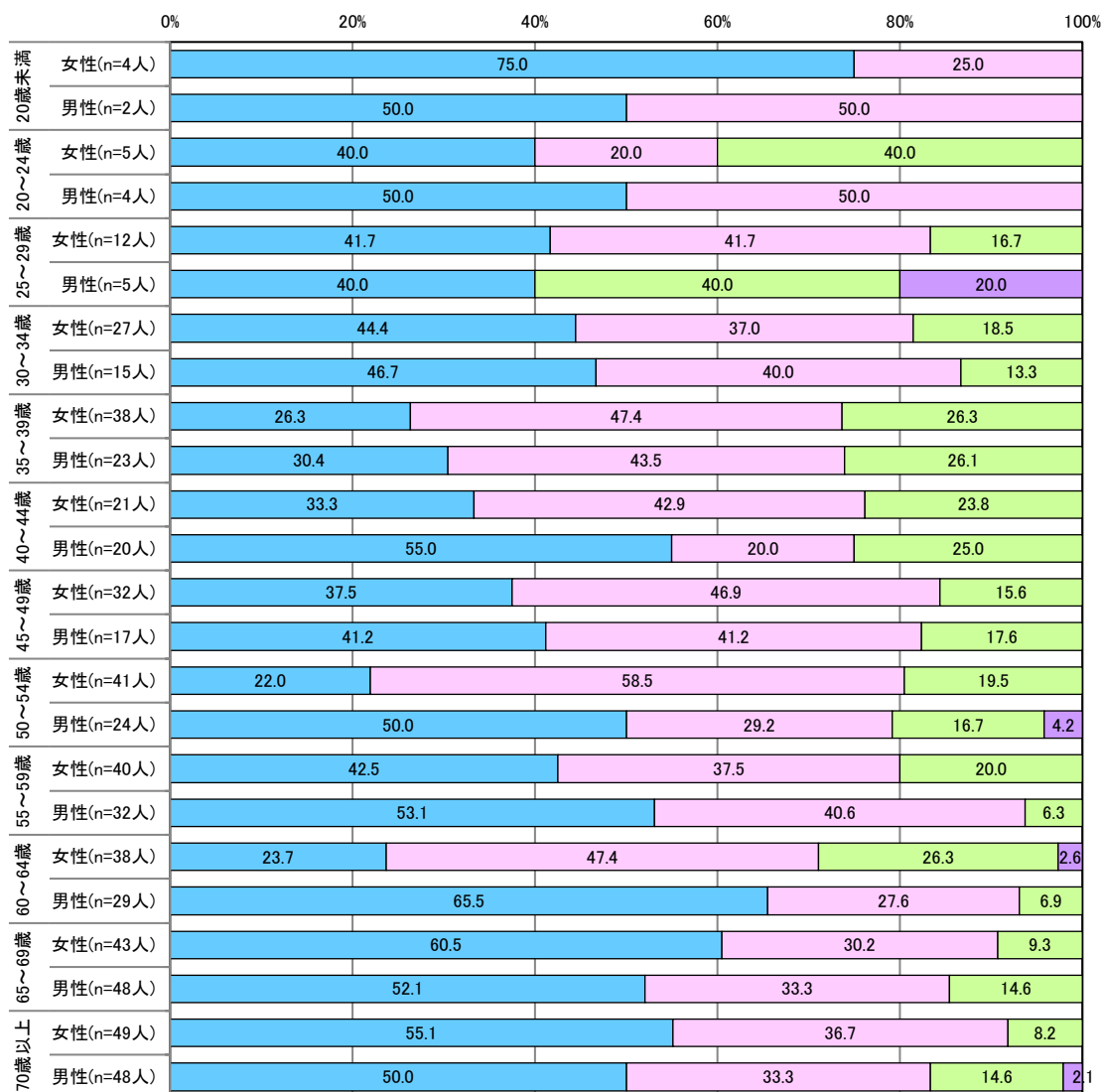
# 1 男女共同参画社会

- ・性別でみると、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答割合の合計が、8割を超えている。
- ・世代別性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が9割を超えているのは、男性では20歳未満、20歳～24歳、55歳～64歳となっている。一方、女性では20歳～24歳で、「知らない」という回答が、4割となっている。

【性別】



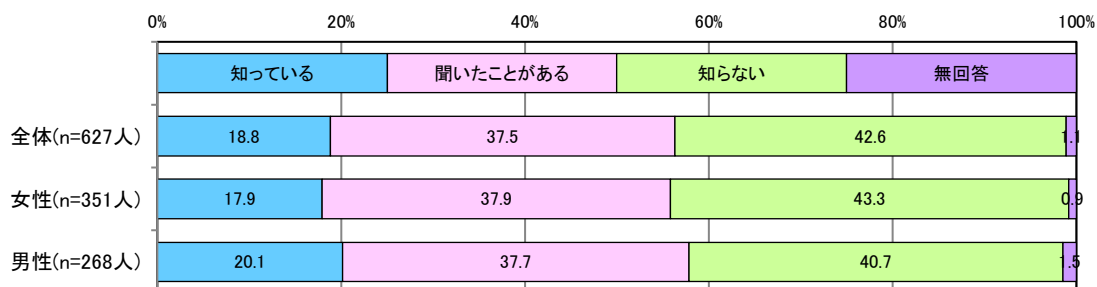
【世代別性別】



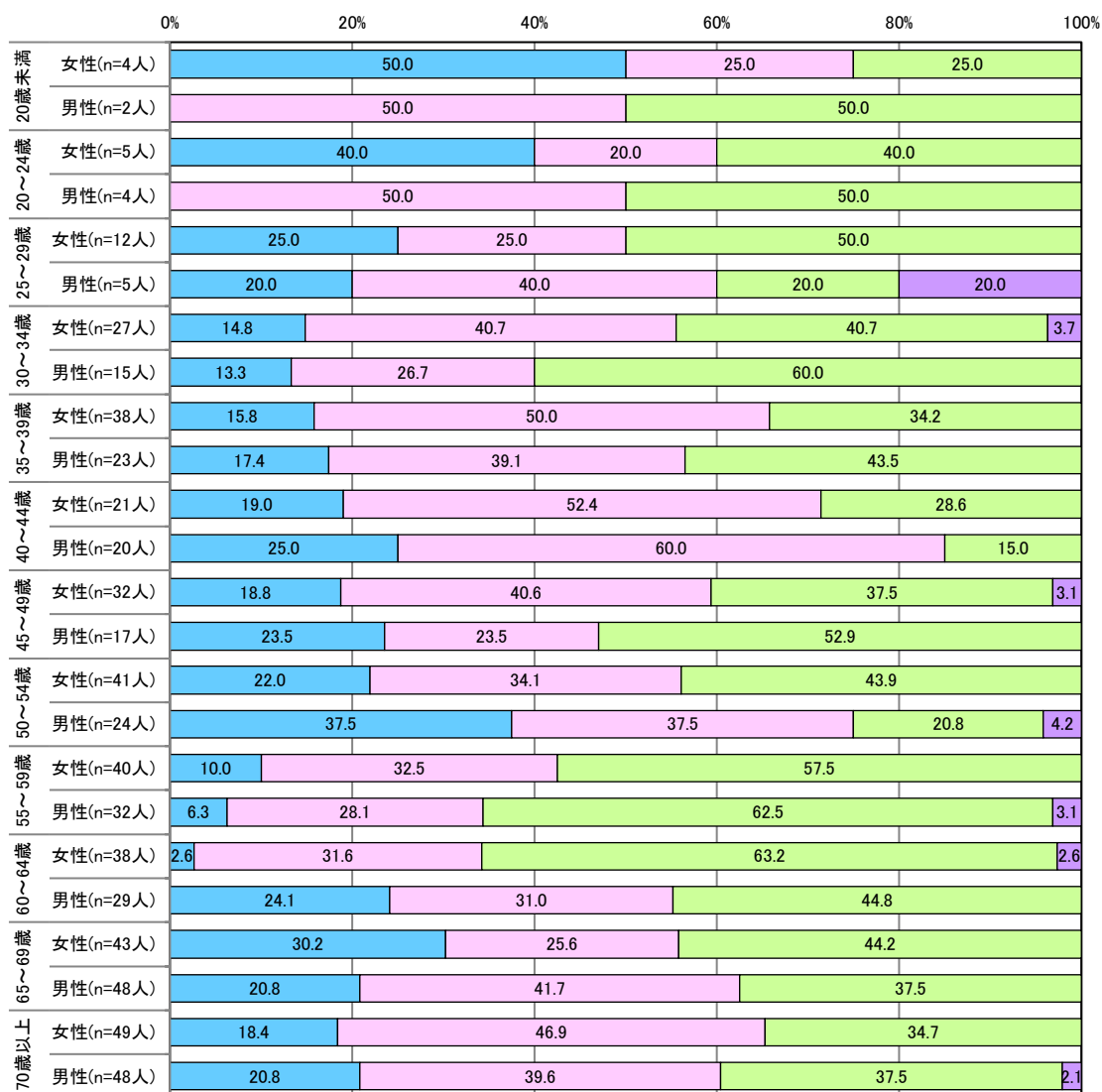
## 2 女子差別撤廃条約

- ・性別でみると、男女ともに「知らない」が、女性は 43.3%、男性は 40.7%で4割以上と最も多くなっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、女性が 55.8%、男性が 57.8%、となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、20歳～24歳の男性、25歳～29歳の女性、30歳～34歳の男性、45歳～49歳の男性、55歳～59歳の男性、55歳～64歳の女性で、「知らない」という回答が5割以上となっている。

【性別】



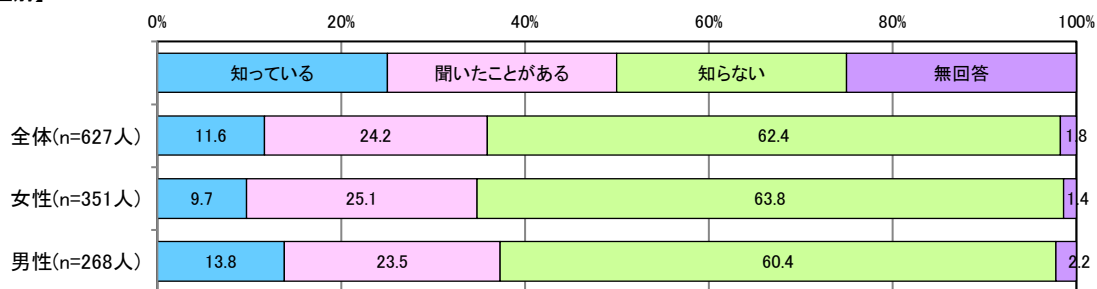
【世代別性別】



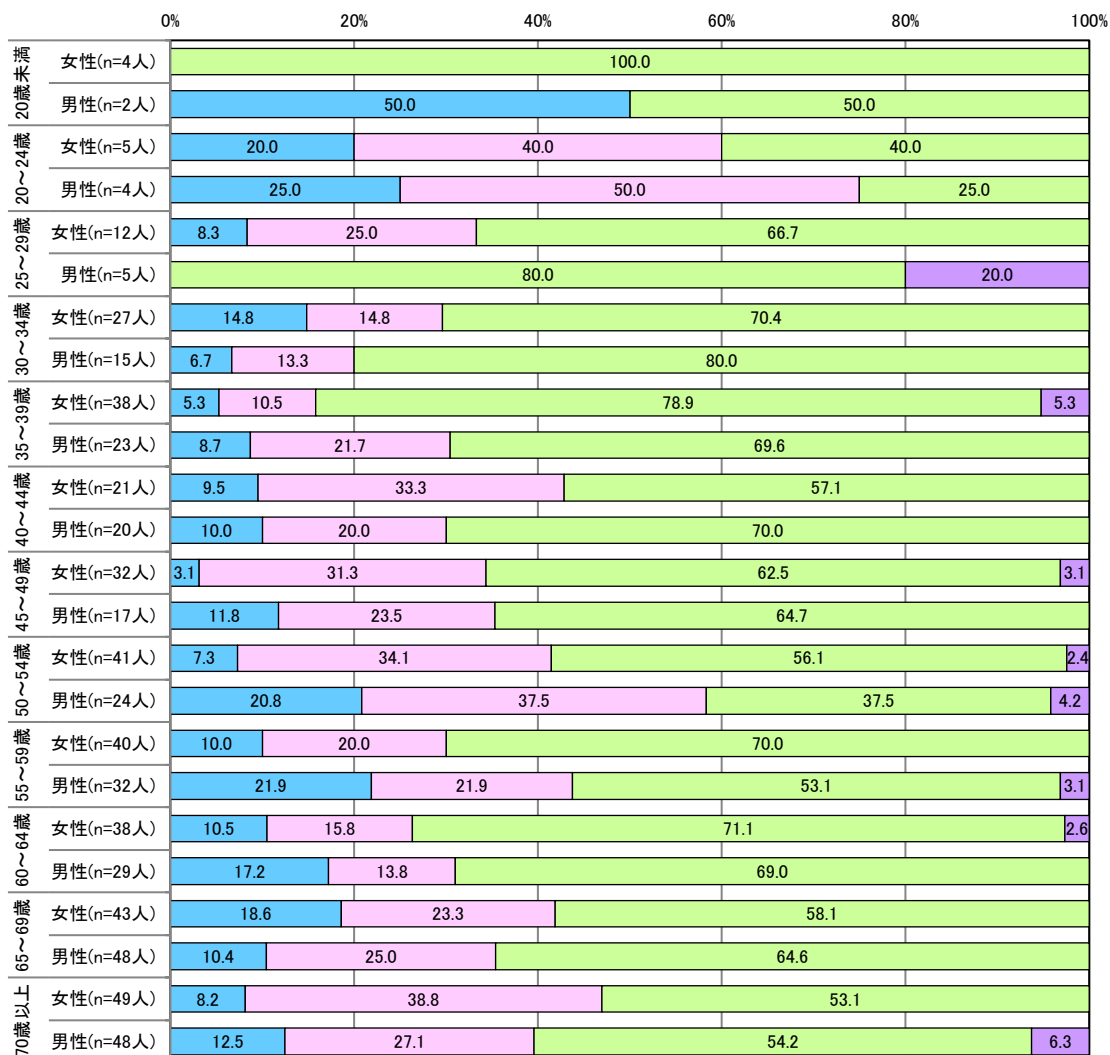
### 3 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が 60.4%、女性が 63.8%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 37.3%、女性が 34.8%となっている。
- ・世代別性別で見ると、20 歳未満の女性、25 歳～34 歳の男性、30 歳～39 歳の女性、40 歳～44 歳男性、55 歳～64 歳の女性の世代で、「知らない」という回答割合が 7 割以上となっている。「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が 5 割以上は、20 歳未満の男性、20 歳～24 歳の男女、50 歳～54 歳の男性となっている。

【性別】



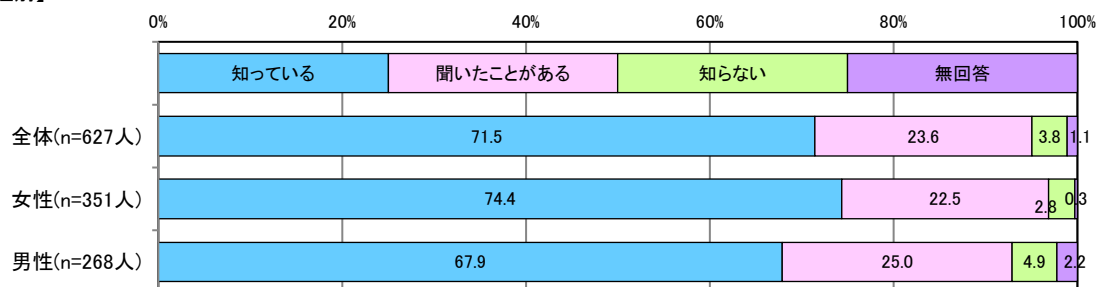
【世代別性別】



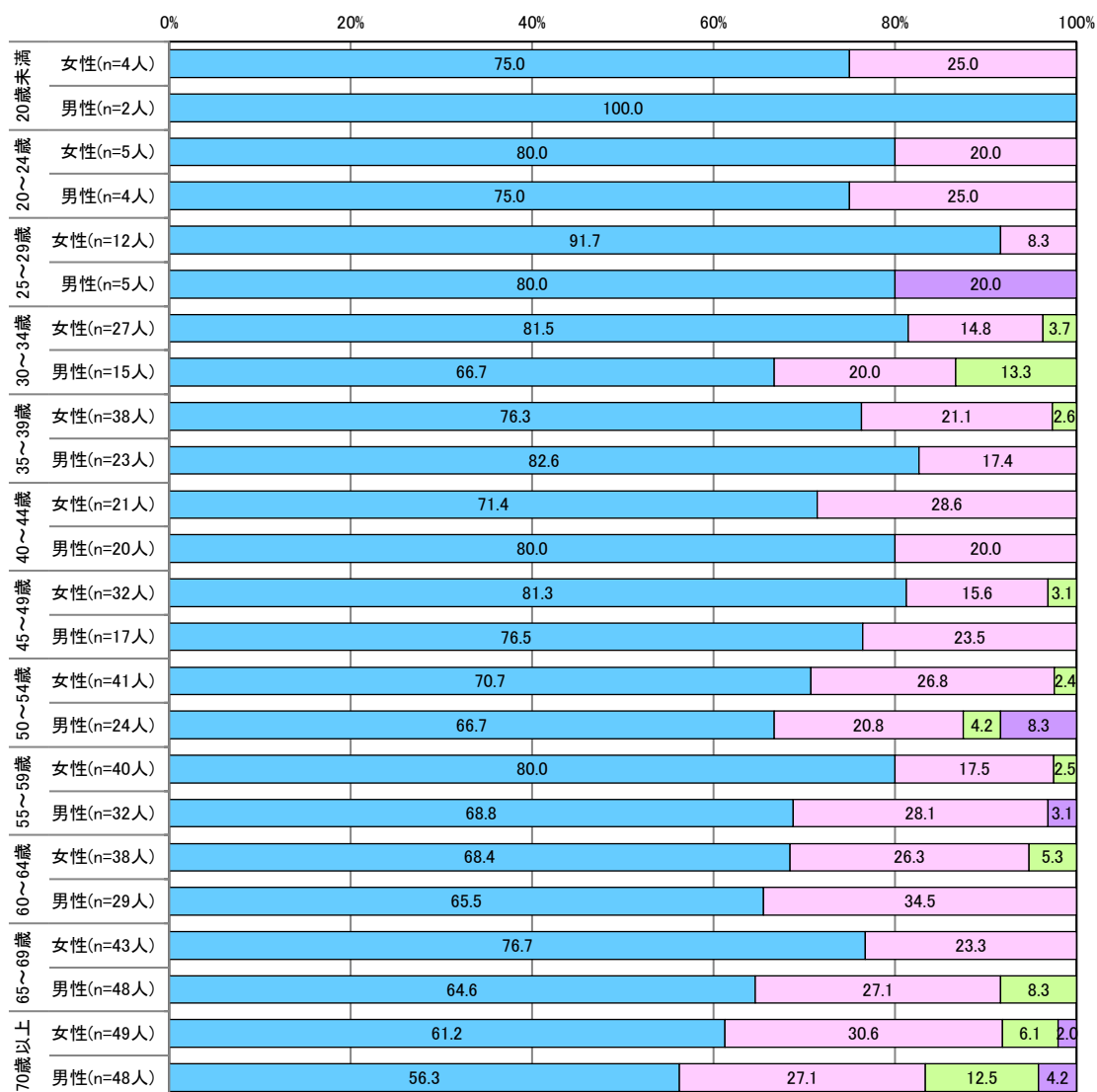
#### 4 ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

- ・性別で見ると、「知っている」という回答が男女とも最も多く、男性は 67.9%、女性は 74.4%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 92.9%、女性が 96.9%となっている。
- ・世代別性別で見ると、「知っている」という回答割合が 8 割を超えているのは、20 歳未満の男性、20 歳～34 歳の女性、35 歳～44 歳の男性、45 歳～49 歳の女性、55 歳～59 歳の女性となっている。

【性別】



【世代別性別】

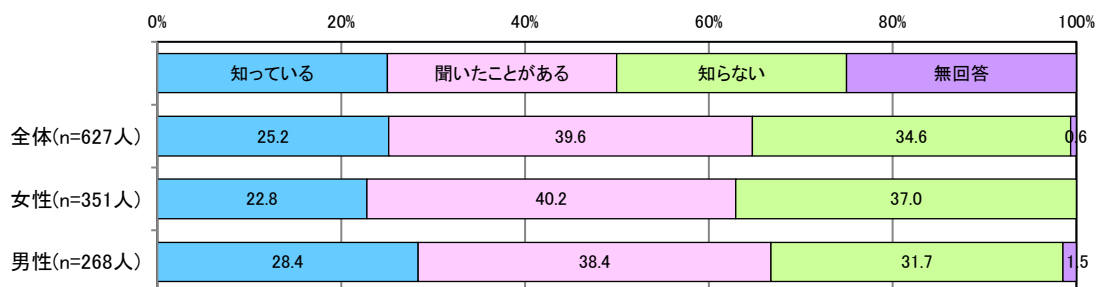




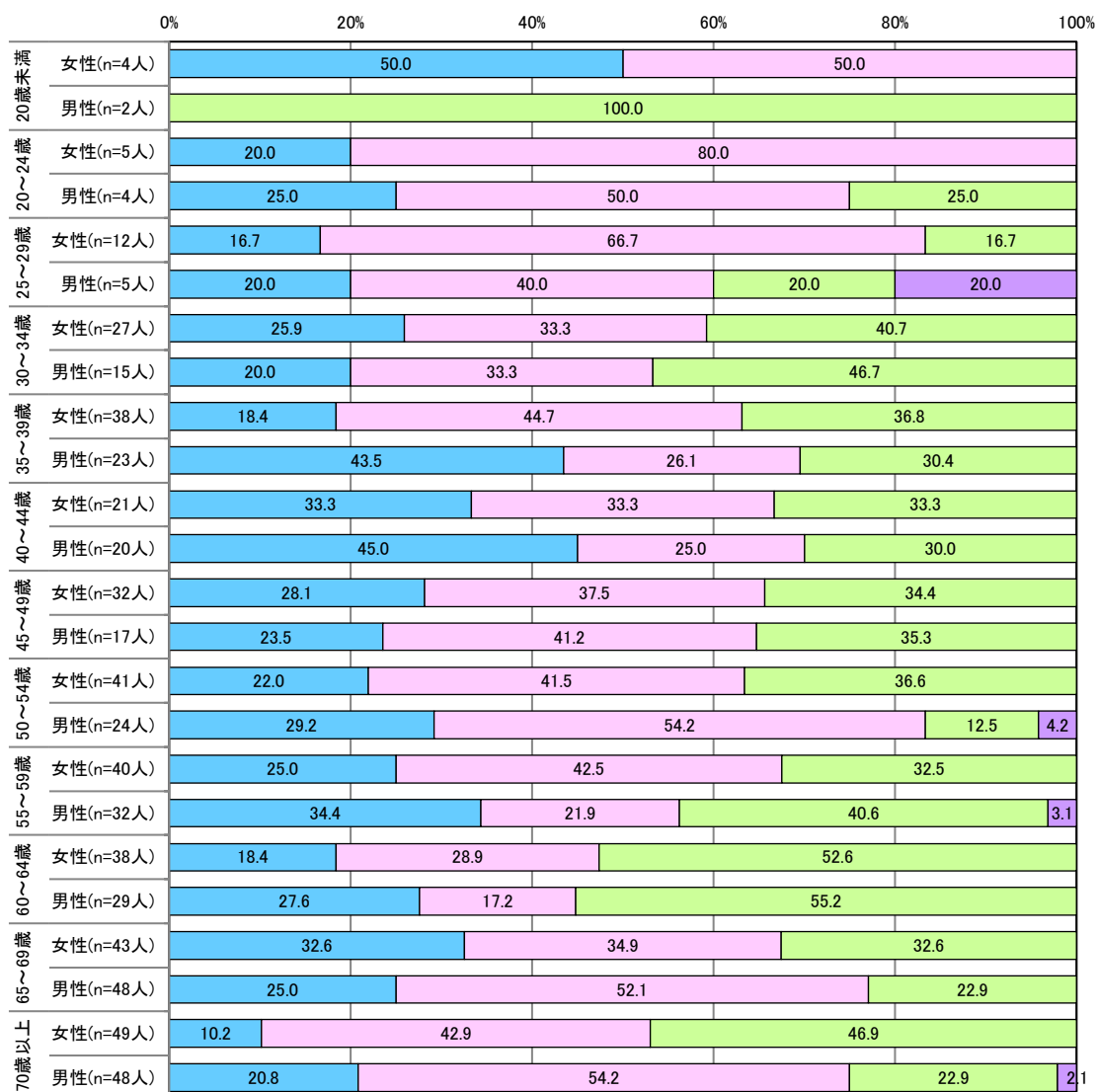
## 5 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

- ・性別でみると、男女とも「聞いたことがある」という回答が最も多く、男性は38.4%、女性は40.2%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が66.8%、女性が63.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～29歳の男女、35歳～54歳の男女、55歳～59歳の女性、65歳～69歳の女性、65歳以上の男性で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が6割以上となっている。

【性別】



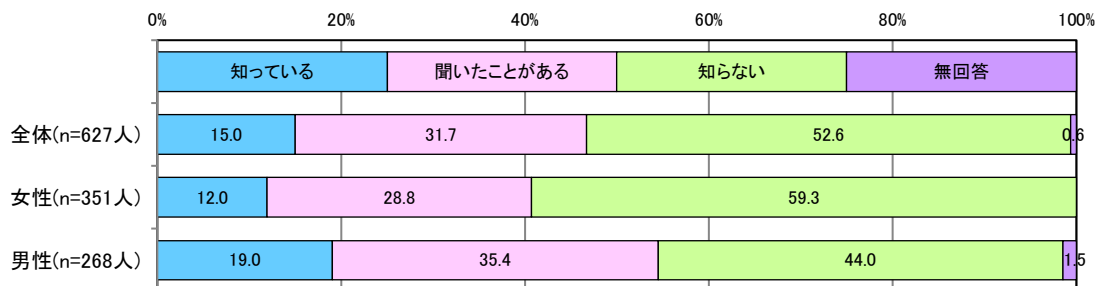
【世代別性別】



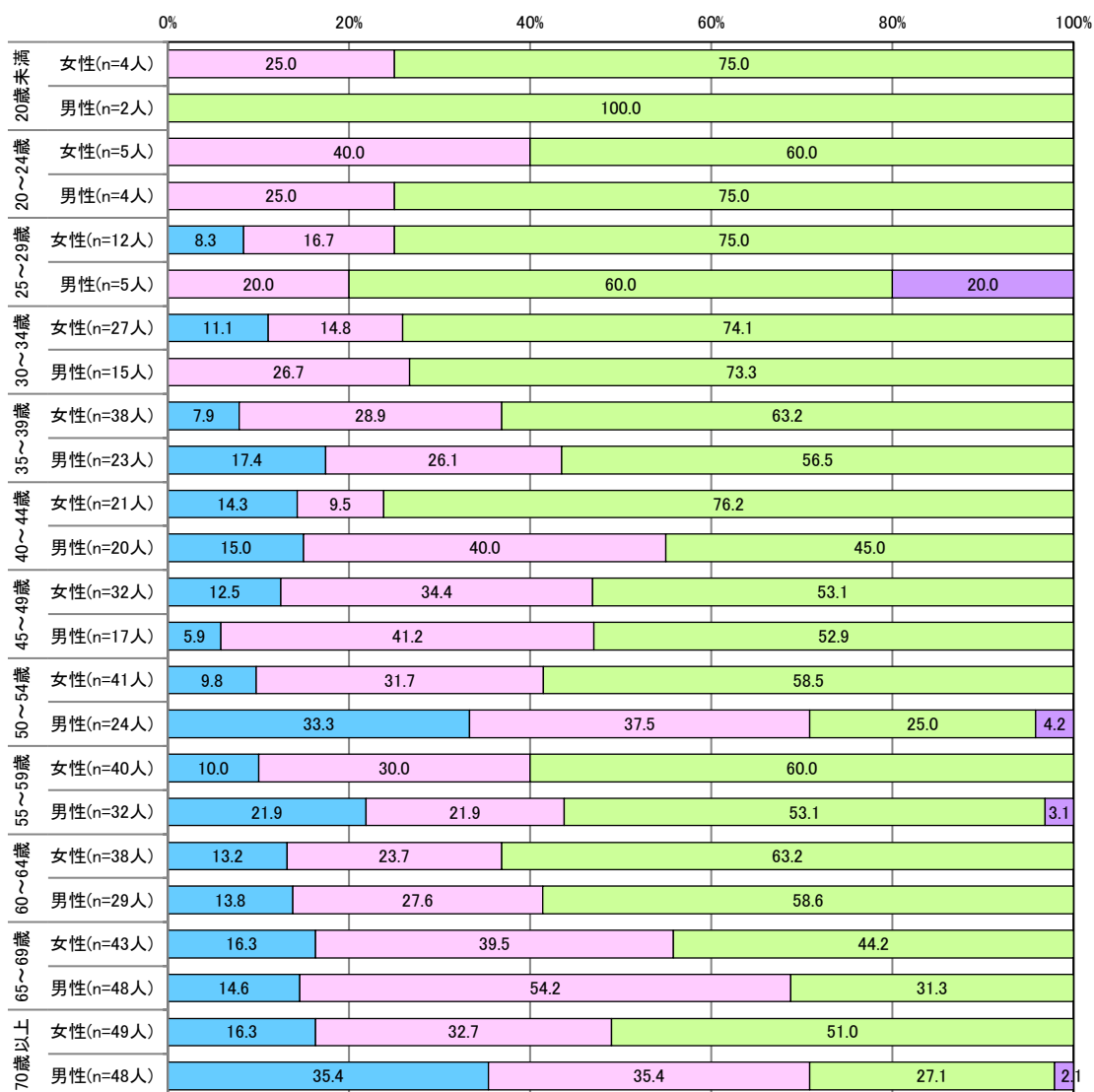
## 6 候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は 44.0%、女性は 59.3%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 54.4%、女性が 40.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳未満の男女、20 歳～34 歳の男女、35 歳～44 歳の女性、55 歳～64 歳の女性で、「知らない」という回答が 6 割以上となっている。

### 【性別】



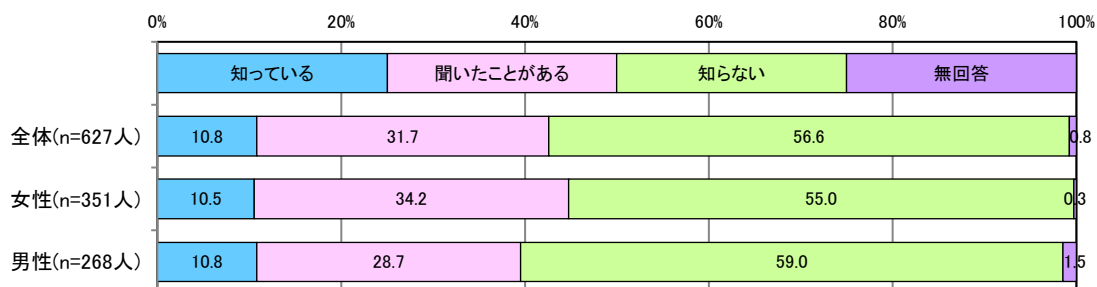
### 【世代別性別】



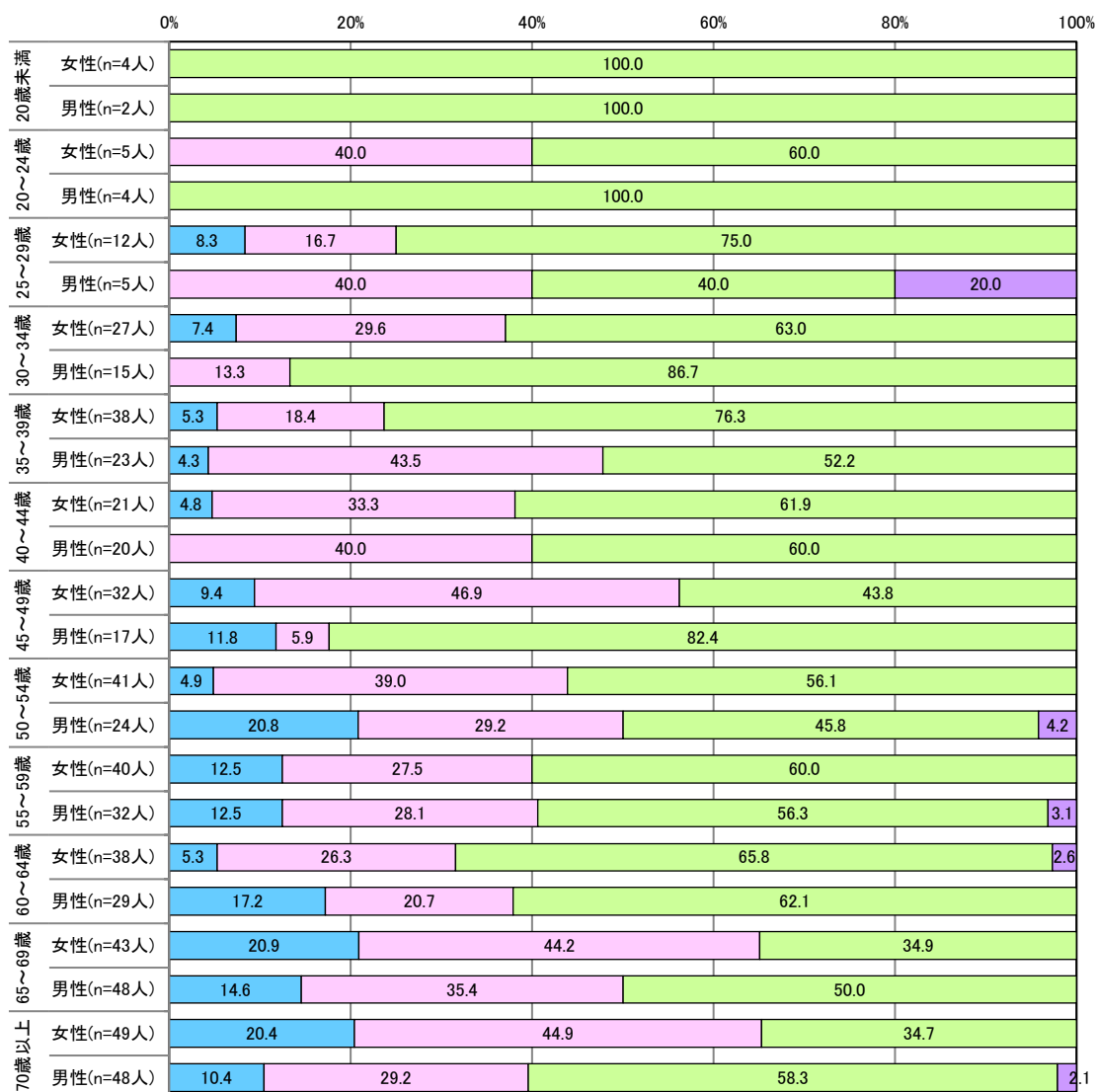
## 7 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は 59.0%、女性は 55.0%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 39.5%、女性が 44.7%となっている。
- ・世代別性別でみると、20 歳未満の男女、20 歳～24 歳の男性、20 歳～44 歳の女性、30 歳～34 歳の男性、40 歳～49 歳の男性、55 歳～64 歳の女性、60 歳～64 歳の男性で、「知らない」という回答が 6 割以上となっている。

### 【性別】



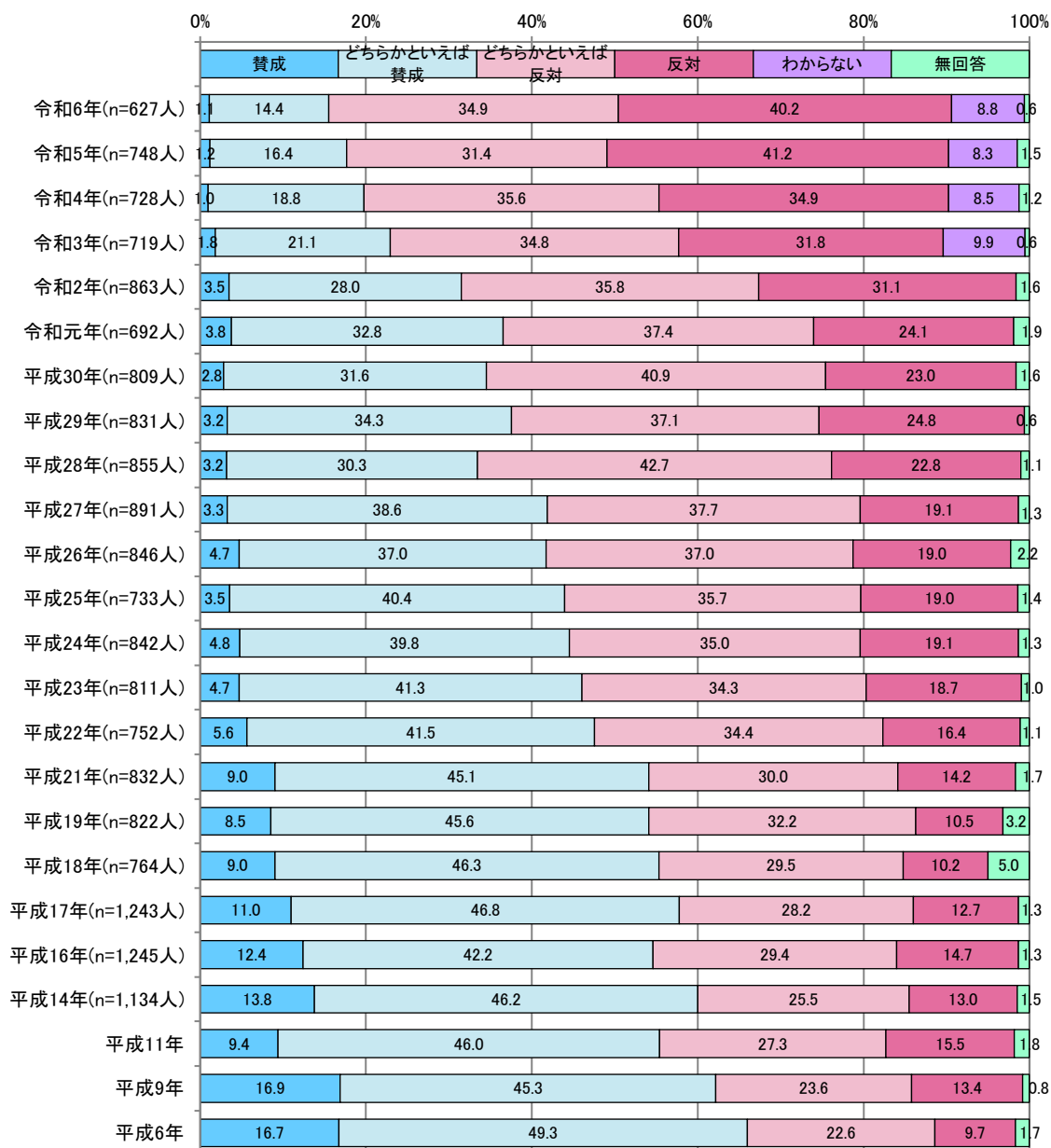
### 【世代別性別】



問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

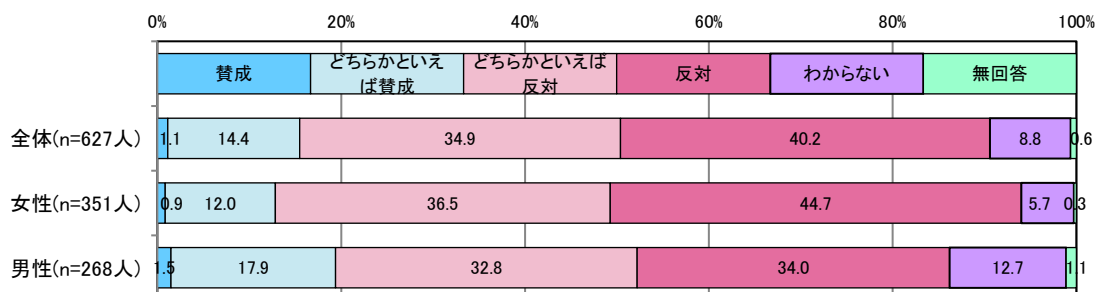
- ・令和6年の調査結果は、「賛成」が1.1%「どちらかといえば賛成」が14.4%、「どちらかといえば反対」が34.9%、「反対」が40.2%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にあり、平成28年以降は横ばい傾向となっていたものの、令和元年以降、再度減少傾向にある。令和6年は令和5年と比べて、「賛成」が0.1ポイント、「どちらかといえば賛成」は2.0ポイント、「反対」は1.0ポイント減少となった。一方、「どちらかといえば反対」は3.5ポイント、「わからない」が0.5ポイント増加となった。

【全体】

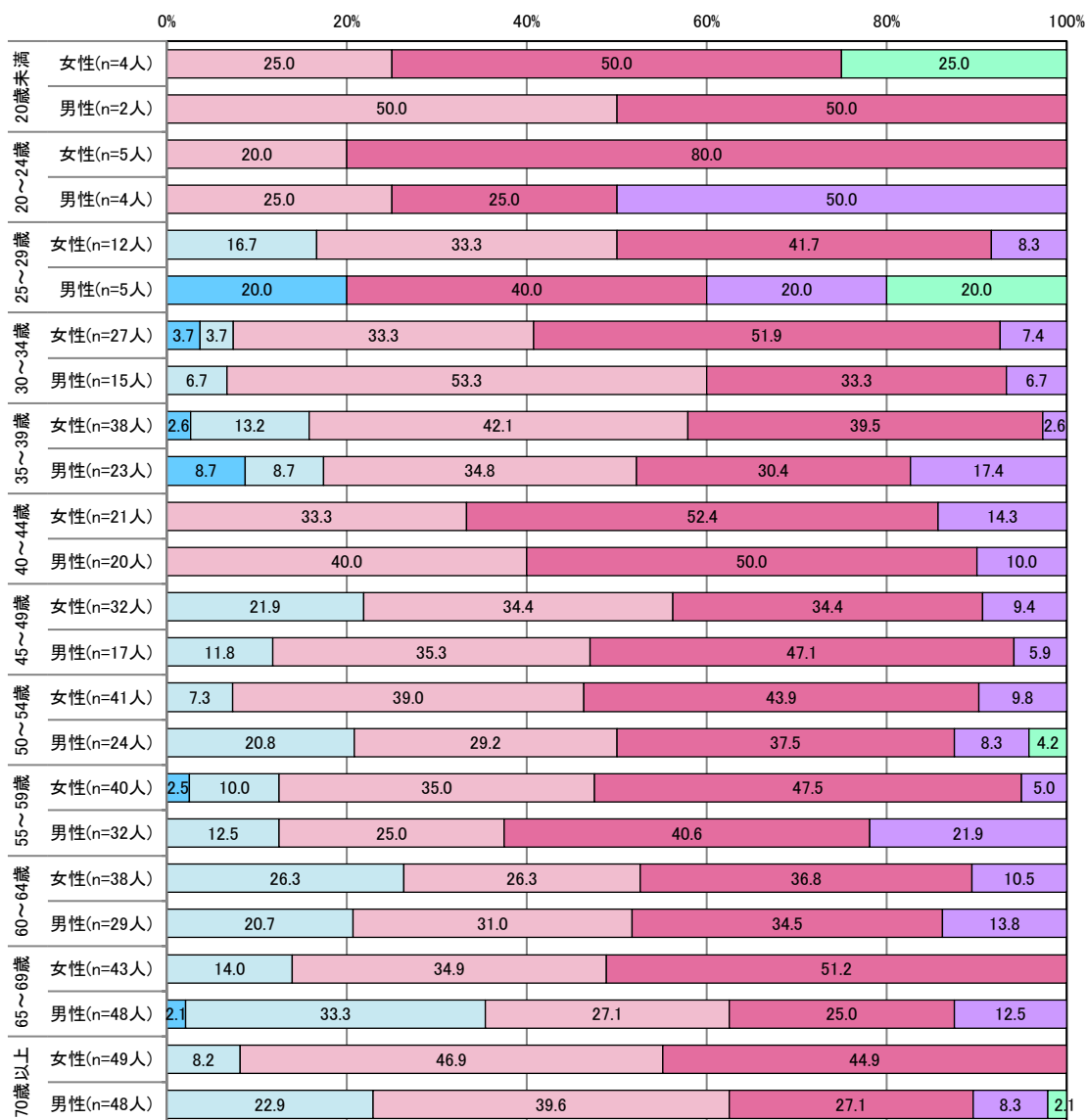


- ・性別でみると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は、男性が66.8%、女性が81.2%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答割合の合計は25歳～29歳の男性を除いて、いずれの世代も5割以上となっている。

【性別】



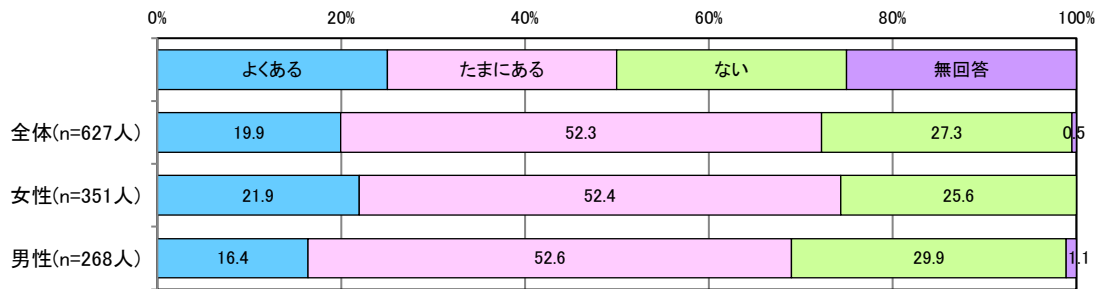
【世代別性別】



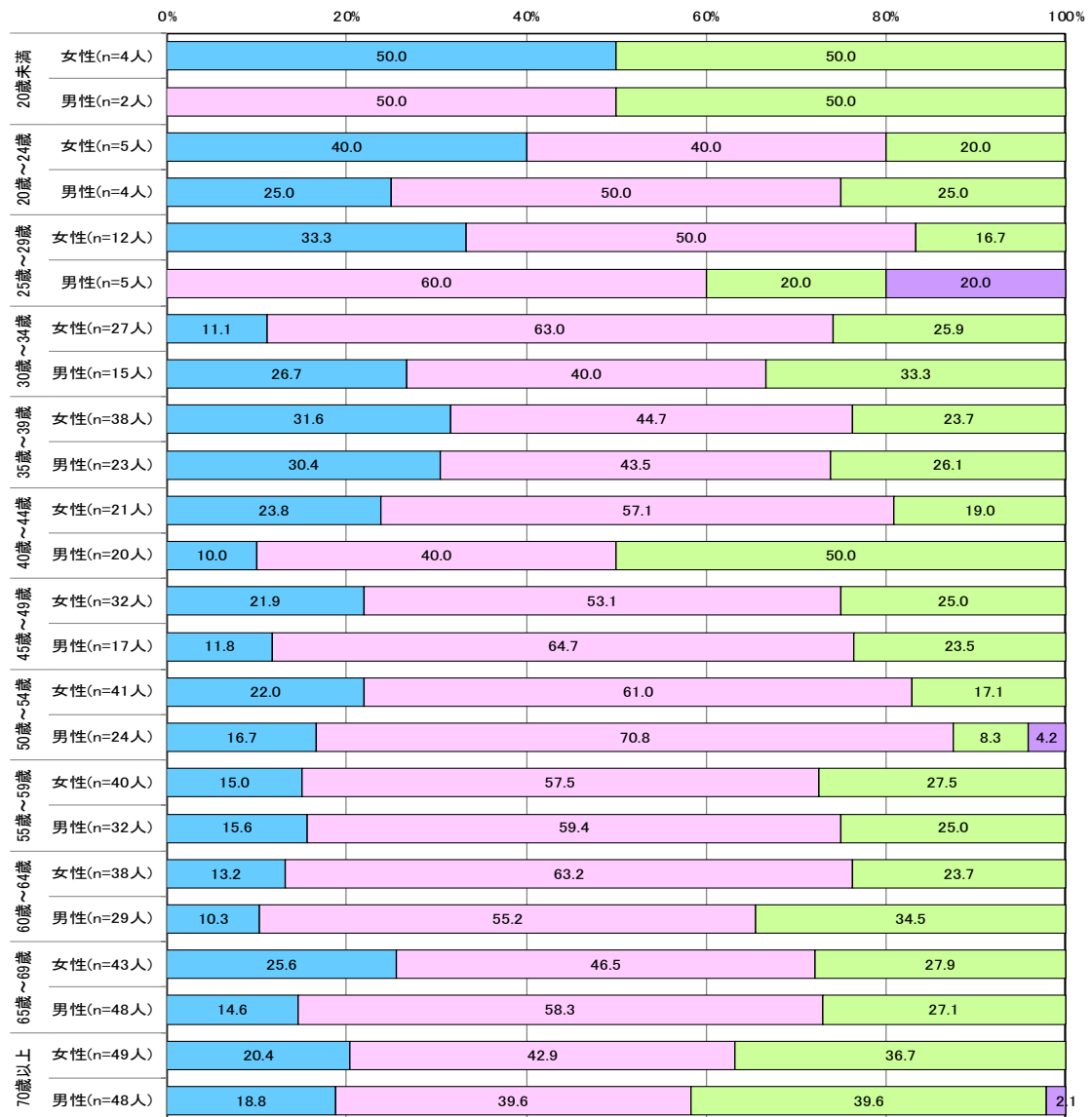
問 4 日常の生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、「たまにある」が5割以上と最も多い。男性は52.6%、女性は52.4%と男女で差はない結果となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～29歳の女性、40歳～44歳の女性、50歳～54歳の男女で、「よくある」、「たまにある」の回答割合の合計が8割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】

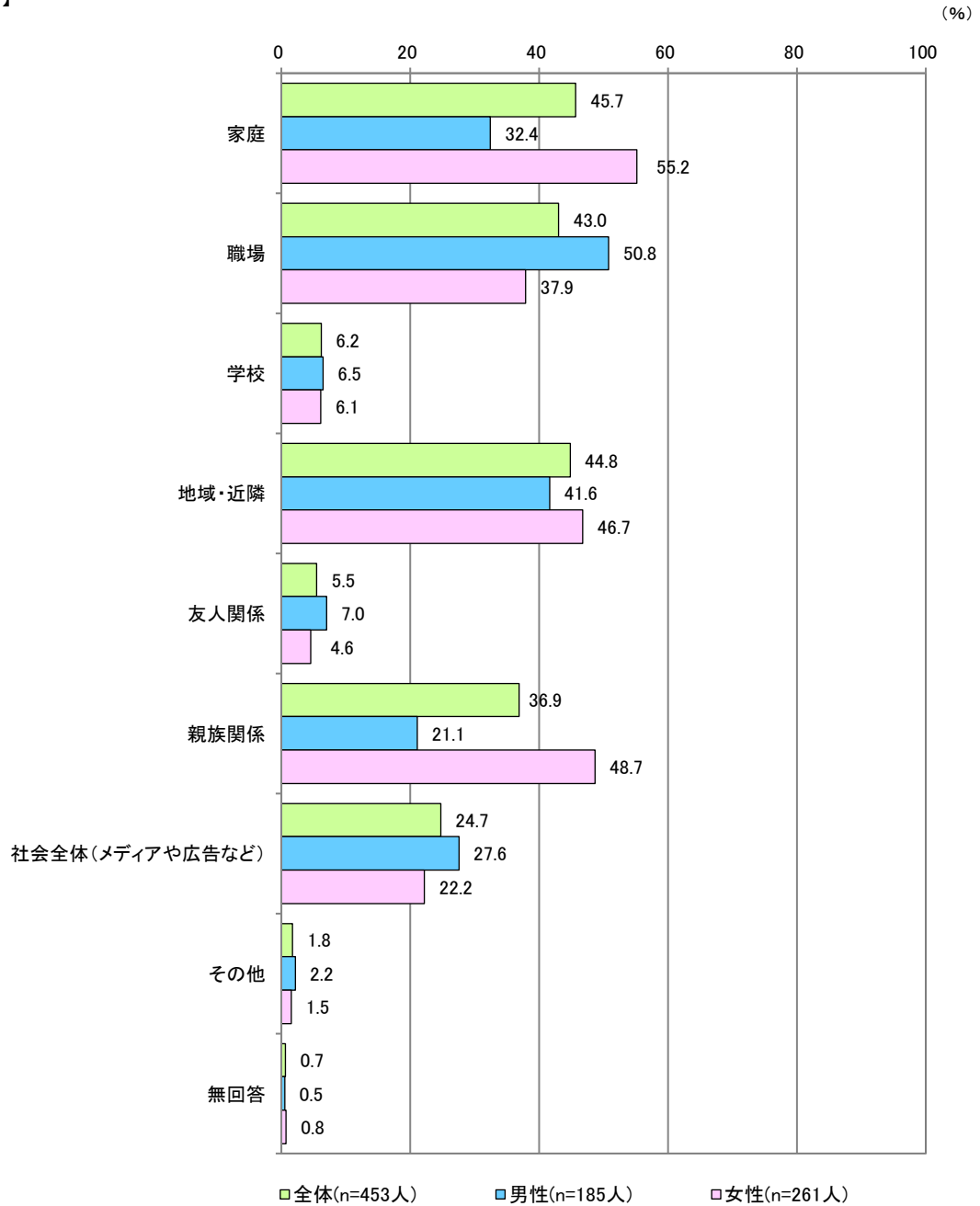


問 4 で「1. よくある」または「2. たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問 5 どのような場で言われたり、期待されたりしますか。(〇はいくつでも)

- ・性別でみると、女性では、「家庭」(55.2%)が5割を超え最も多く、次に、「親族関係」(48.7%)となる。一方、男性では、「職場」(50.8%)が5割を超え最も多く、次に、「地域・近隣」(41.6%)となっている。

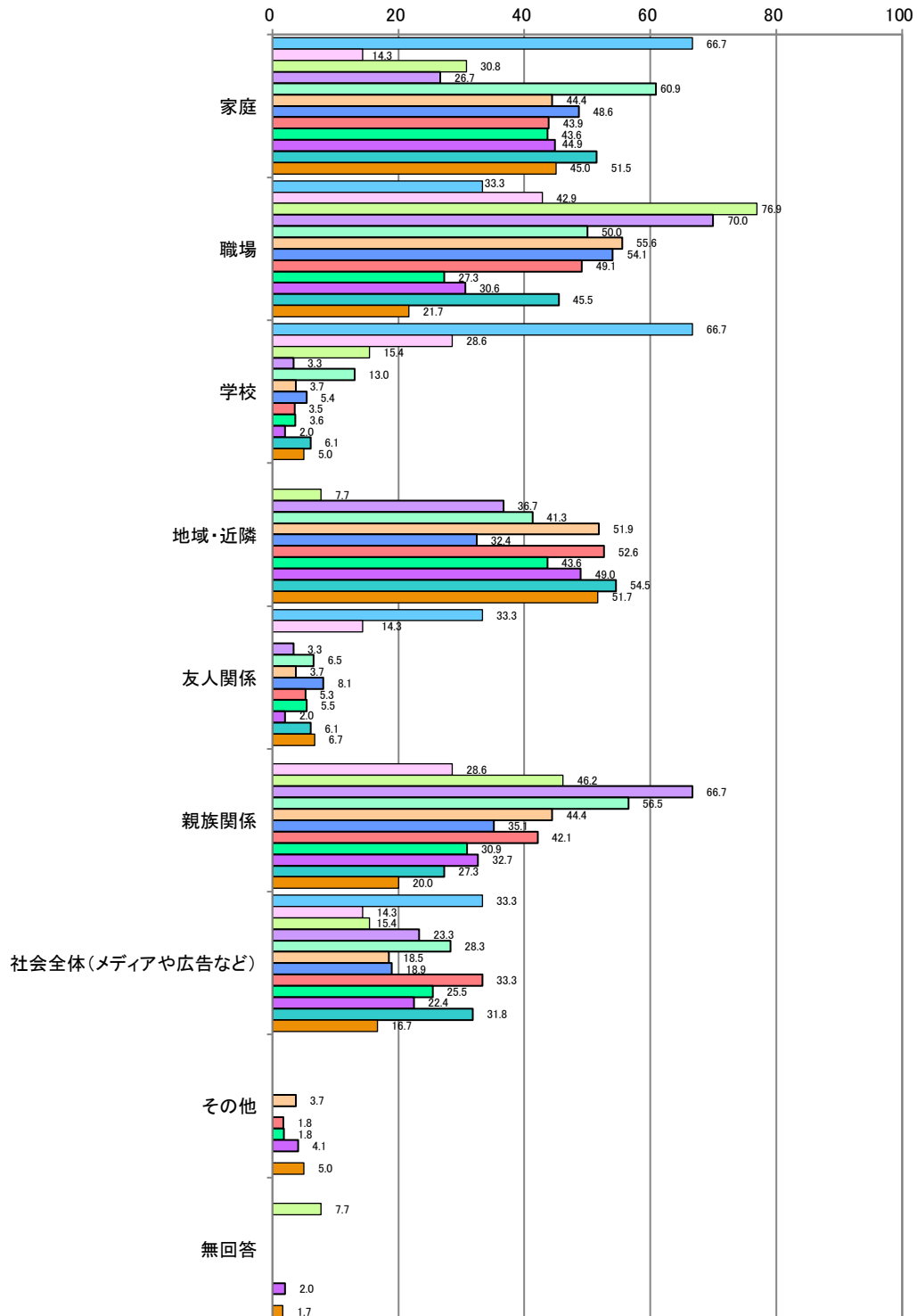
【性別】



・世代別でみると、25歳～34歳では、「職場」が7割以上と最も多い。20歳未満、35歳～39歳では、「家庭」が6割以上と最も多く、65歳～69歳では、「地域・近隣」が最も多くなっている。

【世代別】

(%)



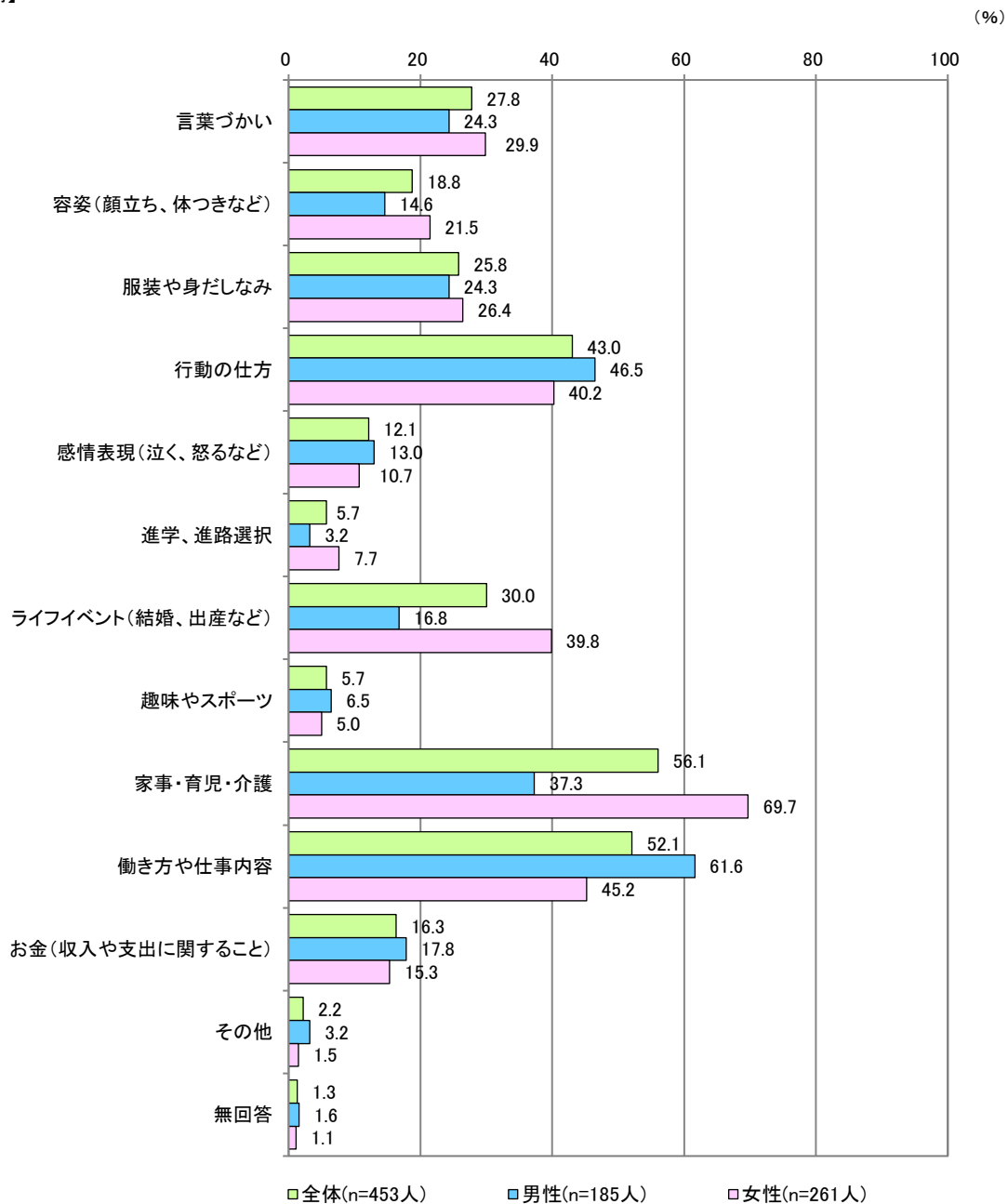
■ 20歳未満(n=3人)    ■ 20歳～24歳(n=7人)    ■ 25歳～29歳(n=13人)    ■ 30歳～34歳(n=30人)  
 ■ 35歳～39歳(n=46人)    ■ 40歳～44歳(n=27人)    ■ 45歳～49歳(n=37人)    ■ 50歳～54歳(n=57人)  
 ■ 55歳～59歳(n=55人)    ■ 60歳～64歳(n=49人)    ■ 65歳～69歳(n=66人)    ■ 70歳以上(n=60人)



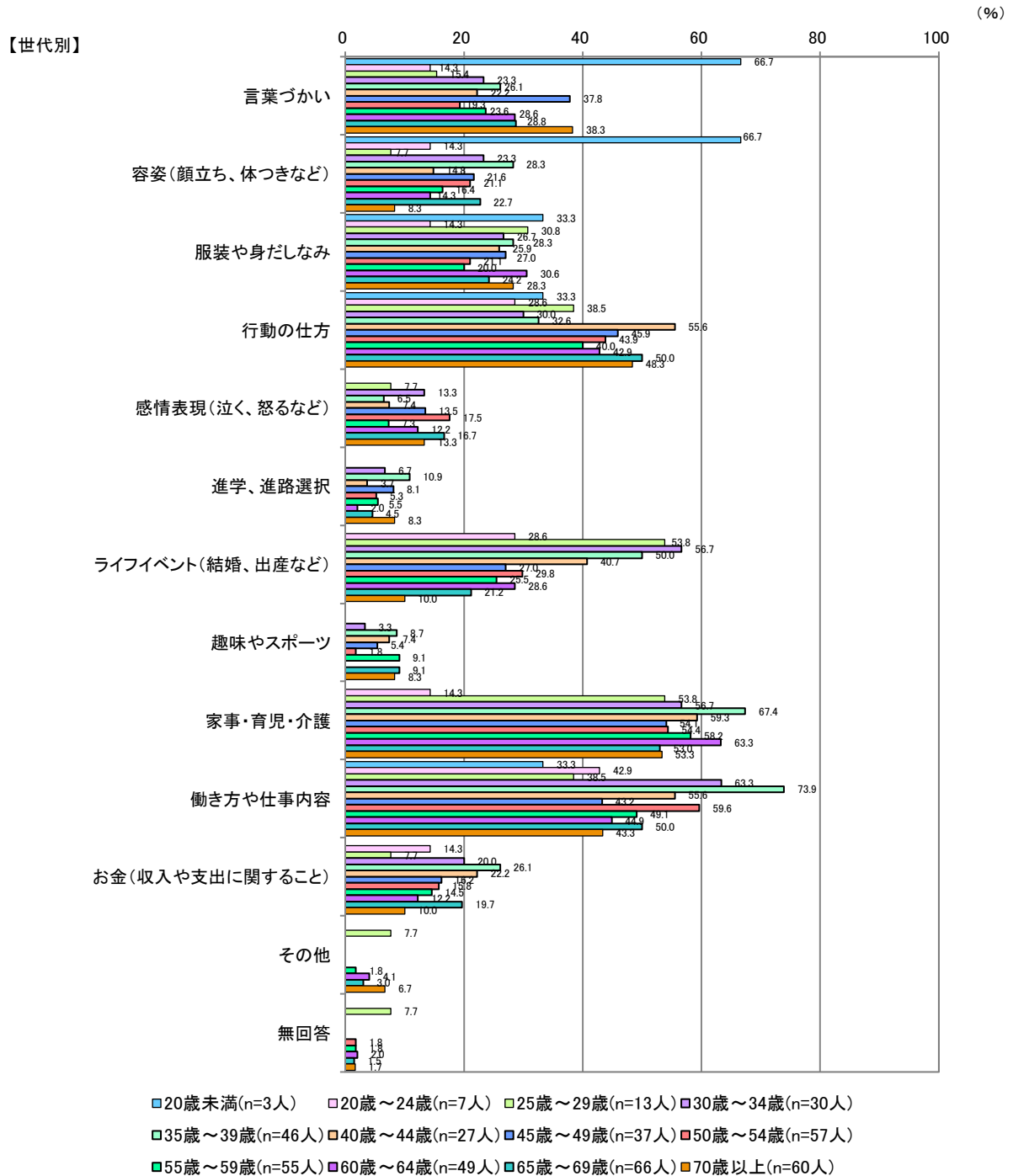
問6 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

- ・性別でみると、男性では、「働き方や仕事内容」(61.6%)が6割以上と最も多く、次に、「行動の仕方」(46.5%)となる。一方、女性では、「家事・育児・介護」(69.7%)が約7割と最も多く、次に、「働き方や仕事内容」(45.2%)、「行動の仕方」(40.2%)となっている。
- ・「家事・育児・介護」、「ライフイベント(結婚、出産など)」、「言葉づかい」、「服装や身だしなみ」、「容姿(顔立ち、体つきなど)」、「進学、進路選択」では、女性の回答割合が男性よりも高くなっている。

【性別】



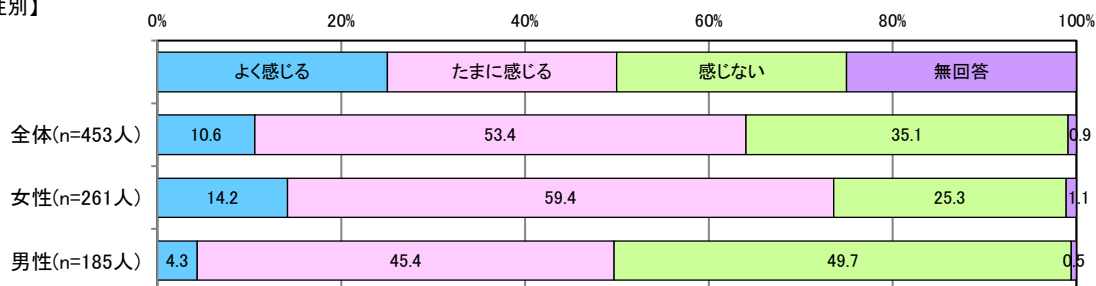
・世代別でみると、20歳未満と20歳～24歳を除く、いずれの世代も「家事・育児・介護」が最も多くなっている。20歳未満は、「言葉づかい」、「容姿（顔立ち、体つきなど）」が同率で最も多くなっている。20歳～24歳は、「行動の仕方」、「ライフイベント（結婚出産など）」が同率で最も多い回答となる。



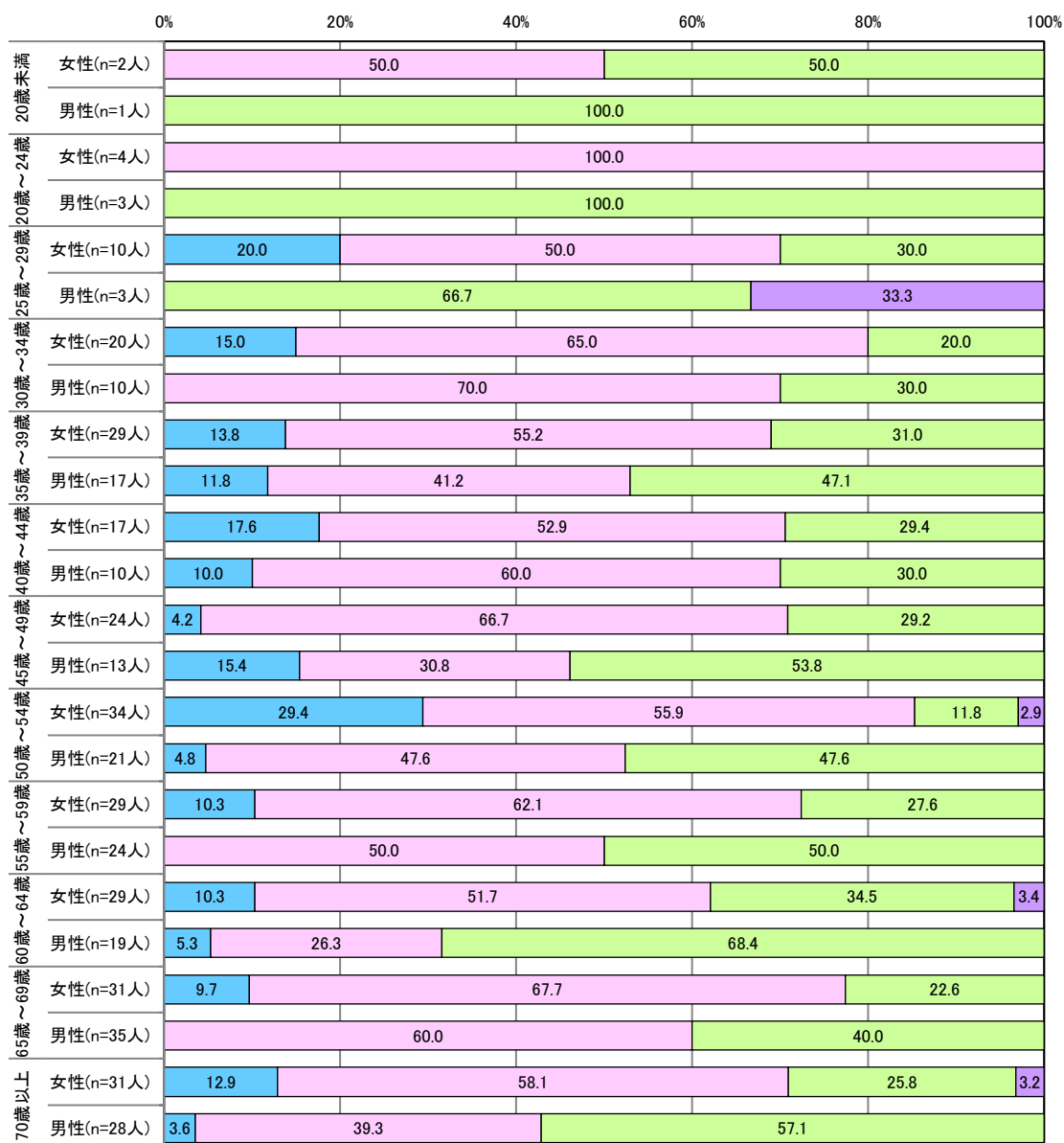
問 7 日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、男性では、「感じない」(49.7%)が約5割と最も多い。一方、女性では、「たまに感じる」(59.4%)が約6割と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～34歳の男女、45歳～49歳の女性、65歳～69歳の女性で、「たまに感じる」が約7割となっている。

【性別】



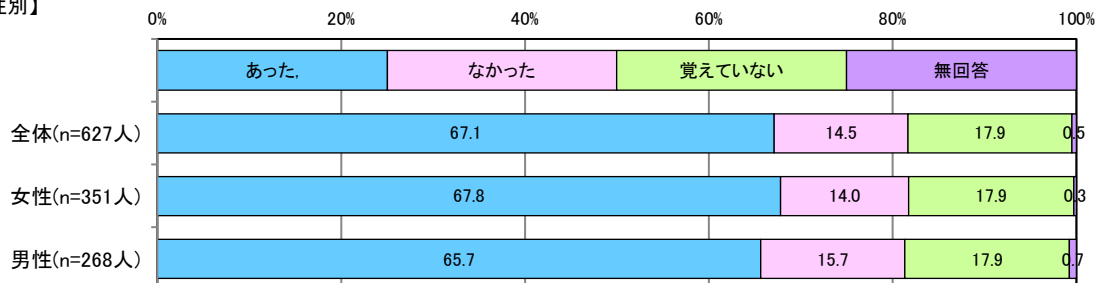
【世代別性別】



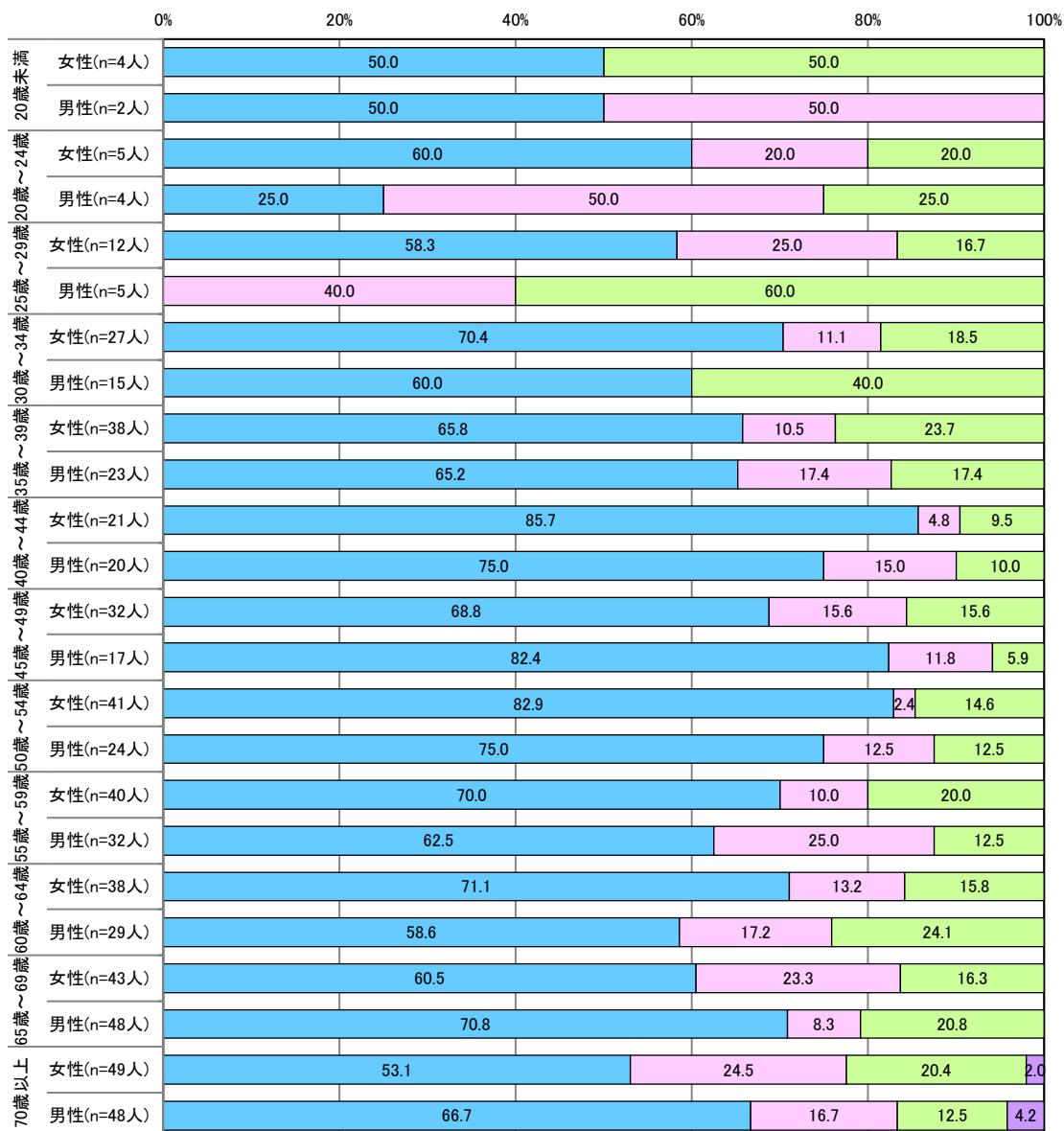
問8 子ども時代に「女の子／男の子だから〇〇しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありましたか。(〇は1つ)

- ・性別でみると、男女とも「あった」が6割を超え最も多い。
- ・世代別性別でみると、40歳～44歳の女性、45歳～49歳の男性、50歳～55歳の女性で「あった」が8割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】

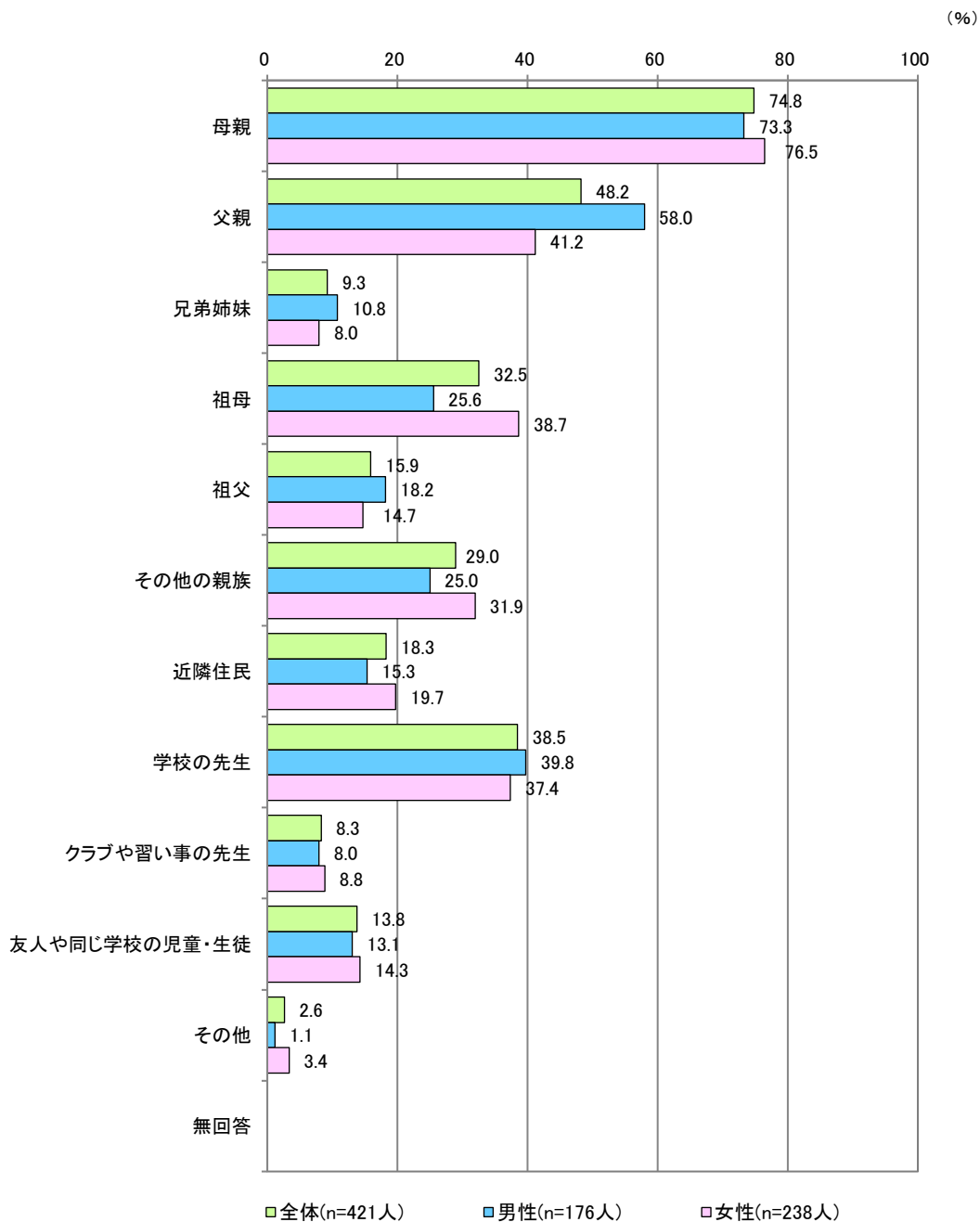


問 8 で「1. あった」を選ばれた方におたずねします。

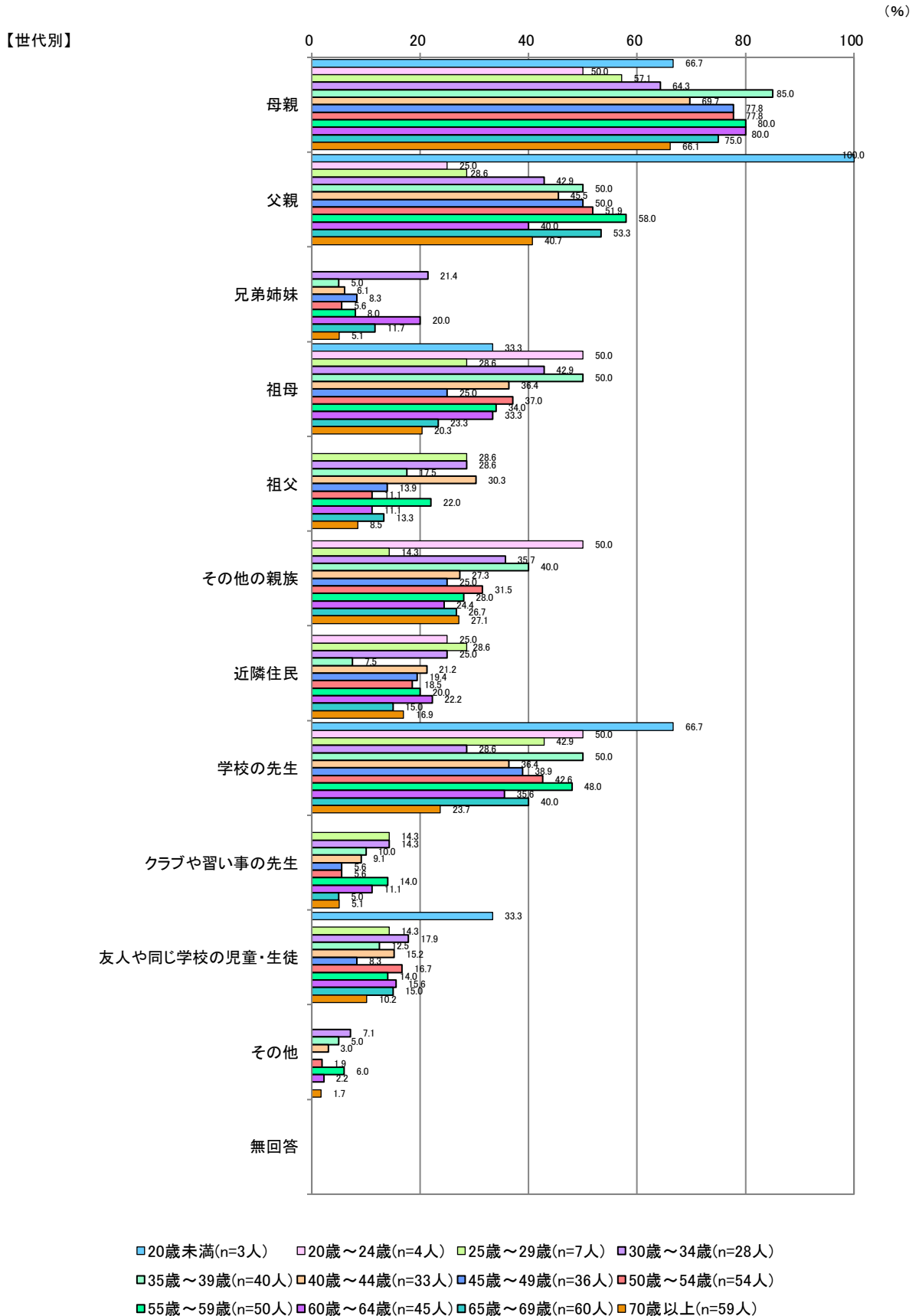
問 9 それは、誰に言われましたか。(〇はいくつでも)

- ・性別で見ると、「母親」が女性では約8割、男性では約7割で最も多い。次に、「父親」となる。3番目に多い回答は、男性では「学校の先生」、女性では「祖母」となる。
- ・「母親」、「祖母」、「その他の親族」では、男性よりも女性の回答割合が多くなっている。

【性別】



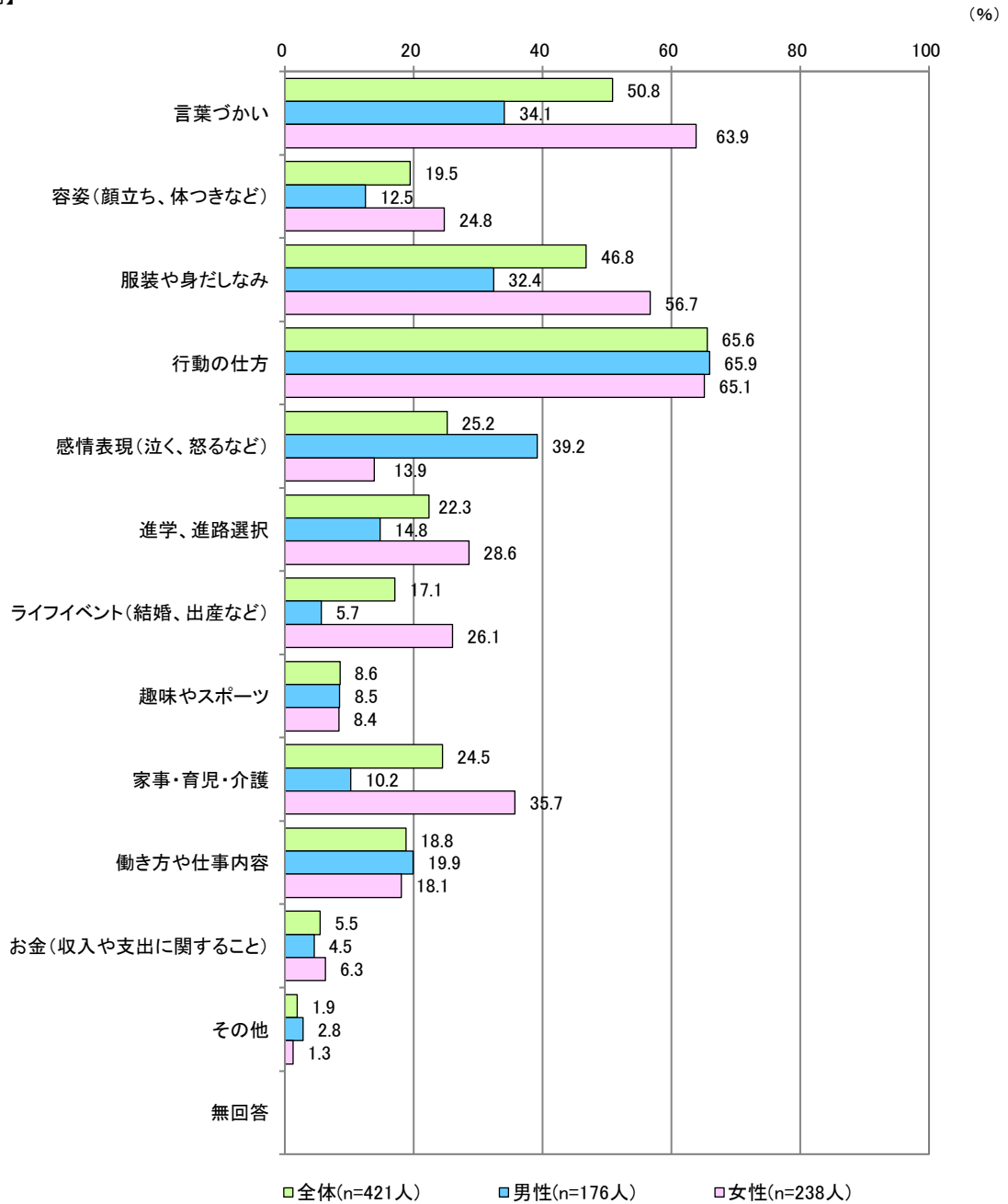
・世代別でみると、20歳未満では「父親」が最も多い。20歳未満を除く世代では、「母親」が最も多くなっている。



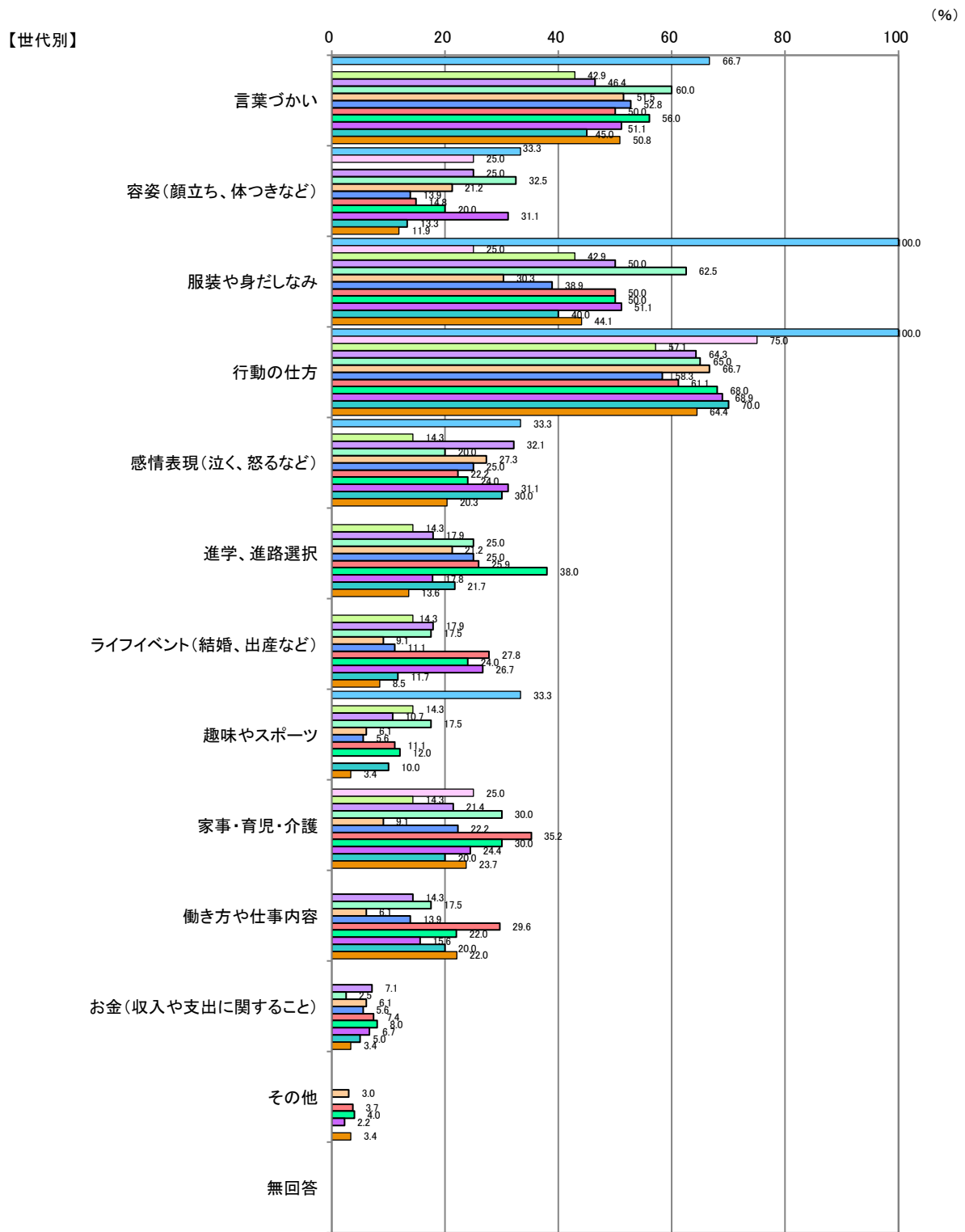
問 10 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

- ・性別でみると、男女ともに「行動の仕方」男性(65.9%)、女性(65.1%)で約7割と最も多い。男性は次に、「感情表現(泣く、怒るなど)」(39.2%)、「言葉づかい」(34.1%)と続いている。一方、女性では次に、「言葉づかい」(63.9%)、「服装や身だしなみ」(56.7%)と続いている。

【性別】



・世代別でみると、いずれの世代も「行動の仕方」が最も多くなっている。

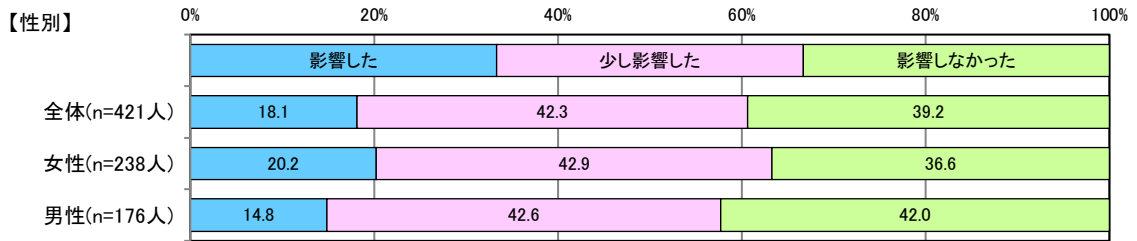


■20歳未満(n=3人) □20歳～24歳(n=4人) □25歳～29歳(n=7人) □30歳～34歳(n=28人)  
 □35歳～39歳(n=40人) □40歳～44歳(n=33人) □45歳～49歳(n=36人) □50歳～54歳(n=54人)  
 □55歳～59歳(n=50人) □60歳～64歳(n=45人) □65歳～69歳(n=60人) □70歳以上(n=59人)

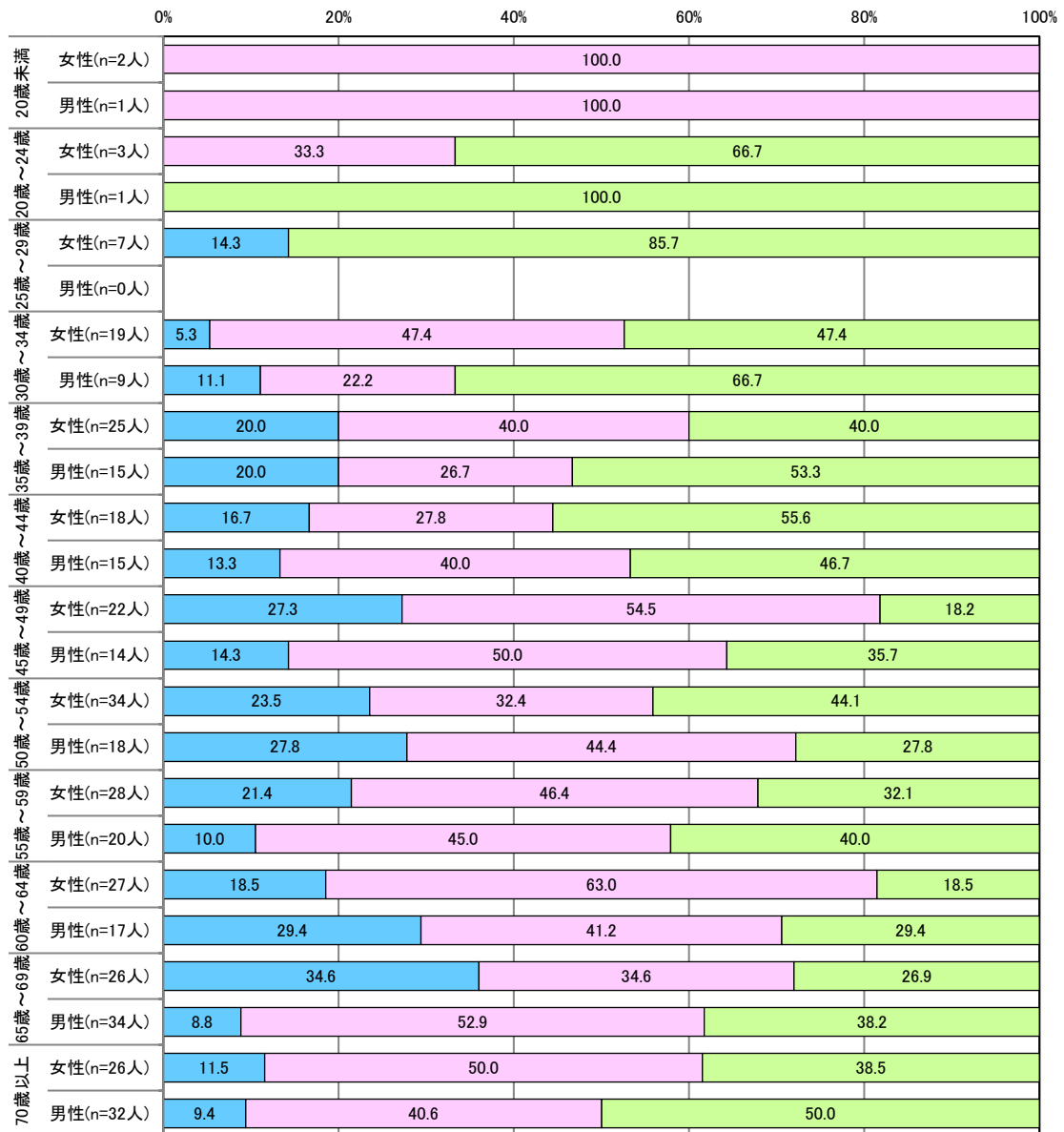


問 11 子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。(〇は1つ)

- ・性別で見ると、男女ともに「少し影響した」が4割を超え、最も多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳未満、35歳～39歳の女性、45歳～49歳の男女、50歳～54歳の男性、55歳～59歳の女性、60歳～69歳の男女、70歳以上の女性で「影響した」、「少し影響した」の回答割合の合計が6割以上となっている。

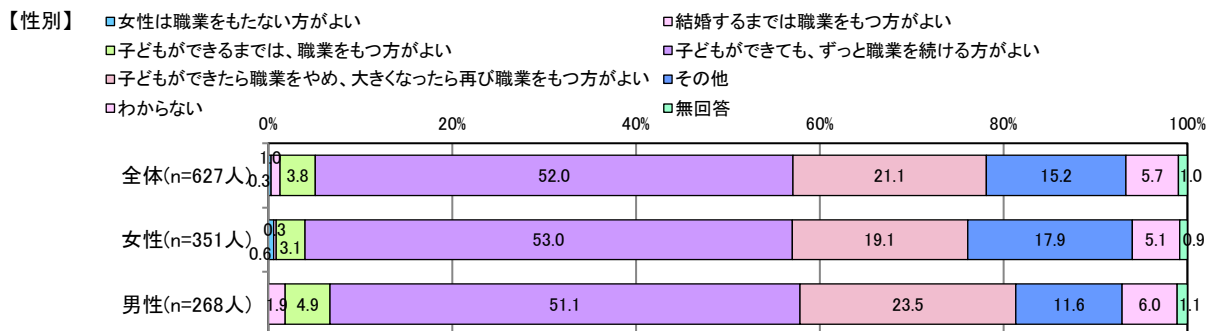


【世代別性別】

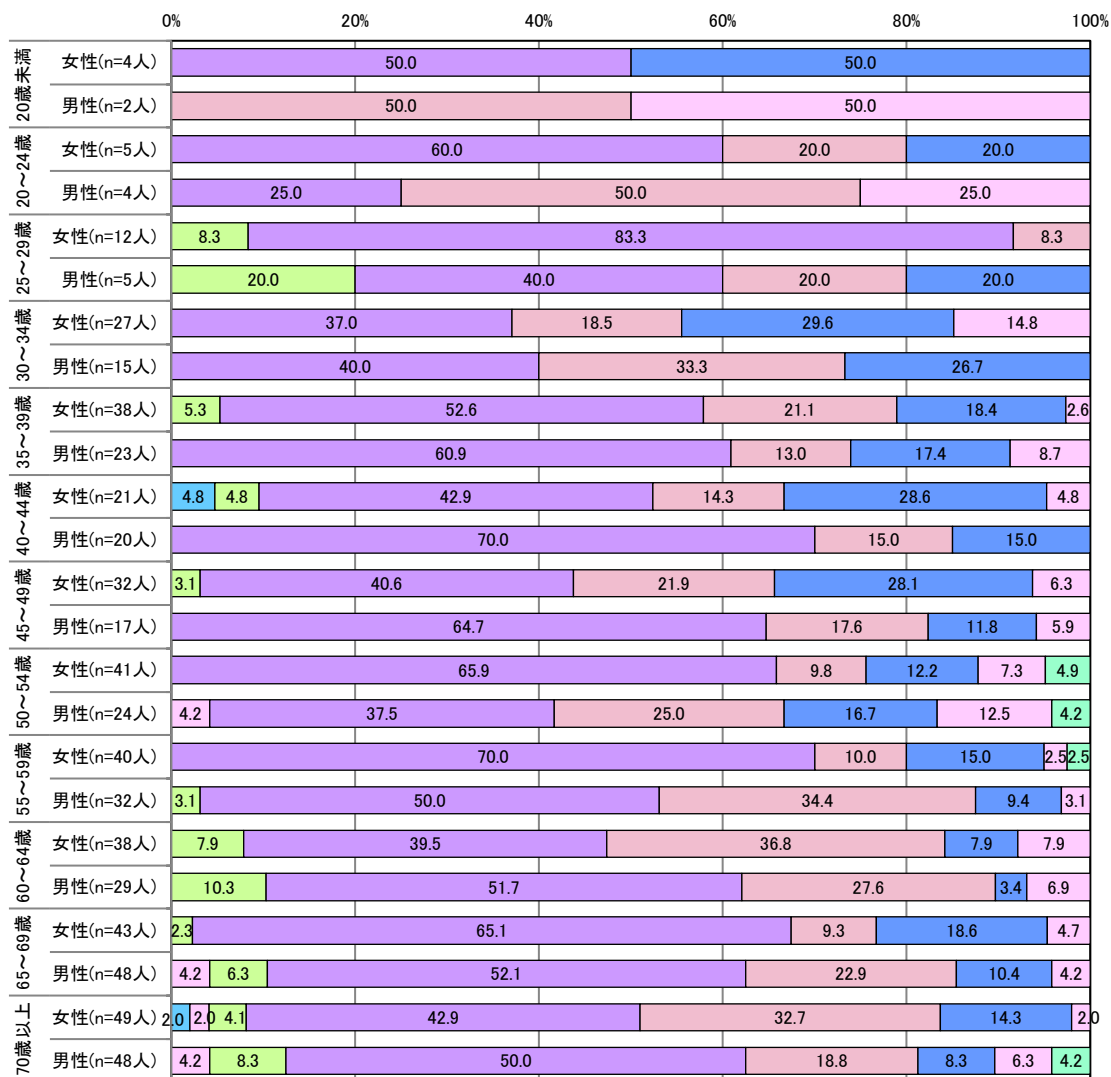


問 12 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。（〇は1つ）

- ・性別でみると、男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、男性は「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、20歳～24歳の男性を除く世代では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。



【世代別性別】



---

## 職場における「女性活躍と就労」に関することについて

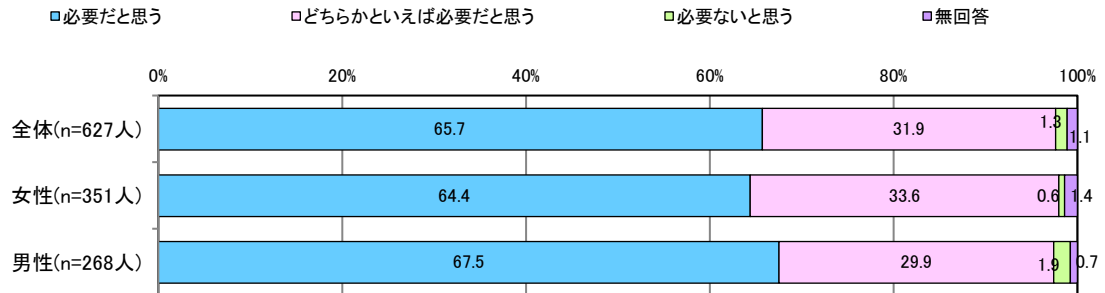
---



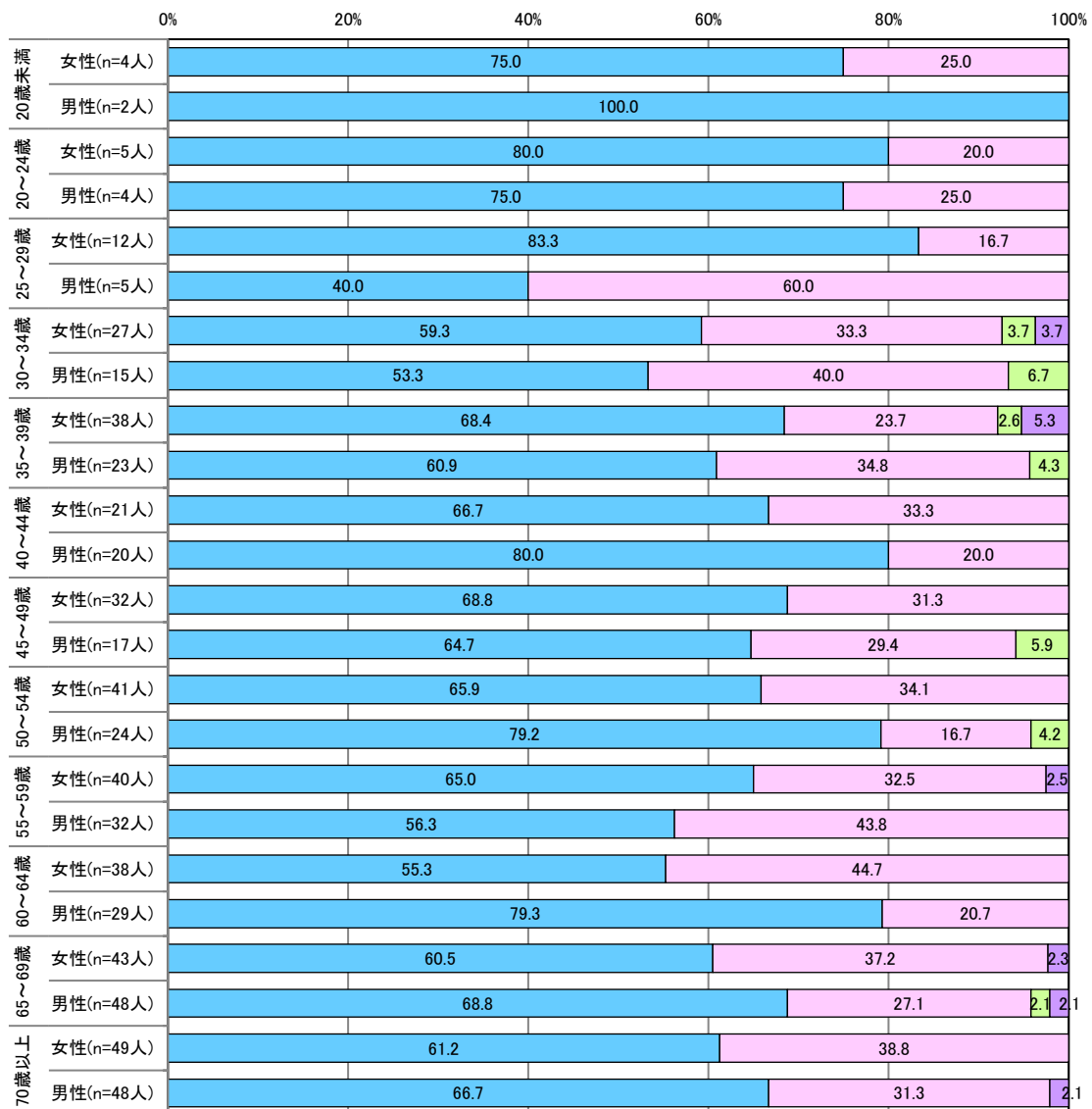
問13 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。（〇は1つ）

- ・性別で見ると、男女ともに、「必要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、25歳～29歳の男性を除き、いずれの世代でも「必要だと思う」が最も多くなっている。

【性別】



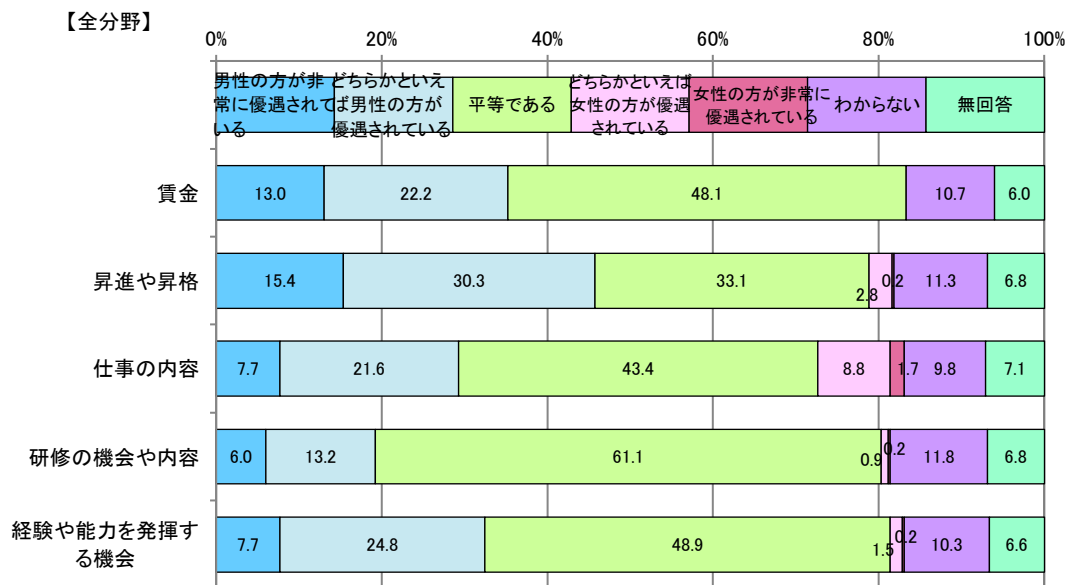
【世代別性別】



問 14 現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。（それぞれ〇は1つ）

- ・「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計でみると、「昇進や昇格」が約5割（45.7%）で、最も多くなっている。次いで、「賃金」（35.2%）、「経験や能力を発揮する機会」（32.5%）、「仕事の内容」（29.3%）、「研修の機会や内容」（19.2%）の順が続いている。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約1割（8.8%）となっている。それ以外の分野では、2.8%以下となっている。

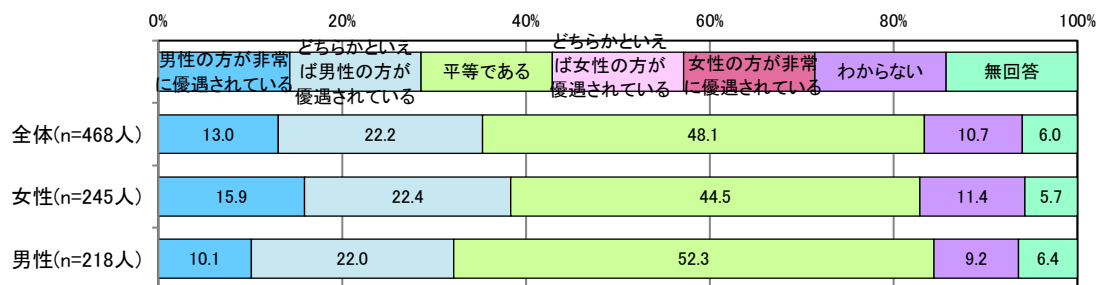


(全体 n=468人)

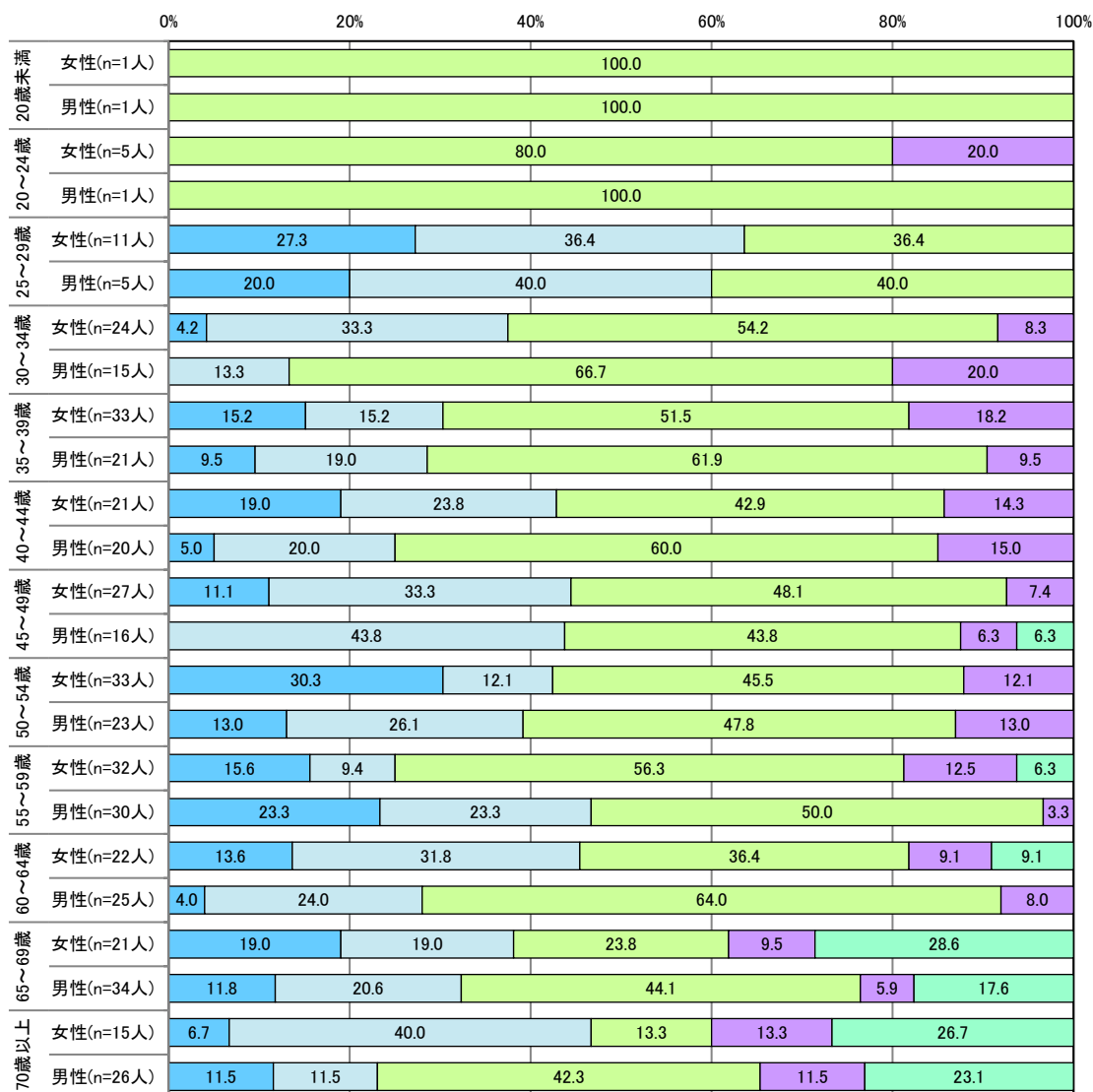
# 1 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は 52.3%で、女性は 44.5%となっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計では、男性は 32.1%、女性は 38.3%となっている。
- ・世代別性別でみると、65歳以上の女性を除き、いずれも「平等である」という回答の割合が最も多くなっている。

【性別】



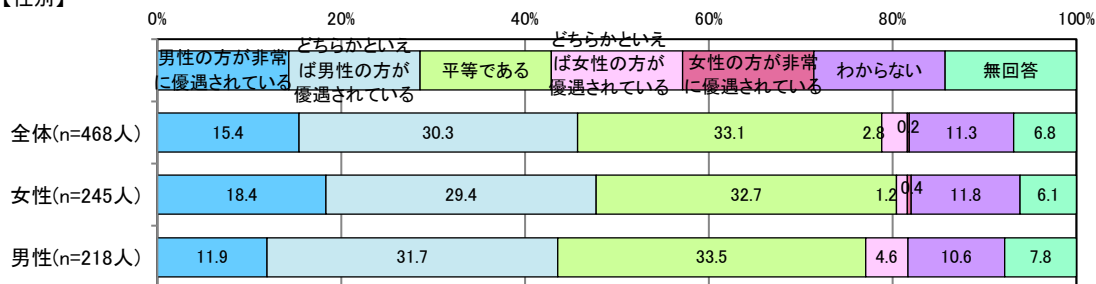
【世代別性別】



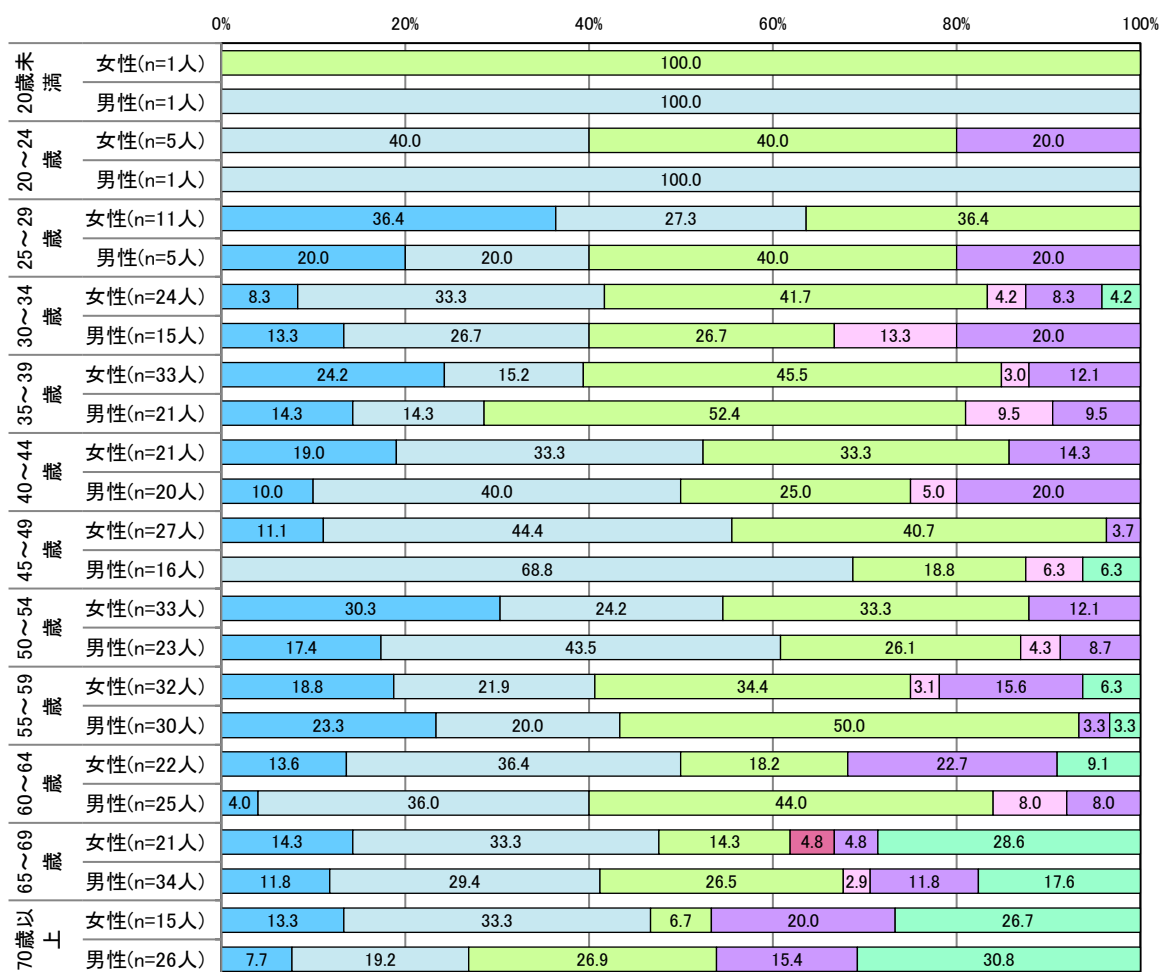
## 2 昇進や昇格

- ・性別でみると、男女とも、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「平等である」が拮抗している。男女ともに、それぞれ約3割となっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答割合の合計では、男性は43.6%、女性は47.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答割合の合計が5割以上となる世代は、25歳～29歳の女性、40歳～54歳の男女、60歳～64歳の女性となっている。一方、35歳～39歳の男性では、「平等である」が5割以上と、最も多くなっている。

【性別】



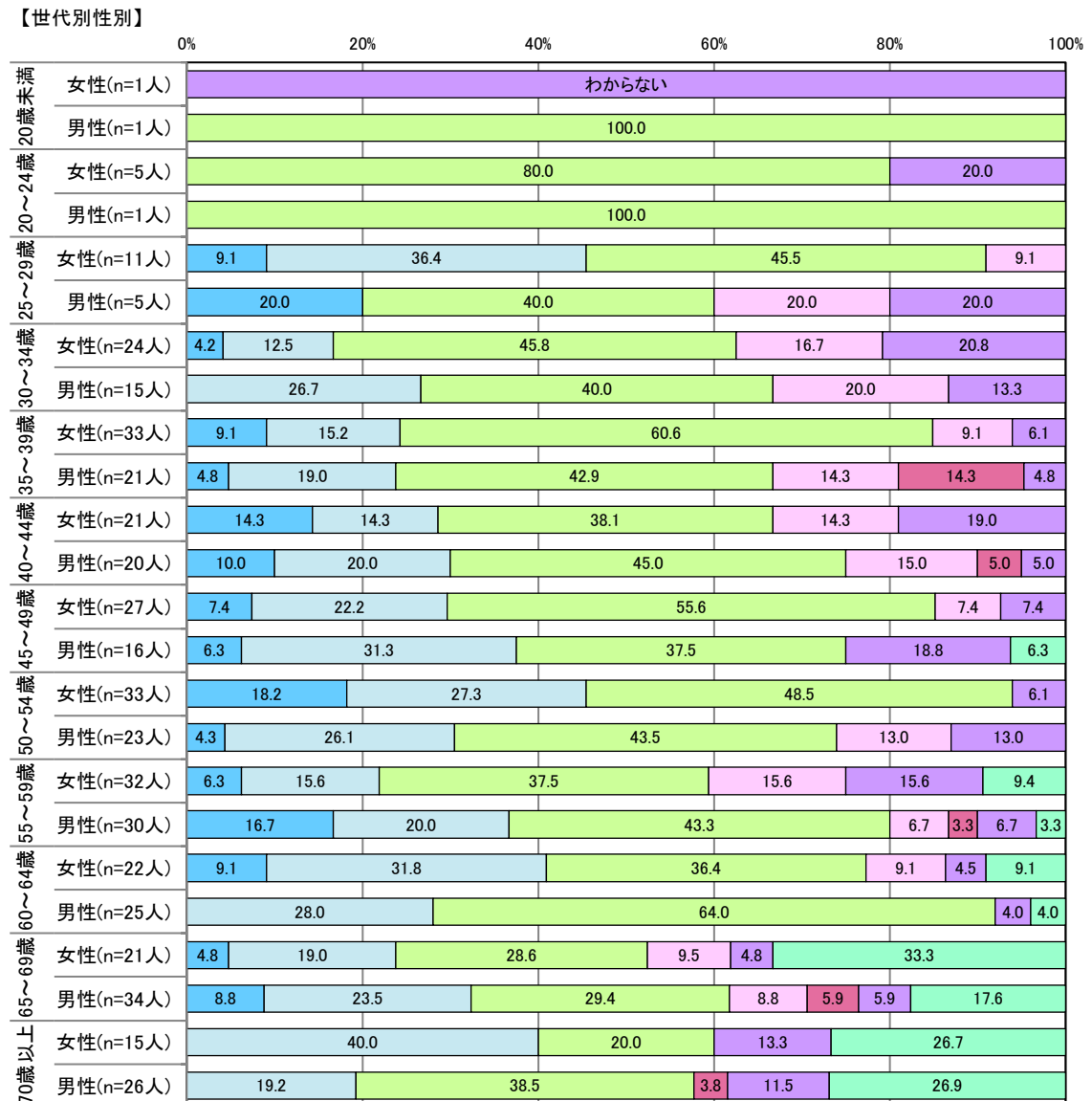
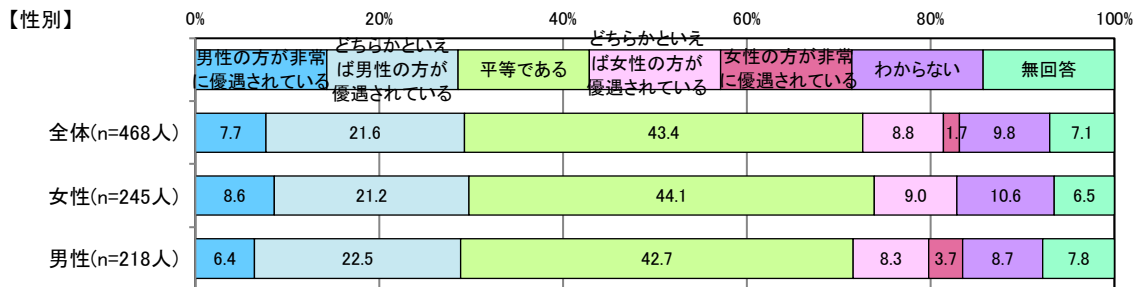
【世代別性別】





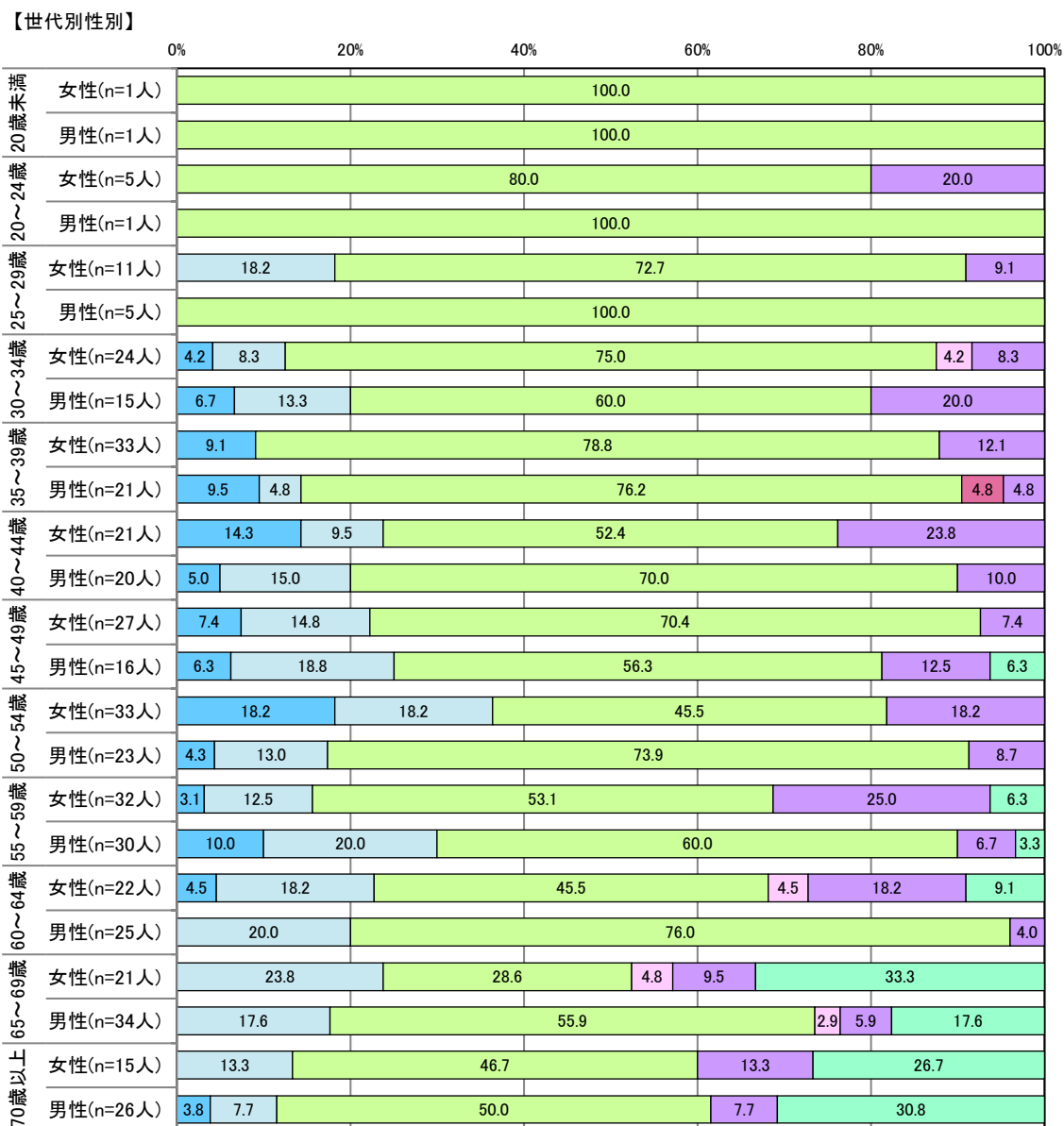
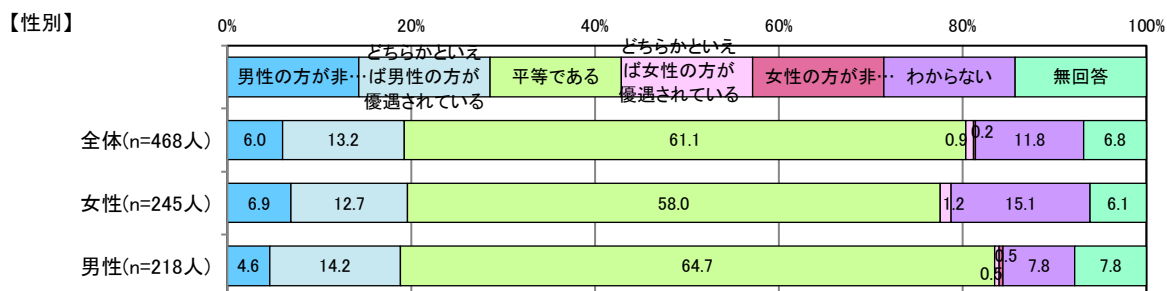
### 3 仕事の内容

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が 42.7%、女性が 44.1%となっている。
- ・「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答は、男性が 8.3%、女性が 9.0%で、男女ともに約1割となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、65歳以上の女性を除く、いずれの世代も、「平等である」という回答が最も多くなっている。



#### 4 研修の機会や内容

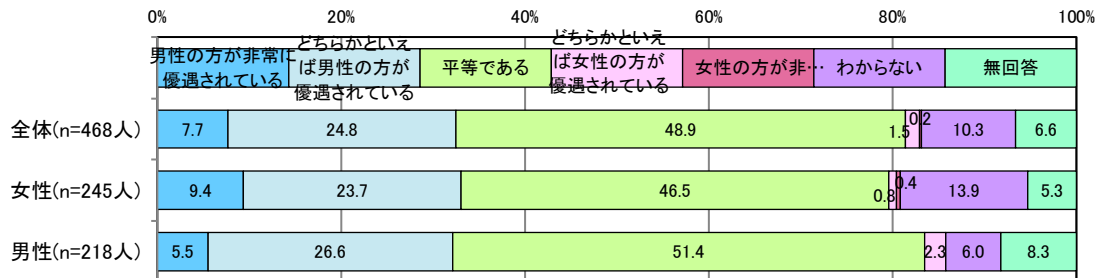
- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が64.7%、女性が58.0%となっている。
- ・世代別性別でみると、65歳～69歳の女性を除く、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。



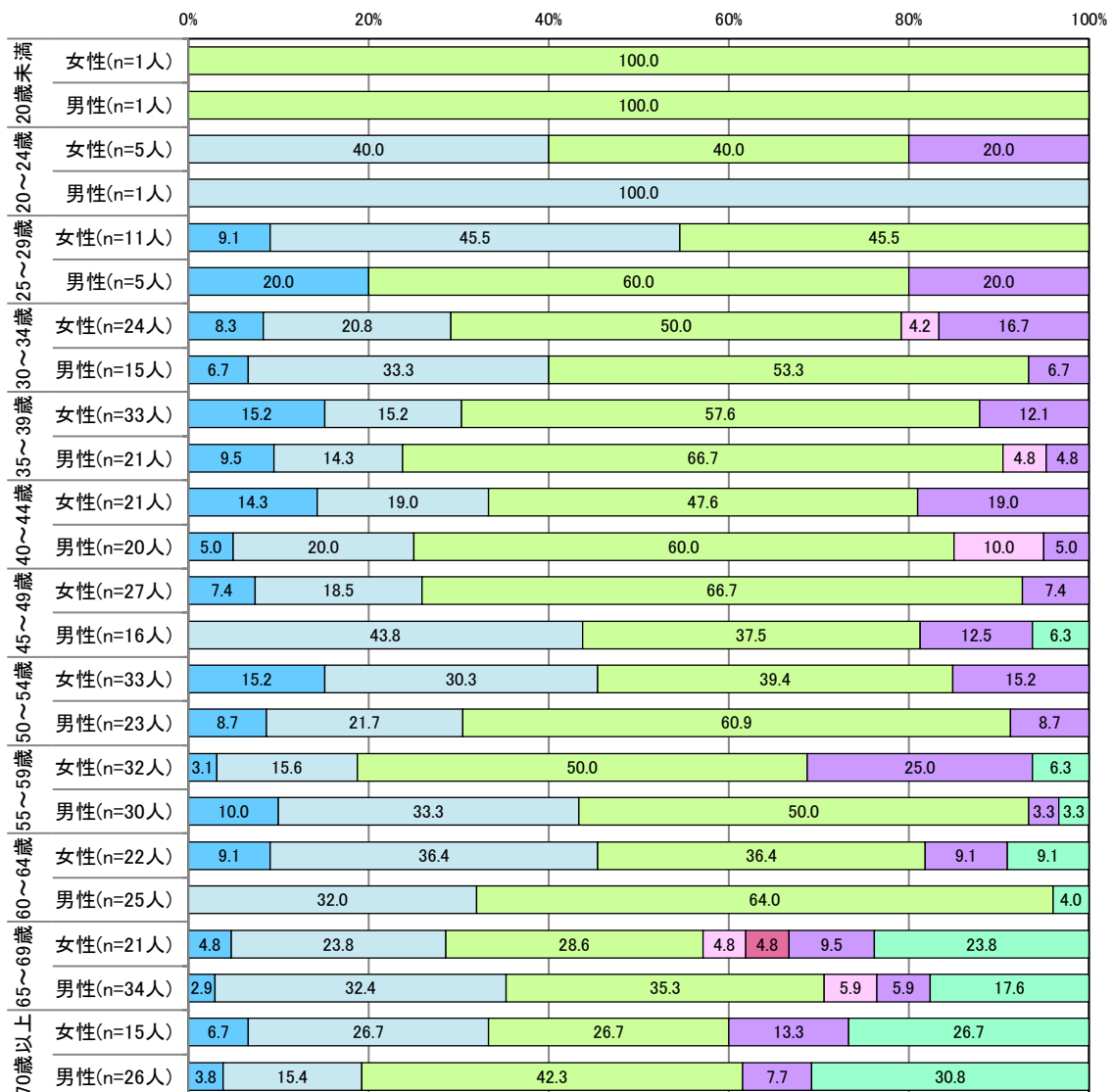
## 5 経験や能力を発揮する機会

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が51.4%、女性が46.5%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～29歳の男性、45歳～49歳の男性を除く、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。

### 【性別】



### 【世代別性別】



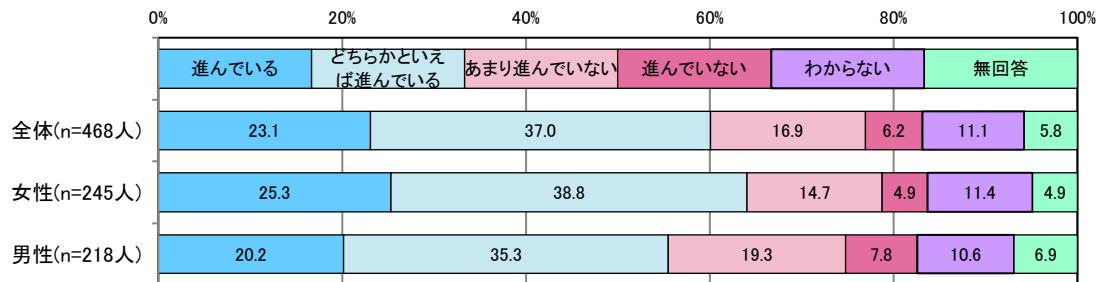
問 15 **現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。**

あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。

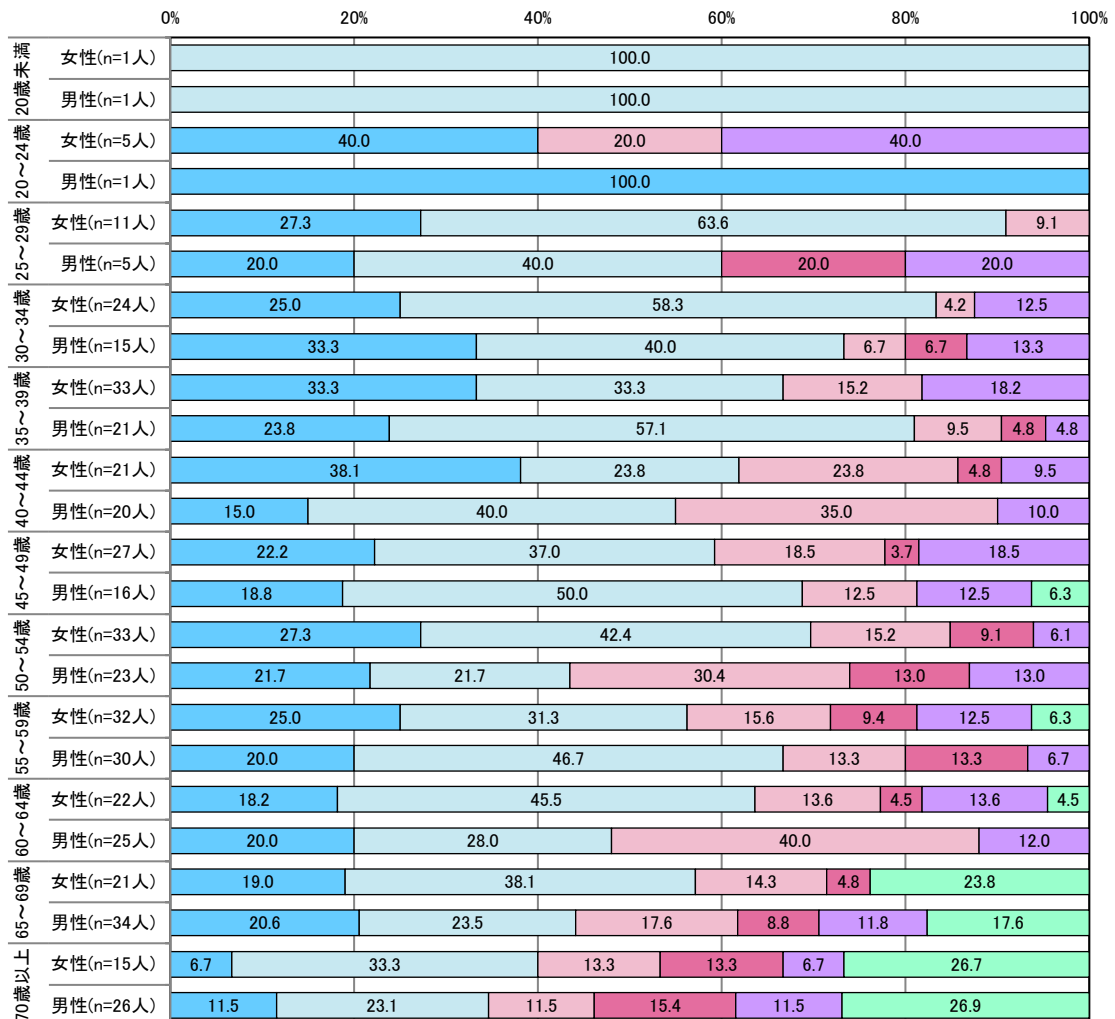
(○は 1 つ)

- ・性別でみると、男女ともに、「どちらかといえば進んでいる」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男女、20歳～24歳の男性、25歳～39歳の男女、40歳～44歳の女性、45歳～49歳の男性、50歳～54歳の女性、55歳～59歳の男性、60歳～64歳の女性では、「進んでいる」、「どちらかといえば進んでいる」の回答割合の合計が6割以上となっている。

【性別】



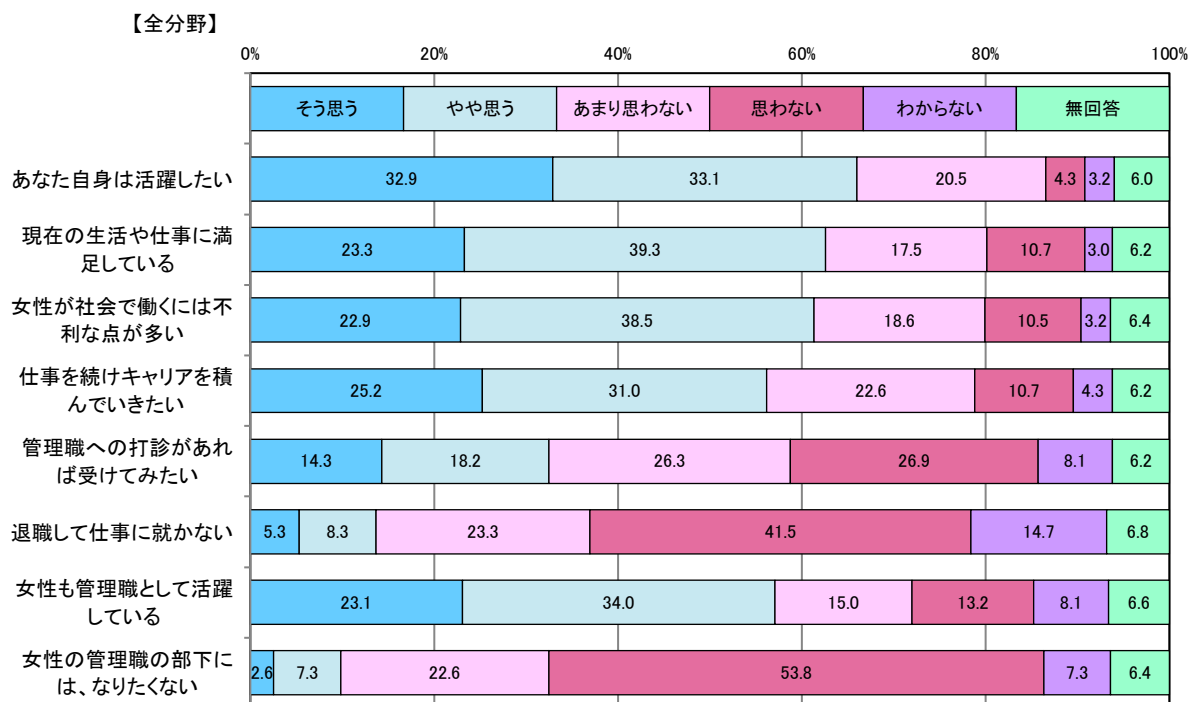
【世代別性別】



問 16 **現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。**

今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。（それぞれ〇は1つ）

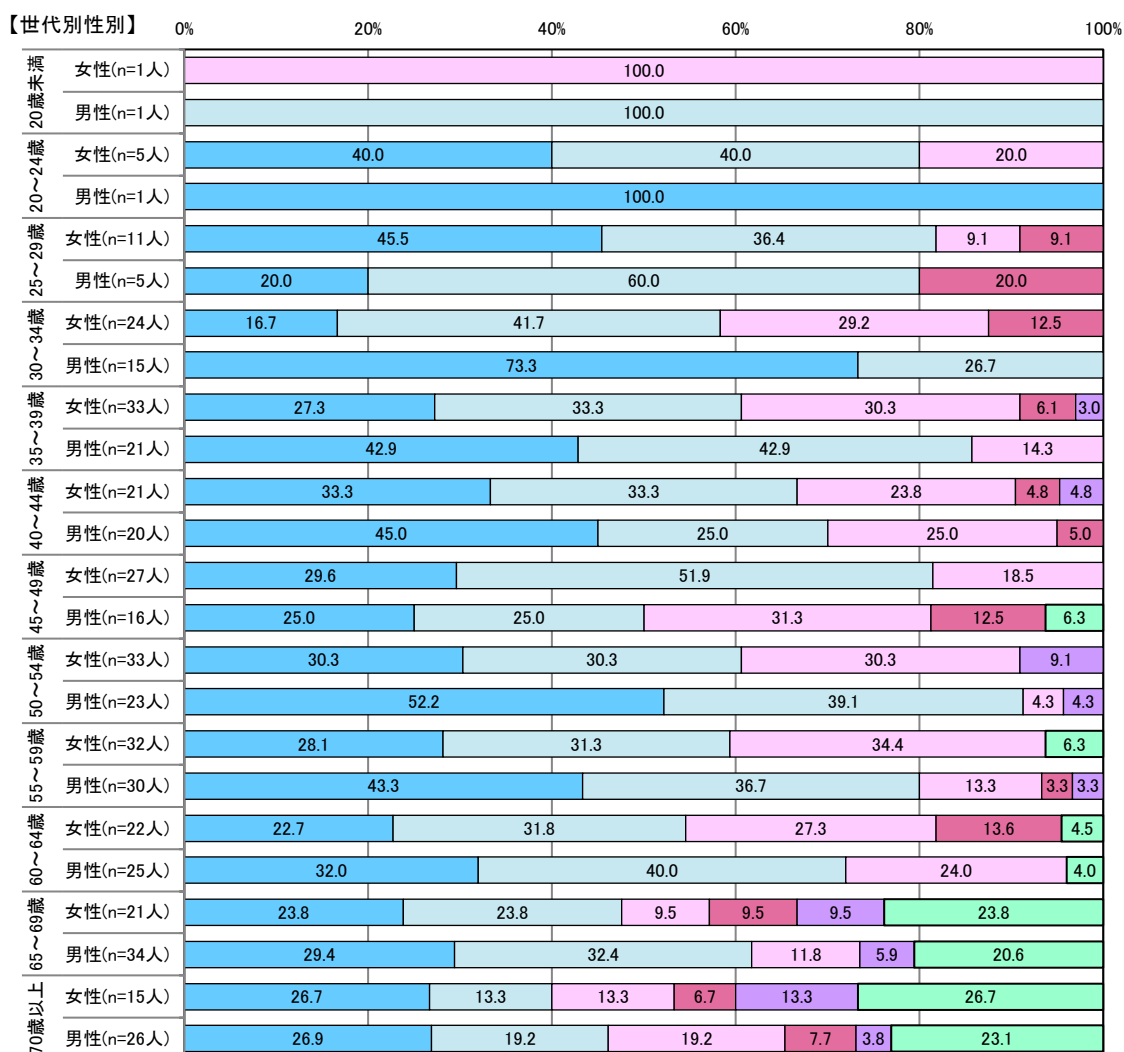
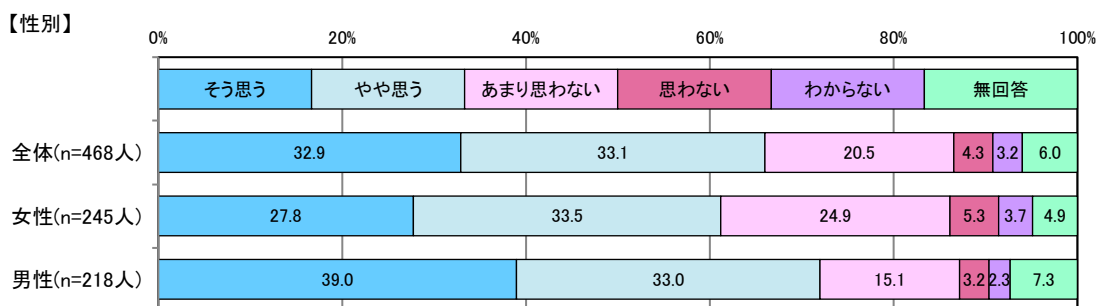
- ・「そう思う」という回答でみると、「あなた自身は活躍したい」（32.9%）が3割で最も多くなっている。次いで、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」（25.2%）、「現在の生活や仕事に満足している」（23.3%）、「女性も管理職として活躍している」（23.1%）「女性が社会で働くには不利な点が多い」（22.9%）の順が続いている。
- ・「思わない」という回答の割合は、「女性の管理職の部下には、なりたくない」（53.8%）が約5割と最も多くなっている。次いで、「退職して仕事に就かない」（41.5%）、「管理職への打診があれば受けてみたい」（26.9%）となっている。



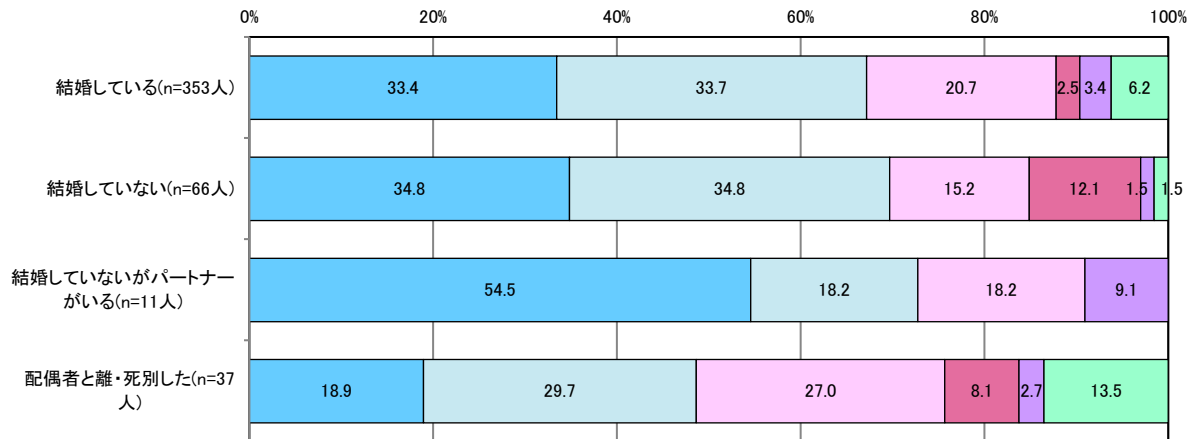
(全体 n=536人)

# 1 あなた自身は活躍したい

- 全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、約3割（33.1%）となっている。
- 性別でみると、男性は、「そう思う」が約4割（39.0%）と最も多い。一方、女性は「やや思う」が約3割（33.5%）と最も多くなっている。男女ともに、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計は、6割を超えている。
- 世代別性別でみると、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計では、20歳未満の男性、20歳～29歳の男女、30歳～39歳の男性、45歳～49歳の女性、50歳～59歳の男性の世代で8割以上となる。
- 配偶者の有無別でみると、「配偶者と離・死別した」を除くと、いずれも「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が6割を超えている。



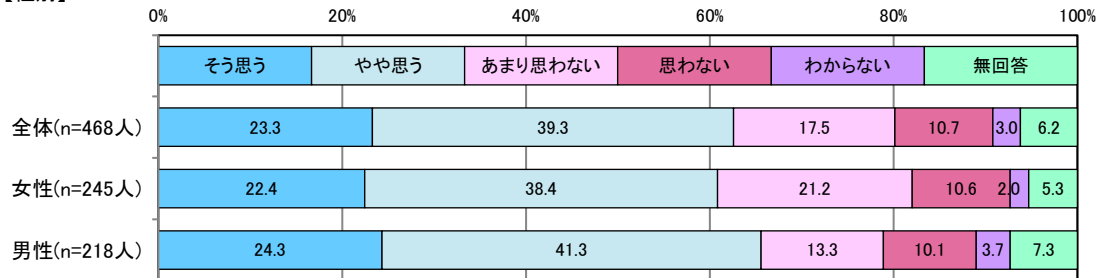
【配偶者の有無別】



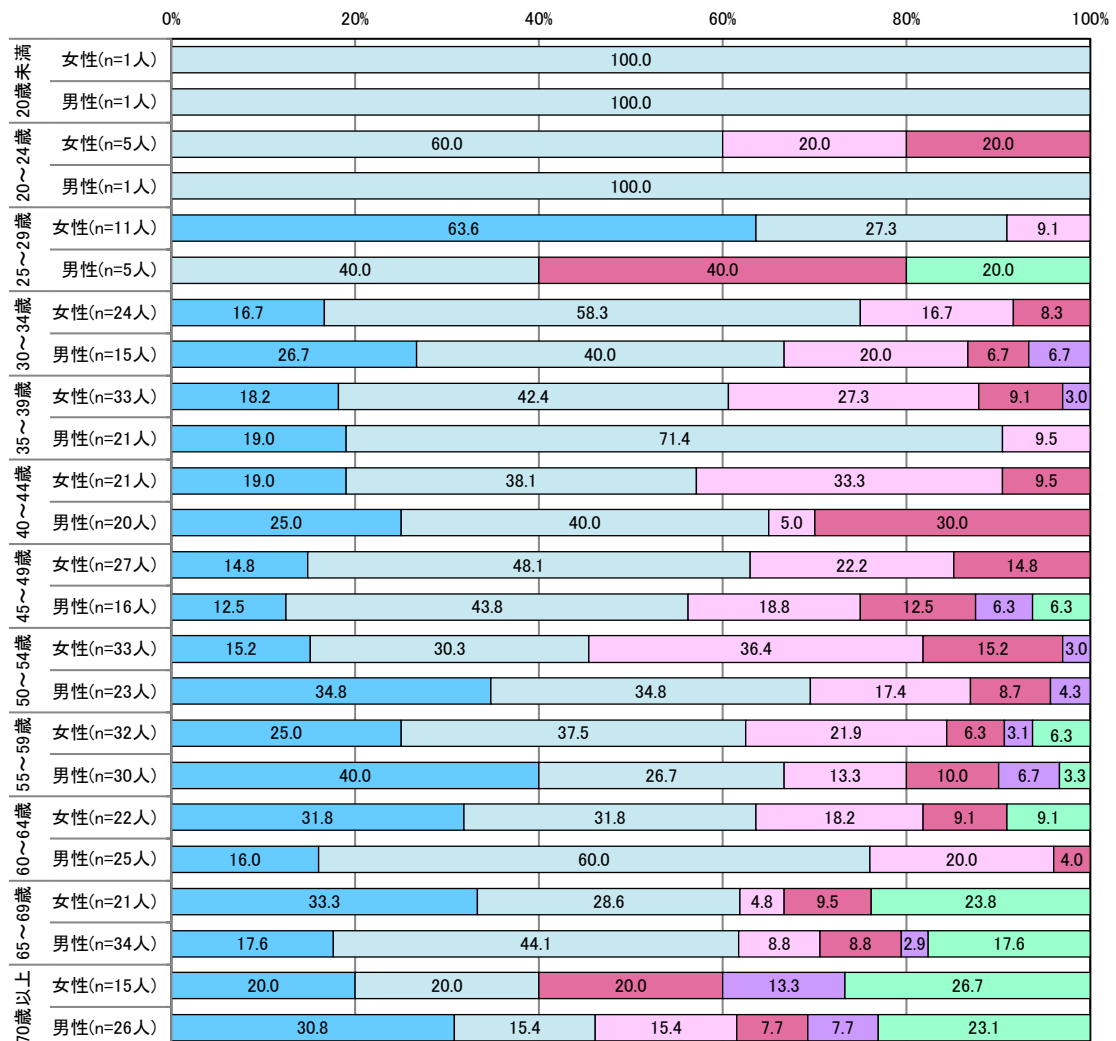
## 2 現在の生活や仕事に満足している

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、39.3%となっている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が約4割と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男女、20歳～24歳の男性、25歳～34歳の女性、35歳～39歳の男性、60歳～64歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が7割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が6割を超えている。

【性別】

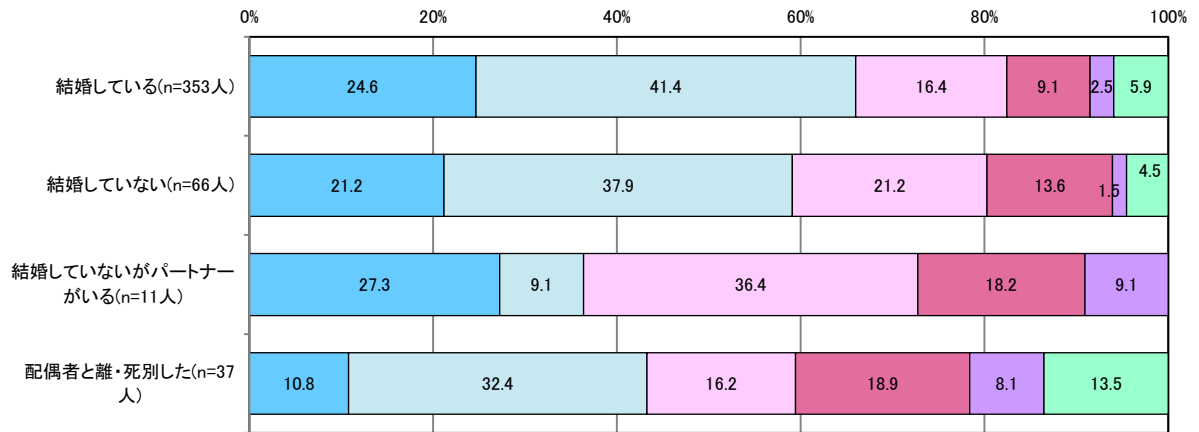


【世代別性別】



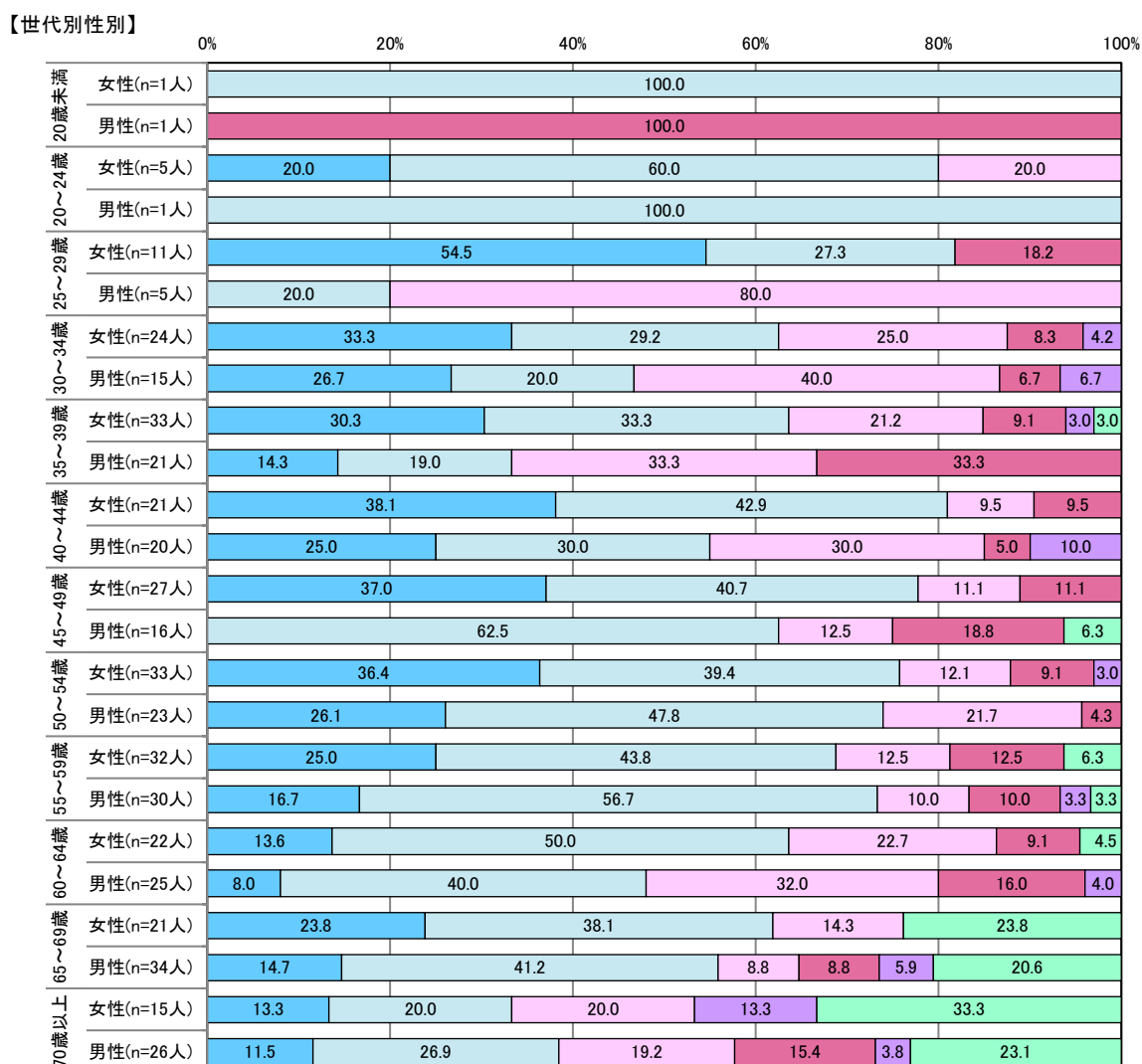
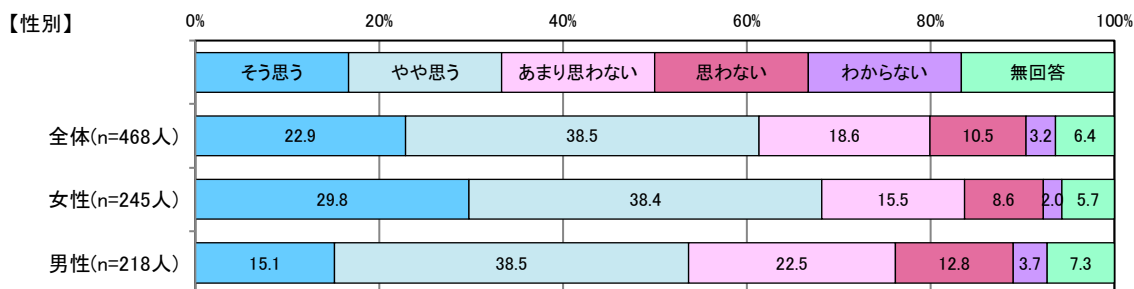


【配偶者の有無別】

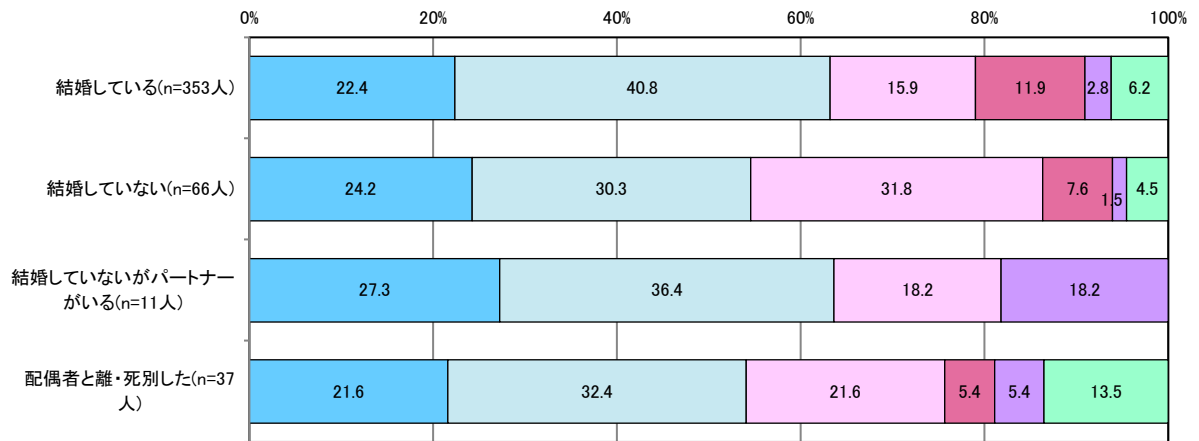


### 3 女性が社会で働くには不利な点が多い

- ・全体でみると、「やや思う」が38.5%と最も多くなっている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が約4割と最も多い。「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計では、女性（68.2%）が男性（53.6%）よりもやや多くなる。
- ・世代別性別では、20歳未満の女性、20歳～24歳の男性、20歳～29歳の女性、40歳～49歳の女性、50歳～54歳の男女、55歳～59歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が、7割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計は、「結婚している」、「結婚していないがパートナーがいる」で、6割以上となっている。

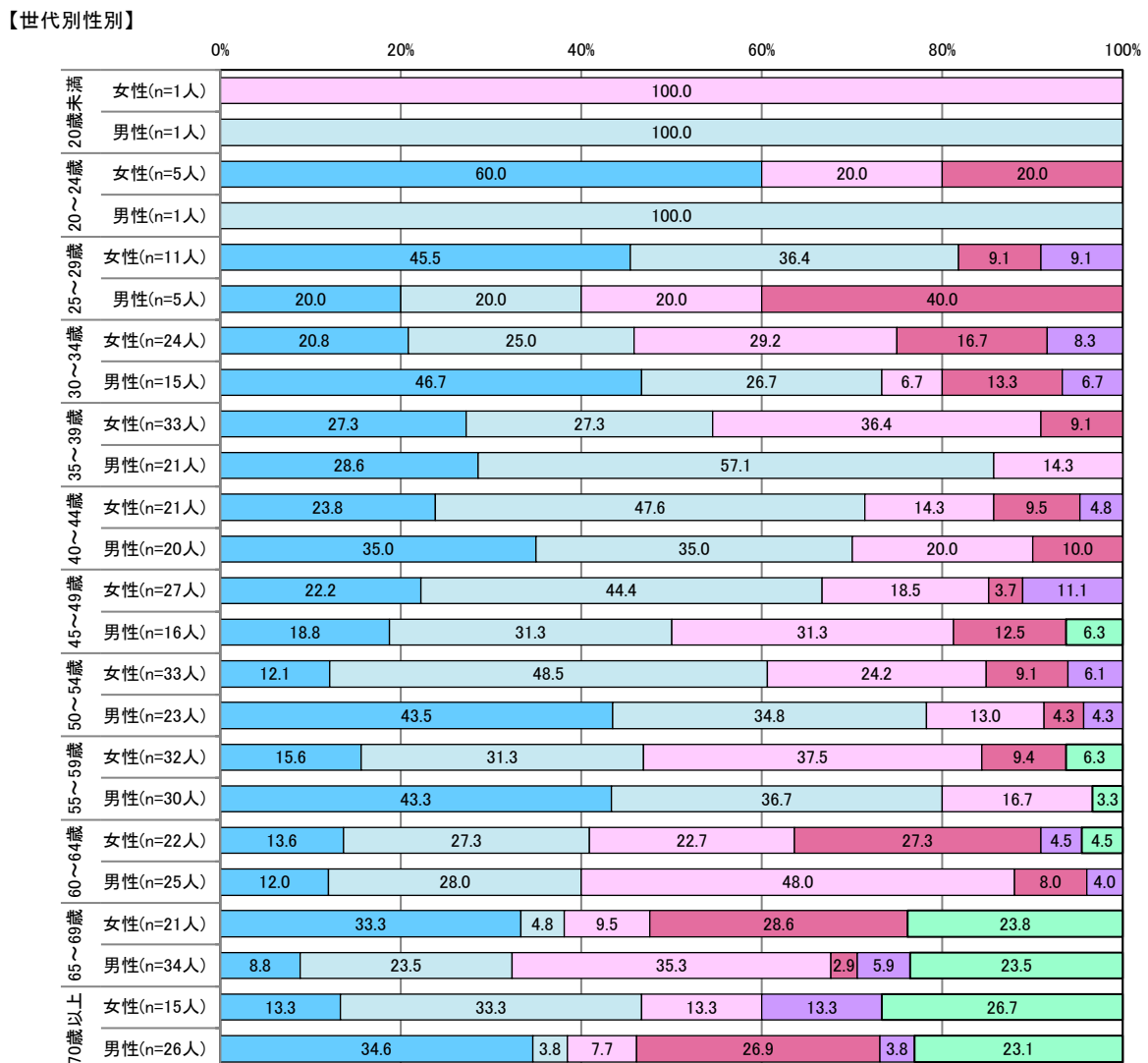
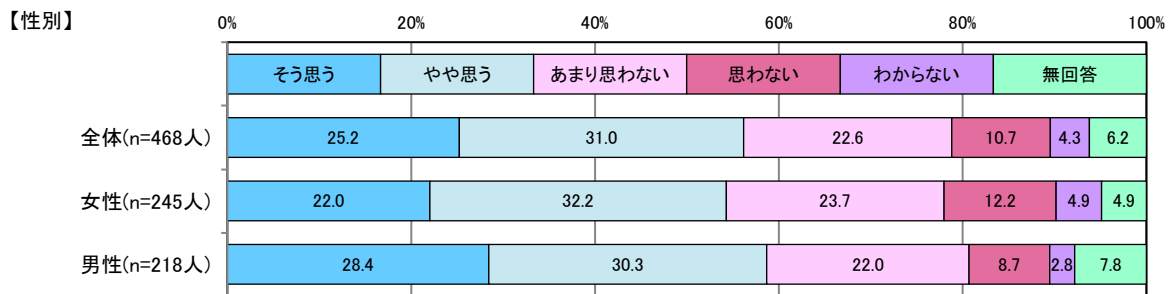


【配偶者の有無別】

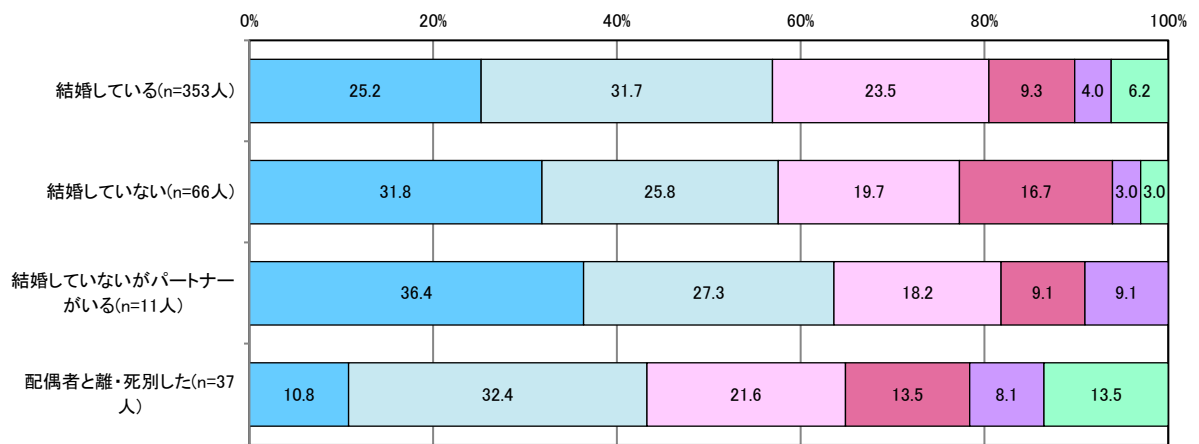


#### 4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が 31.0%で最も多く、次いで「そう思う」が 25.2%となっている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が約3割と最も多い。一方、男性では「そう思う」(28.4%)が、女性では「あまり思わない」(23.7%)が続いている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、20歳～24歳の男女、25歳～29歳の女性、30歳～39歳の男性、40歳～44歳の男女、45歳～54歳の女性、50歳～59歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が6割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していないがパートナーがいる」で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が、6割以上となっている。

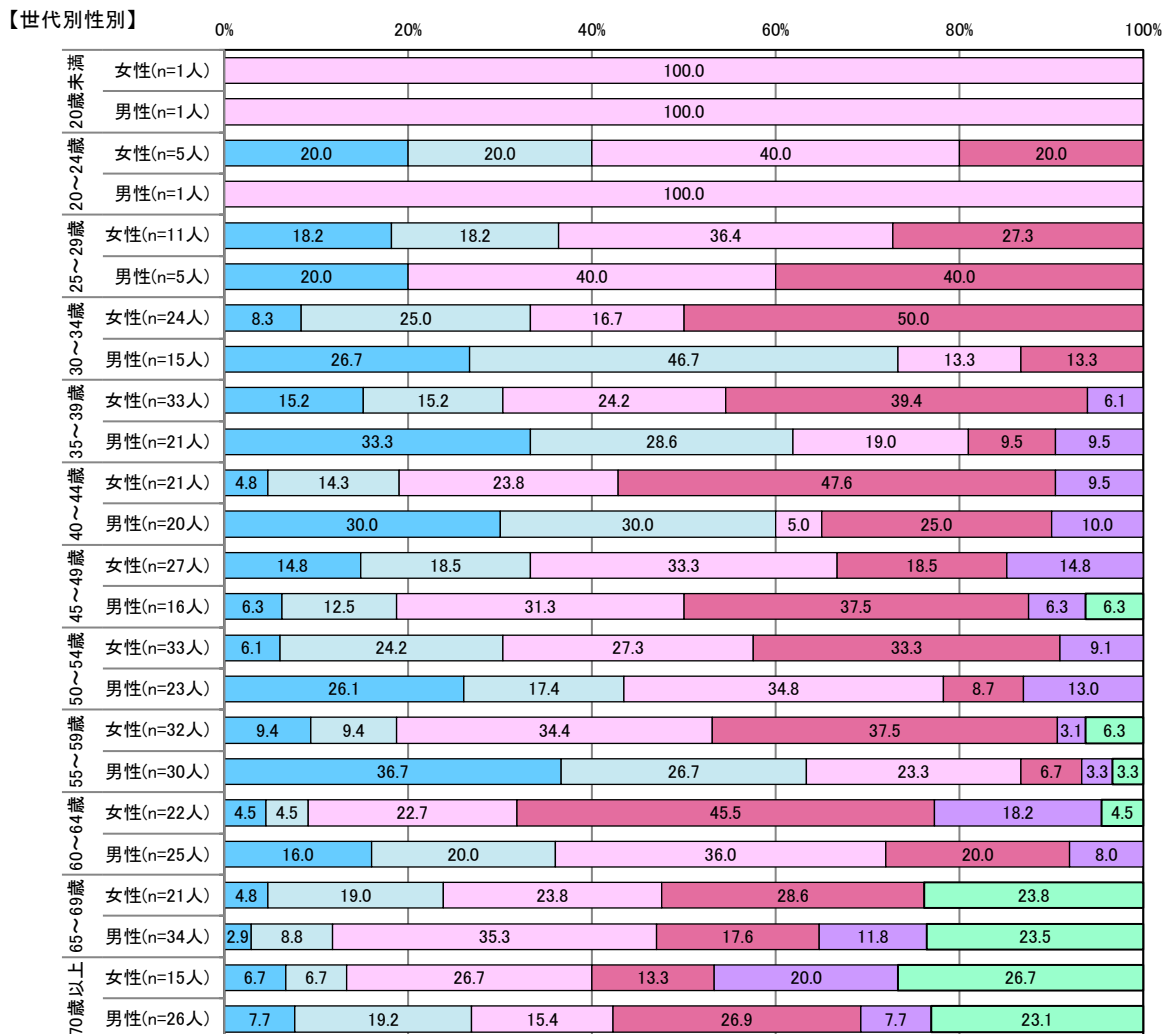
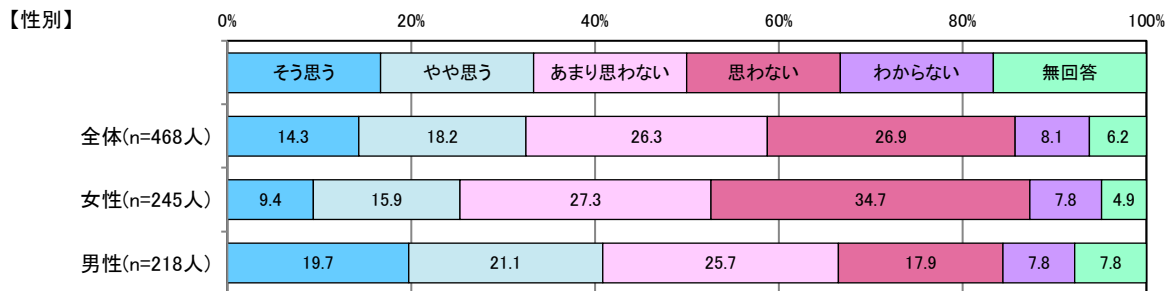


【配偶者の有無別】

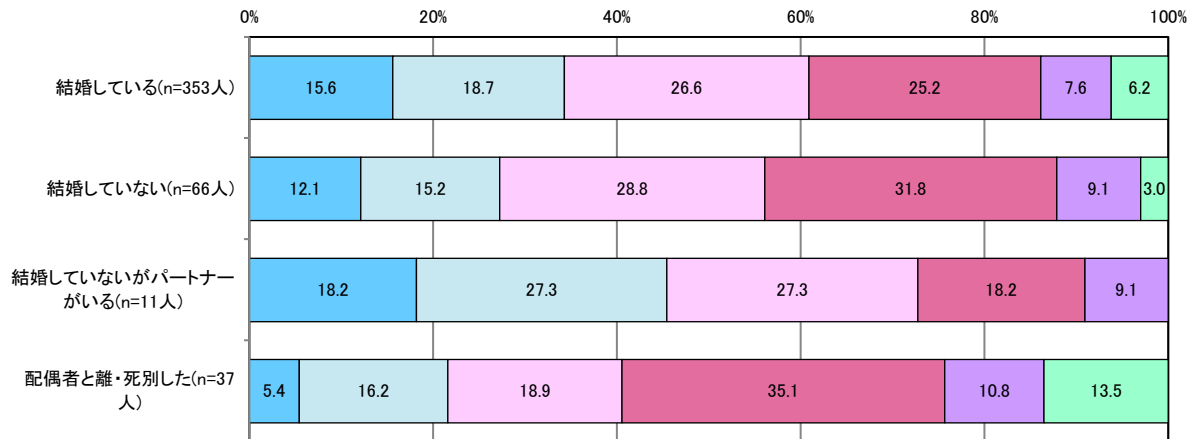


## 5 管理職への打診があれば受けてみたい

- ・全体でみると、「思わない」という回答が26.9%で最も多くなっている。
- ・性別でみると、「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計では、女性は62.0%、男性は43.6%となっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～44歳の男性、55歳～59歳の男性の世代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が6割以上となっている。一方、20歳未満の男女、20歳～29歳の男女、30歳～34歳の女性、35歳～64歳の女性、45歳～49歳の男性、60歳～64歳の男性、65歳～69歳の男女では、「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が、5割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していないがパートナーがいる」を除く、いずれも「思わない」「あまり思わない」という回答割合の合計が5割を超えている。

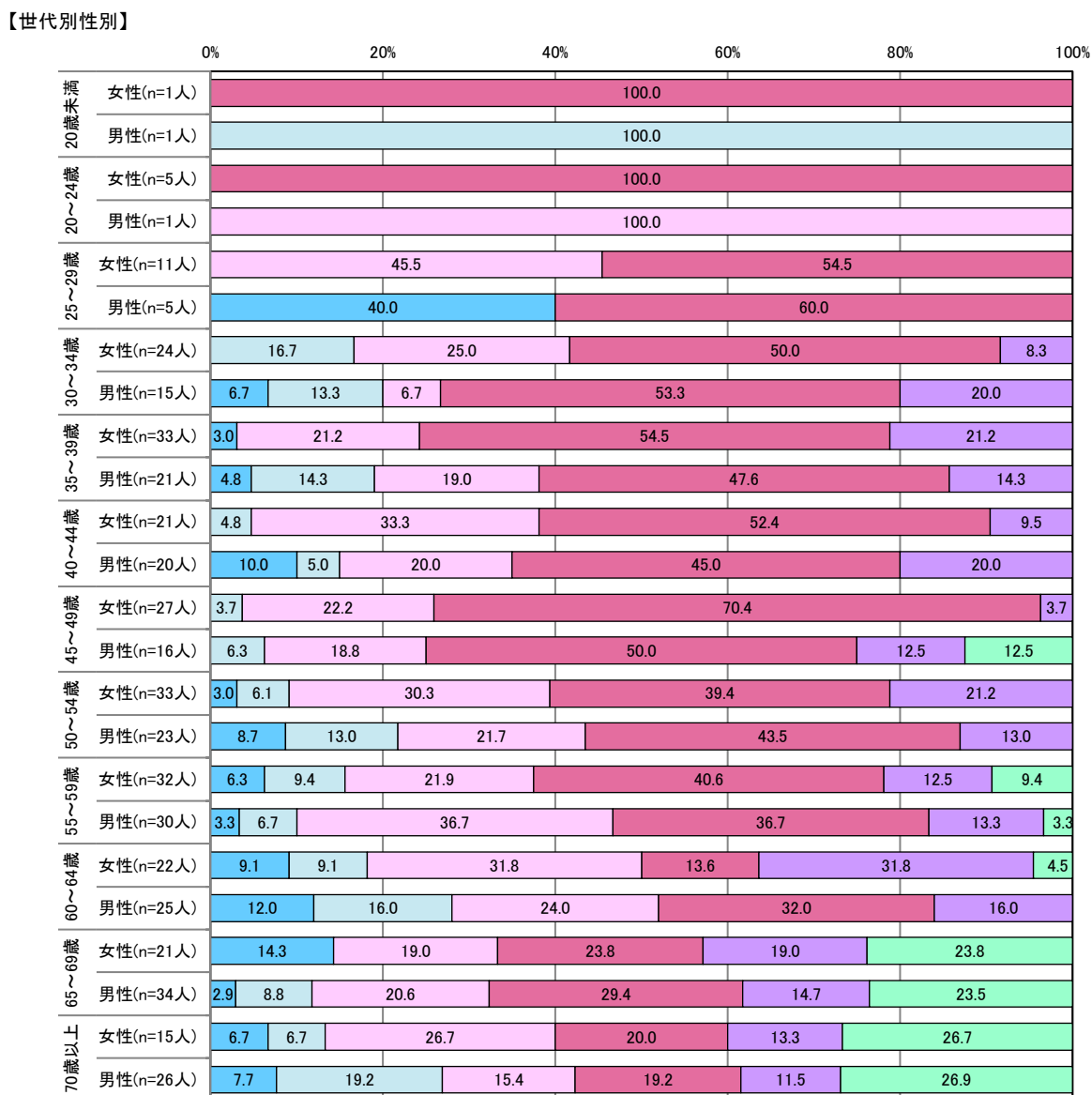
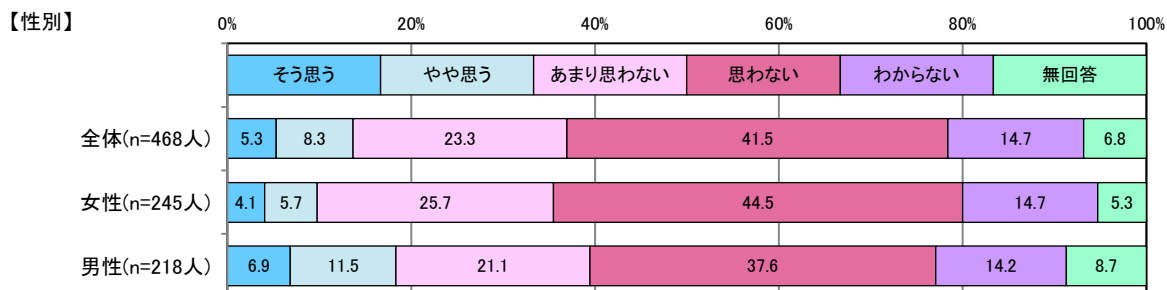


【配偶者の有無別】



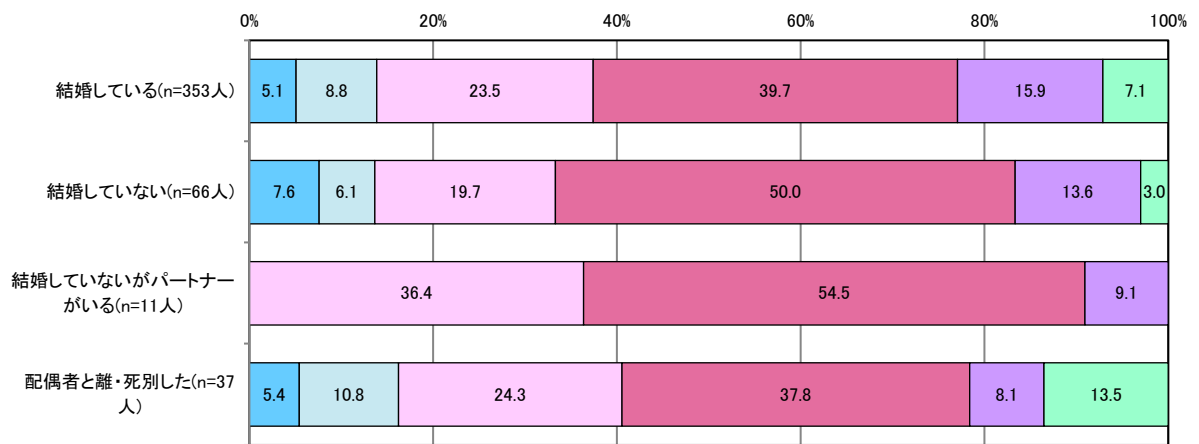
## 6 退職して仕事に就かない

- ・全体でみると、「思わない」という回答が41.5%と4割を超えている。
- ・性別でみると、男女とも「思わない」が約4割と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、65歳以上の男女の世代を除き、いずれの世代においても「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が5割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「思わない」、「あまり思わない」の回答割合の合計が6割以上となっている



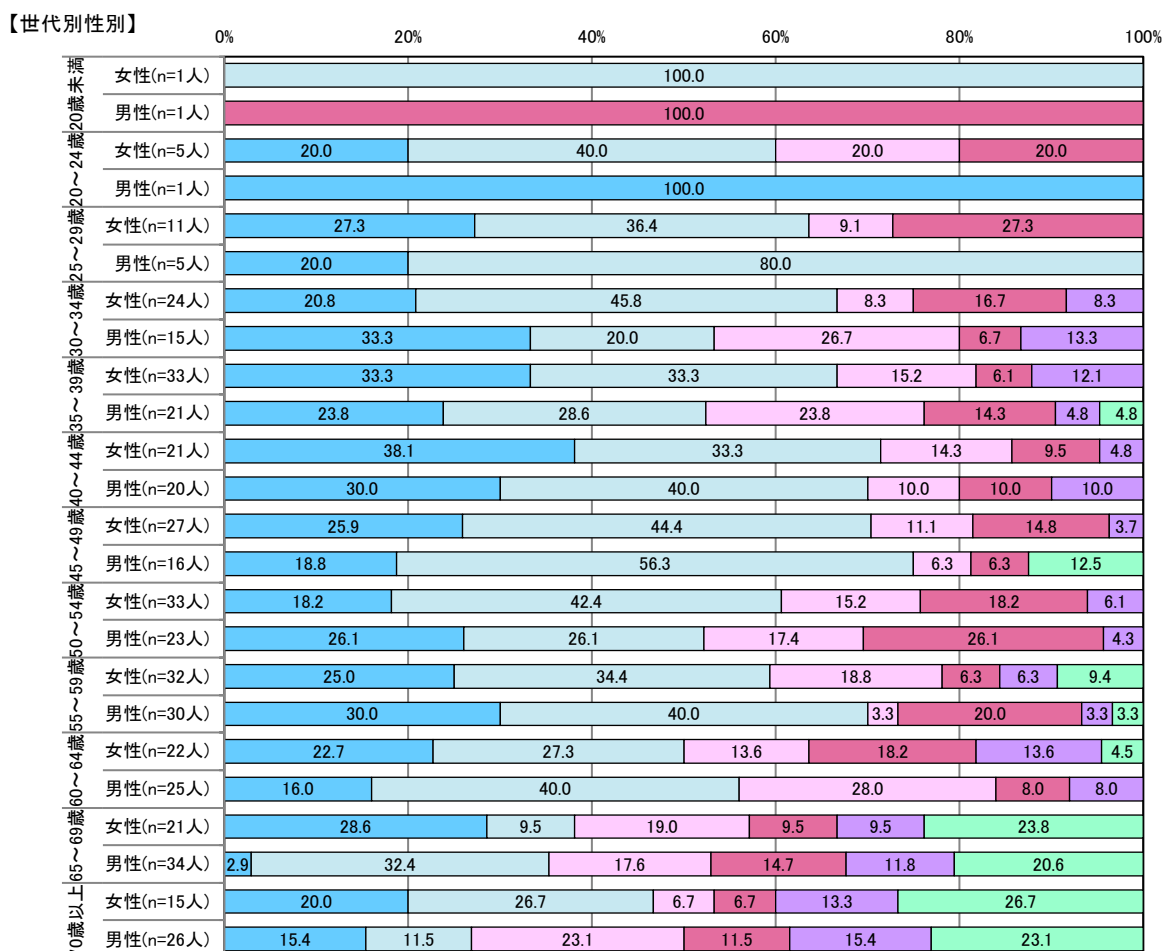
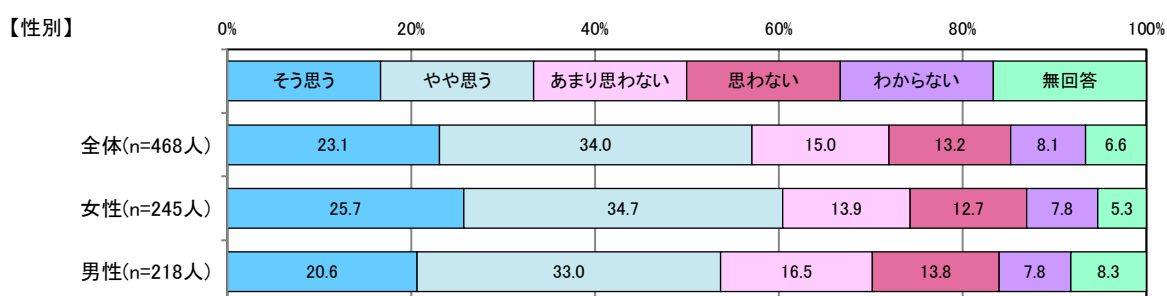


【配偶者の有無別】

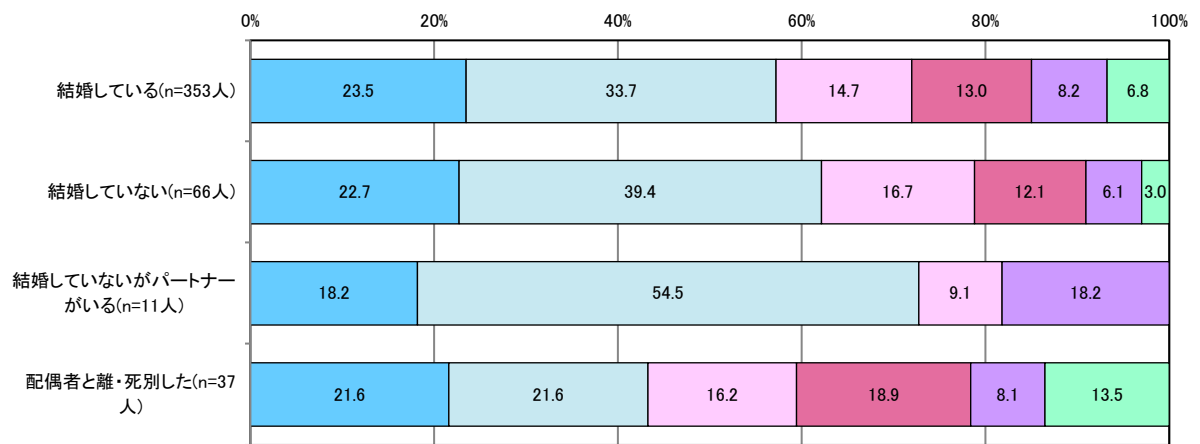


## 7 女性も管理職として活躍している

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が 34.0%と最も多く、次いで「そう思う」が 23.1%と続いている。
- ・性別でみると、男女とも「やや思う」が最も多い。次いで、「そう思う」、「あまり思わない」と続き、「そう思う」は、男性よりも女性がやや多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～29歳の男女、30歳～39歳の女性、40歳～49歳の男女、50歳～54歳の女性、55歳～59歳の男性で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が、6割を超えている。一方、20歳未満の男性、20歳～24歳の女性、50歳～54歳の男性の世代で、「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が4割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「配偶者と離・死別した」を除いて、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が5割を超えている。



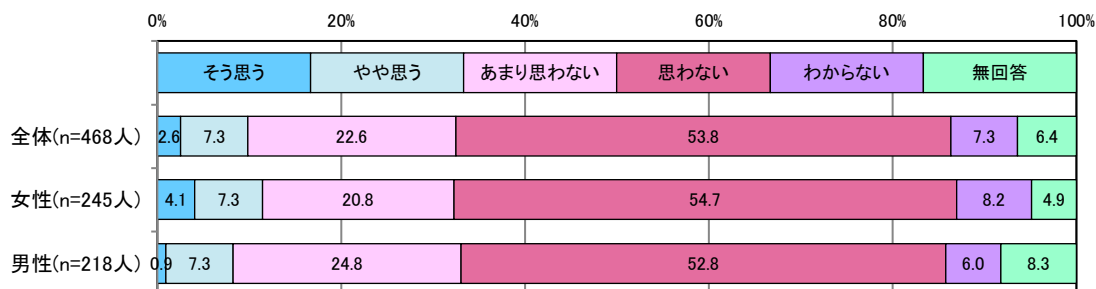
【配偶者の有無別】



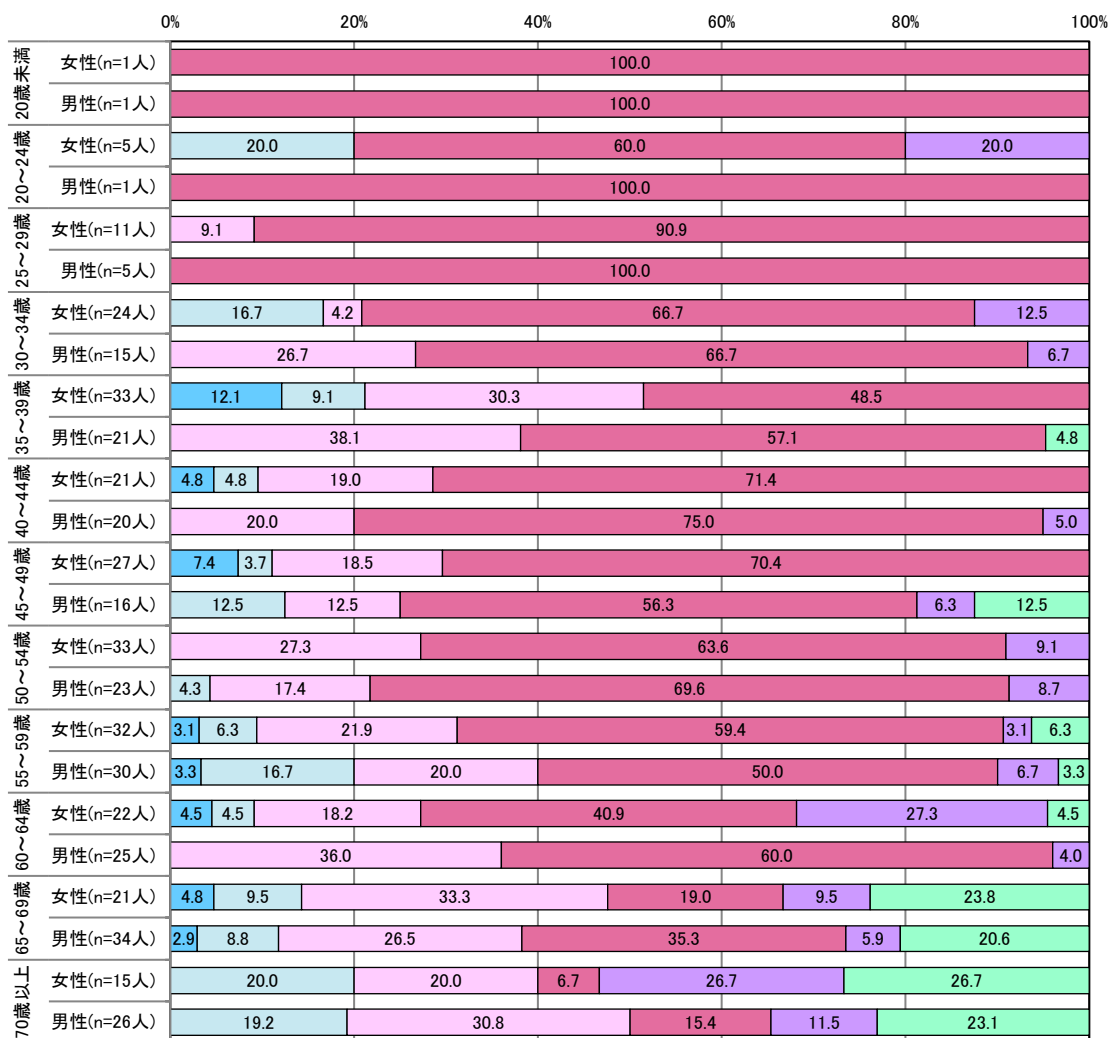
## 8 女性の管理職の部下には、なりたくない

- ・全体でみると、「思わない」という回答が53.8%と5割以上となっている。
- ・性別でみると、男女とも「思わない」が5割以上と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の男女の世代を除き、いずれの世代でも、「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が5割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「思わない」、「あまり思わない」という回答割合の合計が6割以上となっている。

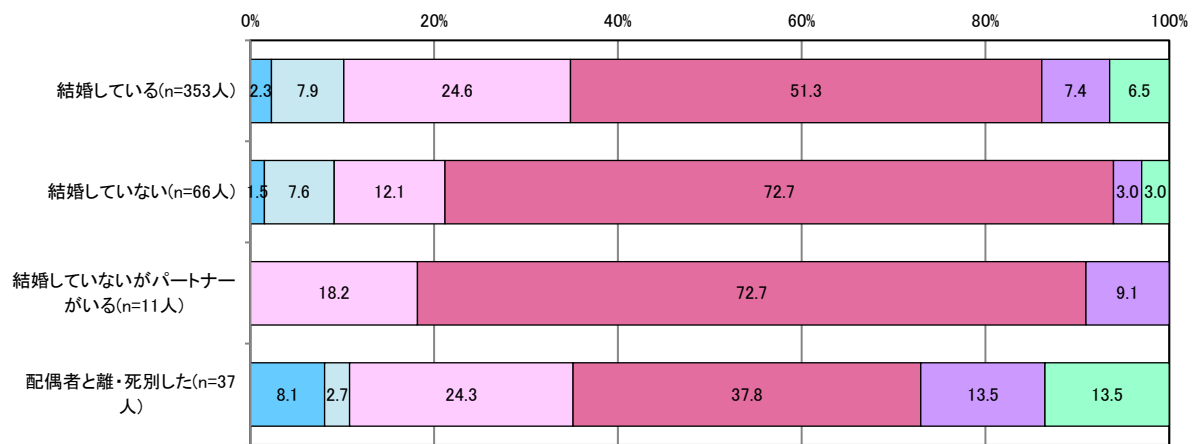
### 【性別】



### 【世代別性別】



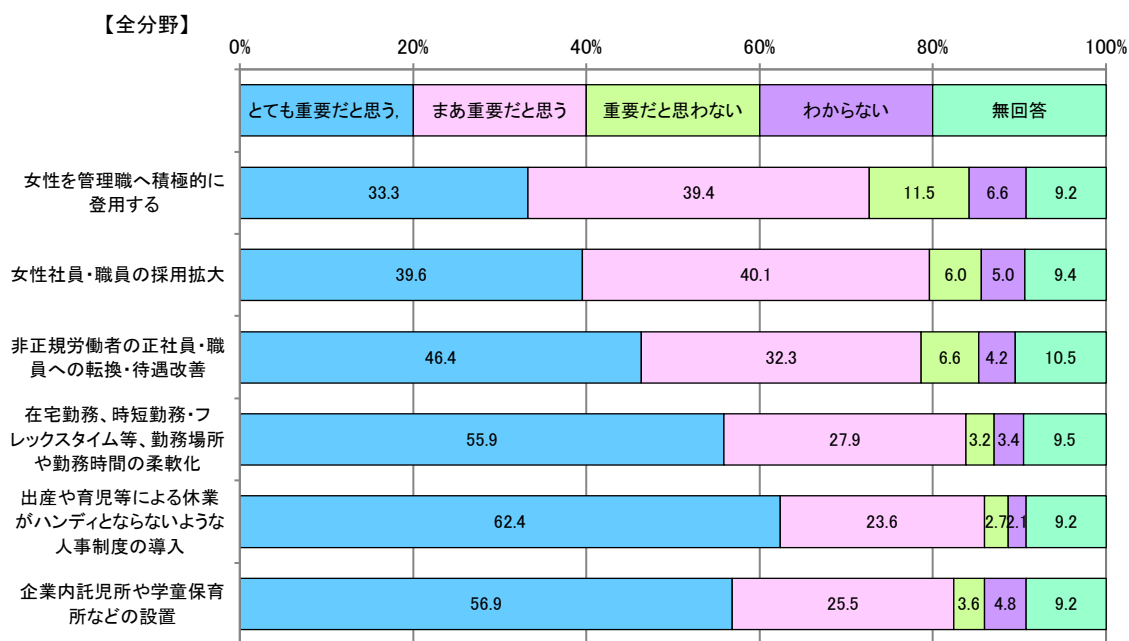
【配偶者の有無別】



**現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。**

問 17 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。  
(それぞれ○は1つ)

- ・「とても重要だと思う」という回答でみると、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」(62.4%)が約6割と最も多くなっている。次いで、「企業内託児所や学童保育所などの設置」(56.9%)、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」(55.9%)、「非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善」(46.4%)と続いている。一方、「まあ重要だと思う」という回答は、「女性社員・職員の採用拡大」(40.1%)、「女性を管理職へ積極的に登用する」(39.4%)で、約4割となっている。

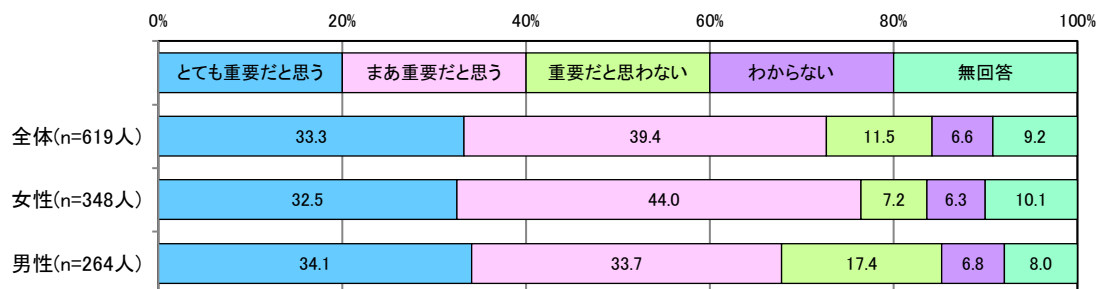


(全体 n=619人)

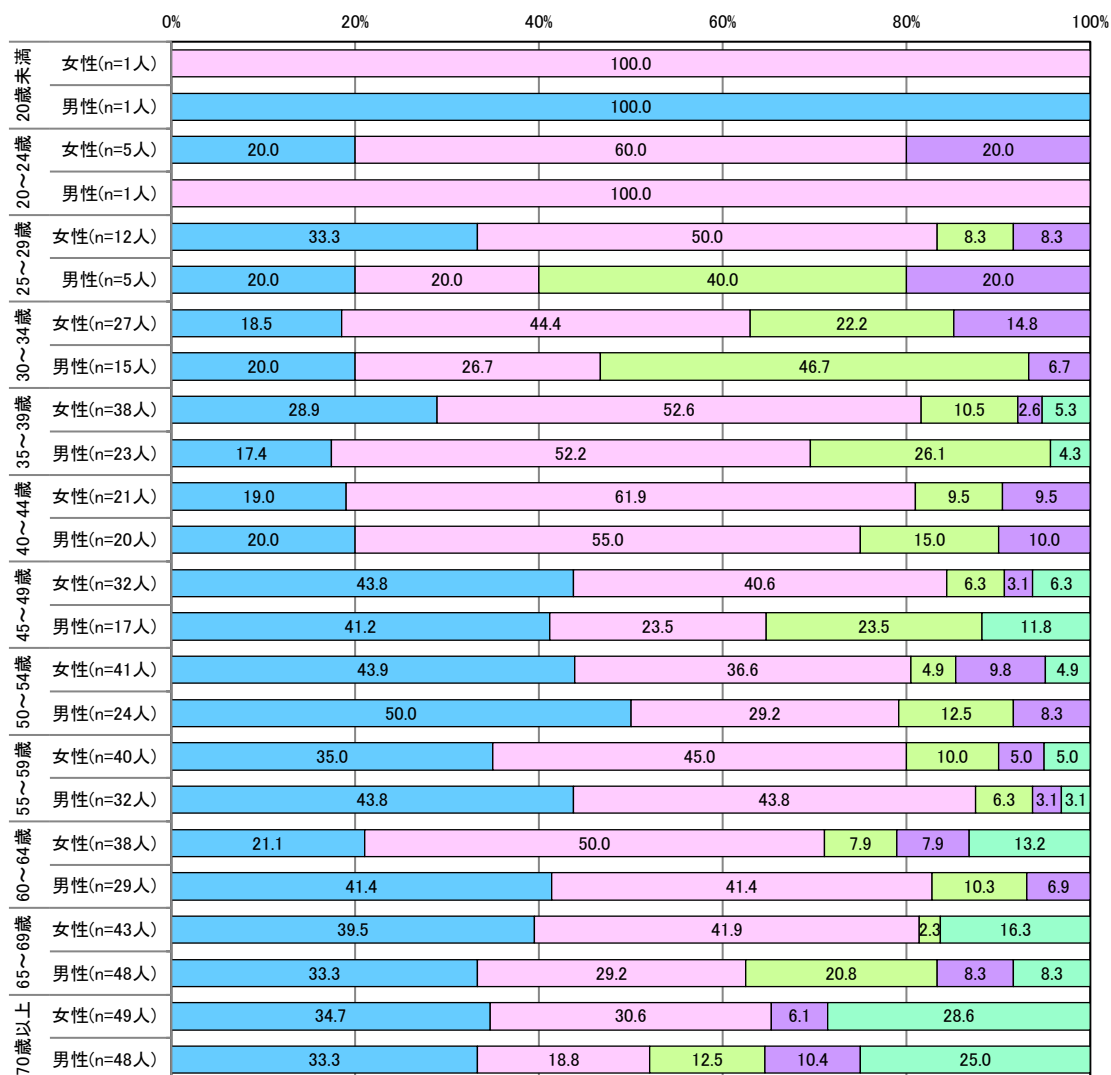
## 1 女性を管理職へ積極的に登用する

- ・性別でみると、女性は、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、44.0%となっている。一方で、男性は「とても重要だと思う」という回答が最も多く、34.1%となっている。
- ・世代別性別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、20歳未満の男女、20歳～24歳の男性、20歳～29歳の女性、35歳～59歳の女性、55歳～64歳の男性、65歳～69歳の女性の世代では8割以上と、他の世代に比べて多くなっている。

【性別】

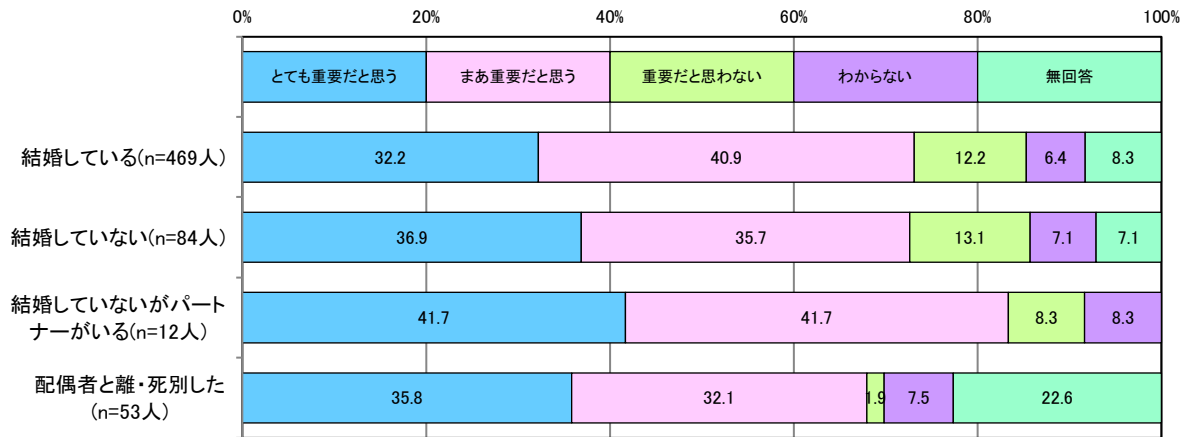


【世代別性別】



- ・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「結婚していないがパートナーがいる」で8割以上となっている。一方、「結婚している」、「結婚していない」、「配偶者と離・死別した」で約7割となっている。

【配偶者の有無別】

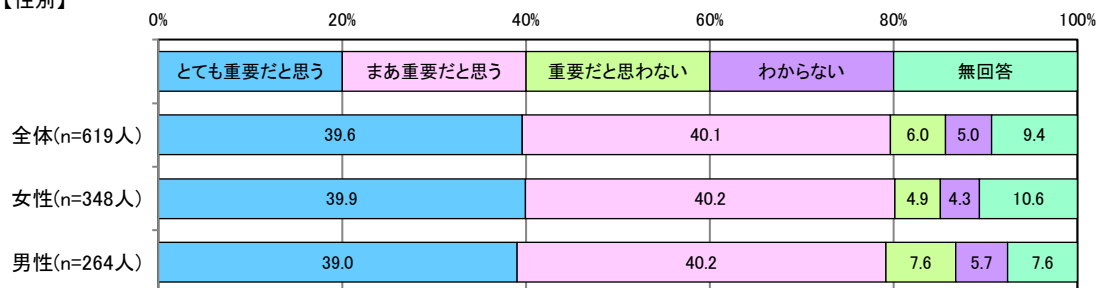




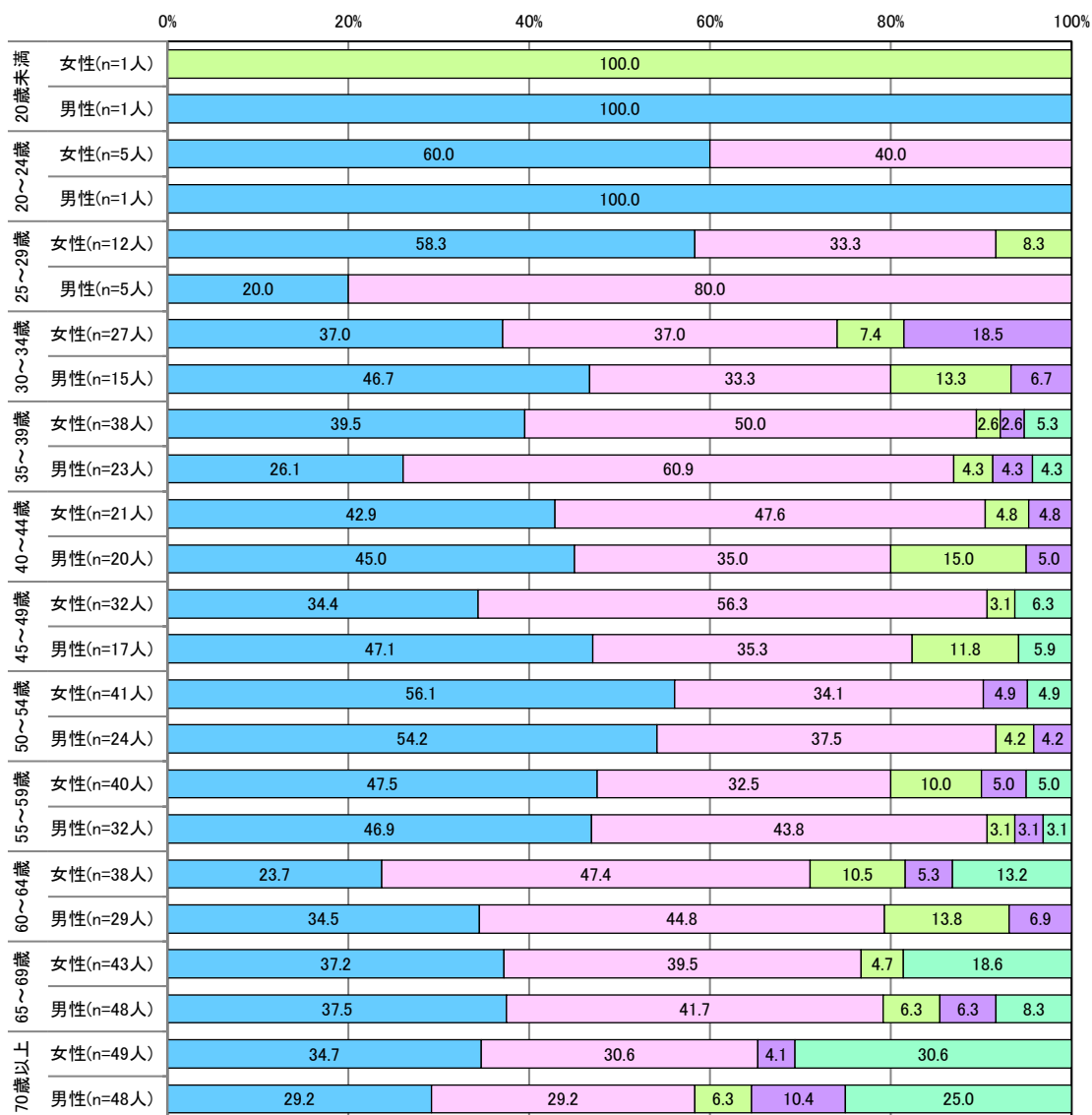
## 2 女性社員・職員の採用拡大

- ・性別でみると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、40.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、20歳～29歳の男女、30歳～34歳の男性、35歳～59歳の男女の世代で、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、8割を超えている。

【性別】

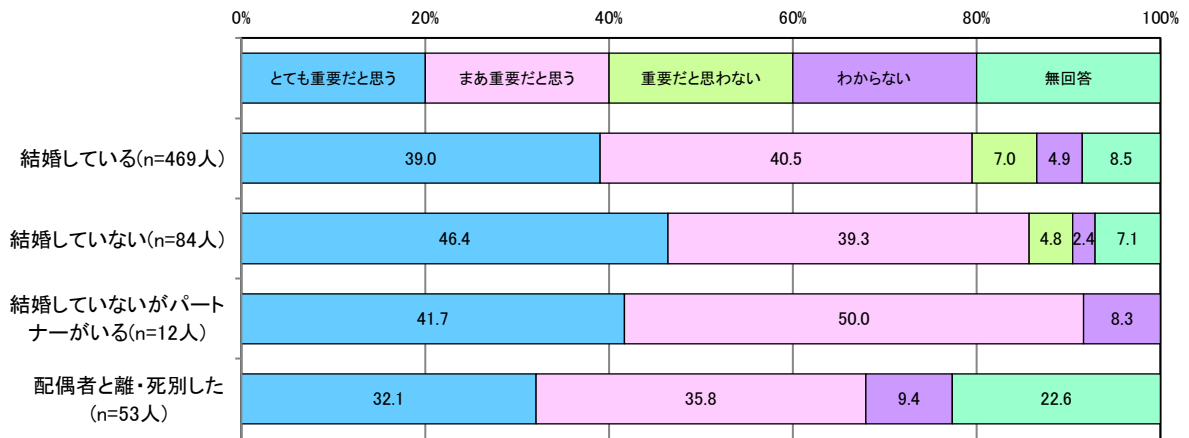


【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「配偶者と離・死別した」を除き、いずれも約8割となっている。

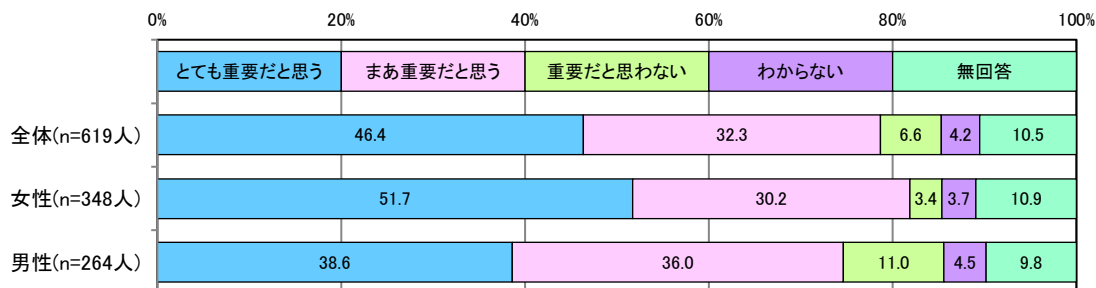
【配偶者の有無別】



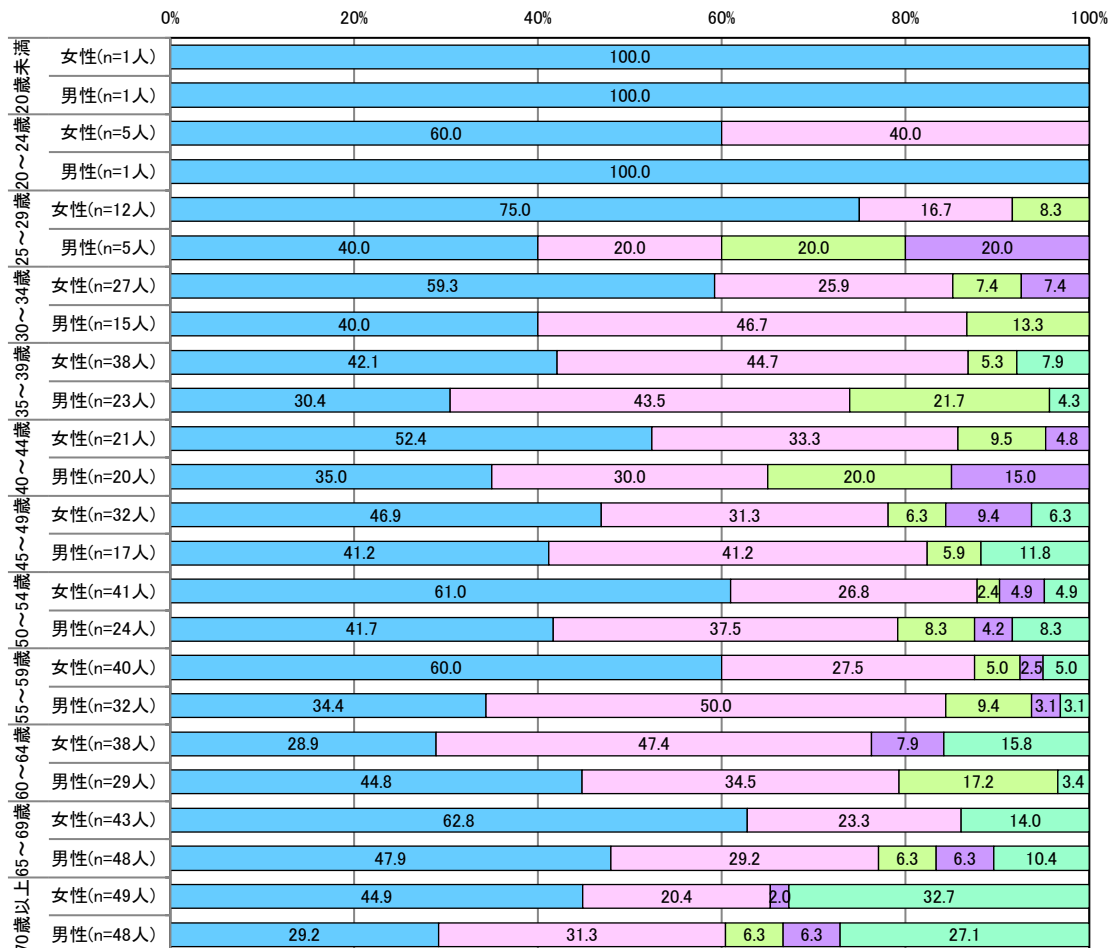
### 3 非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が38.6%、女性が51.7%となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代でも、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、6割を超えている。

【性別】

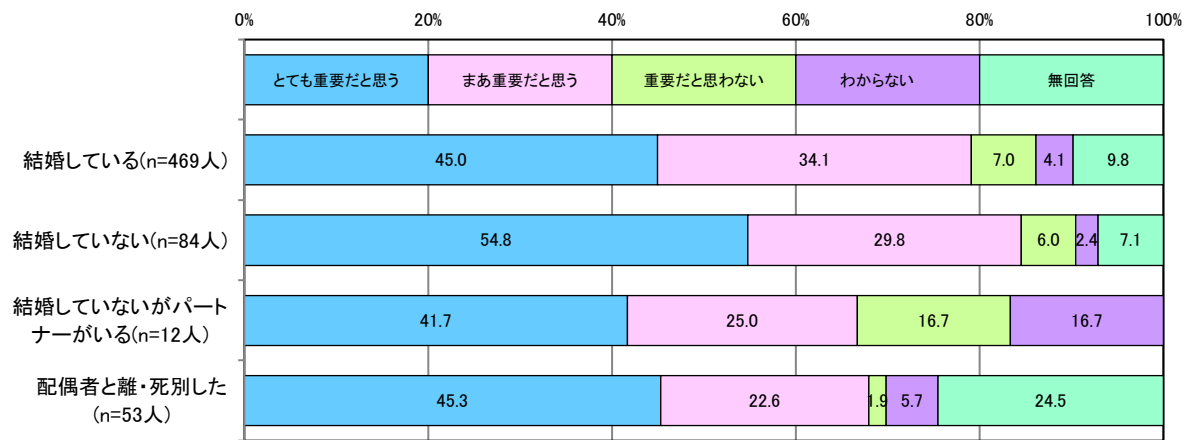


【世代別性別】



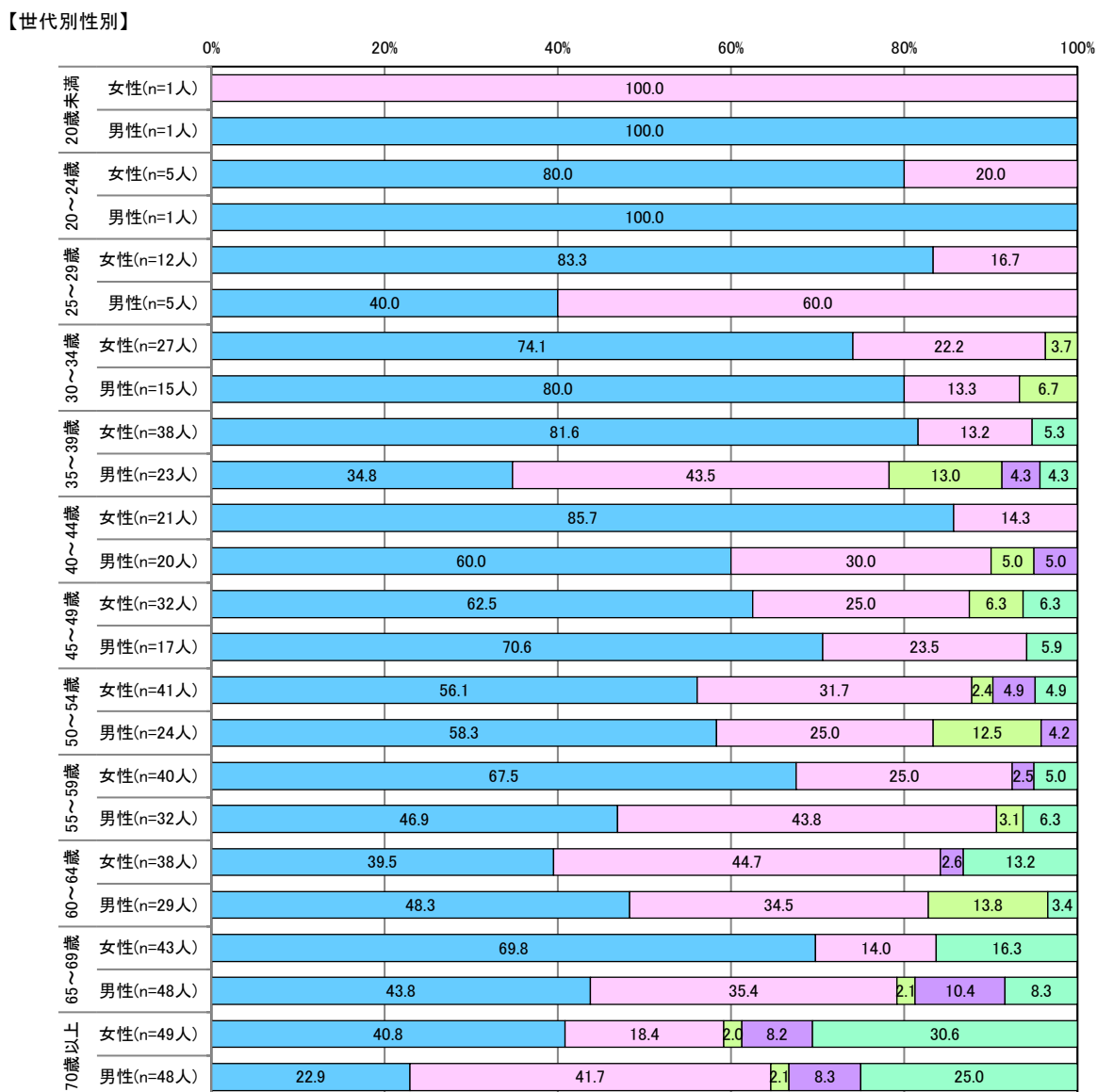
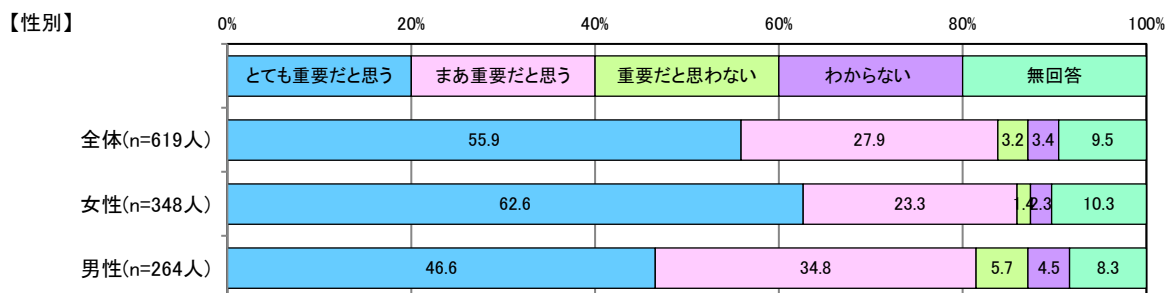
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、約7割となっている。

【配偶者の有無別】



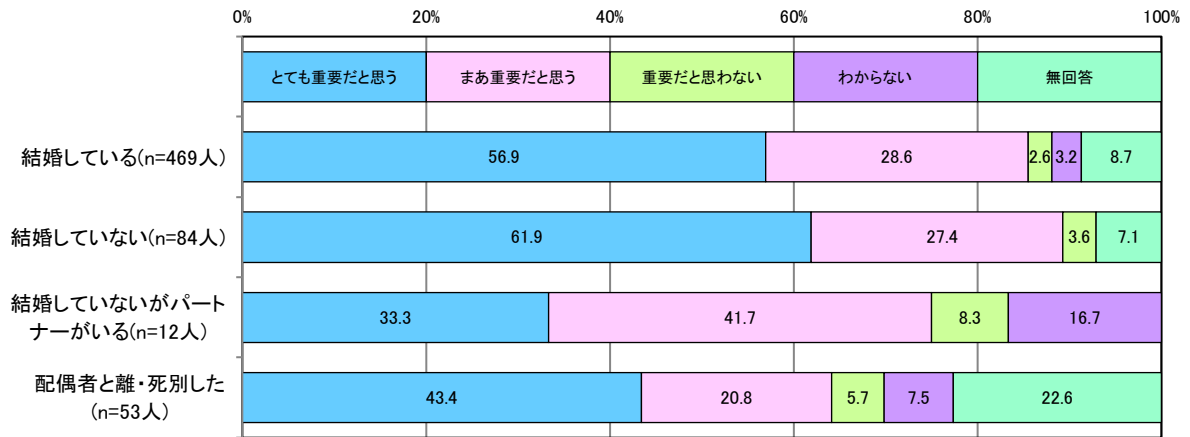
#### 4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が46.6%、女性が62.6%となっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の男女を除き、いずれの世代でも「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が7割を超えている。



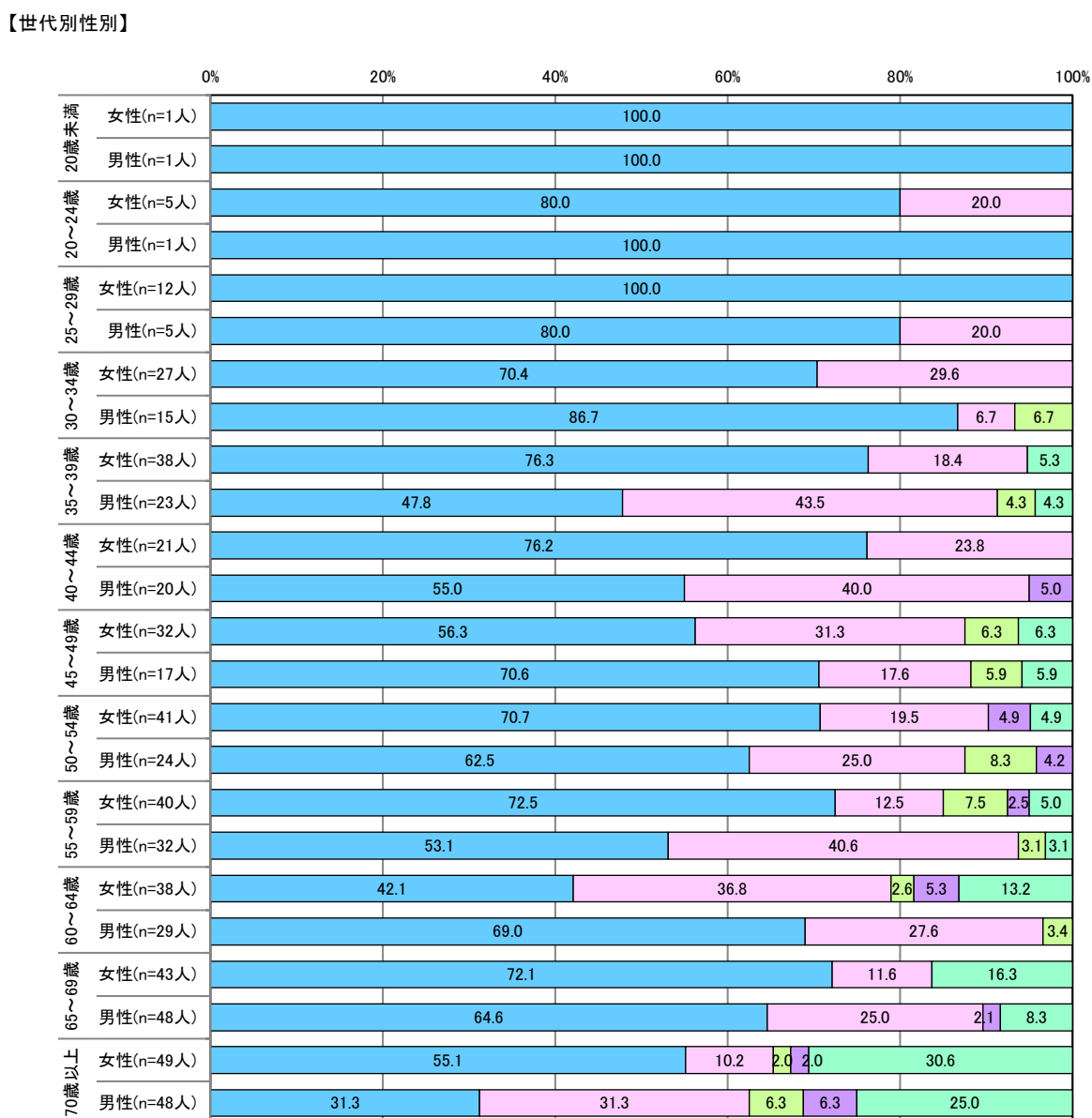
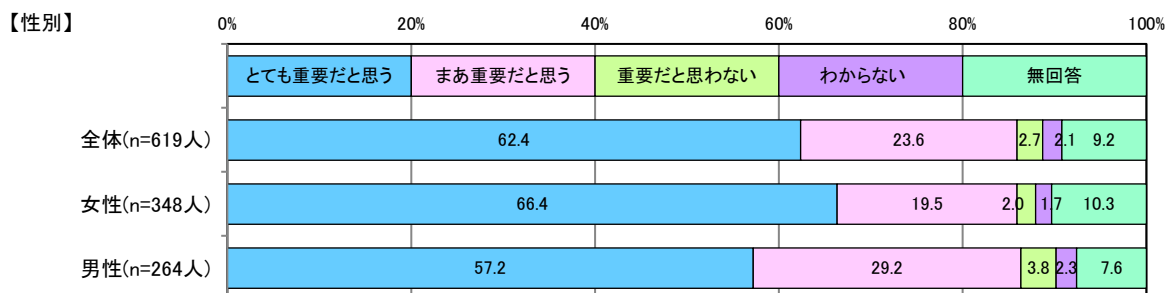
・配偶者の有無別でみると、いずれも、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が6割以上となっている。

【配偶者の有無別】



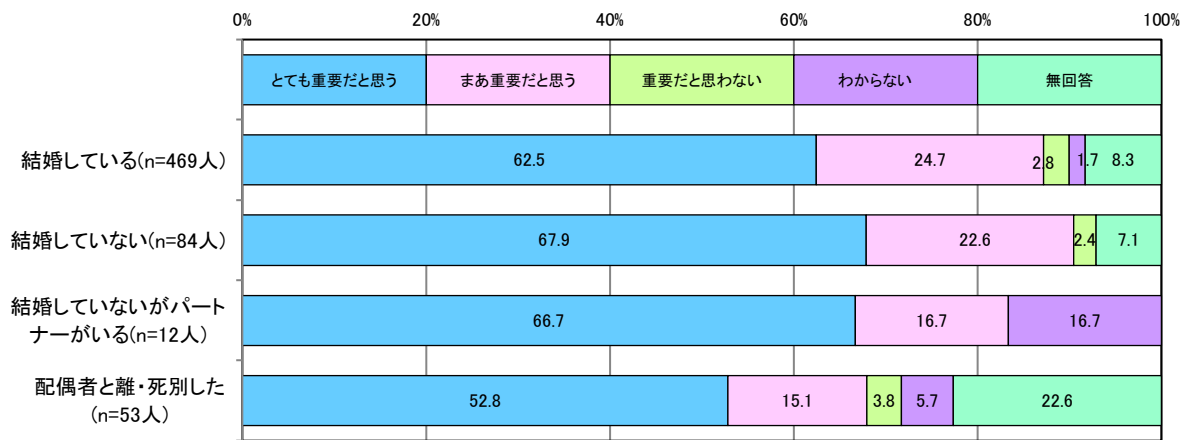
## 5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が57.2%、女性が66.4%となっている。
- ・世代別性別でみると、60歳～64歳の女性、70歳以上の男女を除き、いずれの世代でも「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が8割以上となっている。



・配偶者の有無別でみると、「配偶者と離・死別した」を除き、いずれも「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が8割以上となっている。

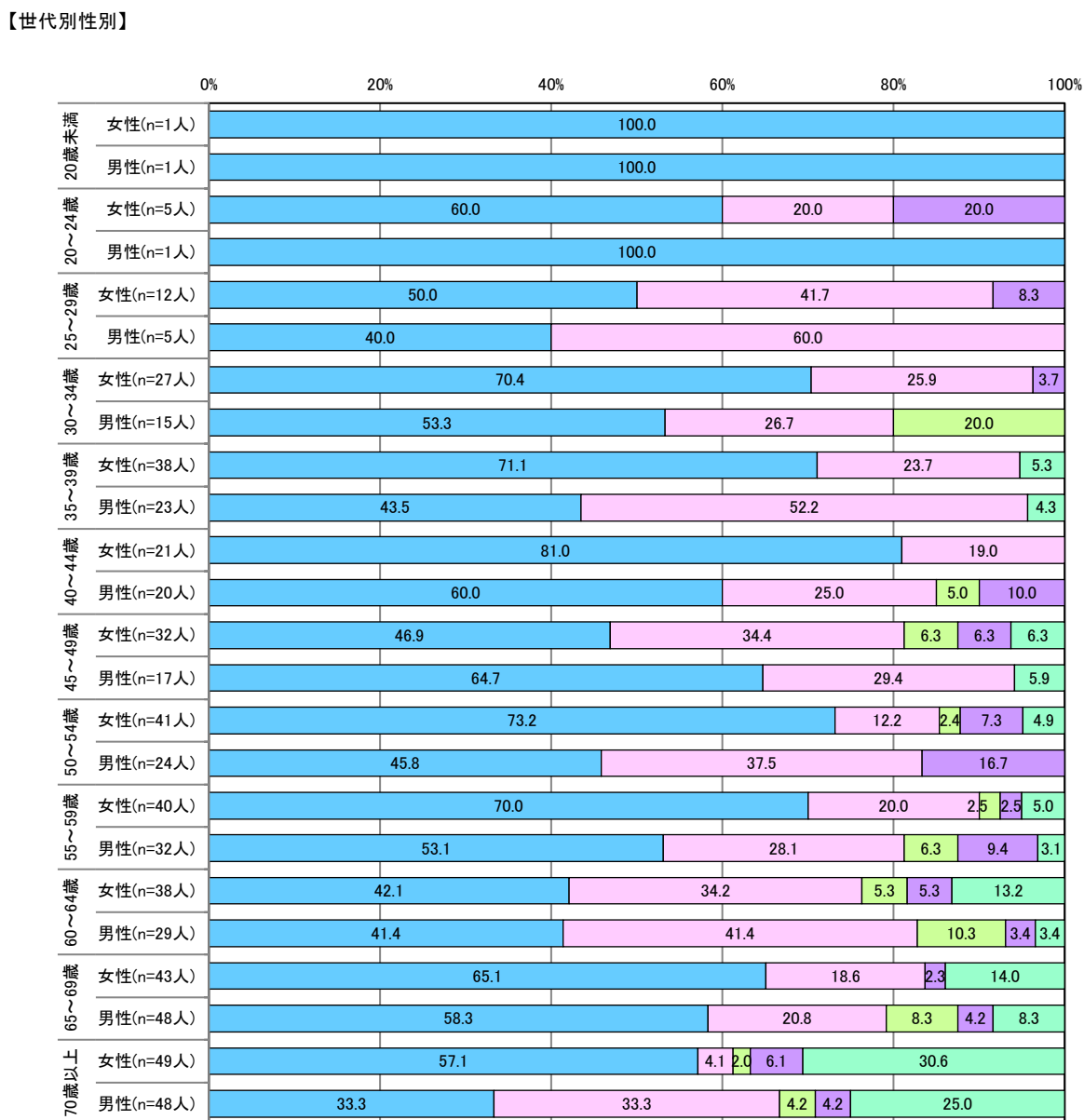
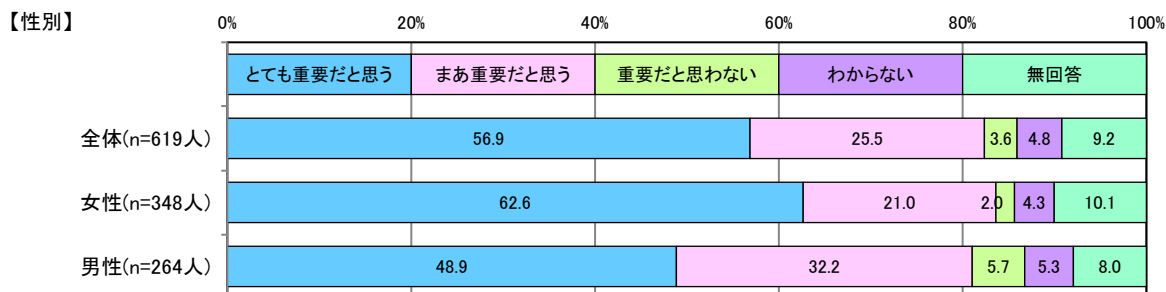
【配偶者の有無別】





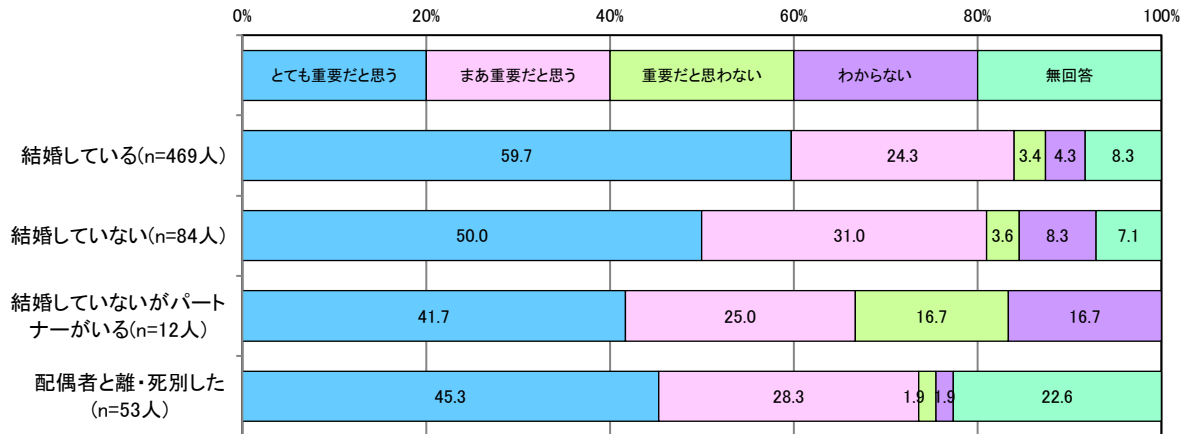
## 6 企業内託児所や学童保育所などの設置

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が48.9%、女性が62.6%となっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の男女を除き、いずれの世代においても「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が7割以上となっている。



・配偶者の有無別でみると、いずれも「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が6割以上となっている。

【配偶者の有無別】

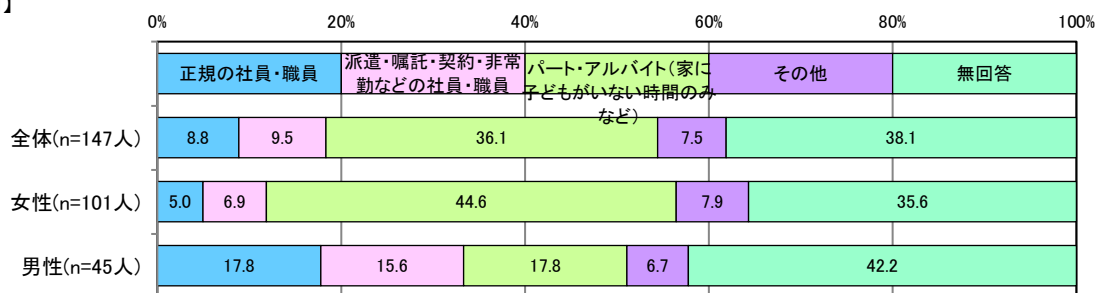


**離職されている方におたずねします。**

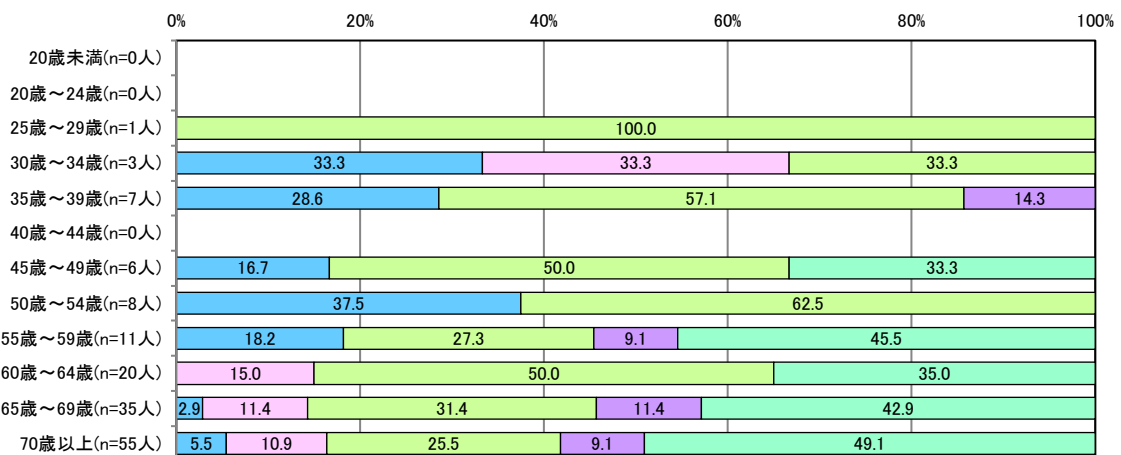
問 18 再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。(〇は1つ)

- ・全体でみると、「パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみなど)」(36.1%)という回答が約4割と最も多く、次いで、「派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員」(9.5%)となっている。
- ・性別でみると、男女ともに「パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみなど)」が最も多くなっている。
- ・世代別でみると、30歳～34歳、50歳～54歳では、「正規の社員・職員」という回答が3割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「正規の社員・職員」という回答が、「結婚していない」では35.3%と3割以上となっている。

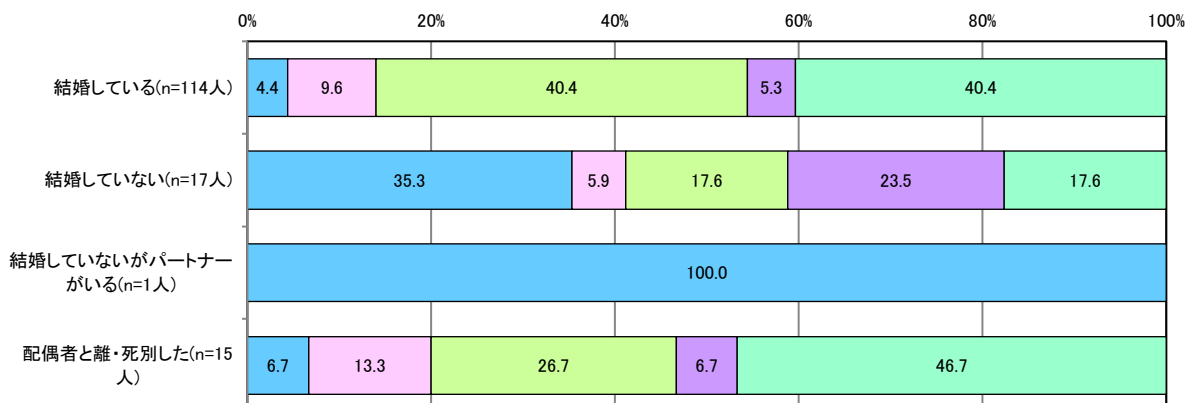
**【性別】**



**【世代別】**

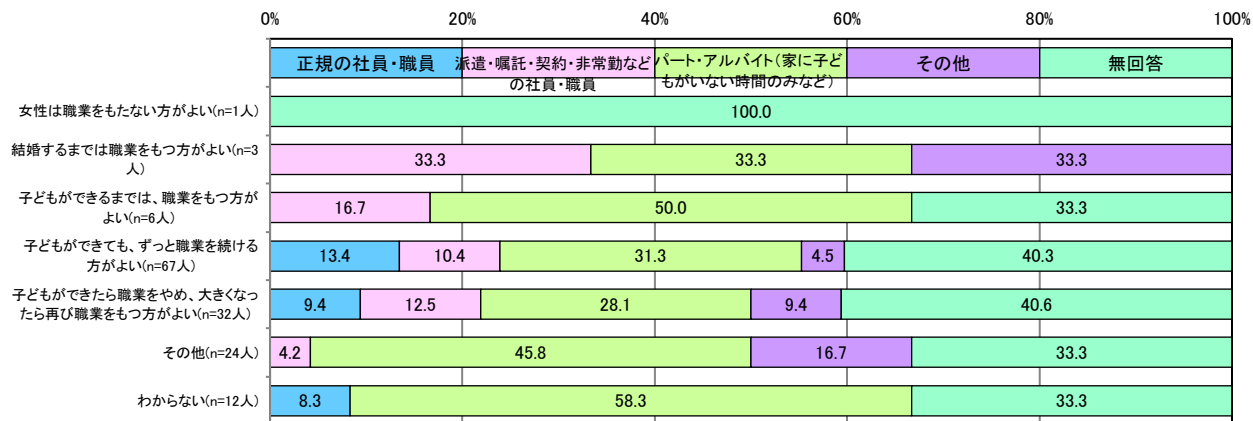


**【配偶者の有無別】**



- ・女性が職業を持つことについてみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」では、「正規の社員・職員」という回答が13.4%となっている。一方、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」では、「正規の社員・職員」という回答は9.4%となっている。

【女性が職業を持つことについて】

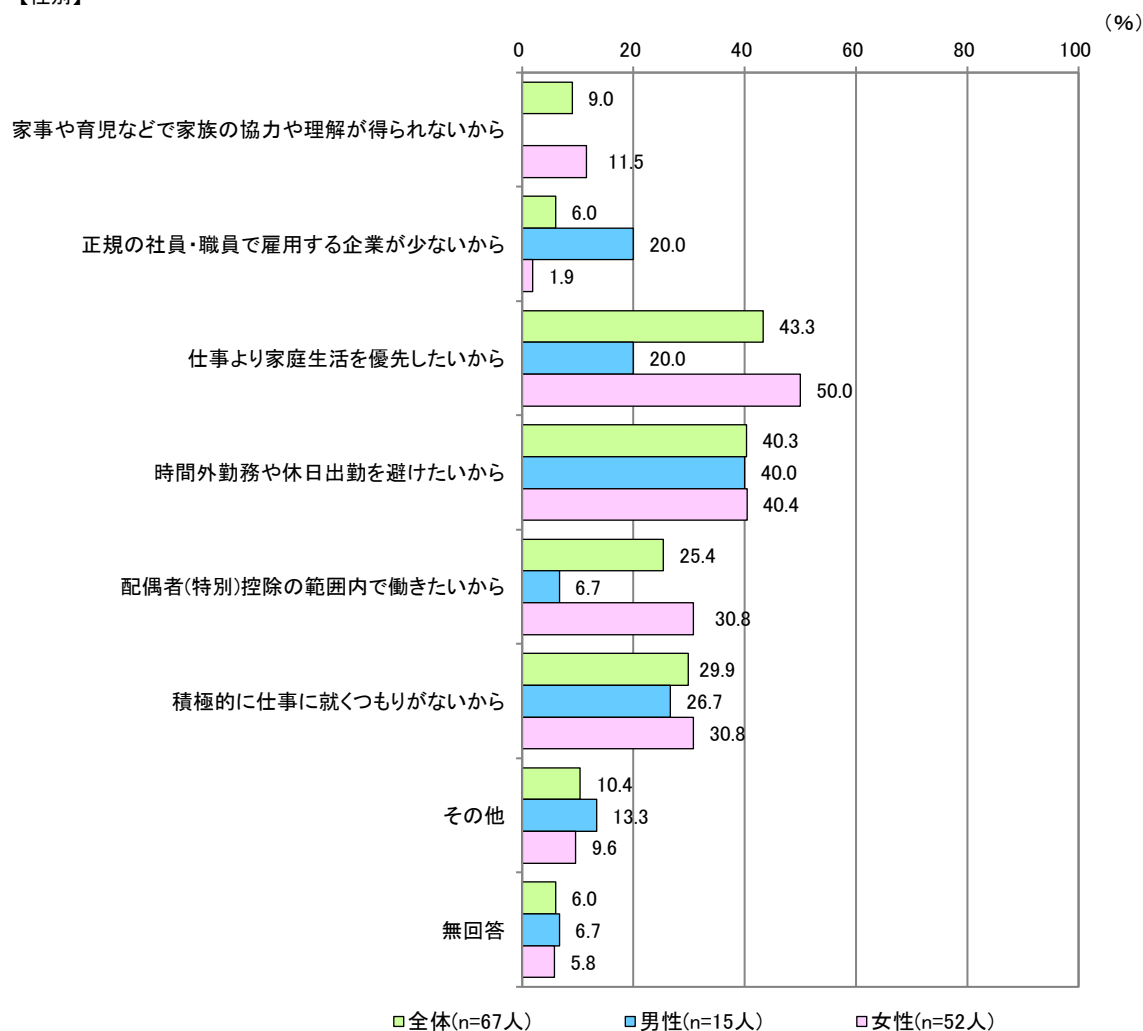


**問 18 で「2. 派遣・嘱託などの社員・職員」または「3. パート・アルバイト」を選ばれた方におたずねします。**

問 19 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。（〇は3つまで）

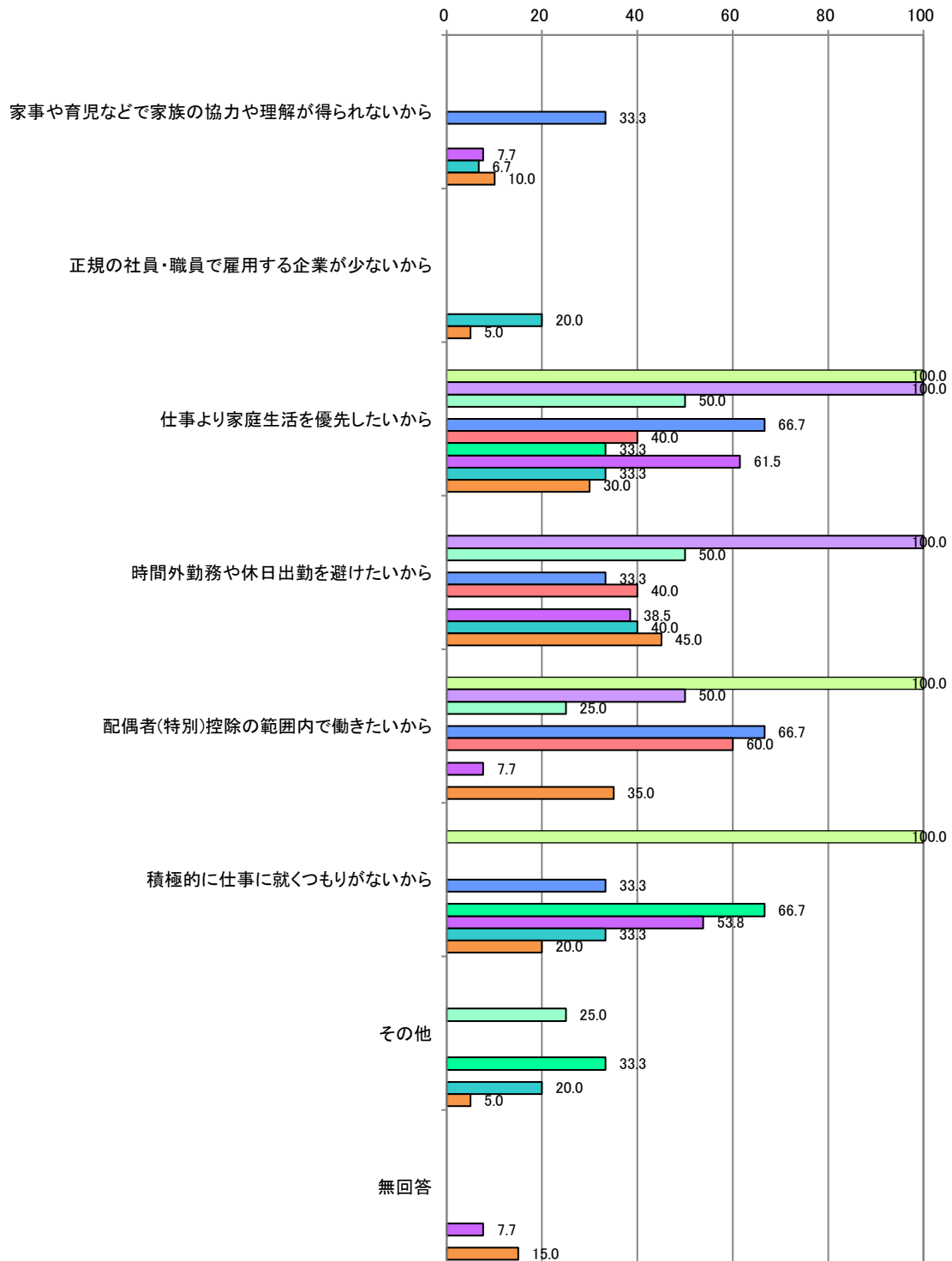
- ・全体でみると、「仕事より家庭生活を優先したいから」（43.3%）が最も多い回答となっている。次いで、「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」（40.3%）、「積極的に仕事に就くつもりがないから」（29.9%）、「配偶者（特別）控除の範囲内で働きたいから」（25.4%）の順で続いている。
- ・性別でみると、女性は、「仕事より家庭生活を優先したいから」が最も多く、5割となっている。一方、男性は、「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」が最も多く、4割となっている。
- ・年代別でみると、50歳～59歳、65歳以上を除く、いずれも「仕事より家庭生活を優先したいから」という回答が多い傾向となっている。

【性別】



【年代別】

(%)



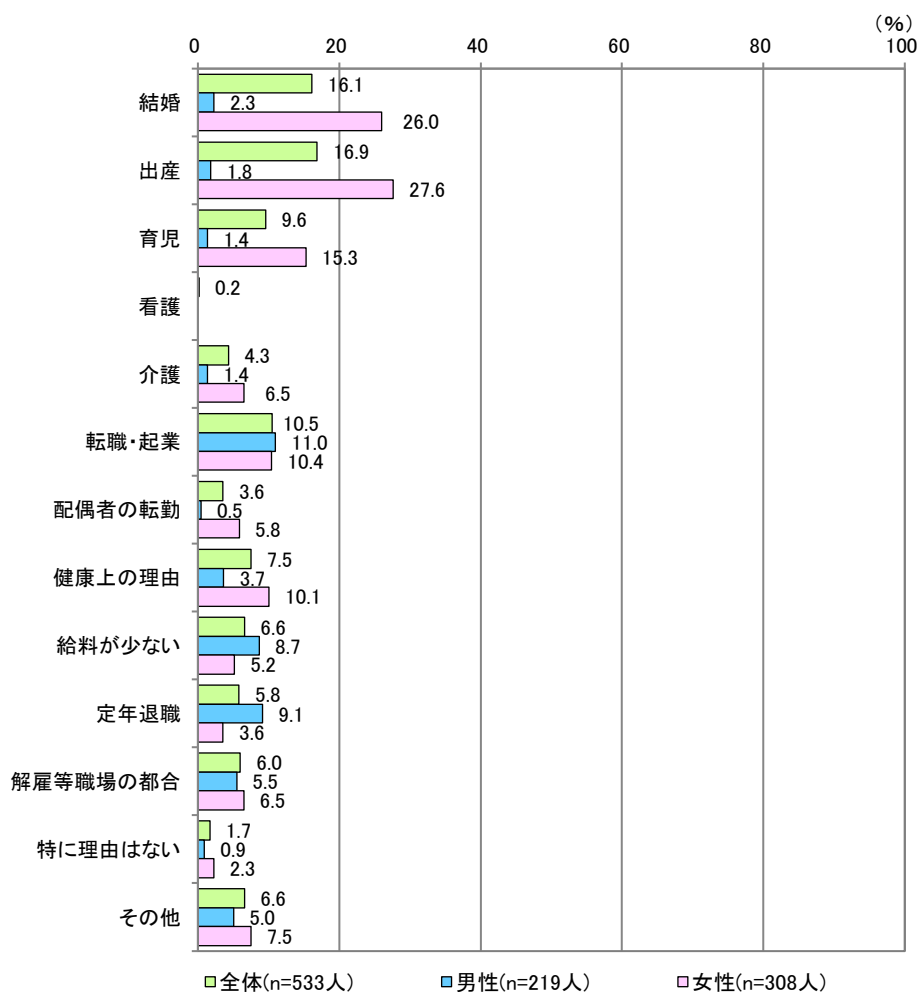
■20歳未満(n=0人) ■20歳～24歳(n=0人) ■25歳～29歳(n=1人) ■30歳～34歳(n=2人)  
 ■35歳～39歳(n=4人) ■40歳～44歳(n=0人) ■45歳～49歳(n=3人) ■50歳～54歳(n=5人)  
 ■55歳～59歳(n=3人) ■60歳～64歳(n=13人) ■65歳～69歳(n=15人) ■70歳以上(n=20人)

## 離職経験のある方におたずねします。

問 20 離職の原因（理由）としてあてはまるものをお選びください。（〇は3つまで）

- ・全体で見ると、「出産」(16.9%)が最も多い回答となっている。次いで、「結婚」(16.1%)、「転職・起業」(10.5%)、「育児」(9.6%)の順が続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「転職・起業」(11.0%)が最も多い。次いで、「定年退職」(9.1%)、「給料が少ない」(8.7%)、「解雇等職場の都合」(5.5%)の順となっている。女性は、「出産」(27.6%)、「結婚」(26.0%)、「育児」(15.3%)の順となっている。  
(※無回答は、離職経験のない方として集計している)。

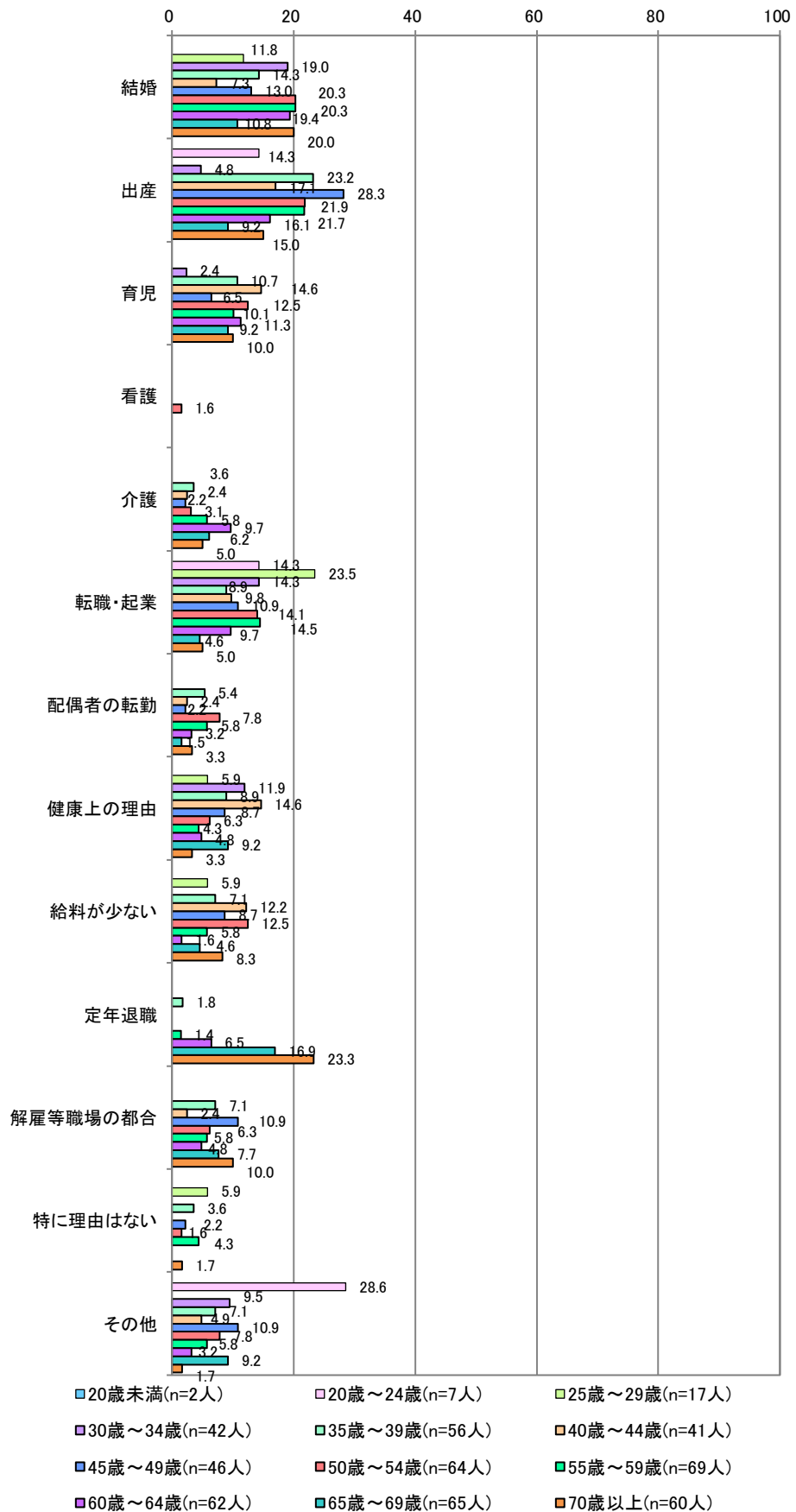
【性別】



・年代別でみると、いずれの回答でも、年代による増減の波がみられる。

【年代別】

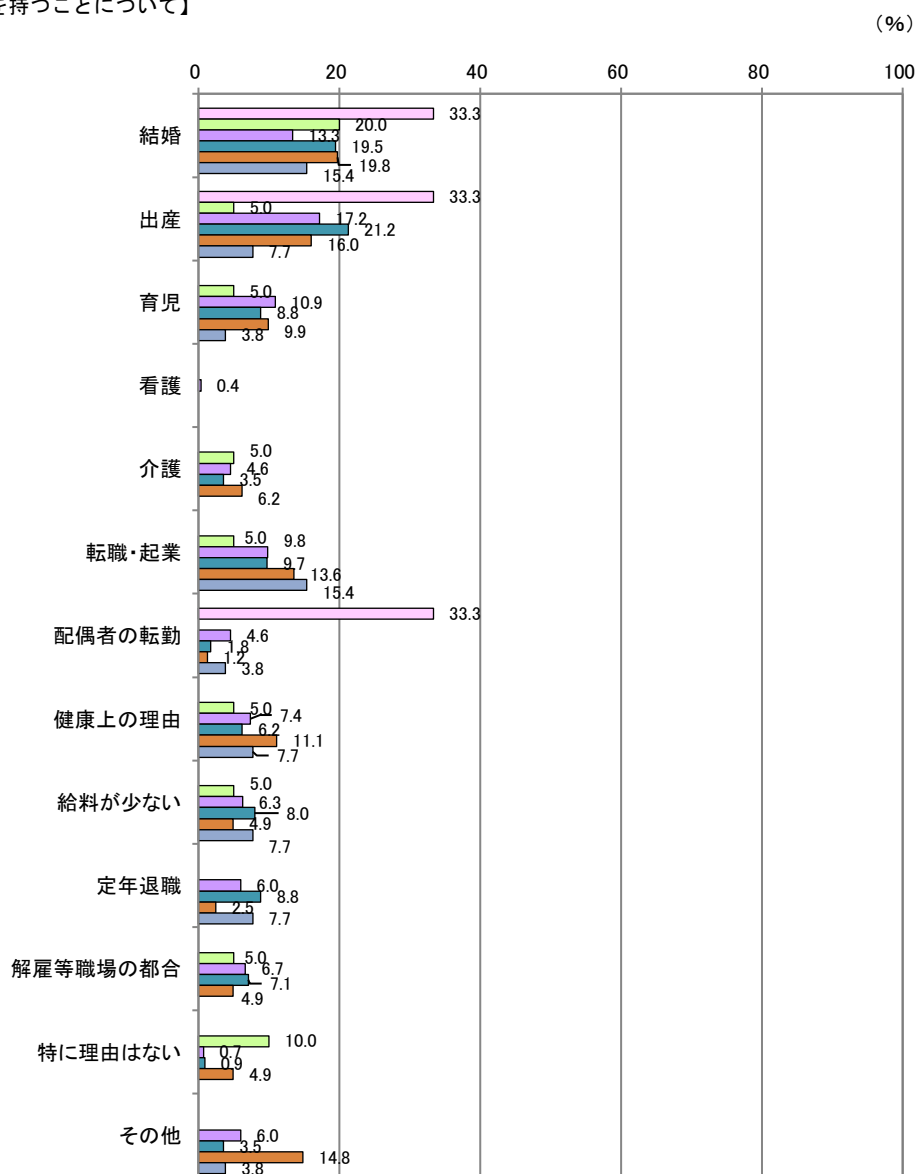
(%)





- ・女性が職業を持つことについてみると、「出産」という回答では、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は 21.2%、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は 17.2%となっている。

【女性が職業を持つことについて】

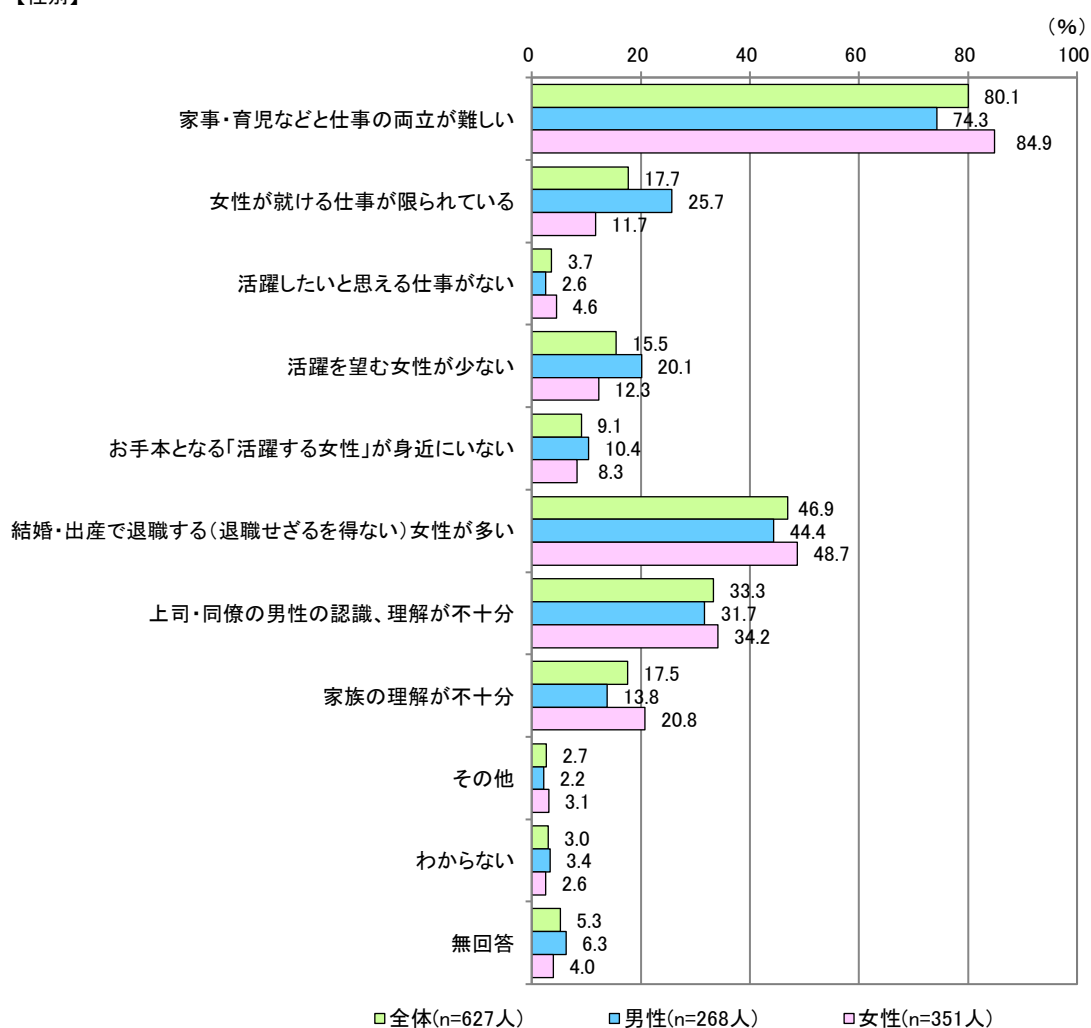


- 女性に職業をもたない方がよい(n=1人)
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい(n=3人)
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい(n=20人)
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい(n=285人)
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(n=113人)
- その他(n=81人)
- わからない(n=26人)

問 21 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。（〇は3つまで）

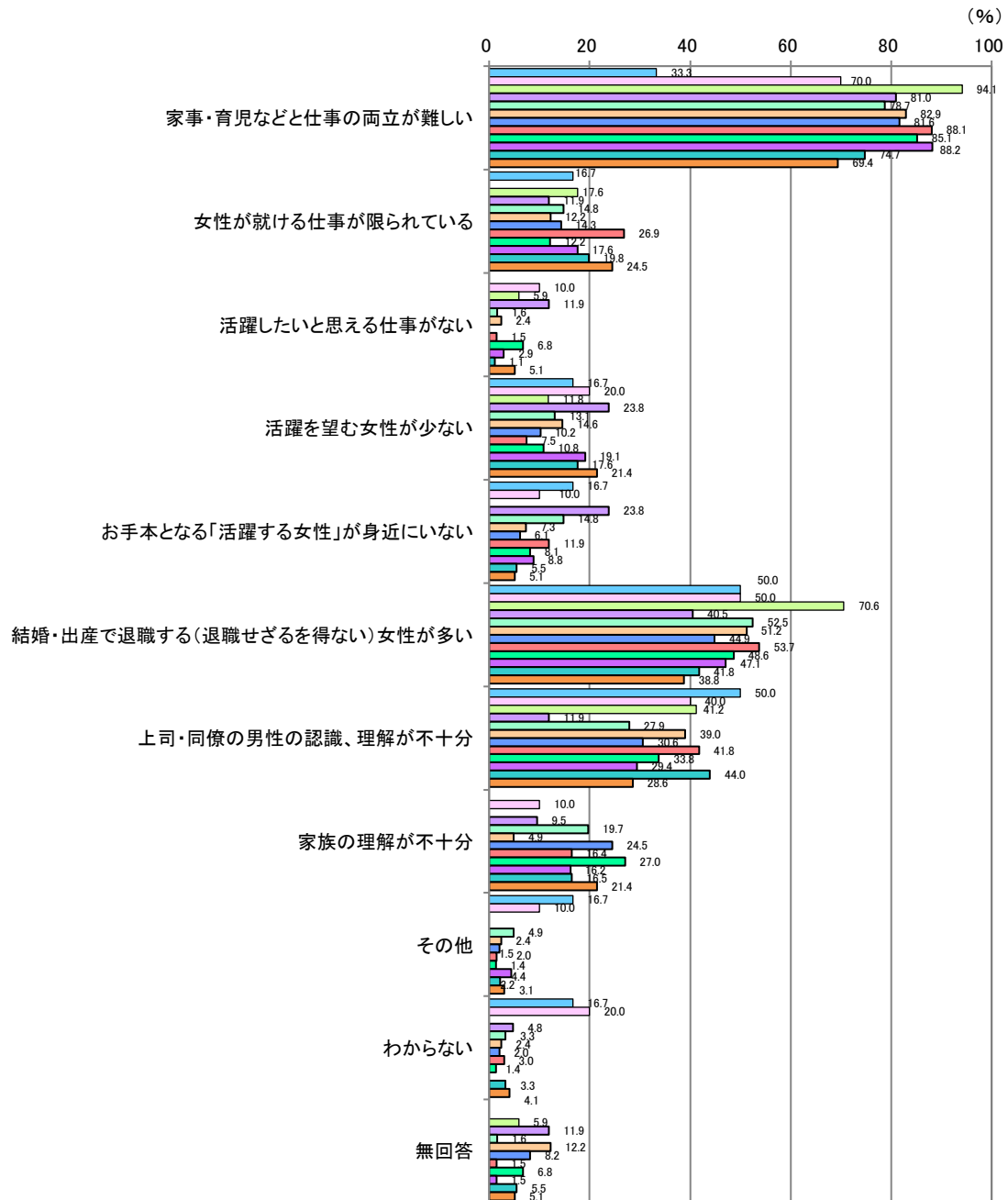
- ・全体でみると、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（80.1%）が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（46.9%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（33.3%）の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（74.3%）、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（44.4%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（31.7%）、「女性が就ける仕事に限られている」（25.7%）、「活躍を望む女性が少ない」（20.1%）の順となっている。女性も、「家事・育児などと仕事の両立が難しい」（84.9%）、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」（48.7%）、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」（34.2%）、「家族の理解が不十分」（20.8%）の順となっている。

【性別】



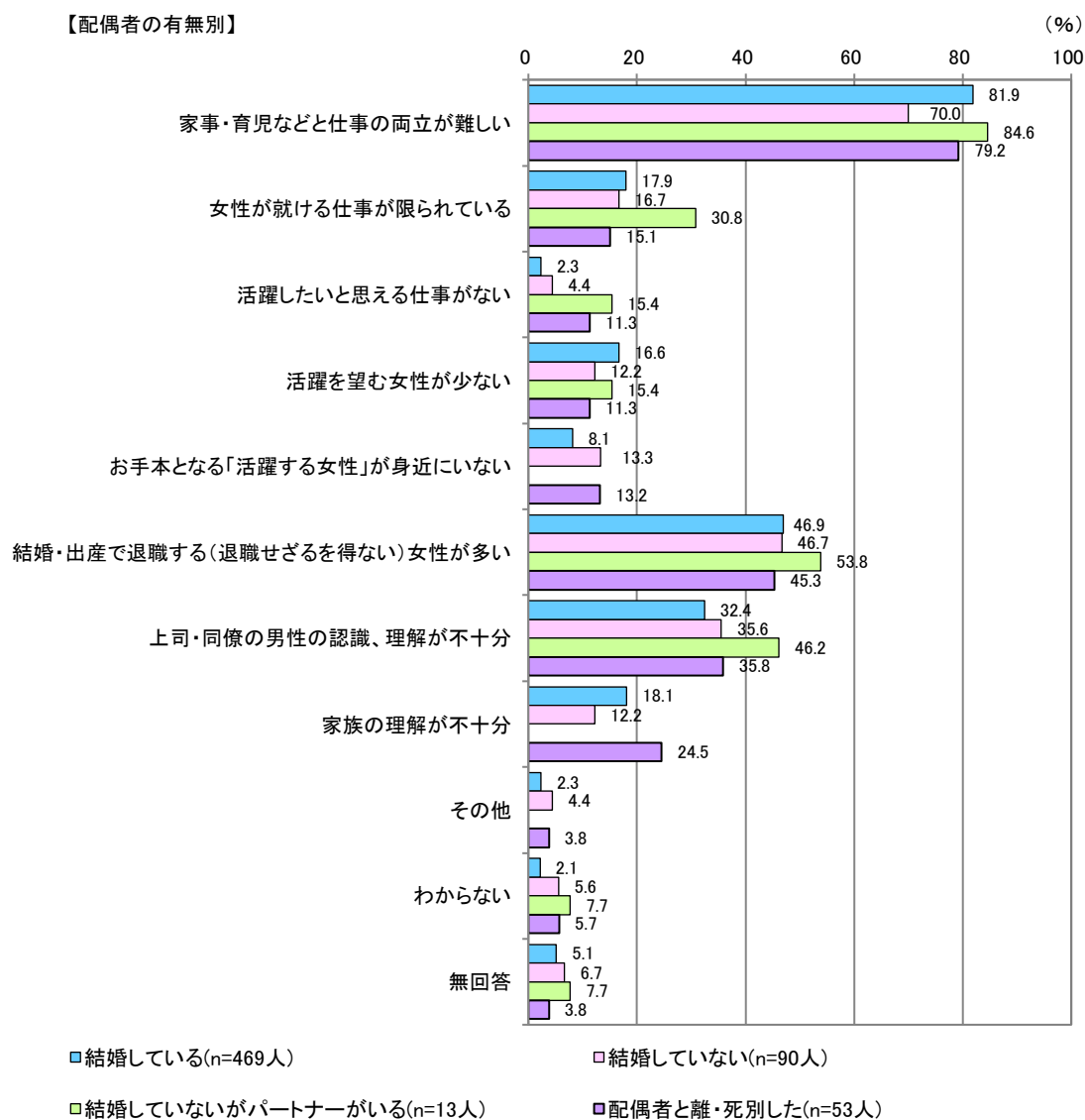
・年代別でみると、20歳未満を除く、いずれの年代も「家事・育児などと仕事の両立が難しい」という回答が最も多くなっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。20歳未満では、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」が同率で最も多くなっている。

【年代別】



■20歳未満(n=6人) ■20歳～24歳(n=10人) ■25歳～29歳(n=17人) ■30歳～34歳(n=42人)  
 ■35歳～39歳(n=61人) ■40歳～44歳(n=41人) ■45歳～49歳(n=49人) ■50歳～54歳(n=67人)  
 ■55歳～59歳(n=74人) ■60歳～64歳(n=68人) ■65歳～69歳(n=91人) ■70歳以上(n=98人)

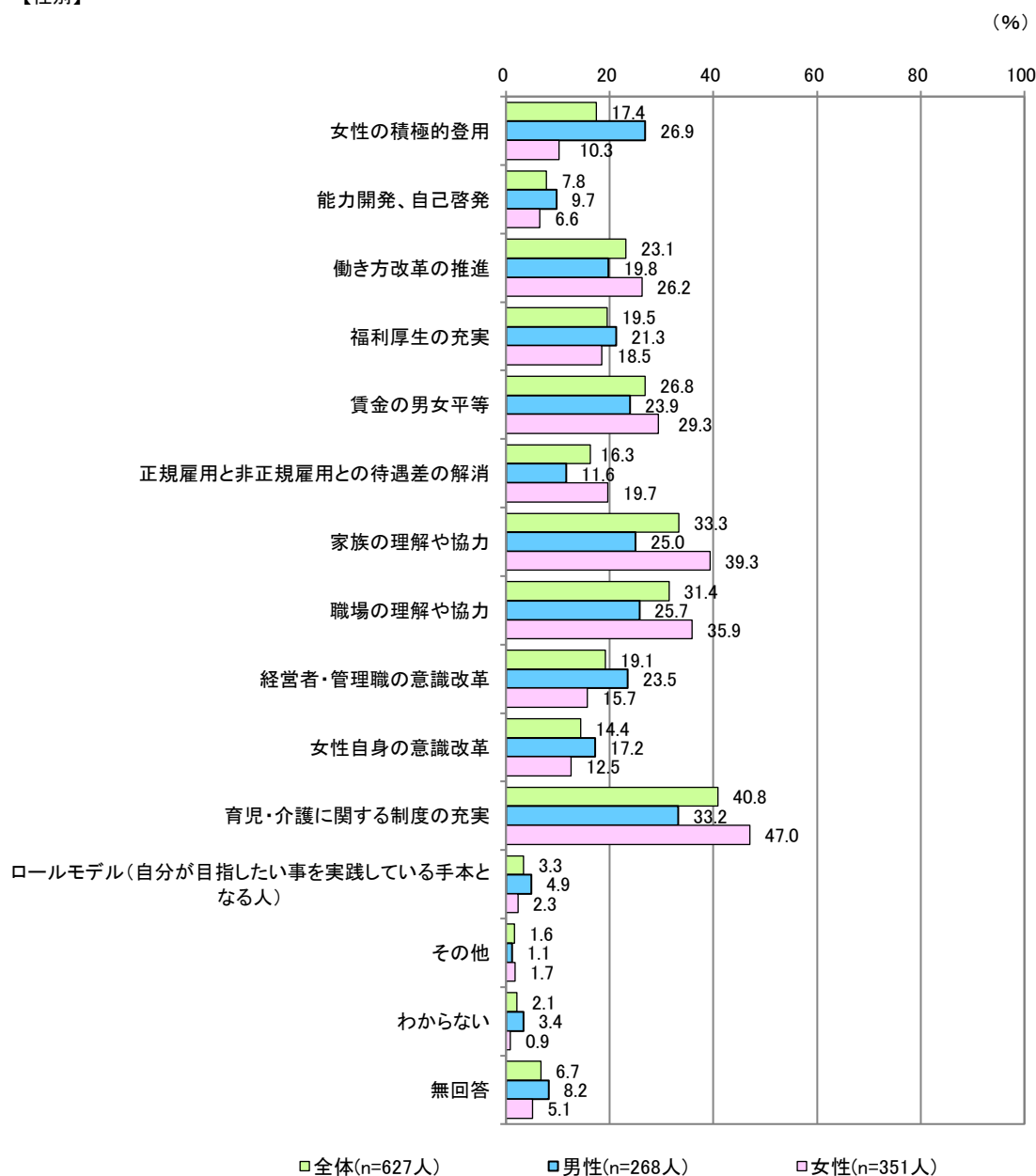
・配偶者の有無別でみると、いずれも「家事・育児などと仕事の両立が難しい」が7割以上となり、最も多くなっている。次いで、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。



問 22 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

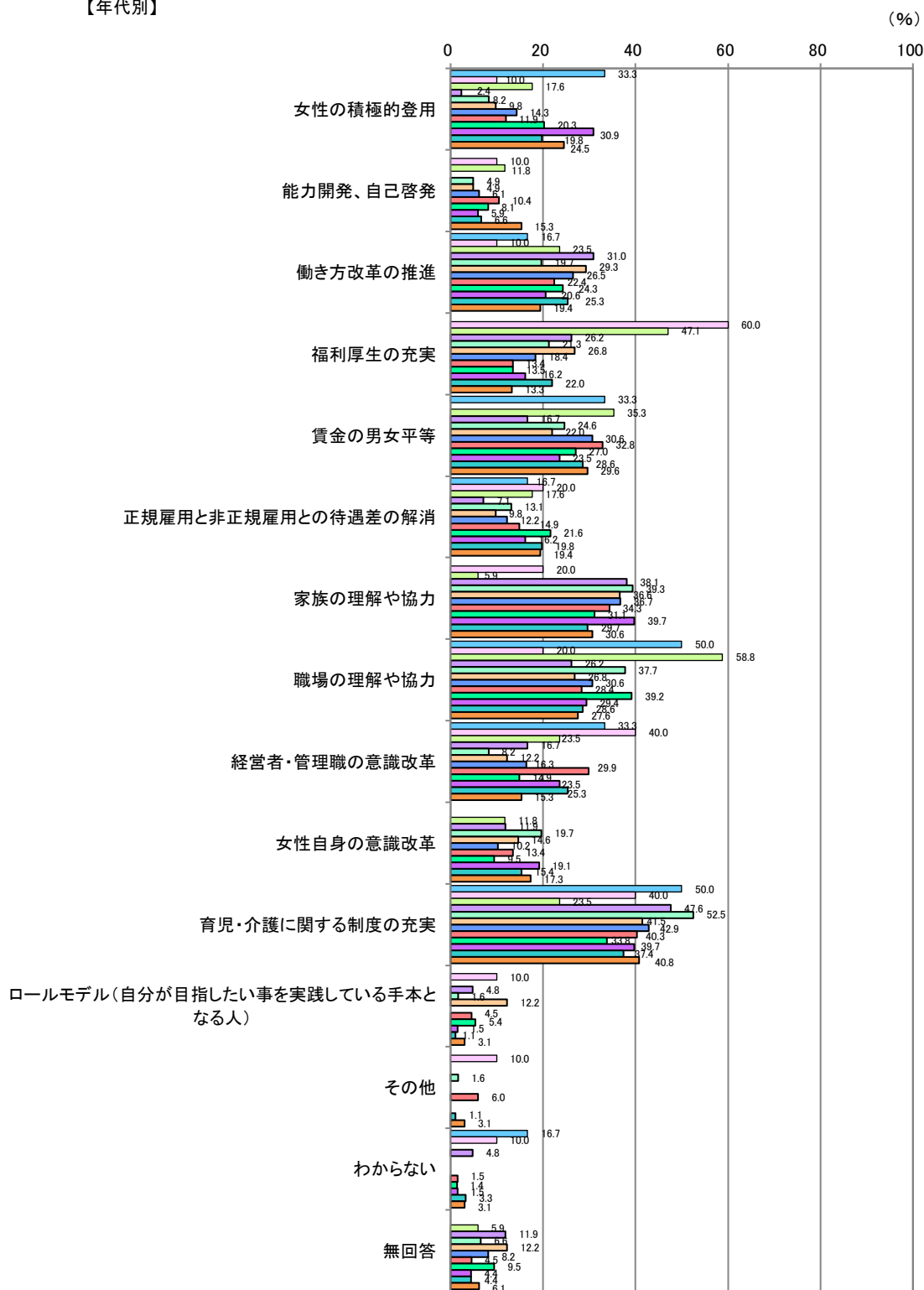
- ・全体でみると、「育児・介護に関する制度の充実」（40.8%）が最も多い回答となっている。次いで、「家族の理解や協力」（33.3%）、「職場の理解や協力」（31.4%）、「賃金の男女平等」（26.8%）の順が続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。次いで、男性では、「女性の積極的登用」（26.9%）と「職場の理解や協力」（25.7%）が続いている。一方、女性では、「家族の理解や協力」（39.3%）「職場の理解や協力」（35.9%）と続いている。

【性別】



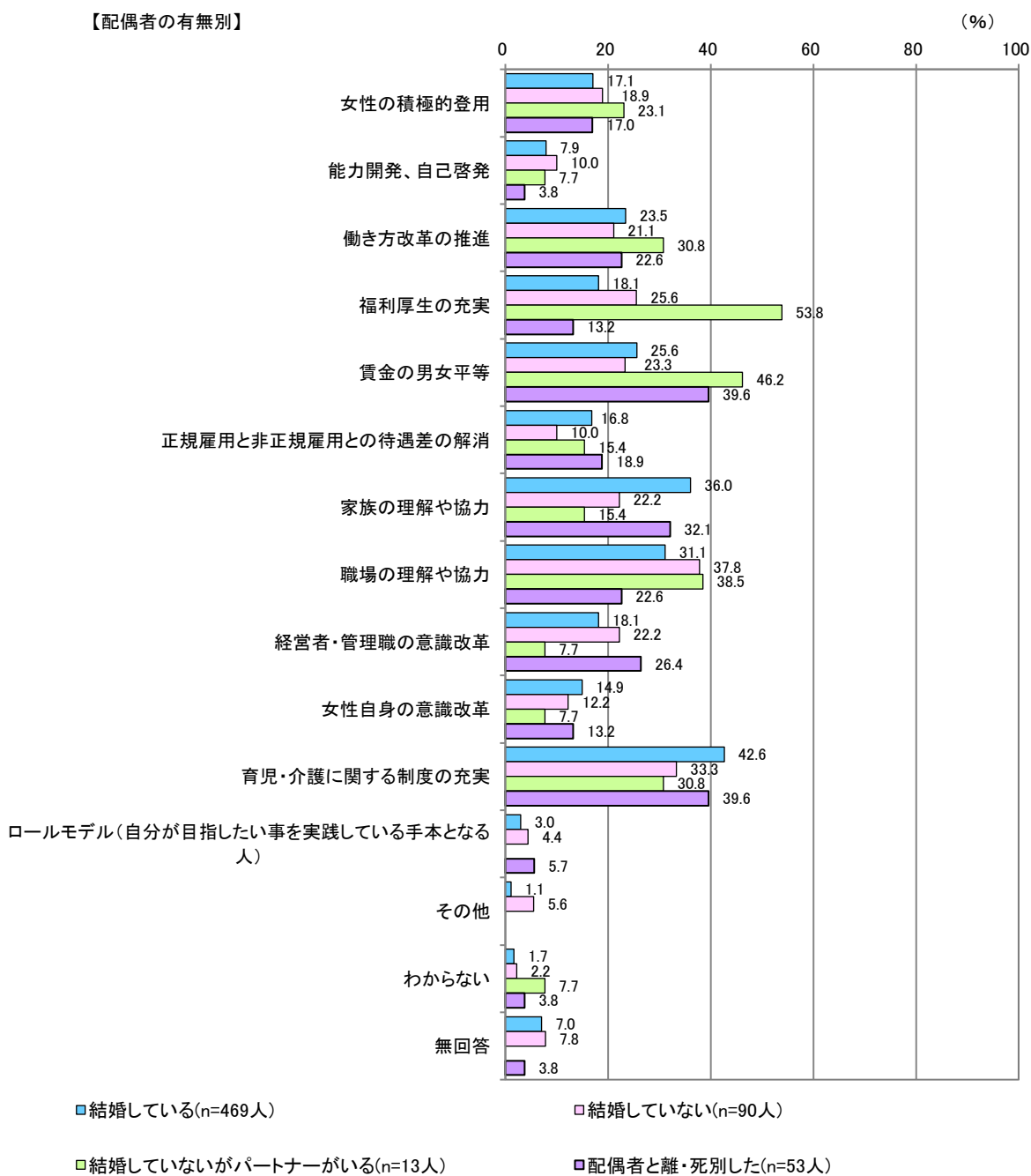
- ・年代別でみると、20歳～29歳、55歳～59歳を除き、いずれの年代でも、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。一方、20歳～24歳では、「福利厚生の実現」、25歳～29歳、55歳～59歳では、「職場の理解や協力」が最も多くなっている。

【年代別】



■20歳未満(n=6人)    ■20歳～24歳(n=10人)    ■25歳～29歳(n=17人)    ■30歳～34歳(n=42人)  
 ■35歳～39歳(n=61人)    ■40歳～44歳(n=41人)    ■45歳～49歳(n=49人)    ■50歳～54歳(n=67人)  
 ■55歳～59歳(n=74人)    ■60歳～64歳(n=68人)    ■65歳～69歳(n=91人)    ■70歳以上(n=98人)

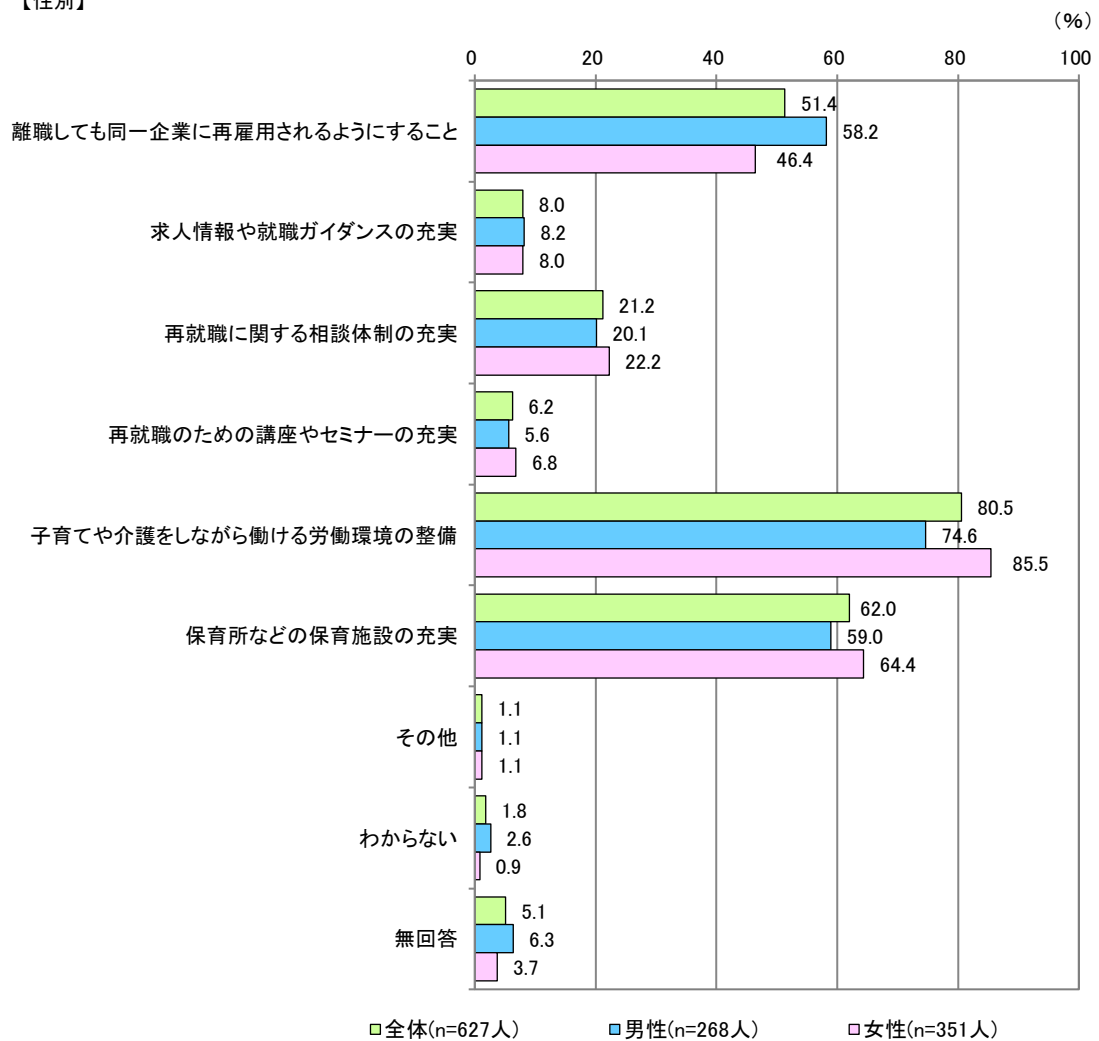
・配偶者の有無別でみると、「結婚している」、「配偶者と離・死別した」では、「育児・介護に関する制度の充実」が最も多くなっている。一方で、「結婚していない」では、「職場の理解や協力」、「結婚していないがパートナーがいる」では、「福利厚生の実充実」が最も多くなっている。



問 23 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

- ・全体でみると、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(80.5%)が最も多い回答となっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」(62.0%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(51.4%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が最も多くなっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」と続いている。

【性別】

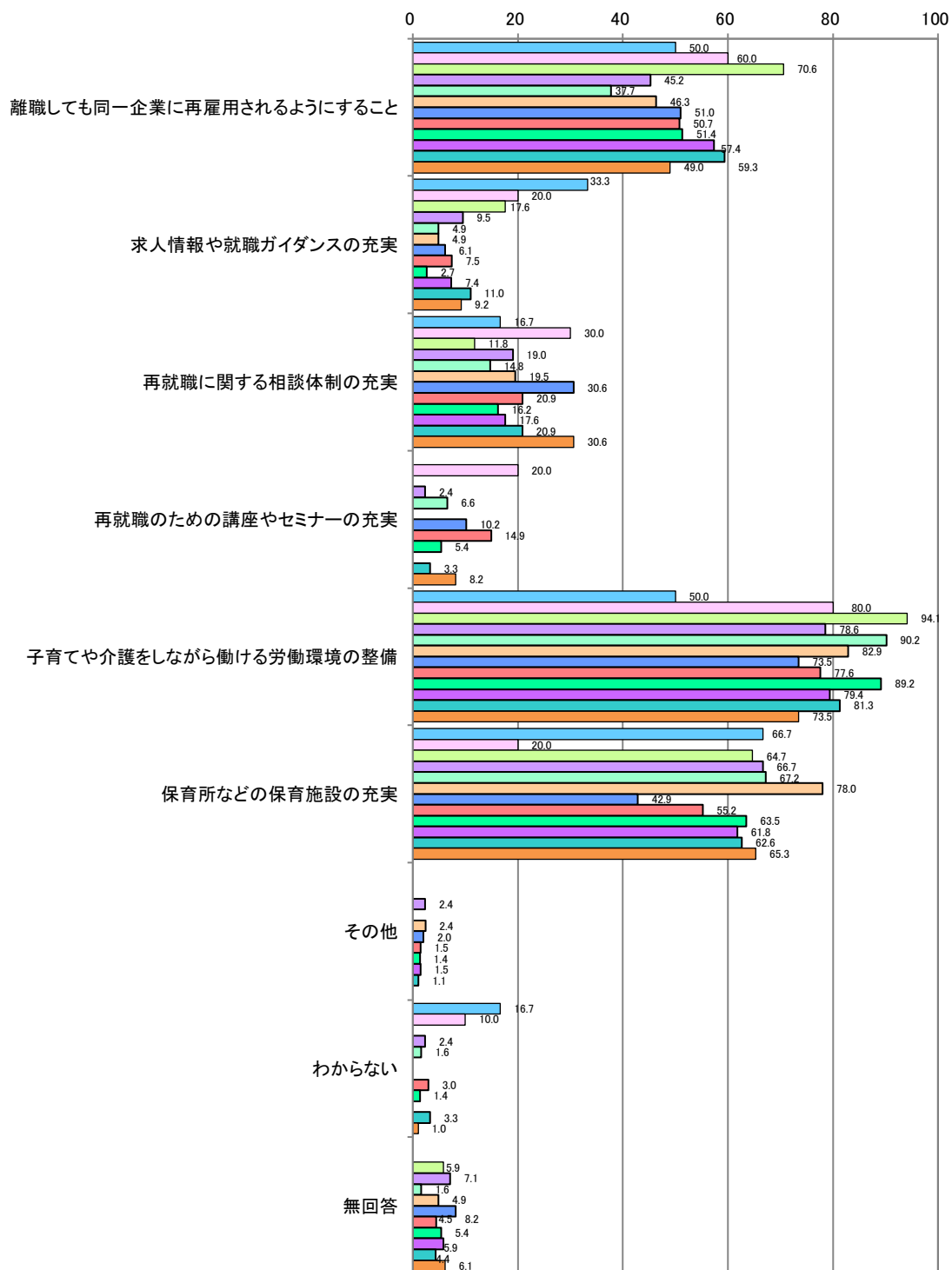




- ・年代別で見ると、20歳～24歳を除く、いずれの年代でも、上位3項目は一致している。  
「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」という回答では、20歳未満を除く、いずれの年代でも回答割合が7割を超えている。また、25歳～29歳、35歳～39歳で9割以上となっている。

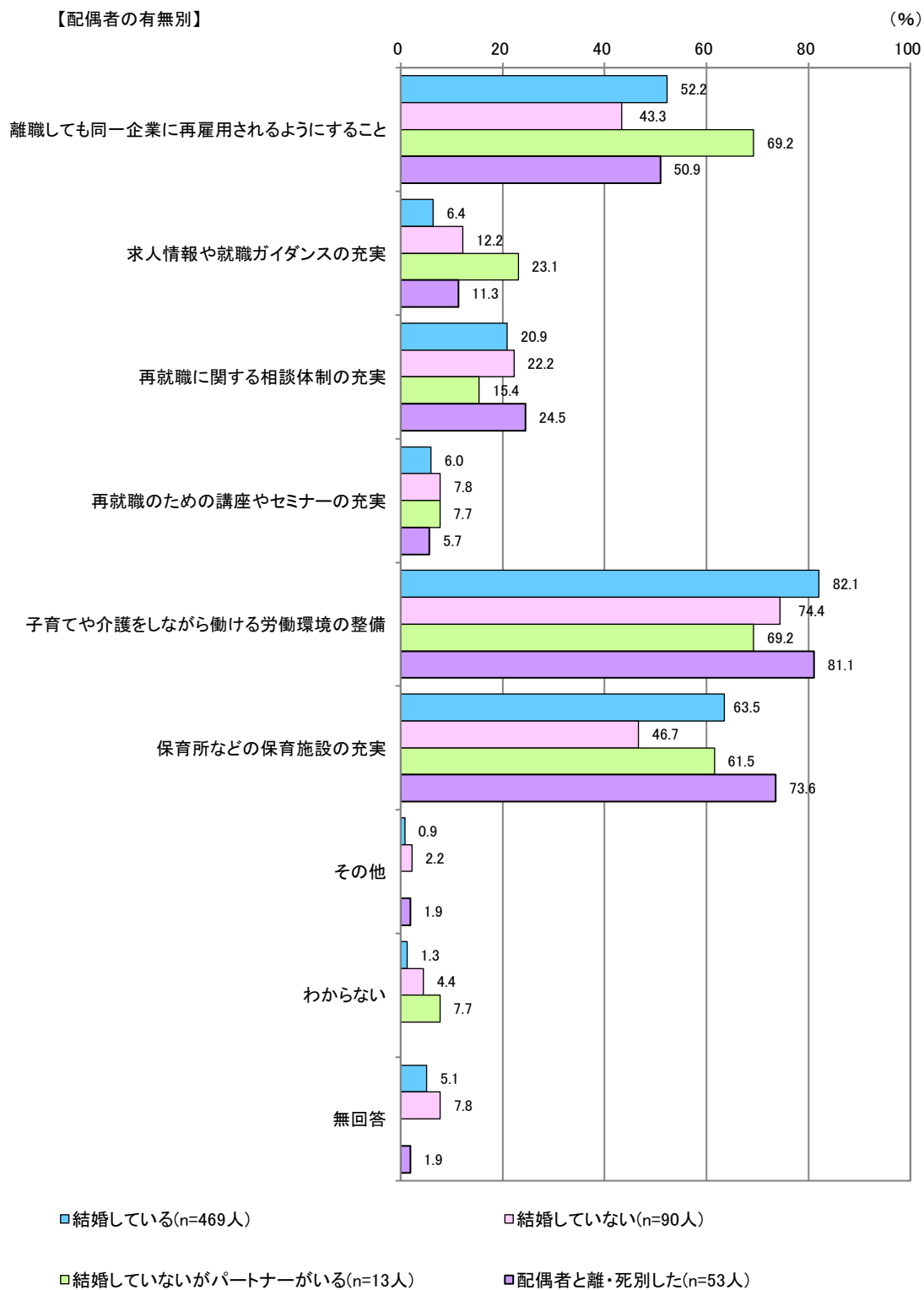
【年代別】

(%)



■20歳未満(n=6人) ■20歳～24歳(n=10人) ■25歳～29歳(n=17人) ■30歳～34歳(n=42人)  
 ■35歳～39歳(n=61人) ■40歳～44歳(n=41人) ■45歳～49歳(n=49人) ■50歳～54歳(n=67人)  
 ■55歳～59歳(n=74人) ■60歳～64歳(n=68人) ■65歳～69歳(n=91人) ■70歳以上(n=98人)

- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が約7割以上と、最も多くなっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」が同率で多く、「保育所などの保育施設の充実」と続いている。



---

---

仕事と生活の調和に関することについて

---

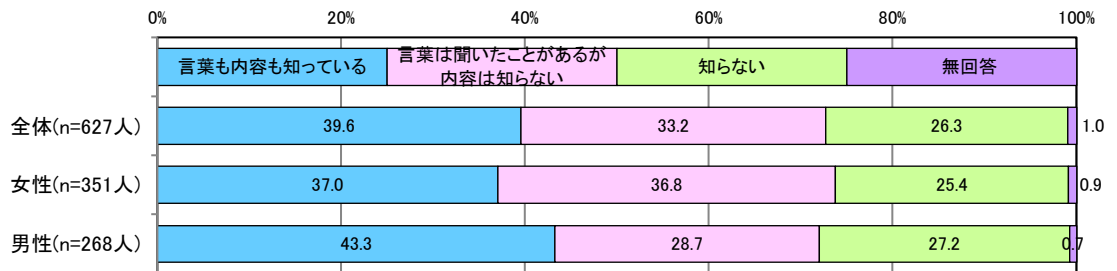
---



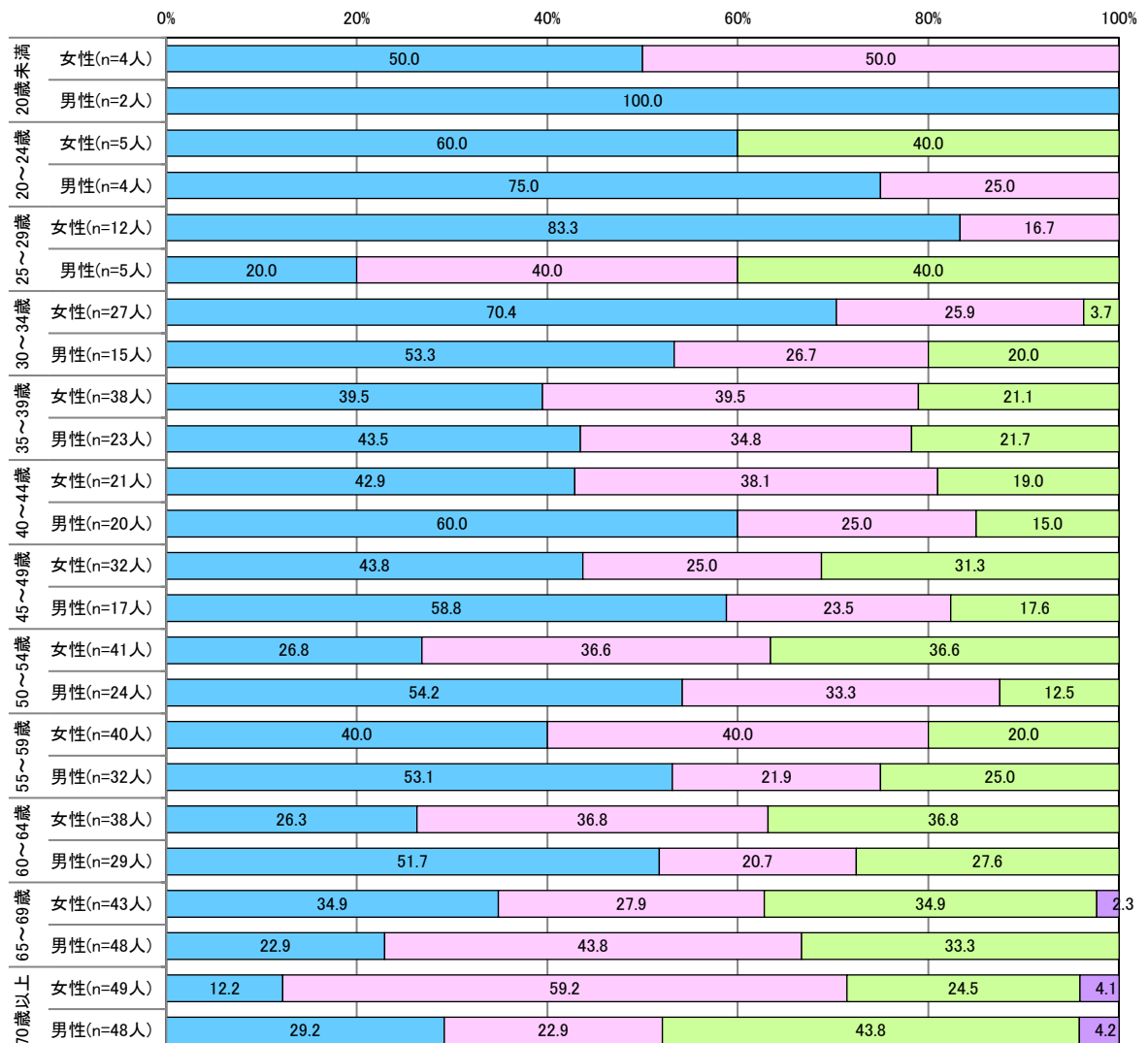
問 24 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。（○は 1 つ）

- ・性別でみると、男女ともに、「言葉も内容も知っている」という回答が最も多く、約 4 割男性（43.3%）、女性（37.0%）となっている。
- ・世代別性別でみると、「言葉も内容も知っている」という回答割合が 5 割以上は、20 歳未満の男女、20 歳～24 歳の男女、25 歳～29 歳の女性、30 歳～34 歳の男女、40 歳～64 歳男性となっている。

【性別】

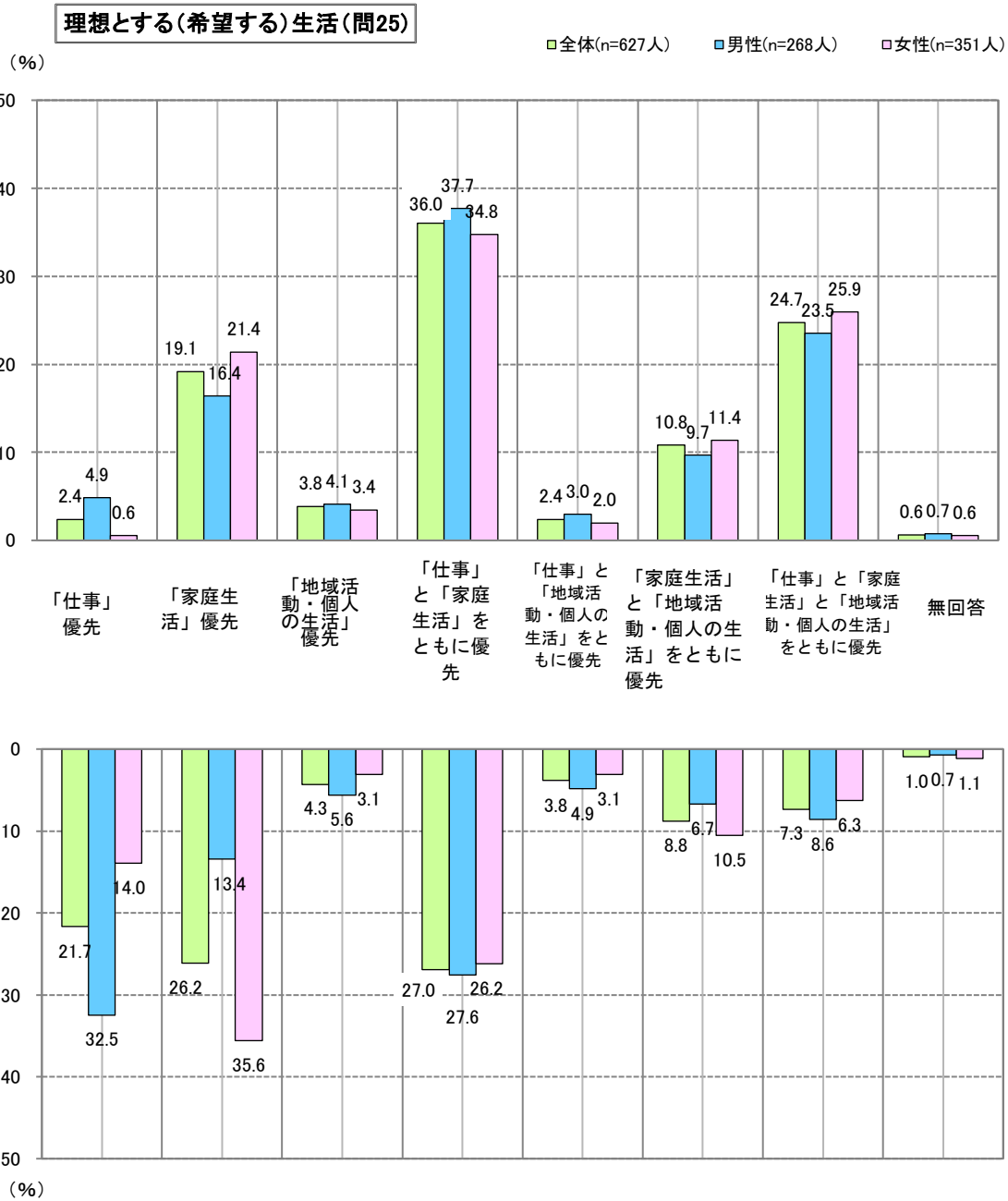


【世代別性別】



## 問 25 理想とする（希望する）生活

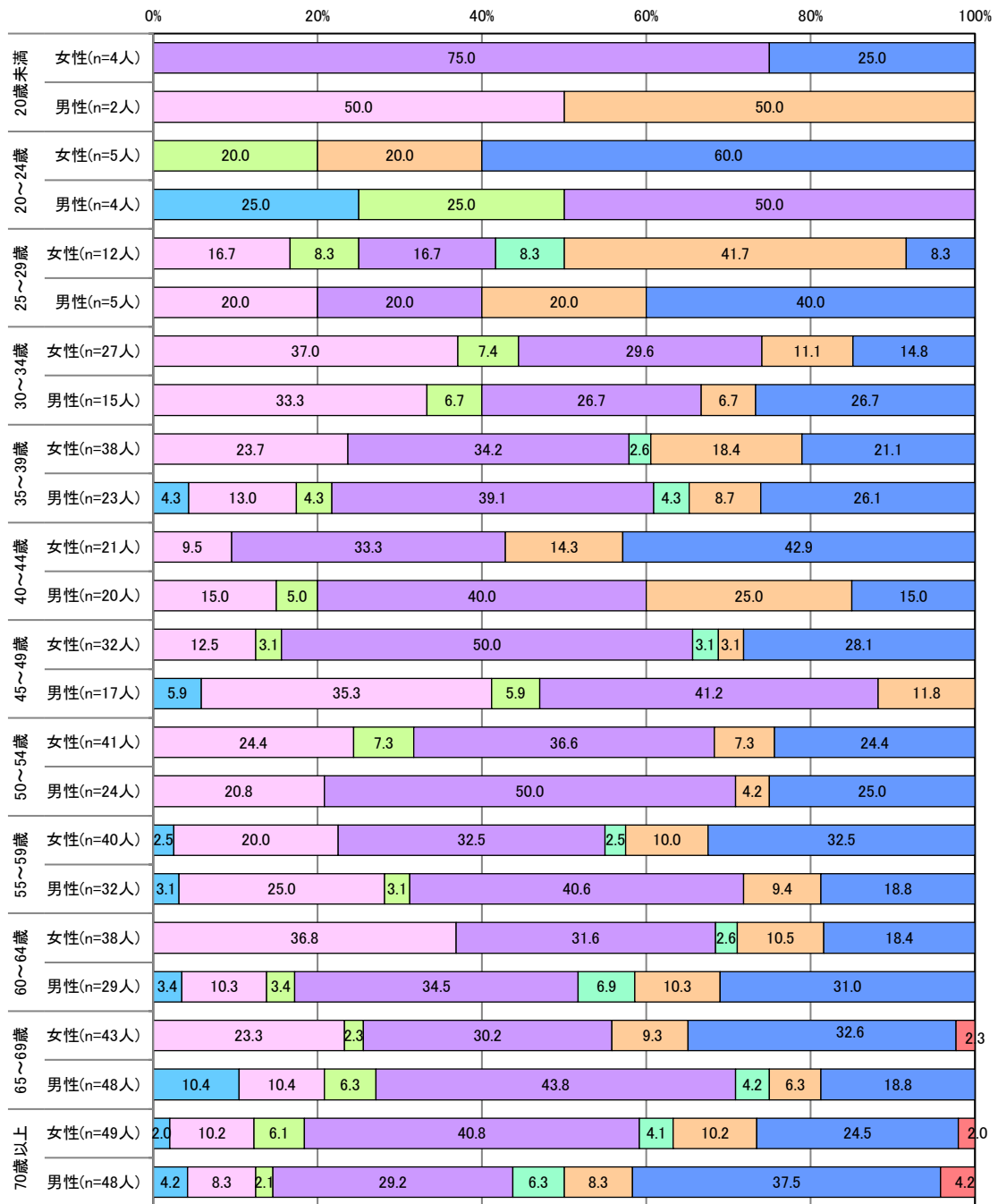
- ・性別でみると、男女ともに、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が最も多くなっている。次いで、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」と続いている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～24歳の男性、45歳～49歳の女性、50歳～54歳の男性の世代で、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が5割を超えている。一方、20歳未満の男性、30歳～34歳の男女、60歳～64歳の女性では、「『家庭生活』優先」という回答が3割を超え、最も多くなっている。



## 現実(現状)の生活(問26)

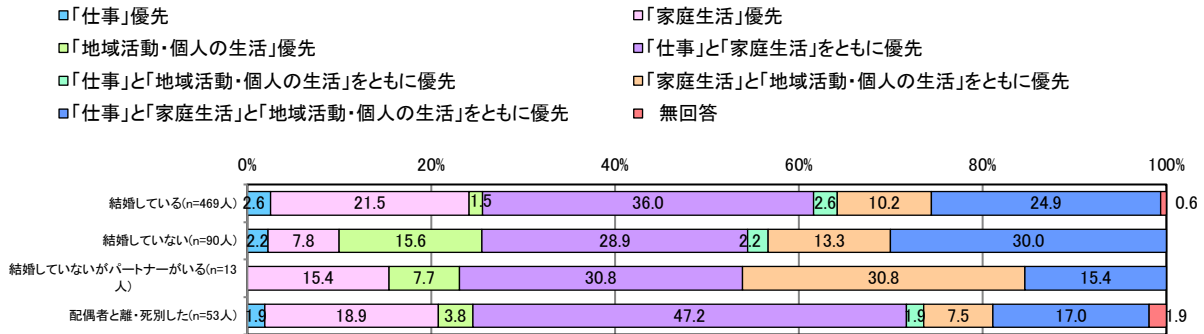
- 「仕事」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答

【世代別性別】

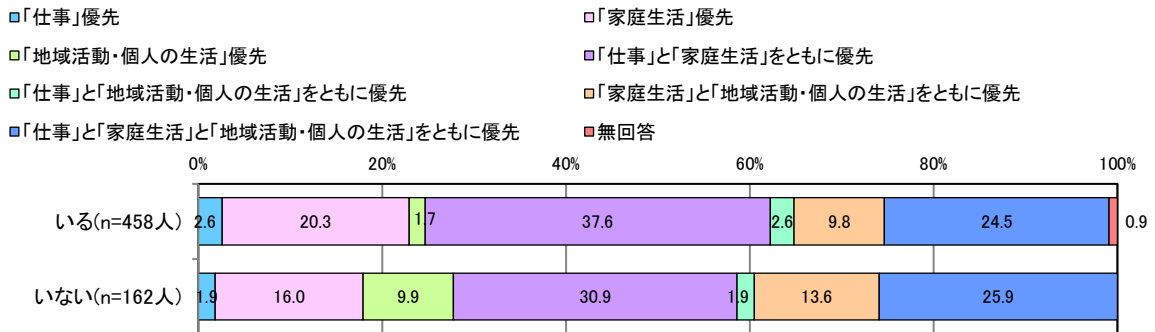


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していない」を除き、いずれも「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。一方、「結婚していない」では、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」が多くなっている。
- ・子の有無別でみると、いずれも「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。次いで、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』優先」となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】



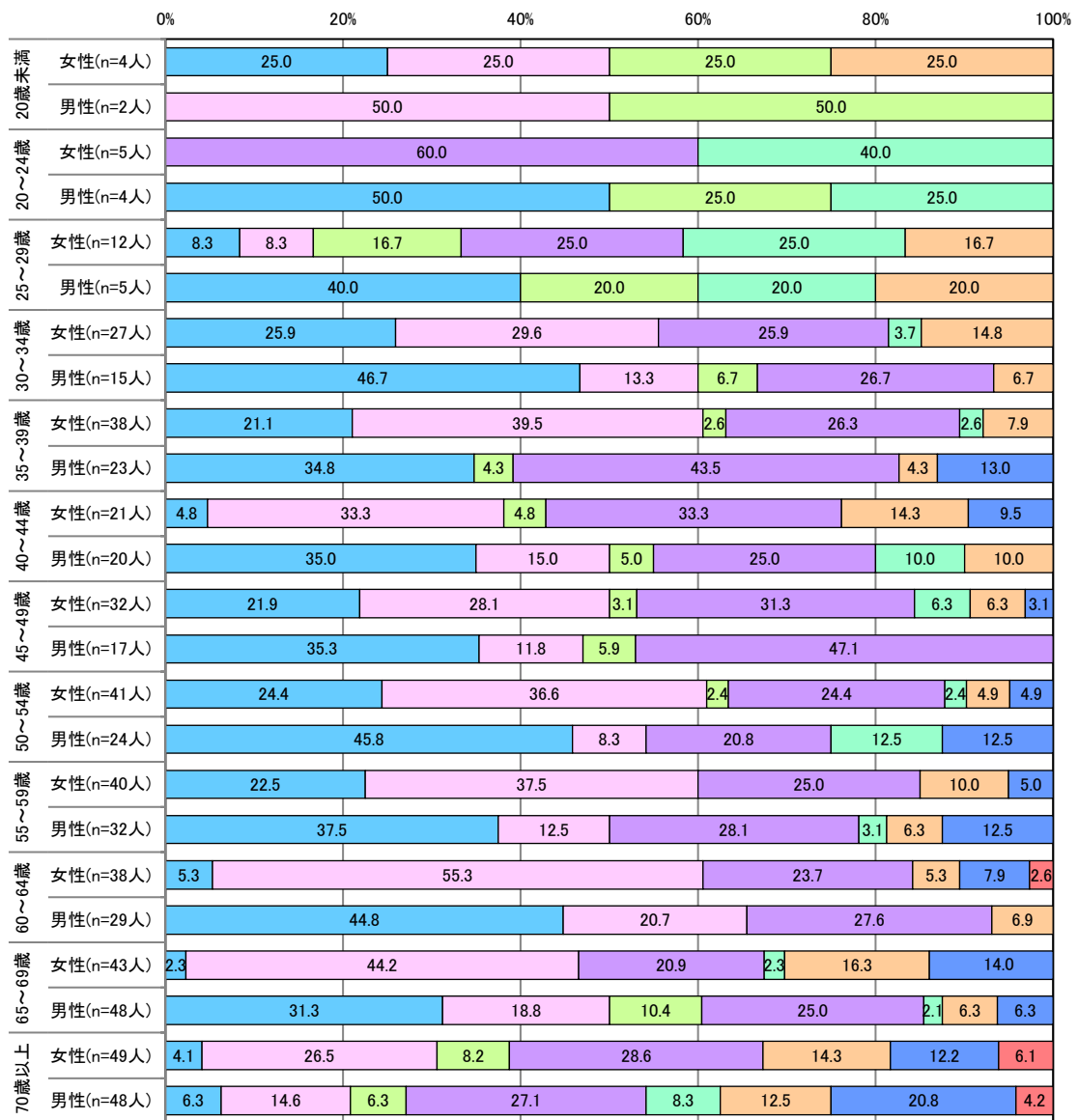


## 問 26 現実（現状）の生活

- ・ 世代別性別でみると、20歳～34歳の男性、50歳～54歳の男性、60歳～64歳の男性では、「『仕事』優先」という回答が4割を超えている。一方、20歳未満の男性、60歳～69歳の女性、で「『家庭生活』優先」という回答が4割以上となっている。
- ・ 「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、20歳未満の女性、25歳～29歳の男女、65歳～69歳の女性で約2割となっている。

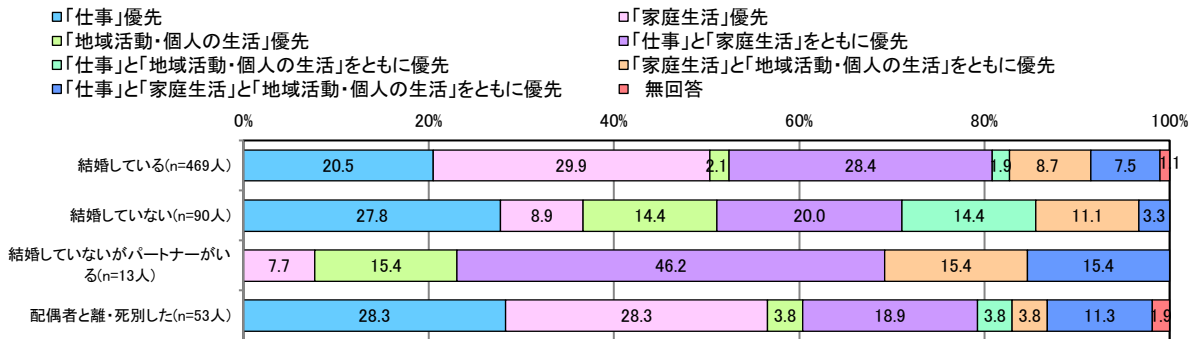
### 【世代別性別】

- 「仕事」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答

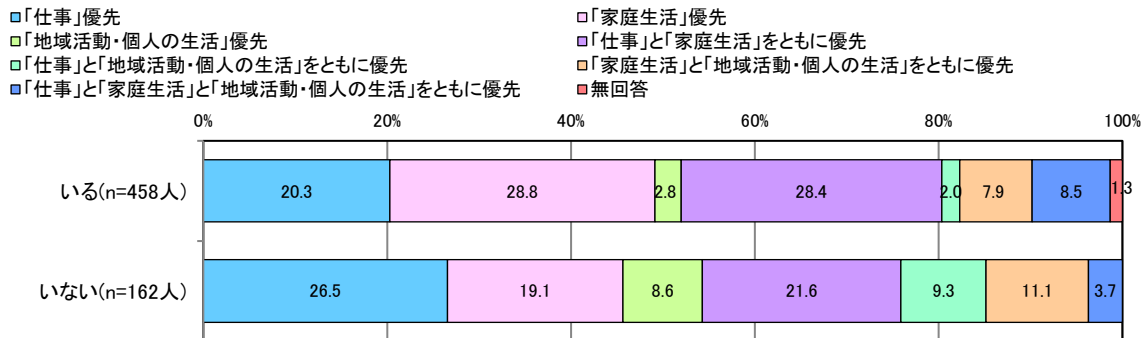


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「『家庭生活』優先」（29.9％）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（28.4％）、「『仕事』優先」（20.5％）となっている。「結婚していない」では、「『仕事』優先」（27.8％）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（20.0％）となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（46.2％）が最も多い回答となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』優先」（28.3％）、「『家庭生活』優先」（28.3％）で同率と最も多い回答となっており、次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（18.9％）となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「『家庭生活』優先」（28.8％）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（28.4％）、「『仕事』優先」（20.3％）となっている。「いない」では、「『仕事』優先」（26.5％）が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（21.6％）、「『家庭生活』優先」（19.1％）となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】



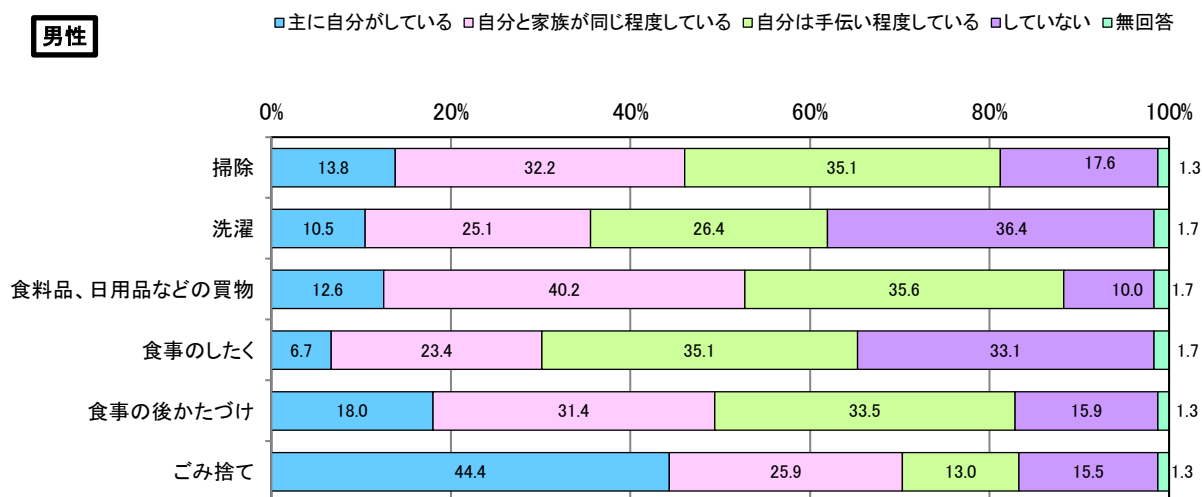
問 27 あなたは次にあげる家事をしていますか。（それぞれ〇は1つ）

（※集計対象は世帯構成で、「単身世帯」、「その他」、「無回答」を除く 557 人とする）

- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみ捨て」が最も多く、約 4 割（44.4%）となっている。次いで、「食事の後かたづけ」（18.0%）、「掃除」（13.8%）と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、約 8 割（77.3%）となっている。次いで、「洗濯」（75.7%）、「掃除」（72.2%）となっている。

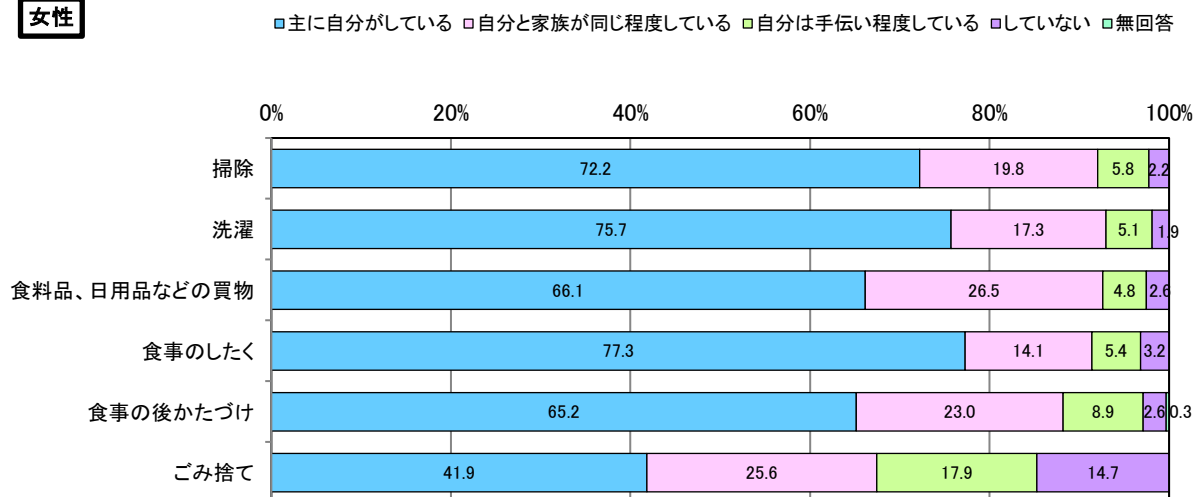
【性別】

**男性**



男性 (n=239 人)

**女性**



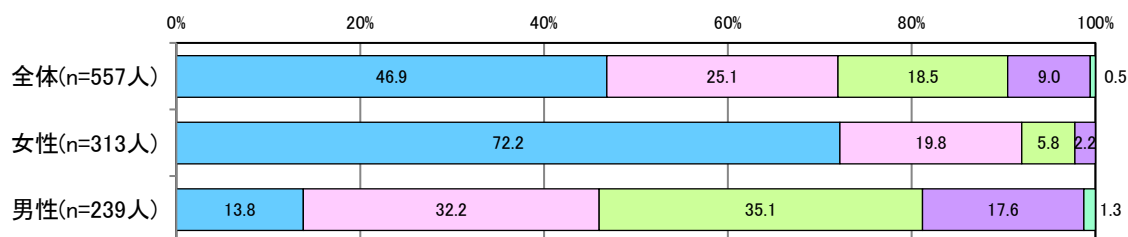
女性 (n=313 人)

# 1 掃除

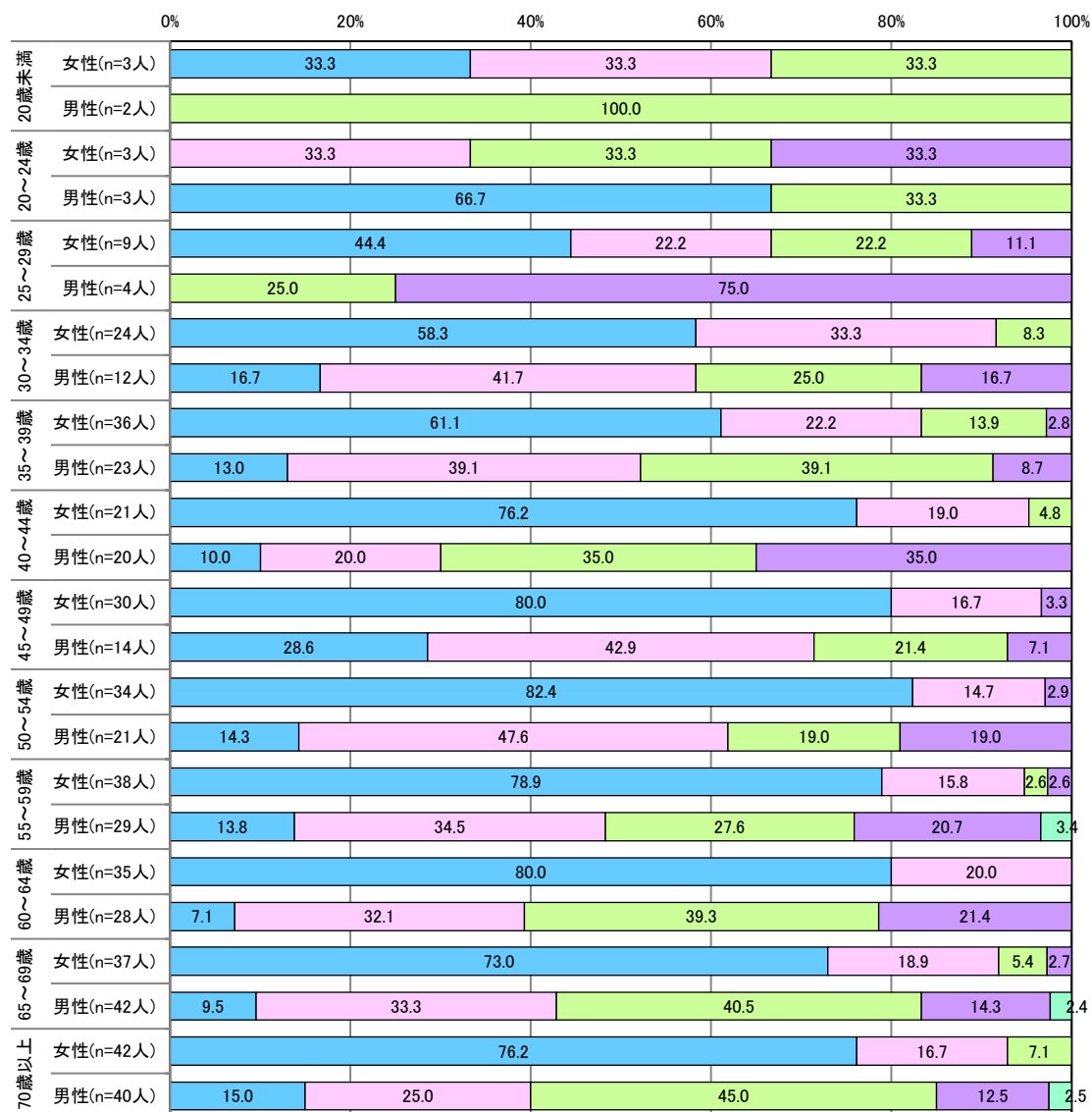
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(72.2%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(35.1%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「していない」という回答が3割以上となる世代は、20歳～24歳の女性、25歳～29歳の男性、40歳～44歳の男性となっている。

## 【性別】

■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している □自分は手伝い程度している □していない □無回答

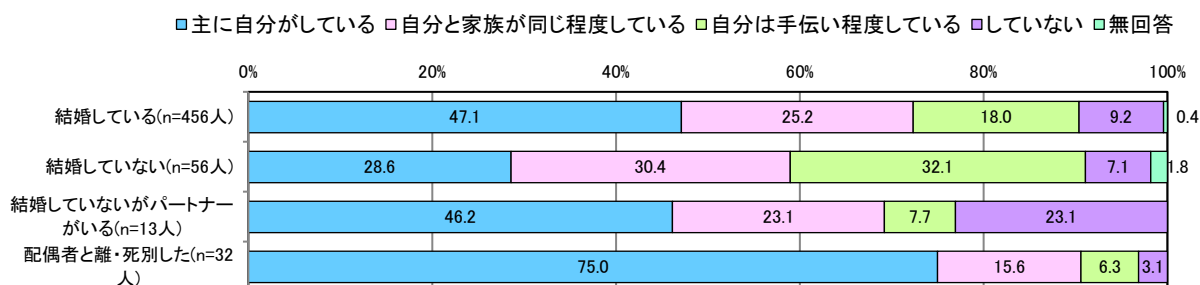


## 【世代別性別】

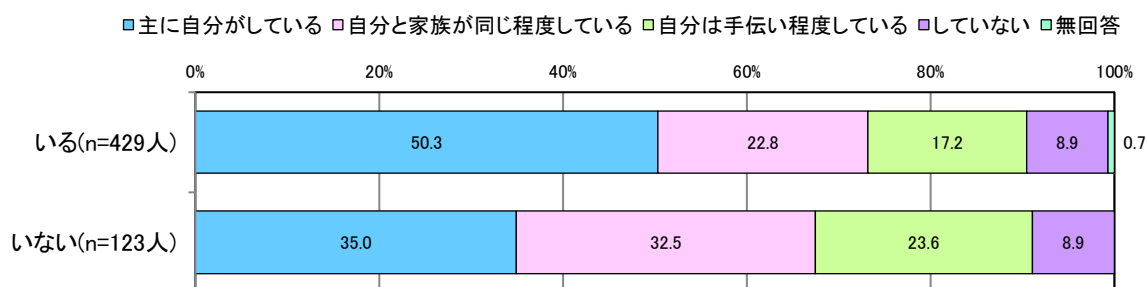


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(47.1%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(25.2%)、「自分は手伝い程度している」(18.0%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(32.1%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(30.4%)、「主に自分がしている」(28.6%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(50.3%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.8%)と「自分は手伝い程度している」(17.2%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(35.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(32.5%)、「自分は手伝い程度している」(23.6%)となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】

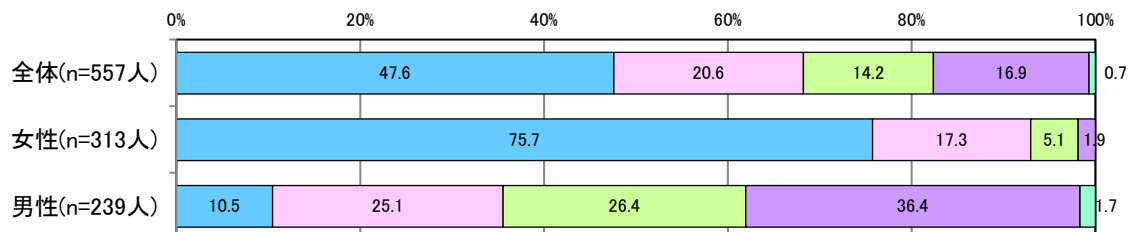


## 2 洗濯

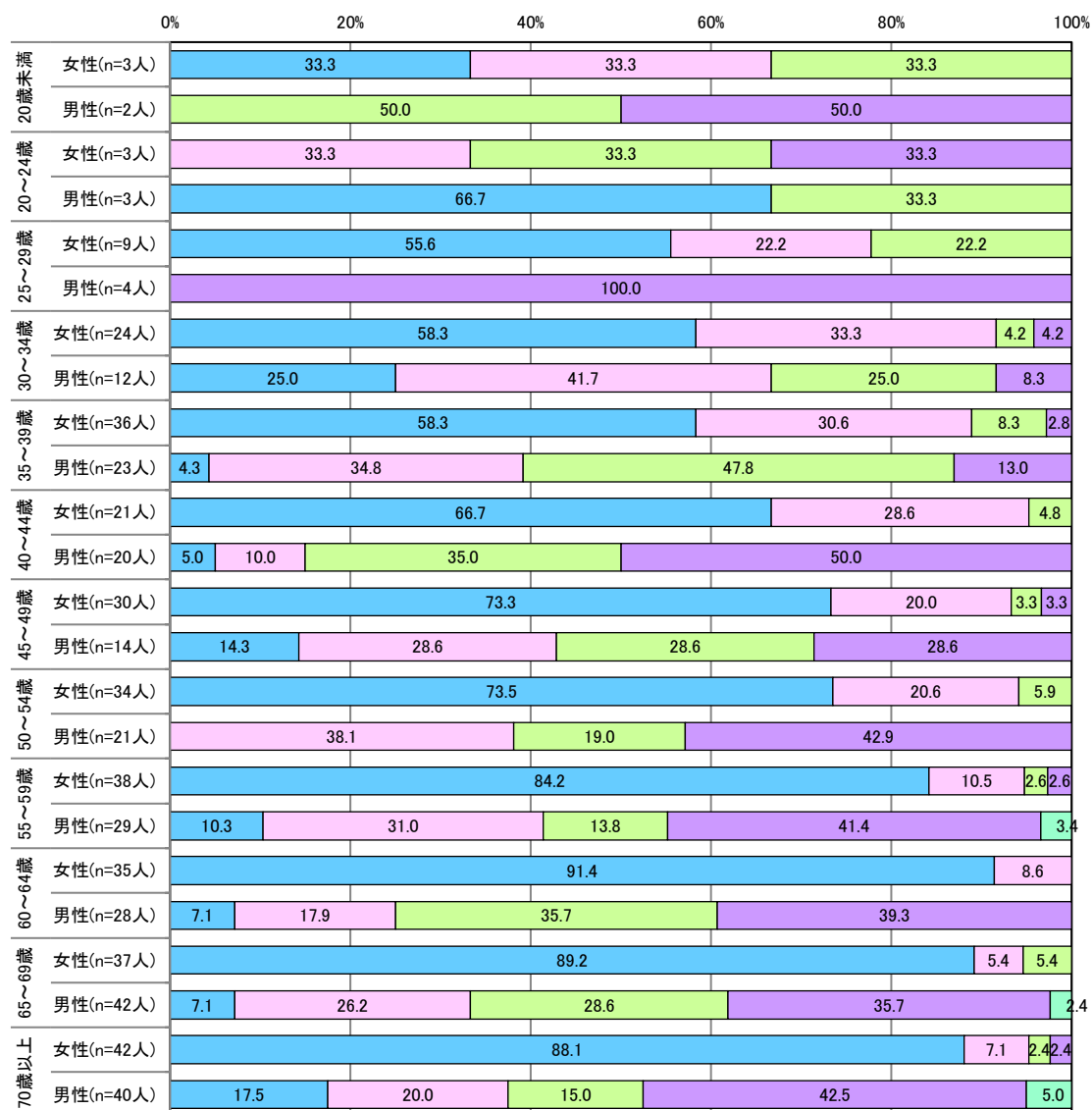
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(75.7%)という回答が最も多く、男性は「していない」(36.4%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、25歳～29歳の男性、40歳～44歳の男性、50歳～59歳の男性、70歳以上の男性では、「していない」という回答割合が4割以上となっている。

### 【性別】

■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している □自分は手伝い程度している □していない □無回答



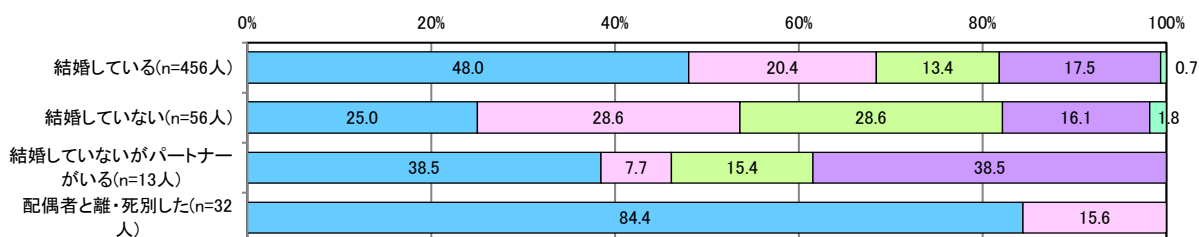
### 【世代別性別】



- ・配偶者の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(48.0%)という回答が最も多く、次いで自分と家族が同じ程度している(20.4%)、「していない」(17.5%)と続いている。「結婚していない」では、「自分と家族が同じ程度している」(28.6%)、「自分は手伝い程度している」(28.6%)と同率で最も多くなっている。次いで「主に自分がしている」(25.0%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(38.5%)、「していない」(38.5%)と同率で最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(84.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(15.6%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(49.9%)という回答が最も多く、次いで「していない」(16.6%)、「自分と家族が同じ程度している」(19.8%)、「していない」(17.0%)、「自分は手伝い程度している」(12.4%)、となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(39.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(23.6%)、「自分は手伝い程度している」(21.1%)、「していない」(16.3%)となっている。

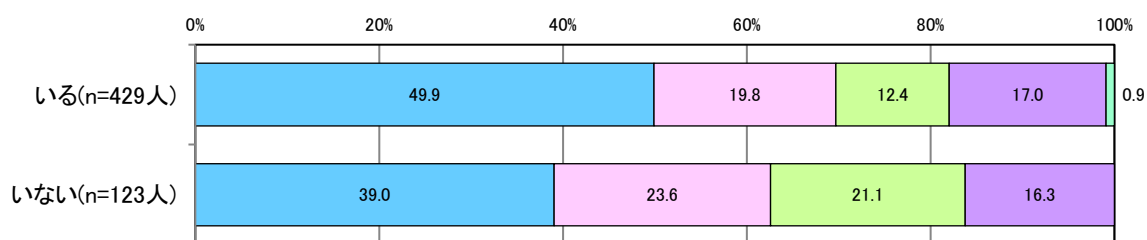
【配偶者の有無別】

■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している ■していない ■無回答



【子の有無別】

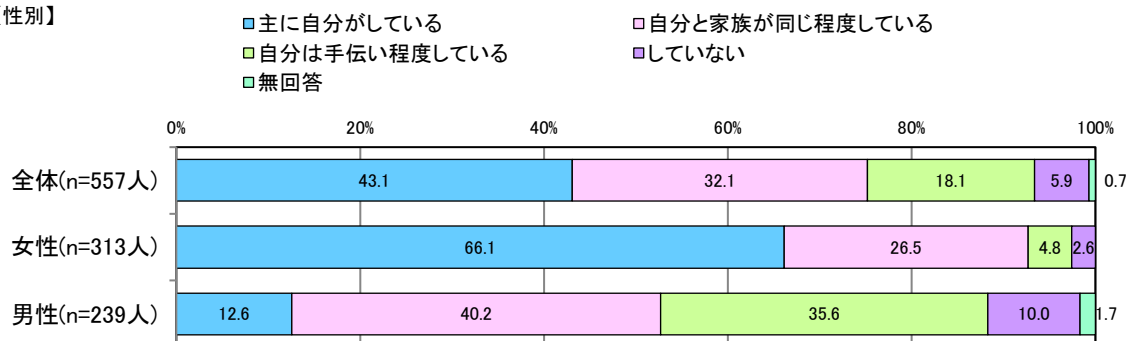
■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している ■していない ■無回答



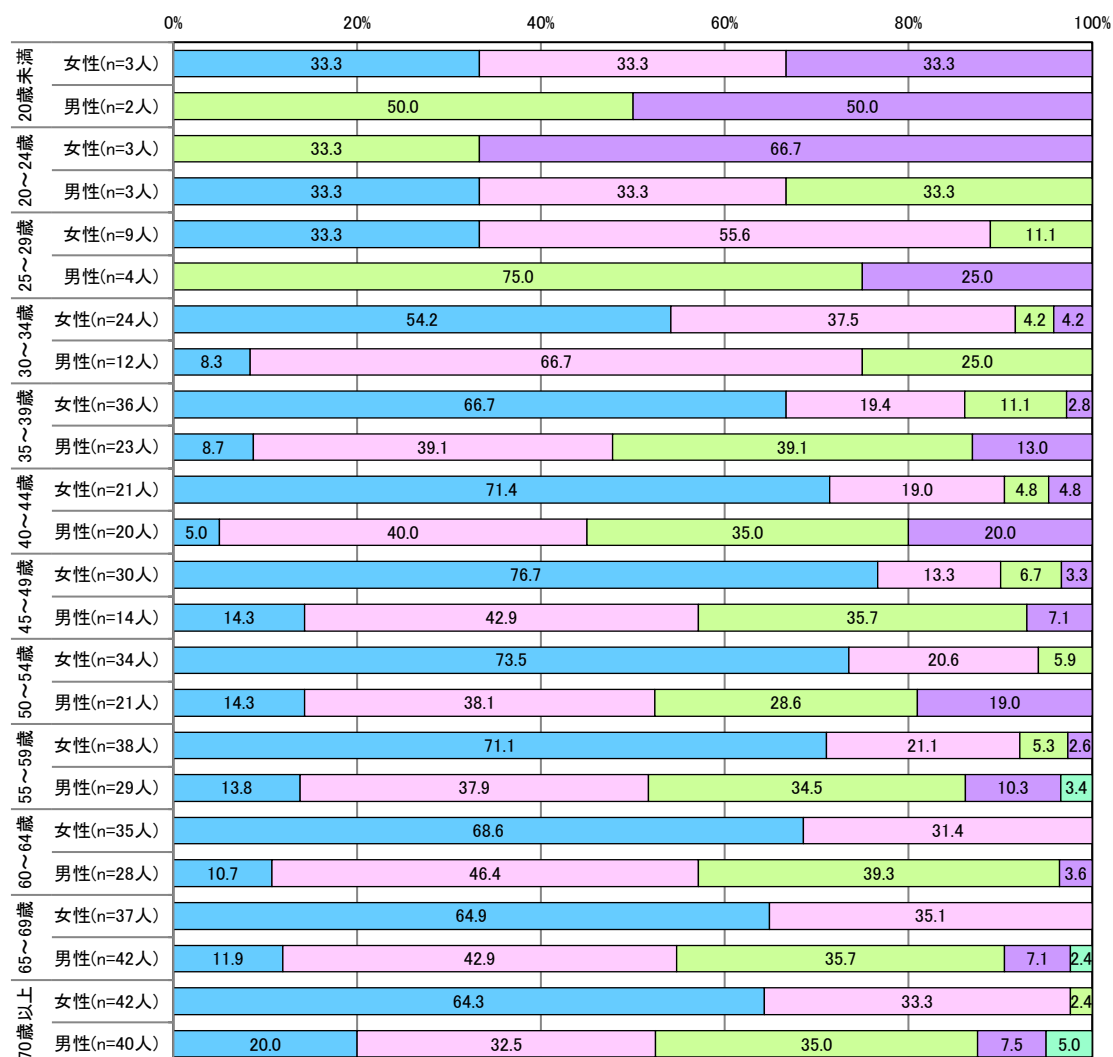
### 3 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(66.1%)という回答が最も多く、男性は「自分と家族が同じ程度している」(40.2%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性では、「自分は手伝い程度している」という回答が7割以上となっている。一方、30歳以上の女性では、「主に自分がしている」という回答が最も多く、5割以上となっている。

【性別】



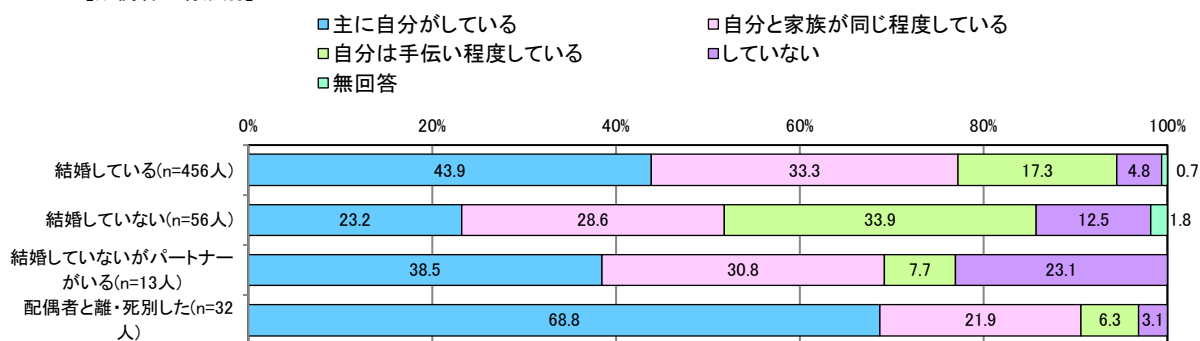
【世代別性別】



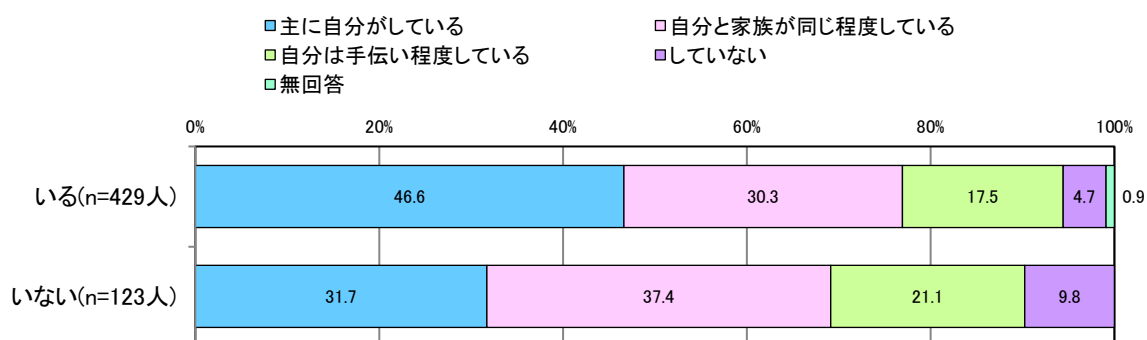


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(43.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(33.3%)、「自分は手伝い程度している」(17.3%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(33.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.6%)、「主に自分がしている」(23.2%)、「していない」(12.5%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(38.5%)が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(68.8%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(21.9%)、「自分は手伝い程度している」(6.3%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(46.6%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(30.3%)、「自分は手伝い程度している」(17.5%)となっている。「いない」では、「自分と家族が同じ程度している」(37.4%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(31.7%)、「自分は手伝い程度している」(21.1%)となっている。

【配偶者の有無別】

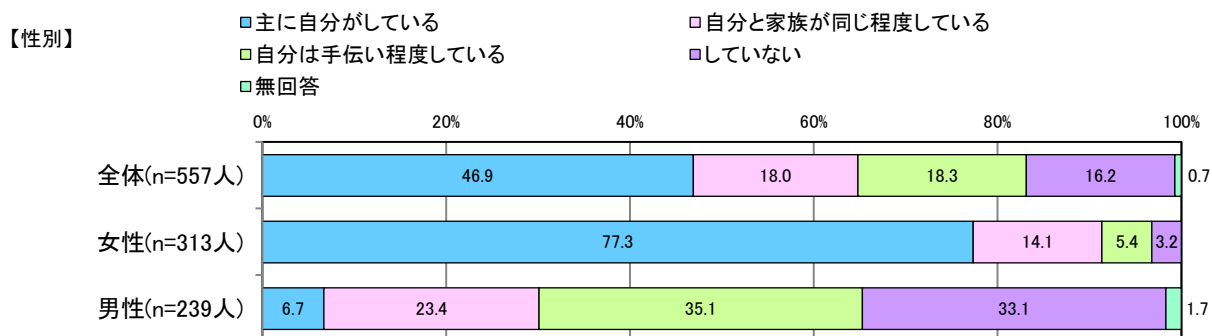


【子の有無別】

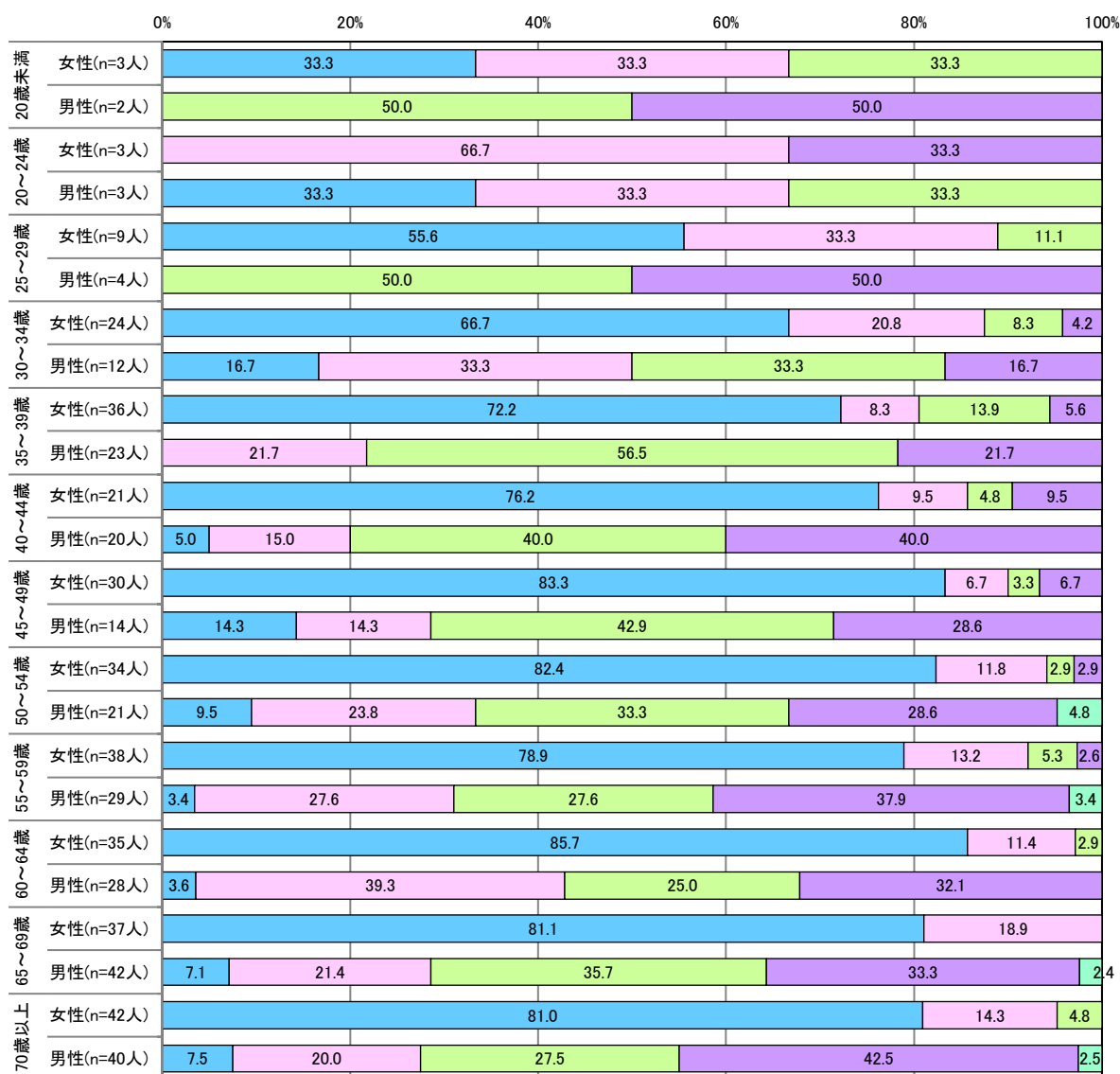


#### 4 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(77.3%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(35.1%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、25歳～29歳の男性、40歳～44歳の男性、70歳以上の男性で、「していない」という回答が、4割以上となっている。

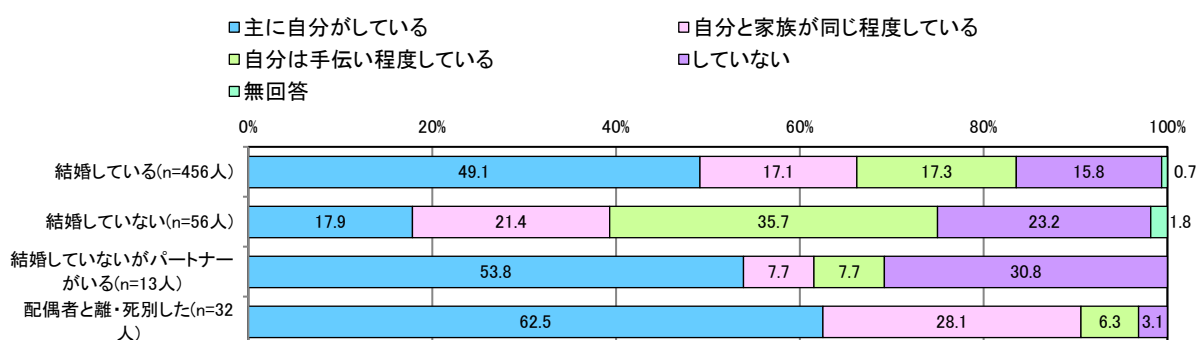


【世代別性別】

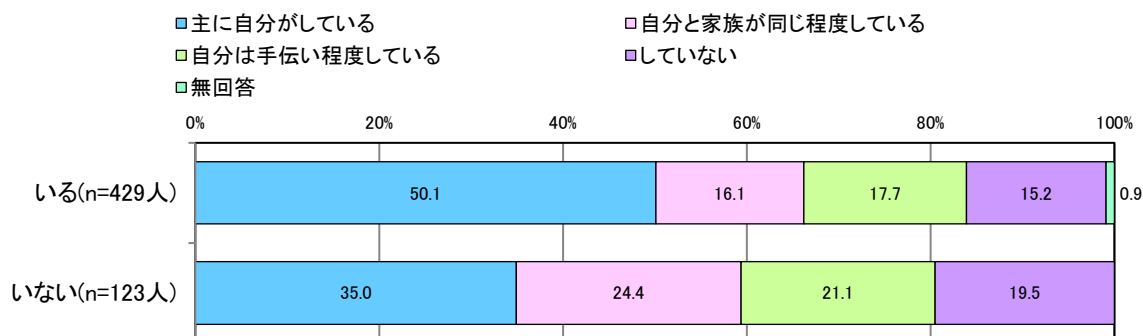


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(49.1%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(17.3%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(35.7%)という回答が最も多く、次いで、「していない」(23.2%)、「自分と家族が同じ程度している」(21.4%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」、「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が5割を超え、最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(50.1%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(17.7%)、「自分と家族が同じ程度している」(16.1%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(35.0%)という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」(24.4%)、「自分は手伝い程度している」(21.1%)となっている。

【配偶者の有無別】



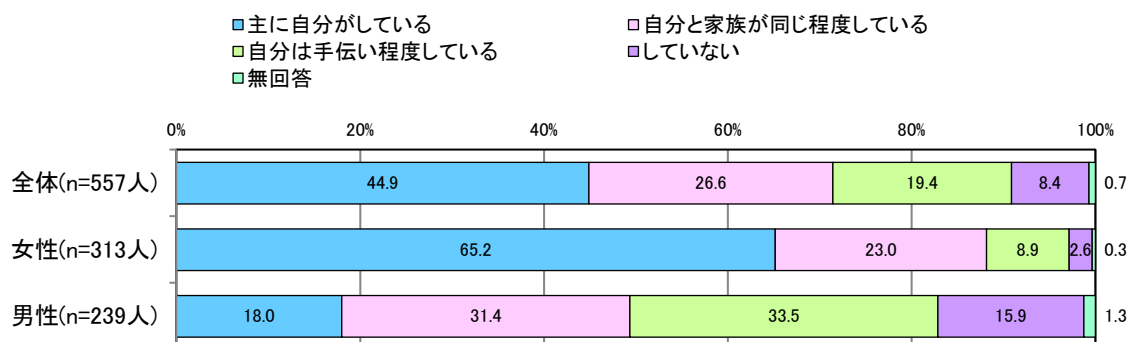
【子の有無別】



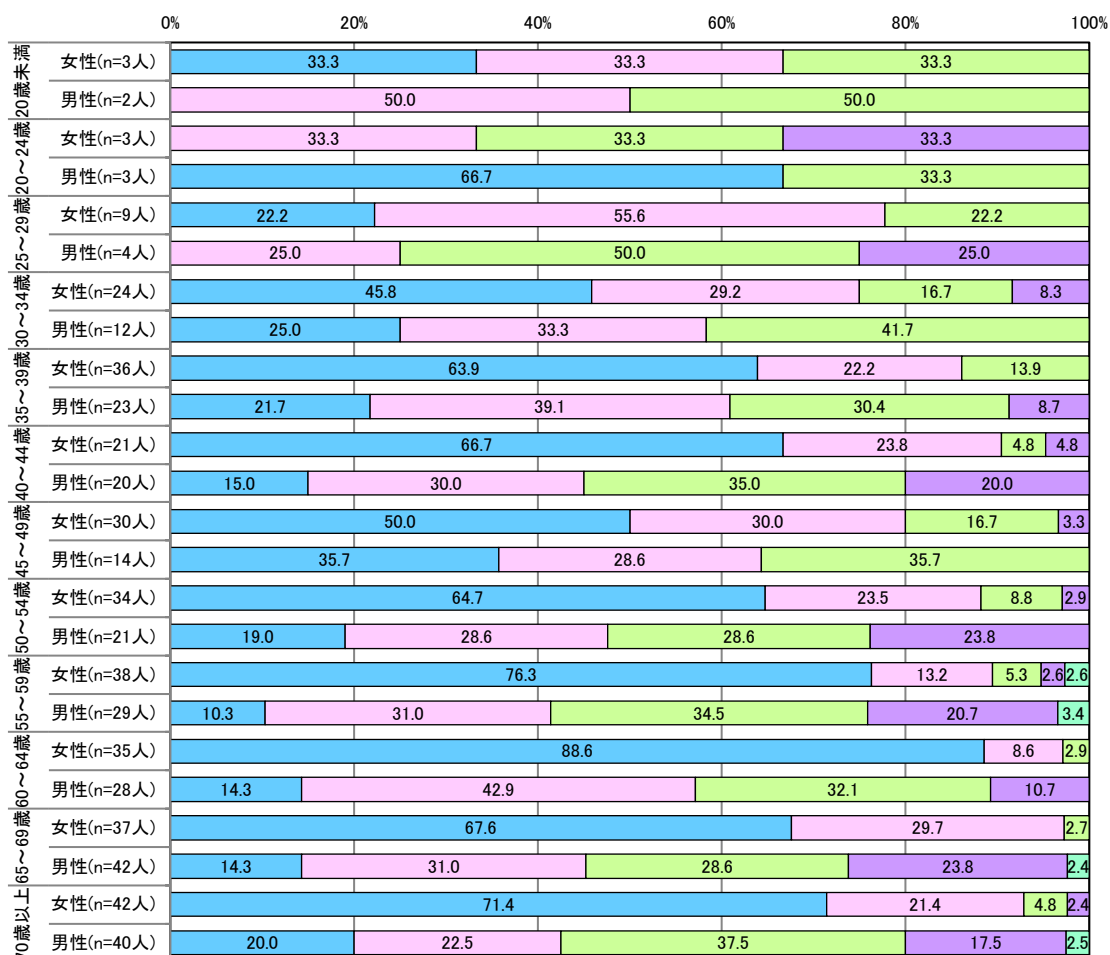
## 5 食事の後かたづけ

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(65.2%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(33.5%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性、25歳～29歳の男性で「していない」という回答が約3割となっている。

【性別】

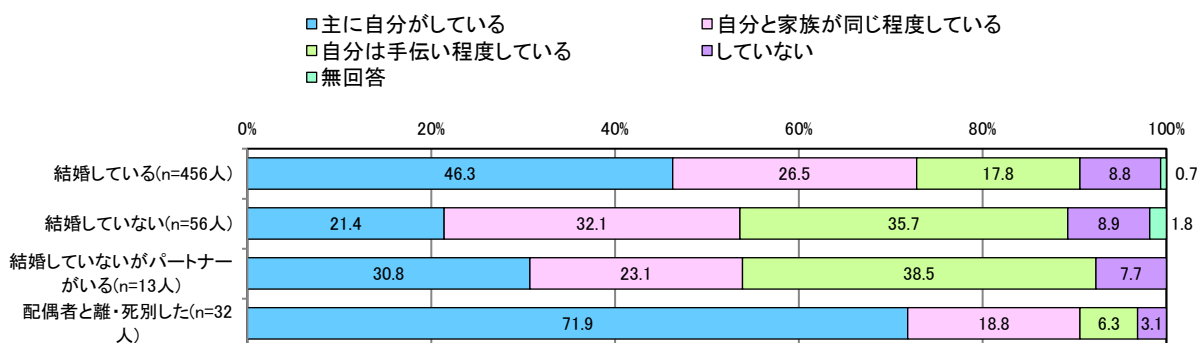


【世代別性別】

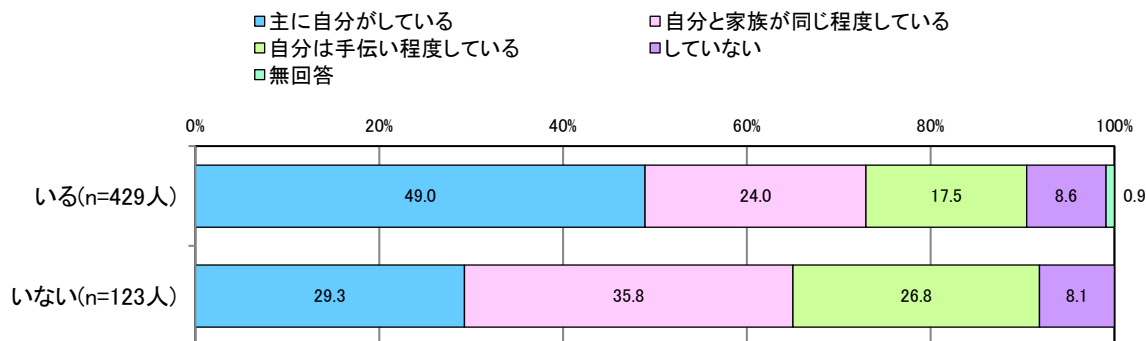


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(46.3%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(26.5%)、「自分は手伝い程度している」(17.8%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(35.7%)という回答が最も多く、次いで、「自分と家族が同じ程度している」(32.1%)、「主に自分がしている」(21.4%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「自分は手伝い程度している」(38.5%)と最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が約7割と最も多くなっている。次いで、「配偶者と離・死別した」では、「自分と家族が同じ程度している」(18.8%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(49.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(24.0%)、「自分は手伝い程度している」(17.5%)となっている。「いない」では、「自分と家族が同じ程度している」(35.8%)、という回答が最も多く、次いで、「主に自分がしている」(29.3%)、「自分は手伝い程度している」(26.8%)、「していない」(8.1%)となっている。

【配偶者の有無別】

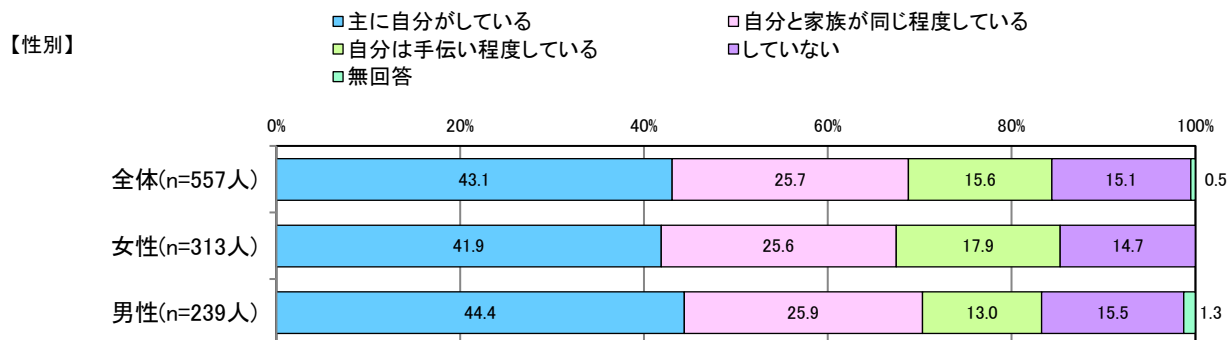


【子の有無別】

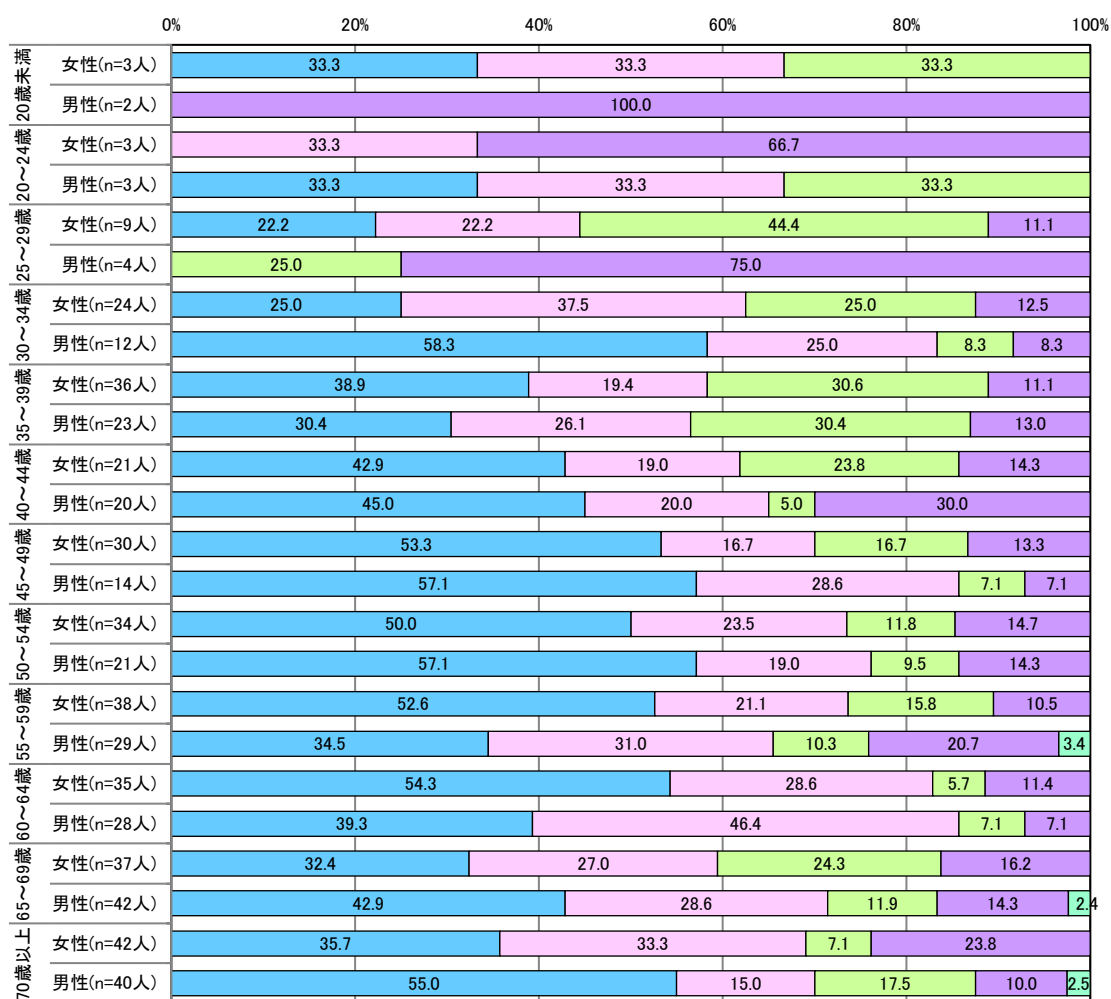


## 6 ごみ捨て

- ・性別でみると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は41.9%、男性は44.4%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、20歳～34歳の女性、25歳～29歳の男性では、「主に自分がしている」という回答が3割未満と、他よりも少ない傾向にある。

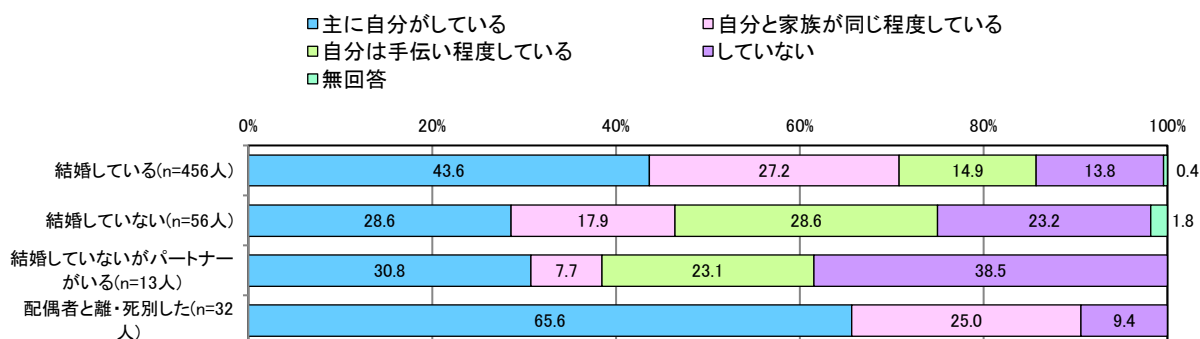


### 【世代別性別】

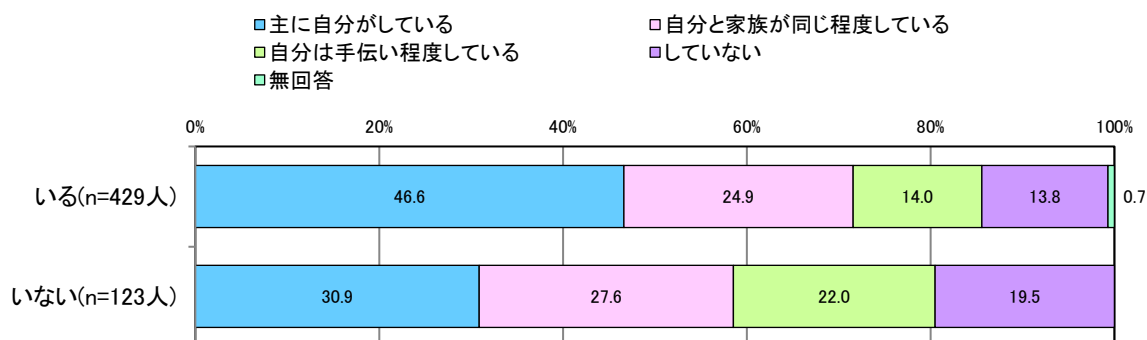


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(43.6%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(27.2%)、「自分は手伝い程度している」(14.9%)となっている。「結婚していない」では、「主に自分がしている」(28.6%)、「自分は手伝い程度している」(28.6%)と同率で回答が最も多くなっている。次いで、「していない」(23.2%)、「自分と家族が同じ程度している」(17.9%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「していない」(38.5%)と回答が最も多くなっている。一方で、「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」が約7割と回答が最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(46.6%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(24.9%)、「自分は手伝い程度している」(14.0%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(30.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(27.6%)、「自分は手伝い程度している」(22.0%)、「していない」(19.5%)となっている。

【配偶者の有無別】



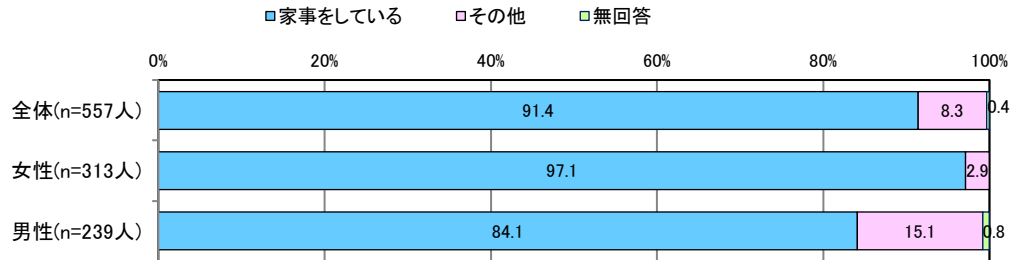
【子の有無別】



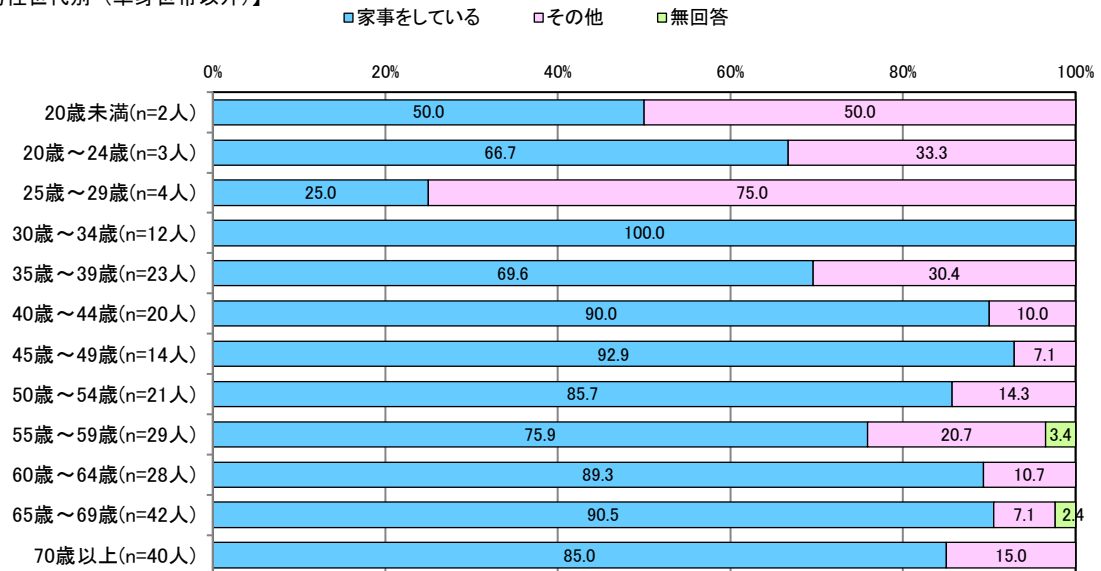
## <家事への参画度>

- ・問 27 の 1～6 の家事について、いずれか1つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 91.4%がいずれかの「家事をしている」となっている。
- ・性別でみると、男性では 84.1%、女性は 97.1%の方が「家事をしている」となっており、男性は女性よりも「家事をしている」の回答割合が約 1 割低くなっている。

### 【性別】



### 【男性世代別（単身世帯以外）】



### 【女性世代別（単身世帯以外）】



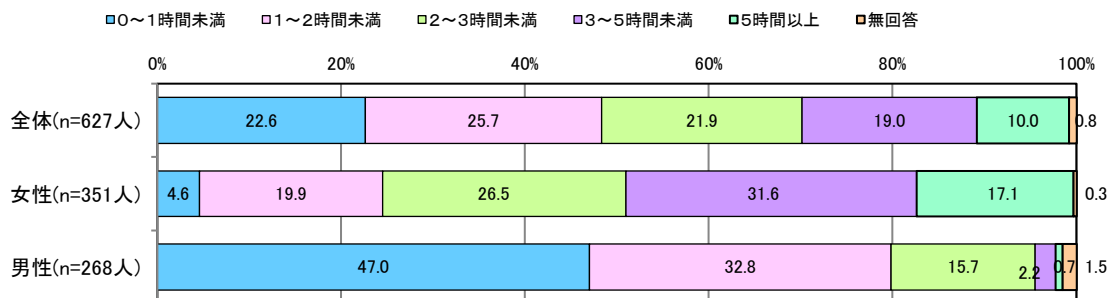


問 28 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。

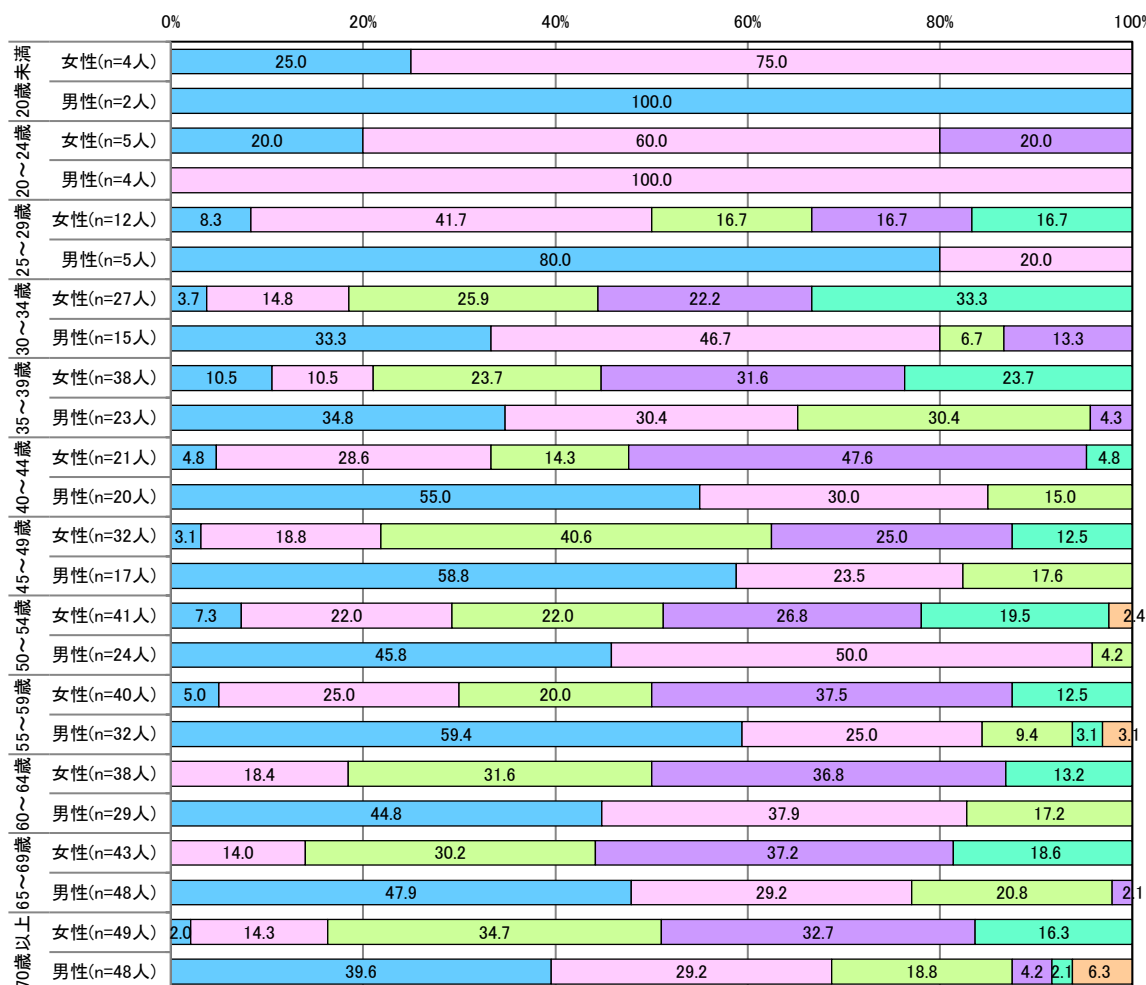
（○は1つ）

- ・性別でみると、男性は「0～1時間未満」（47.0%）という回答が最も多くなっている。一方、女性の「0～1時間未満」という回答は4.6%となっており、男女で大きな差がある。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、25歳～29歳の男性、40歳～69歳の男性の世代で「0～1時間未満」という回答が4割を超えている。

【性別】

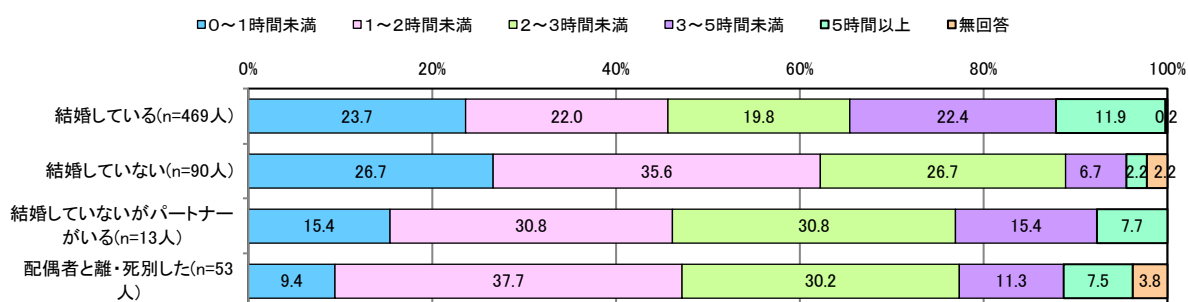


【世代別性別】

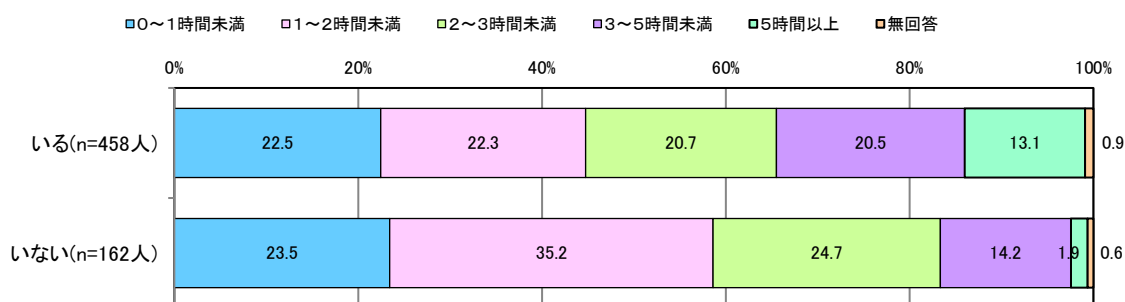


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「0～1時間未満」(23.7%)という回答が最も多く、次いで「3～5時間未満」(22.4%)、「1～2時間未満」(22.0%)となっている。「結婚していない」では、「1～2時間未満」(35.6%)という回答が最も多く、次いで、「0～1時間未満」(26.7%)、「2～3時間未満」(26.7%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「1～2時間未満」(30.8%)、「2～3時間未満」(30.8%)と同率で最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「1～2時間未満」(37.7%)という回答が最も多く、次いで、「2～3時間未満」(30.2%)、「3～5時間未満」(11.3%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「0～1時間未満」(22.5%)という回答が最も多く、次いで、「1～2時間未満」(22.3%)、「2～3時間未満」(20.7%)、「3～5時間未満」(20.5%)となっている。「いない」では、「1～2時間未満」(35.2%)という回答が最も多く、次いで、「2～3時間未満」(24.7%)、「0～1時間未満」(23.5%)となっている。

#### 【配偶者の有無別】



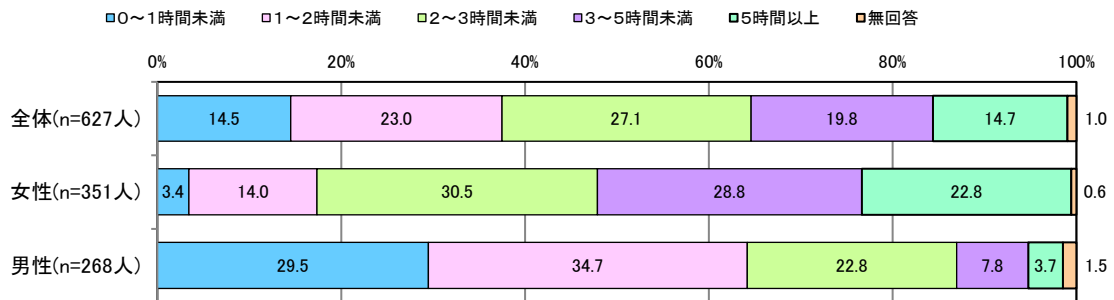
#### 【子の有無別】



問 29 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。  
（○は1つ）

- ・性別でみると、男性は「1～2時間未満」（34.7%）という回答が最も多く、次に「0～1時間未満」（29.5%）となっている。女性は「2～3時間未満」（30.5%）で最も多く、次いで、「3～5時間未満」（28.8%）、「5時間以上」（22.8%）となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、25歳～29歳の男性で、「0～1時間未満」という回答が5割を超えている。一方、30歳～39歳の女性で、「5時間以上」という回答が4割を超えている。

【性別】

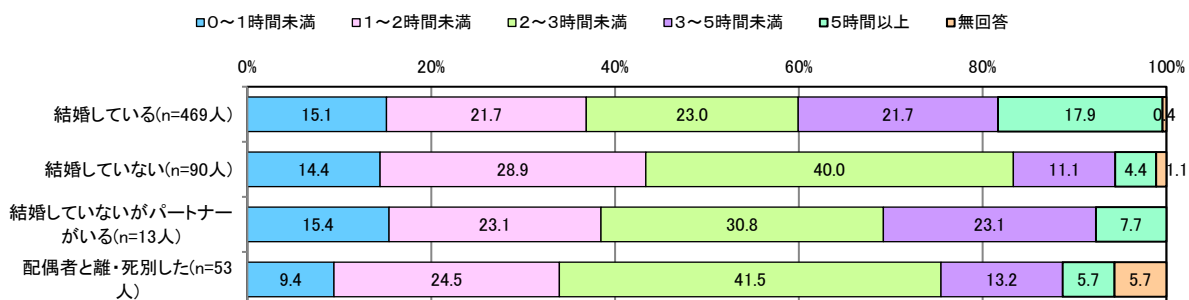


【世代別性別】

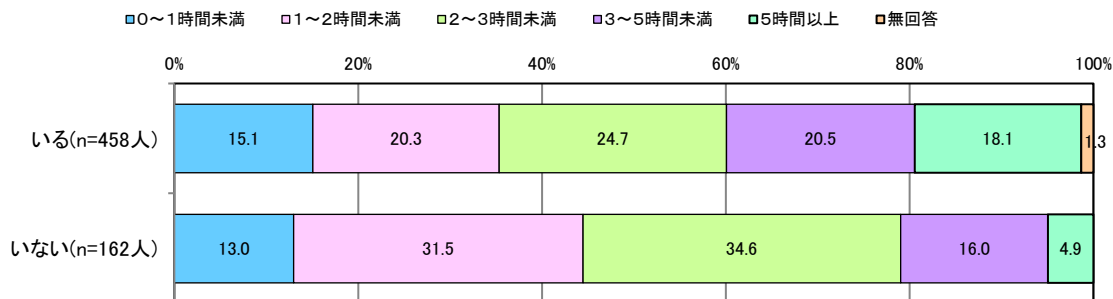


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「2～3時間未満」(23.0%)が最も多く、次いで「1～2時間未満」(21.7%)、「5時間以上」(21.7%)となっている。「結婚していない」では、「2～3時間未満」(40.0%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(28.9%)、「0～1時間未満」(14.4%)、となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「2～3時間未満」(30.8%)という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「2～3時間未満」(41.5%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(24.5%)、「3～5時間未満」(13.2%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「2～3時間未満」(24.7%)という回答が最も多く、次いで、「3～5時間未満」(20.5%)、「1～2時間未満」(20.3%)、「5時間以上」(18.1%)となっている。「いない」では、「2～3時間未満」(34.6%)という回答が最も多く、次いで、「1～2時間未満」(31.5%)、「5時間以上」(16.0%)となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】

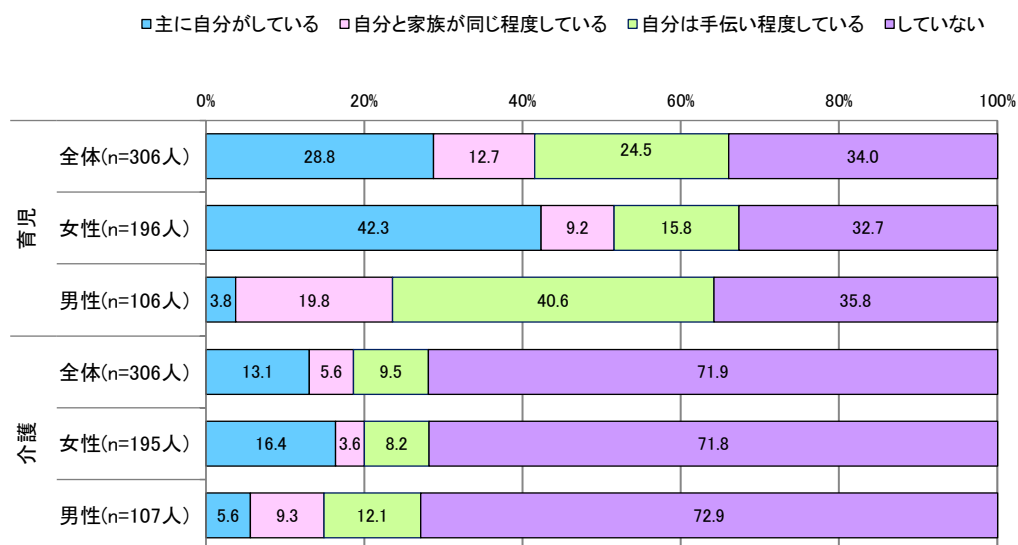


身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問 30 あなたは育児または介護をどの程度していますか。（それぞれ〇は1つ）

- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答が約4割（42.3%）で、男性の3.8%と比べ大きな差がある。
  - ・介護では、男女ともに、「していない」が約7割と最も多くなっている。次いで、男性は、「自分は手伝い程度している」、「自分と家族が同じ程度している」、「自分が主にしている」となっている。一方、女性は「自分が主にしている」、「自分は手伝い程度している」、「自分と家族が同じ程度している」となっている。
- （※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している）。

【全分野】

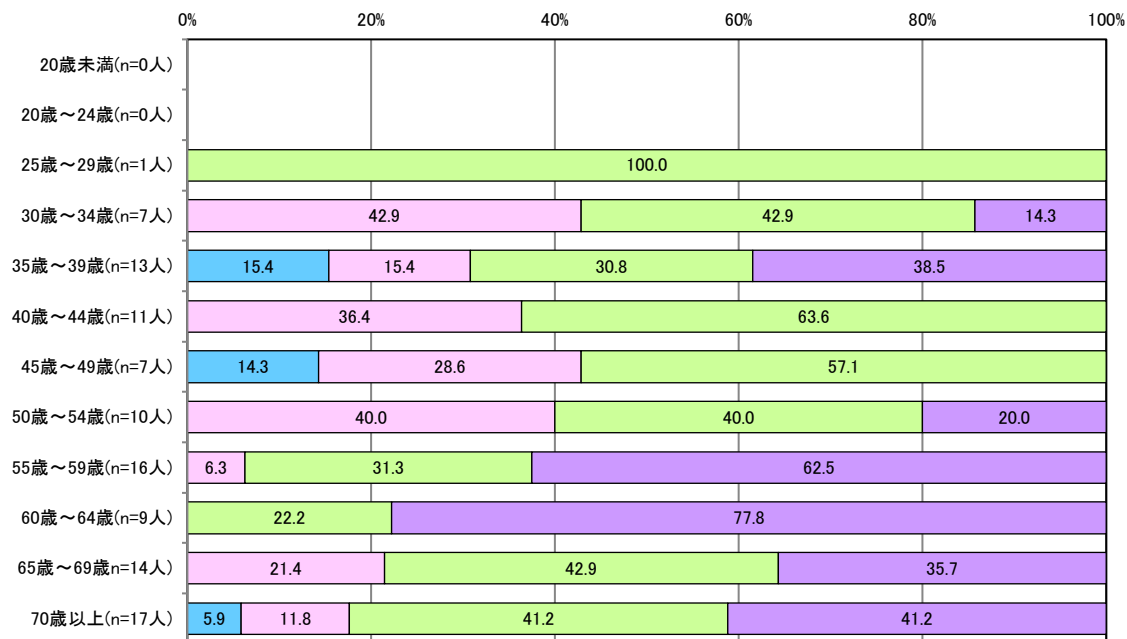


## 1 育児（お孫さんを含む）

- ・男性では「自分と家族が同じ程度している」という回答割合が、30歳～34歳、50歳～54歳で4割を超えている。
- ・一方、女性では30歳～39歳で、「主に自分がしている」という回答割合が7割を超えている。

### 【男性世代別】

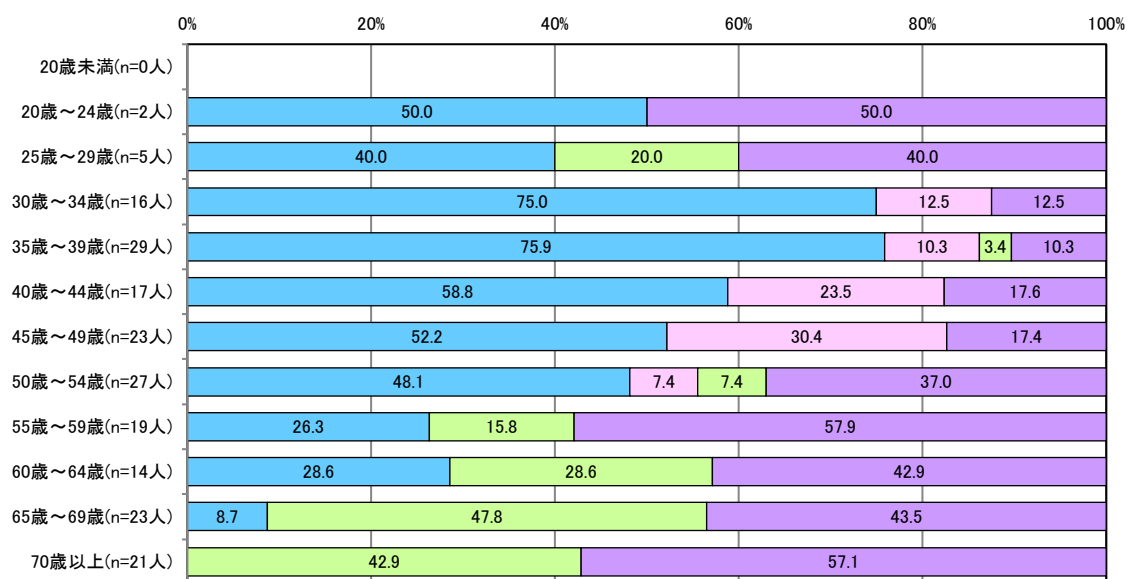
■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している □していない



男性 (n=106人)

### 【女性世代別】

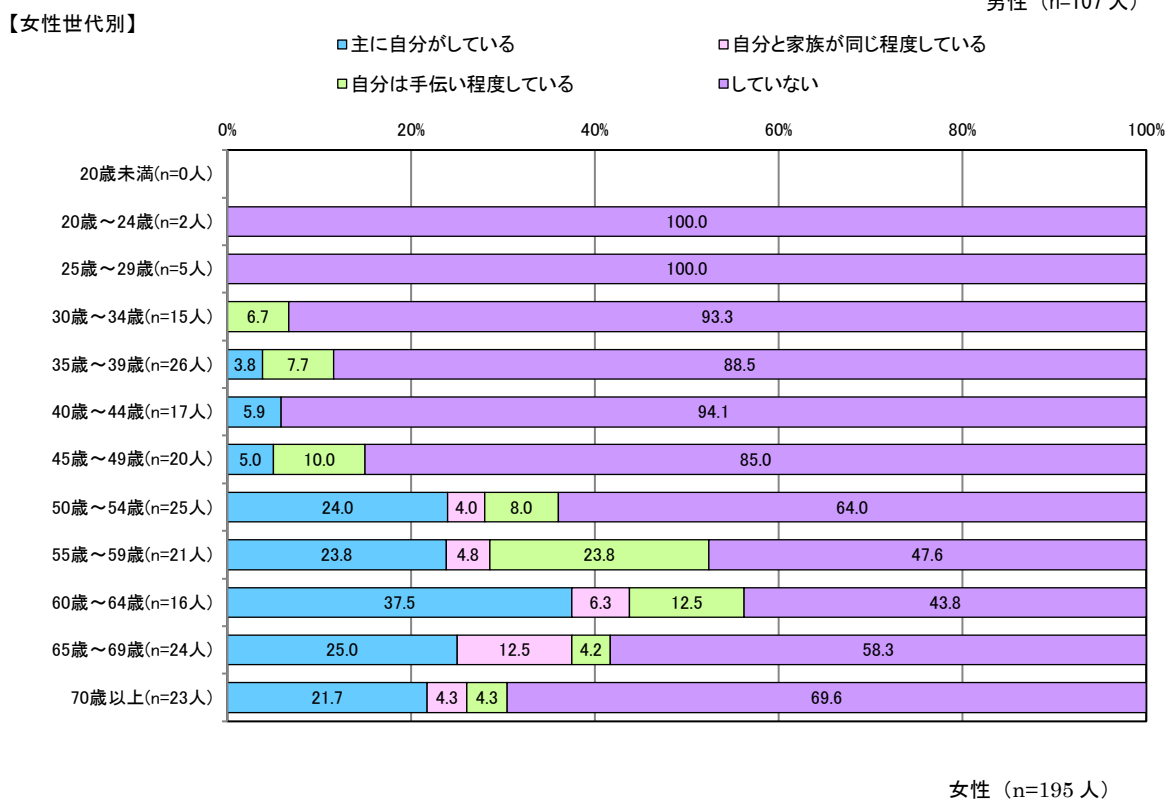
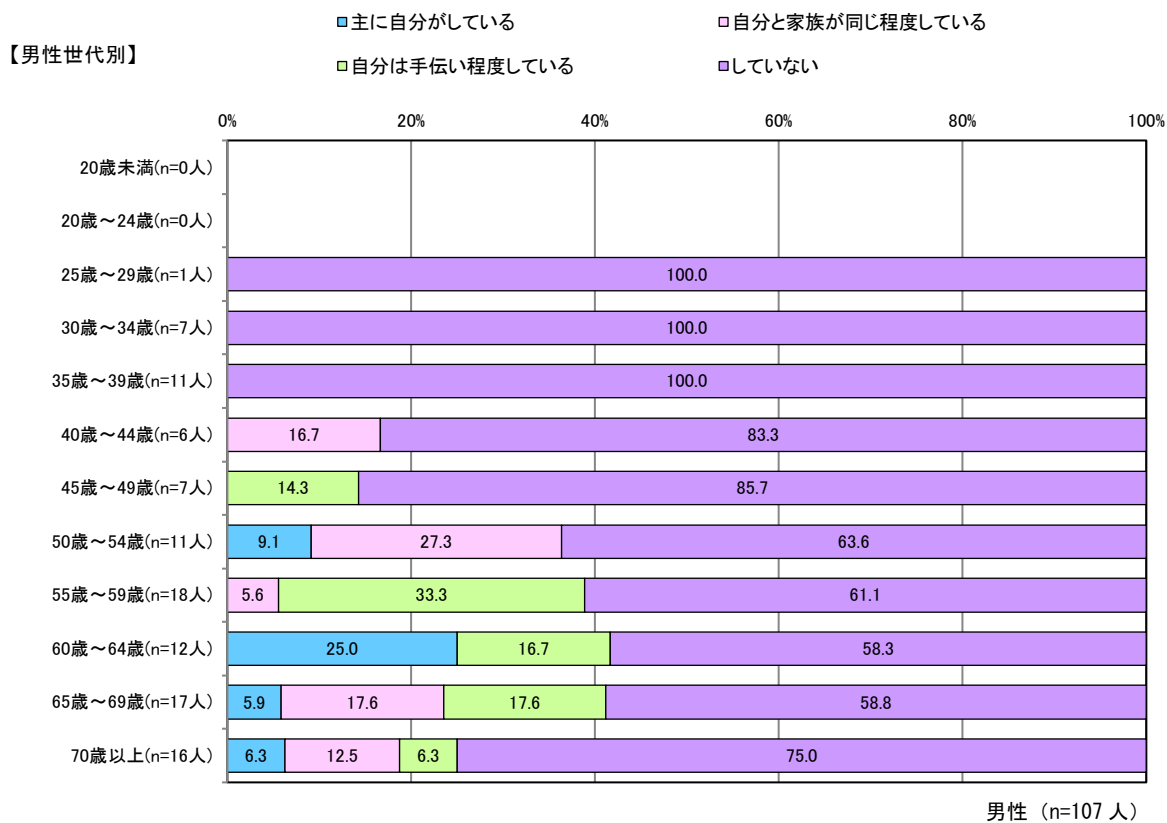
■主に自分がしている □自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している □していない



女性 (n=196人)

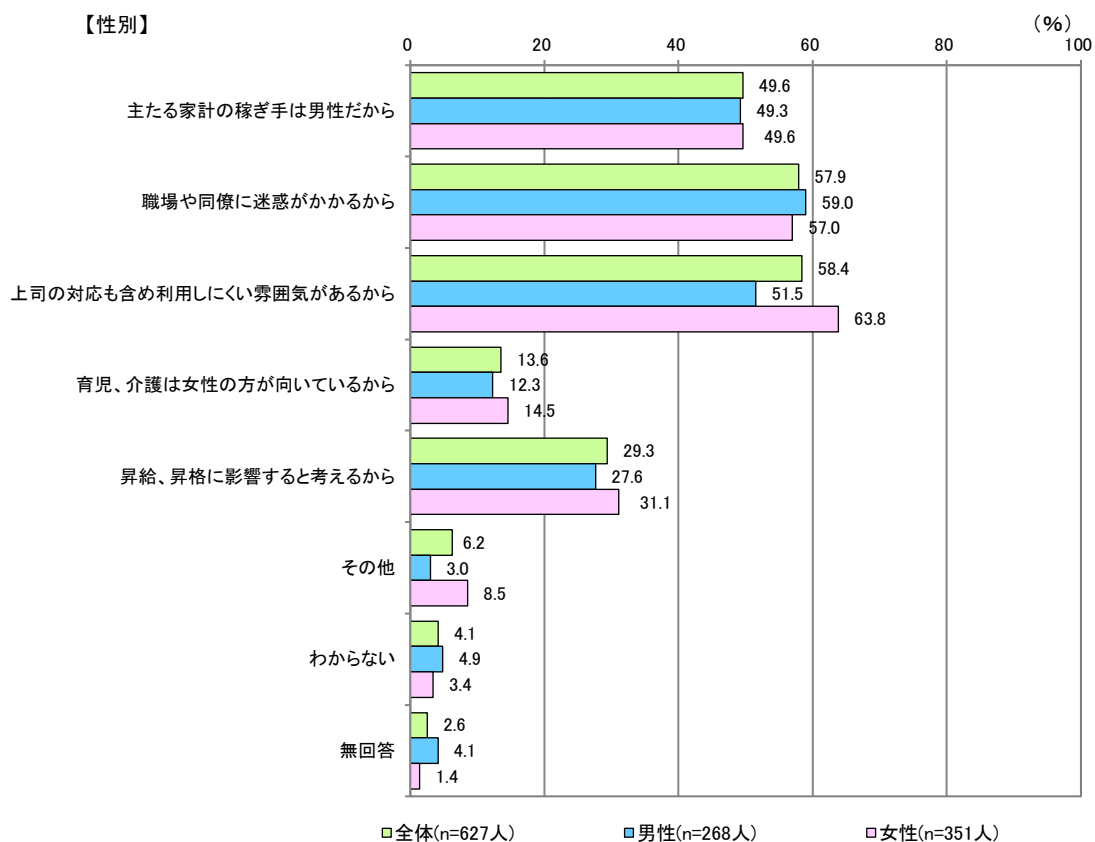
## 2 介護

- ・性別でみると、男性では、25歳～39歳を除き、40歳以上で介護に関わっている。
- ・女性では、20歳～29歳を除き、30歳以上で介護に関わっている。
- ・「主に自分がしている」という回答は、60歳～64歳の女性で約4割となっている。



問 31 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。（〇は3つまで）

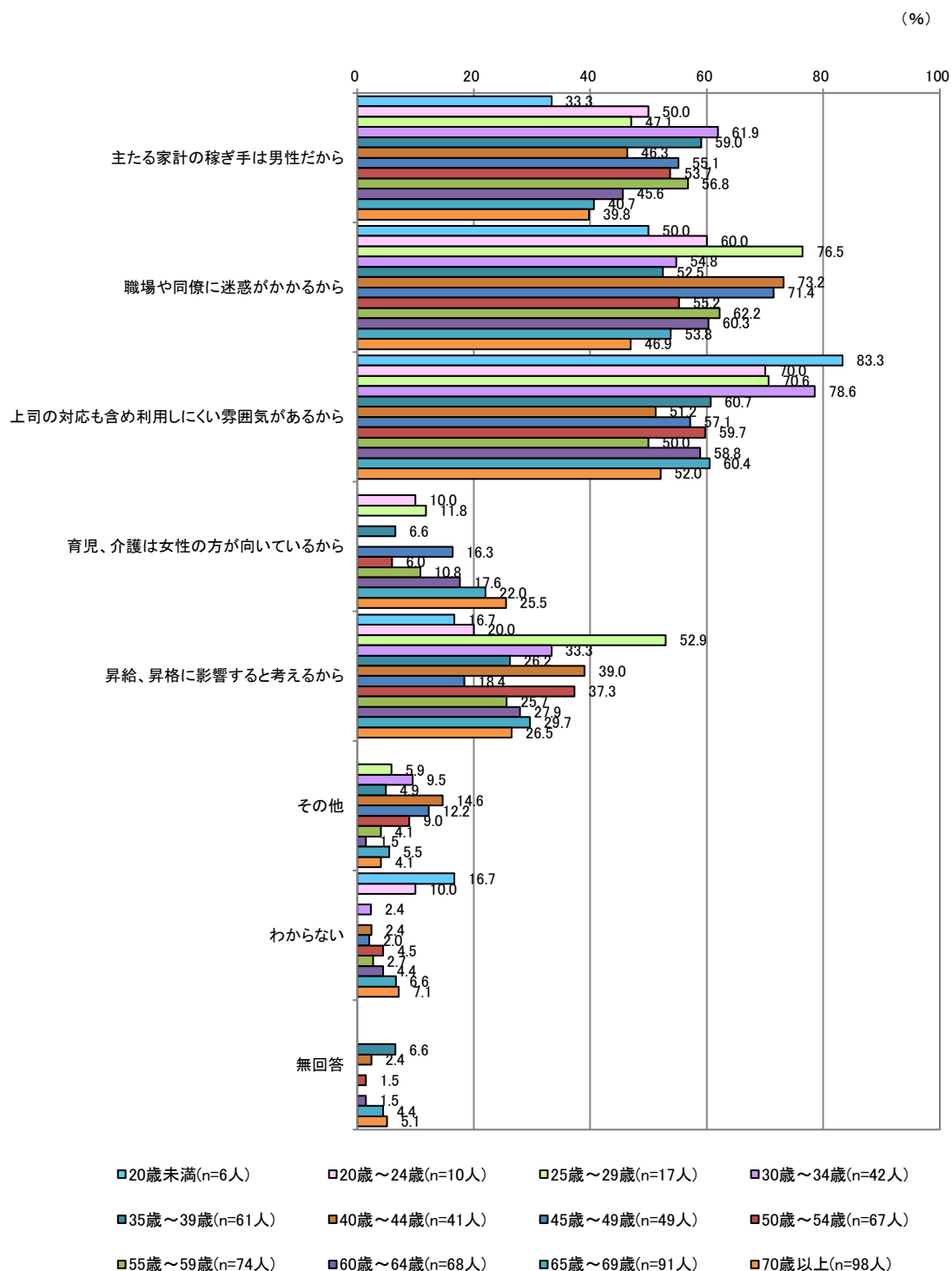
- 全体でみると、最も回答が多いのは、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（58.4%）で、約6割となっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（57.9%）、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（49.6%）となっている。
- 性別でみると、男性では「職場や同僚に迷惑がかかるから」（59.0%）、次いで「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（51.5%）、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（49.3%）となっている。
- 女性では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」（63.8%）が最も多くなっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」（57.0%）、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」（49.6%）となっている。





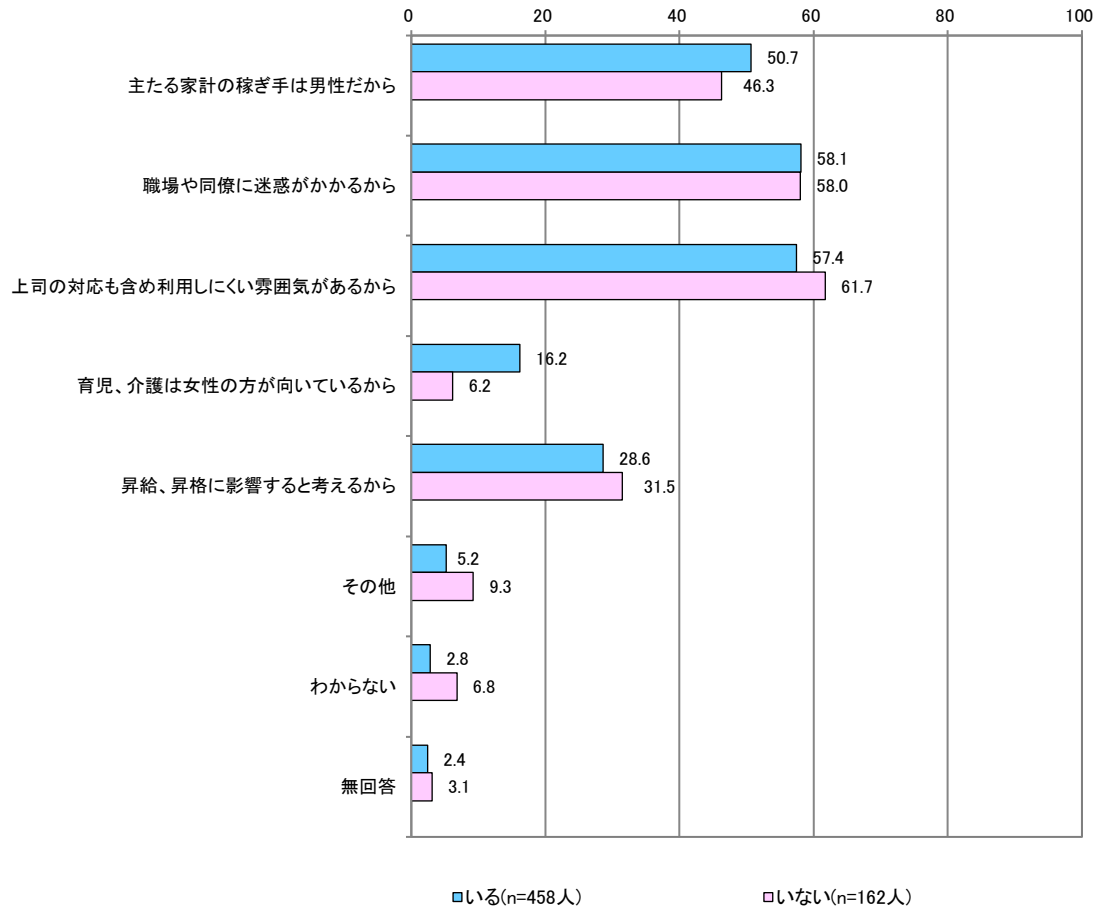
- ・年代別でみると、20歳未満、20歳～24歳、30歳～39歳、50歳～54歳、65歳以上で、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」が、25歳～29歳、40歳～49歳、55歳～64歳で「職場や同僚に迷惑がかかるから」が最も多くなっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(58.1%)が最も多くなっている。「いない」では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(61.7%)が最も多くなっている。

【年代別】



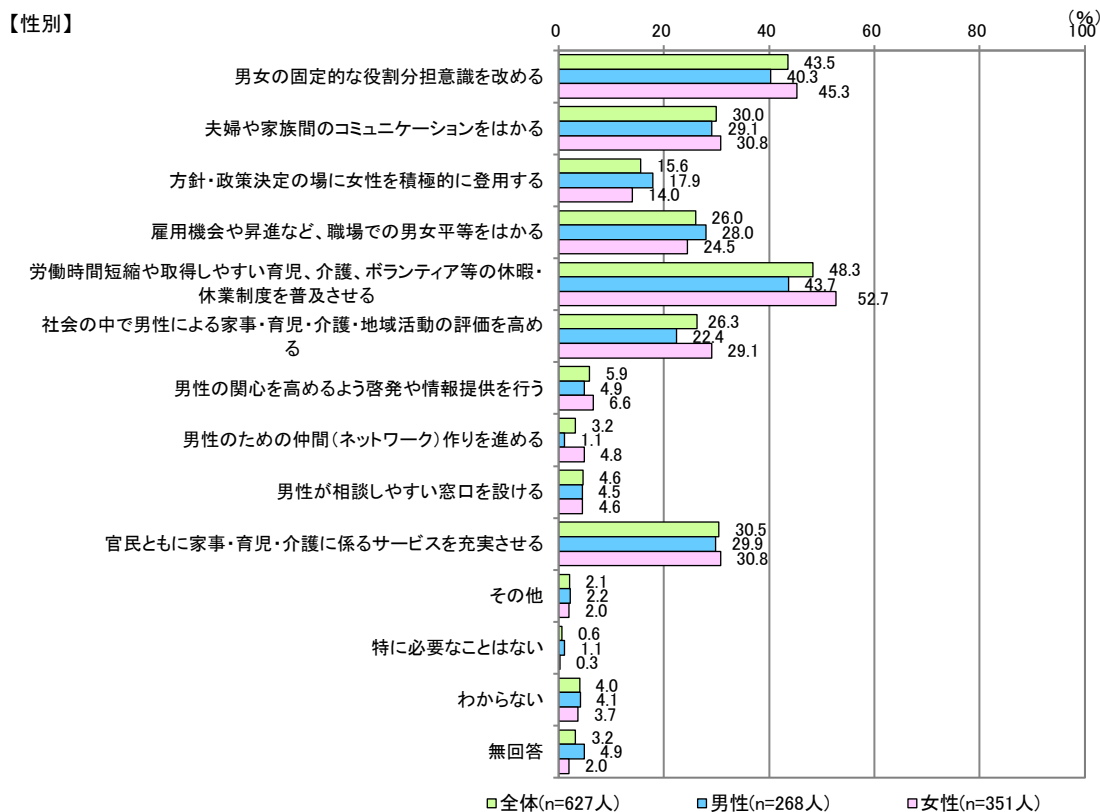
【子の有無別】

(%)

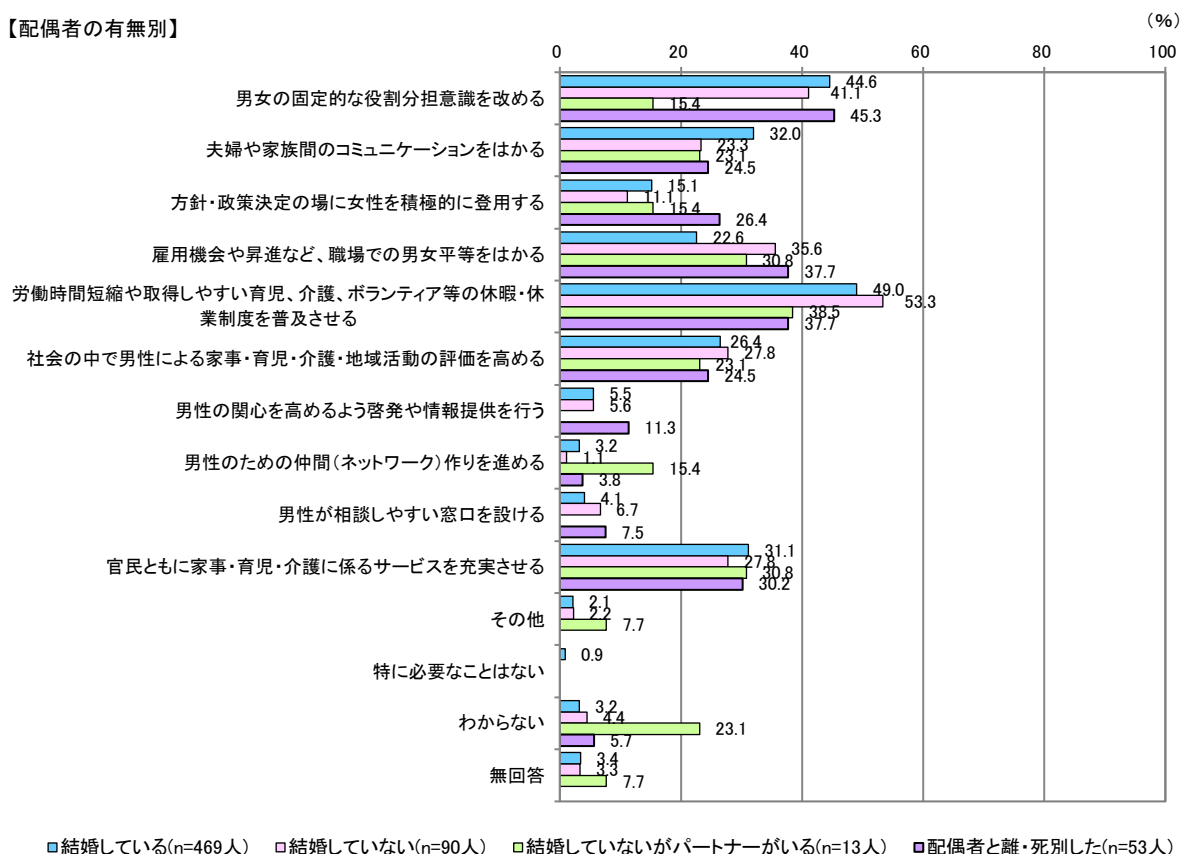


問 32 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（〇は3つまで）

- ・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(48.3%)が最も多く、約5割となっている。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(43.5%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(30.5%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(30.0%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(26.3%)と「雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる」(26.3%)と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、上位3項目の順位は同じ傾向となっている。「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」については、男性は43.7%、女性は52.7%と、女性が男性よりも多くなっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」という回答が、「配偶者と離・死別した」を除くいずれも最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「男女の固定的な役割分担意識を改める」という回答が最も多く、約5割となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、上位2項目はほぼ同じ割合である。「いない」では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」一番多くなり、5割を超えている。

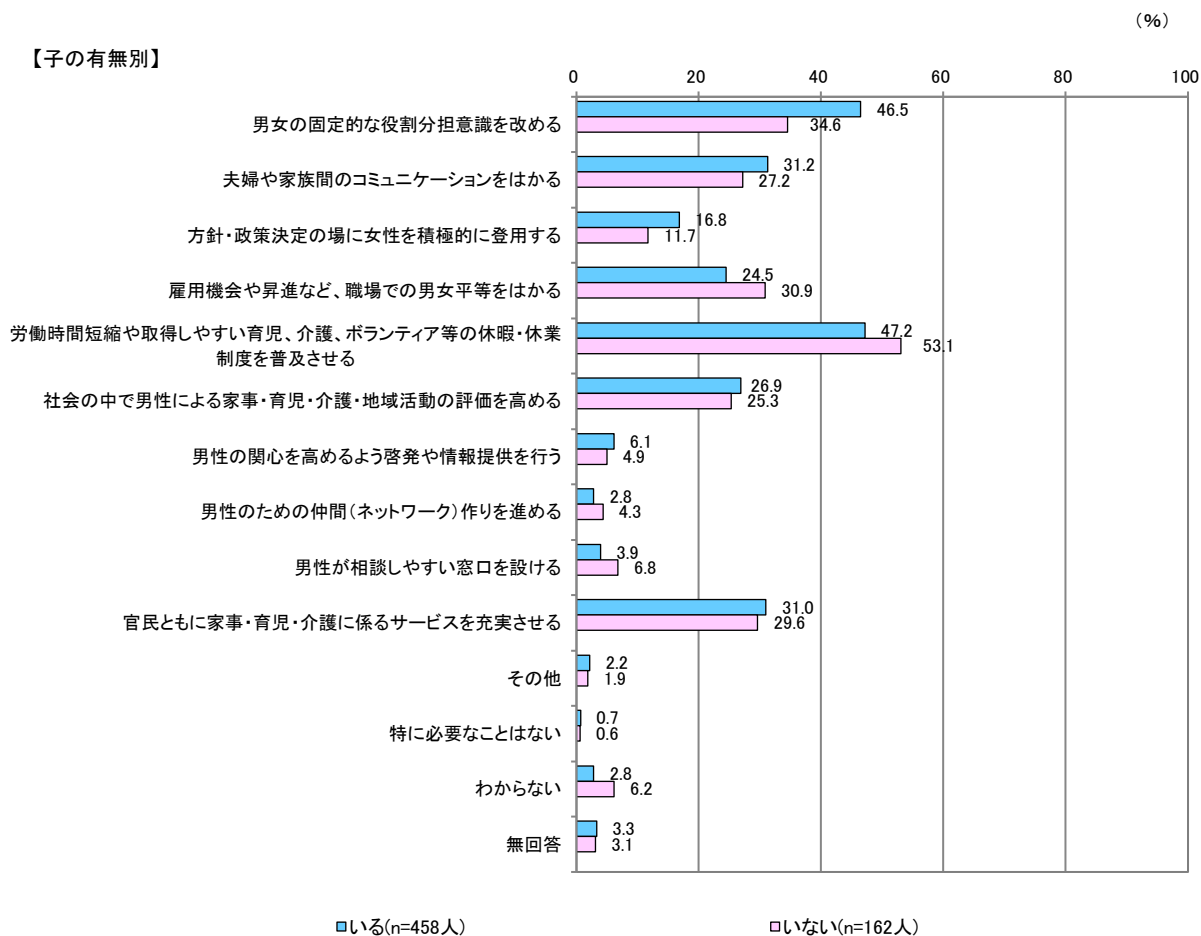


【配偶者の有無別】



■結婚している(n=469人) □結婚していない(n=90人) □結婚していないがパートナーがいる(n=13人) □配偶者と離・死別した(n=53人)

【子の有無別】



■いる(n=458人)

□いない(n=162人)

---

---

地域社会に関することについて

---

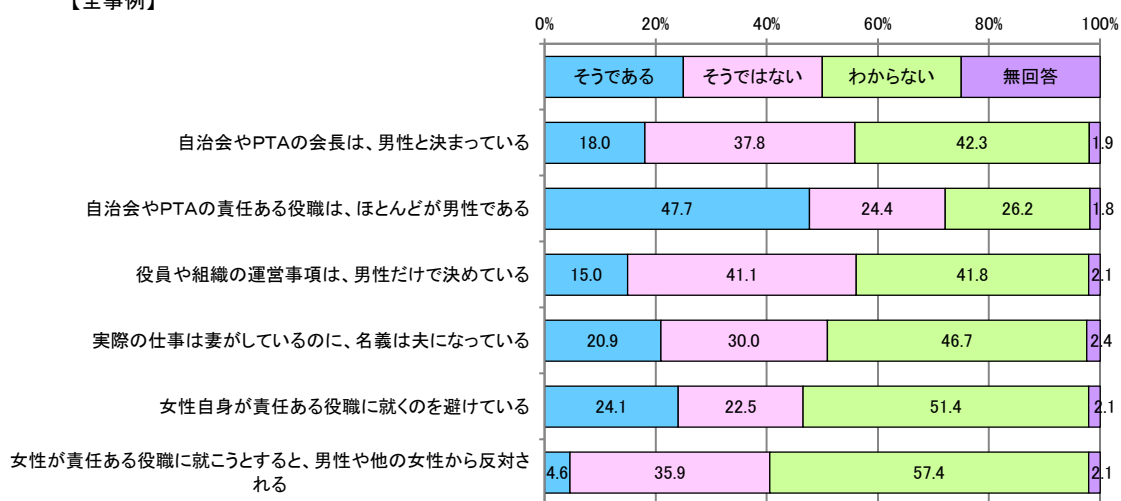
---



問 33 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。（それぞれ○は1つ）

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である」が最も多く、約5割（47.7%）となっている。次いで「女性自身が責任ある役職に就くのを避けている」（24.1%）、「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」（20.9%）、と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている」（41.1%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「自治会やPTAの会長は、男性と決まっている」（37.8%）、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」（35.9%）と続いている。

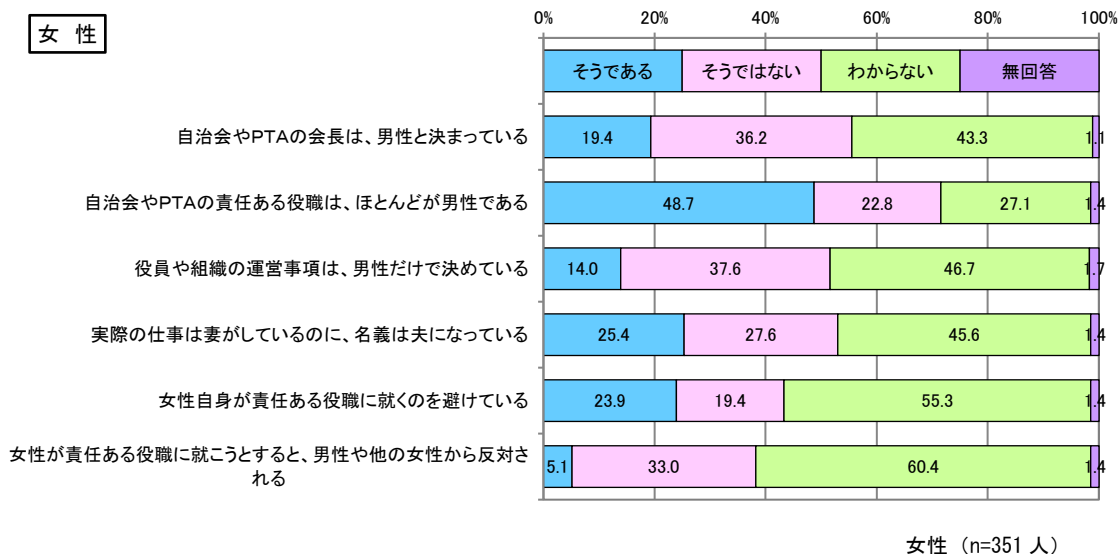
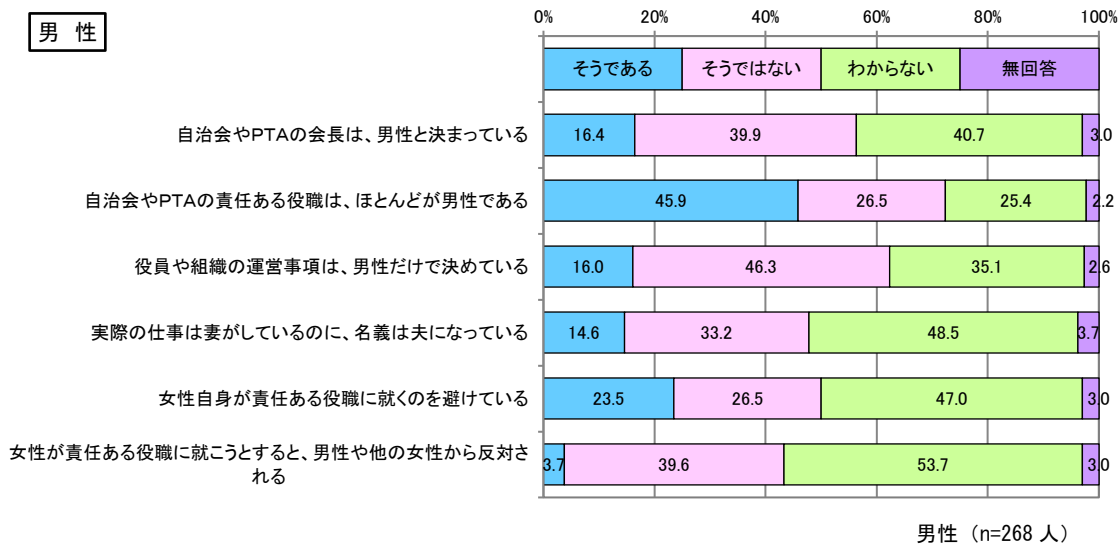
【全事例】



全体 (n=627 人)

- 性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっているものの、「そうである」という回答でみると、「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」では、女性の回答割合 25.4%が男性の 14.6%よりも多くなっている。また、「そうではない」という回答でみると、「役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている」では、男性の回答割合 46.3%が女性の回答割合 37.6%よりもやや多くなっている。

【性別】

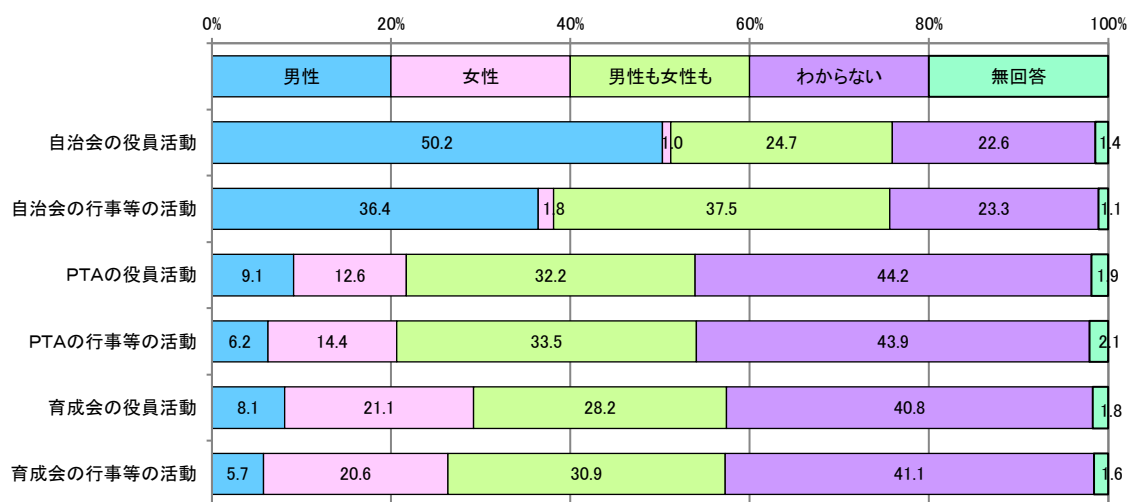




問 34 あなたが住んでいる地域では、次の 1 から 6 の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。（それぞれ〇は 1 つ）

- ・「男性」という回答でみると、「自治会の役員活動」が最も多く、約 5 割（50.2%）となっている。次に、「自治会の行事等の活動」（36.4%）、「PTA の役員活動」（9.1%）と続いている。
- ・一方、「女性」という回答は、「育成会の役員活動」（21.1%）が最も多く、約 2 割となっている。次いで「育成会の行事等の活動」（20.6%）、「PTA の行事等の活動」（14.4%）と続いている。
- ・「男性も女性も」という回答でみると、「自治会の行事等の活動」（37.5%）が最も多く、約 4 割となっている。次に「PTA の行事等の活動」（33.5%）、「PTA の役員活動」（32.2%）、「育成会の行事等の活動」（30.9%）と続いている。

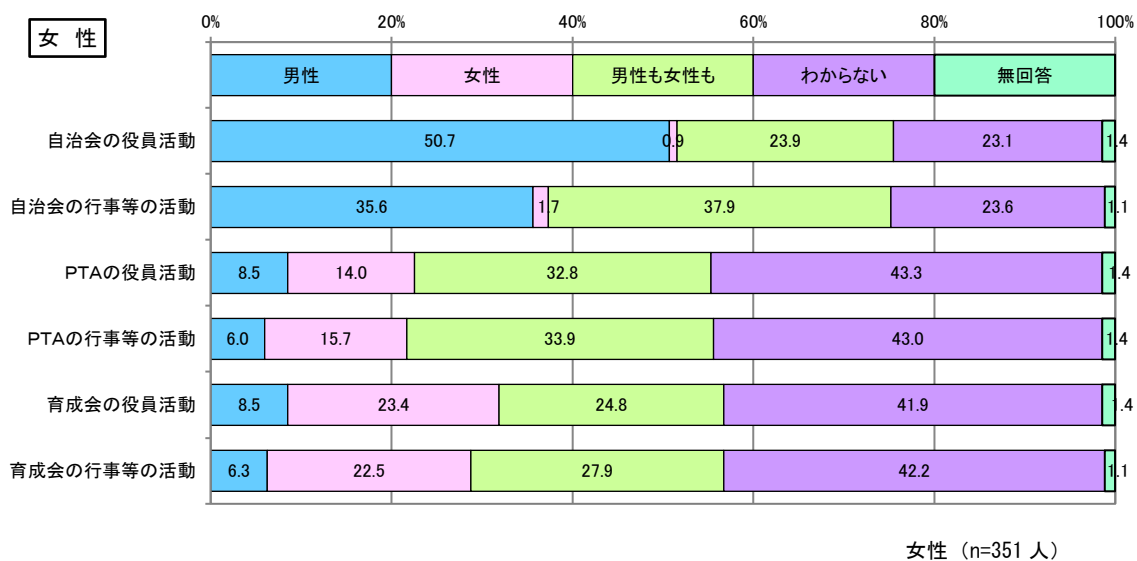
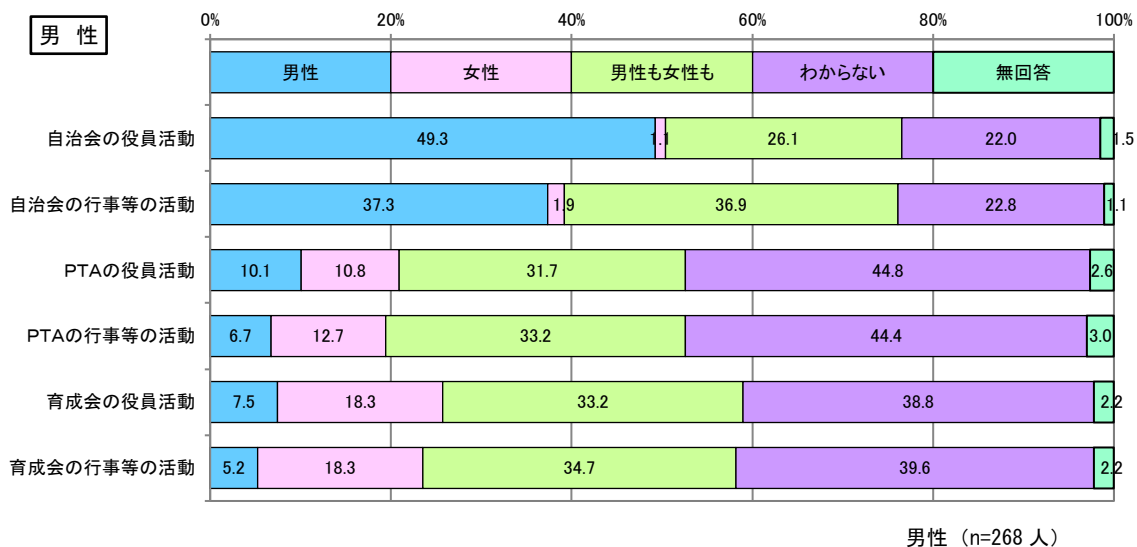
【全事例】



全体 (n=627 人)

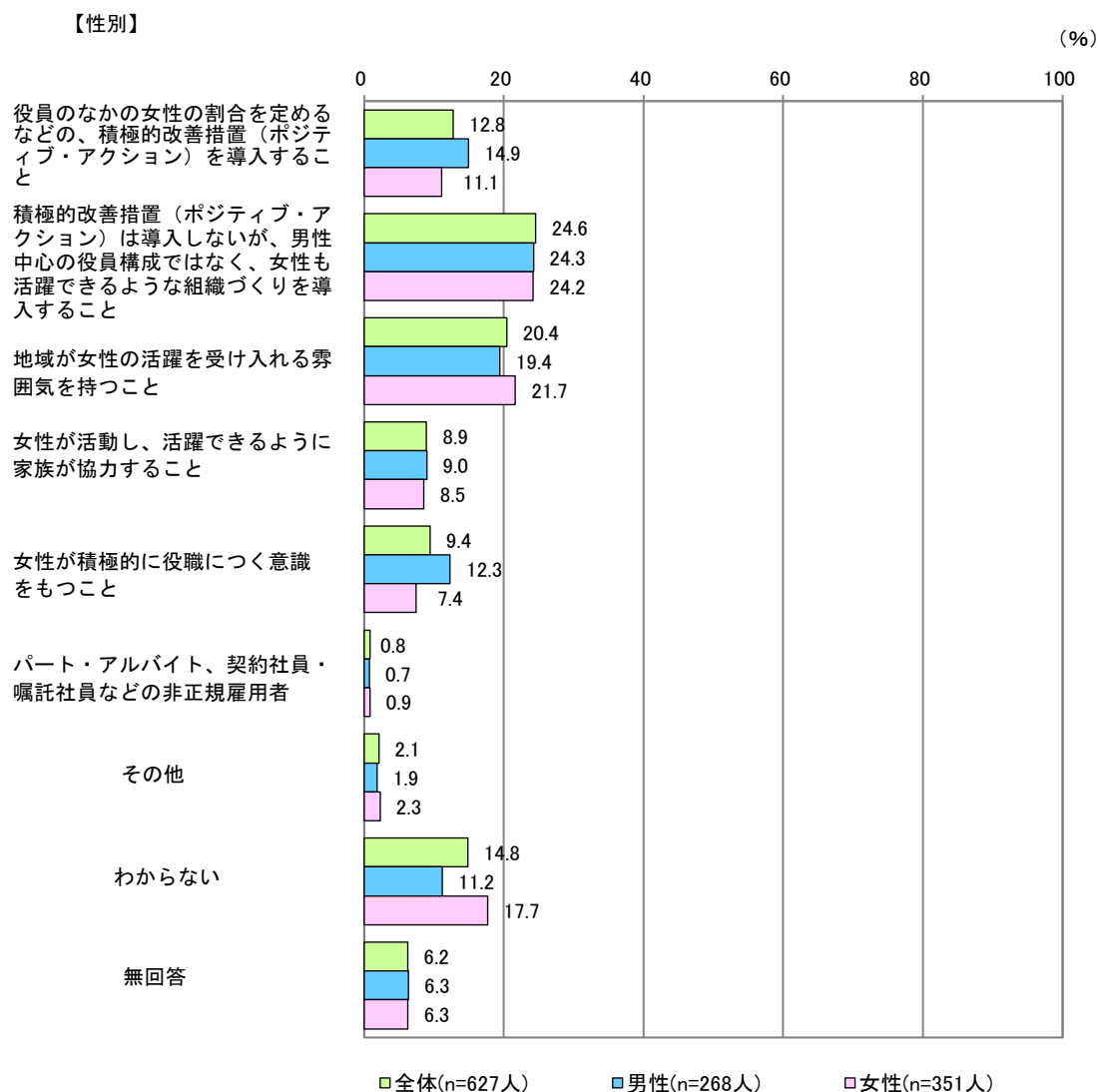
- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

【性別】



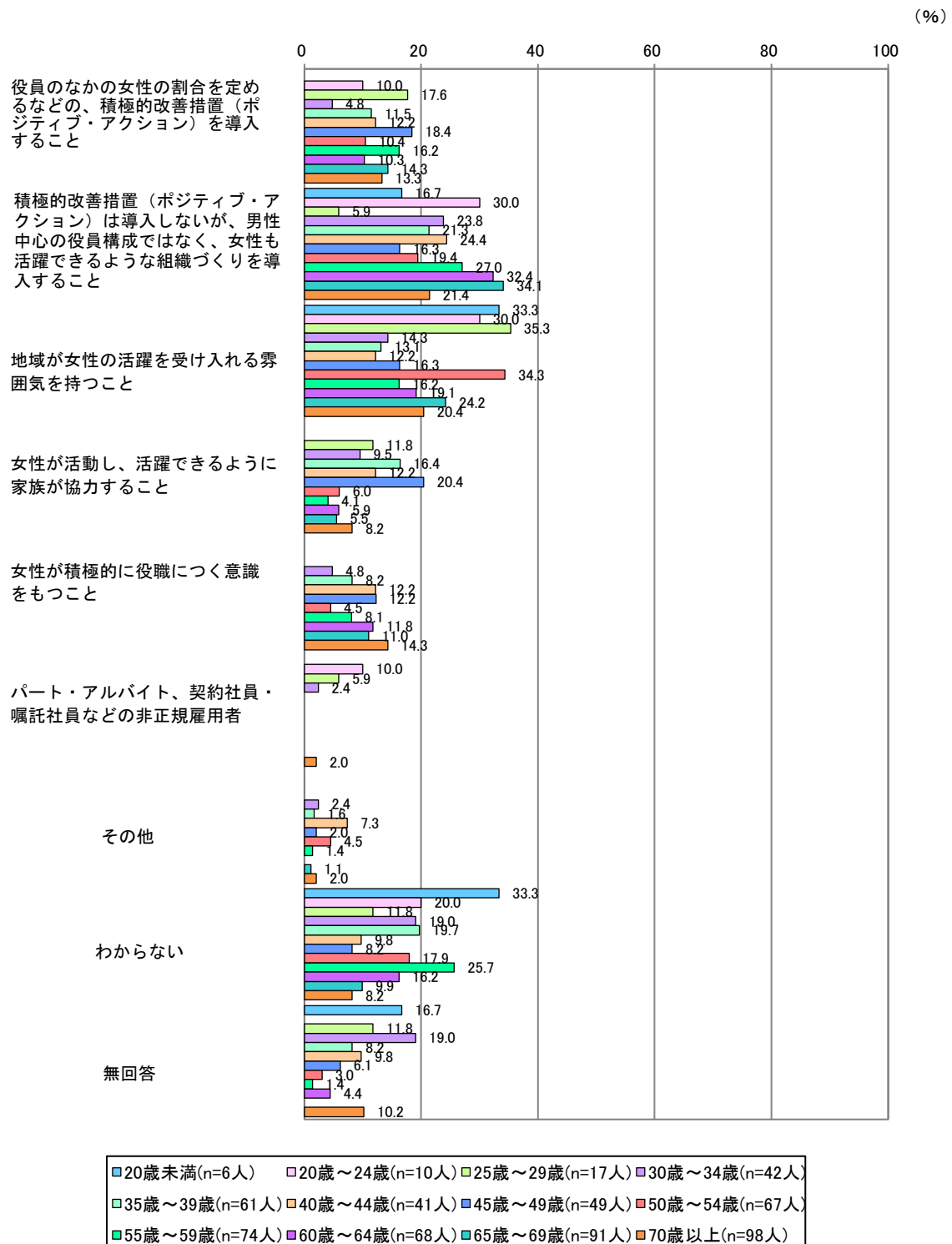
問 35 持続可能な地域づくりのためには、活動の企画立案、方針決定の場にあらゆる世代の男女が互いを尊重し、参画することが重要です。そのためには、女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。（〇は1つ）

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」（24.6%）が最も多くなっている。次に、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（20.4%）、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（12.8%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、上位3項目の順位は同じ傾向となっている。次いで、男性では、「女性が積極的に役職につく意識をもつこと」（12.3%）、女性では、「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」（8.5%）となっている。



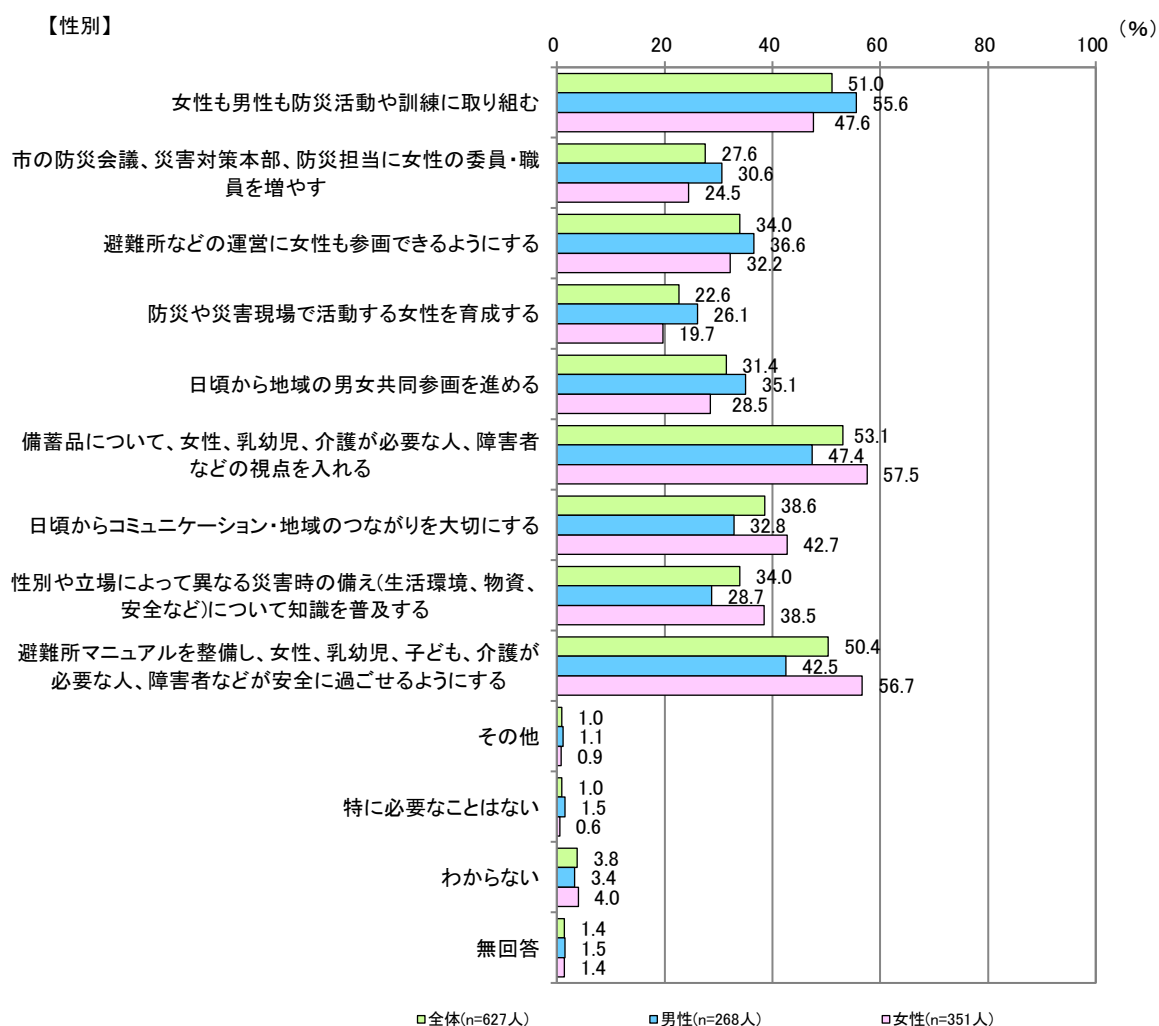
- ・年代別でみると20歳未満、20歳～29歳、50歳～54歳では、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」が最も多くなっている。また、45歳～49歳では、「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」が最も多く、他の年代では、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が多くなっている。

【年代別】



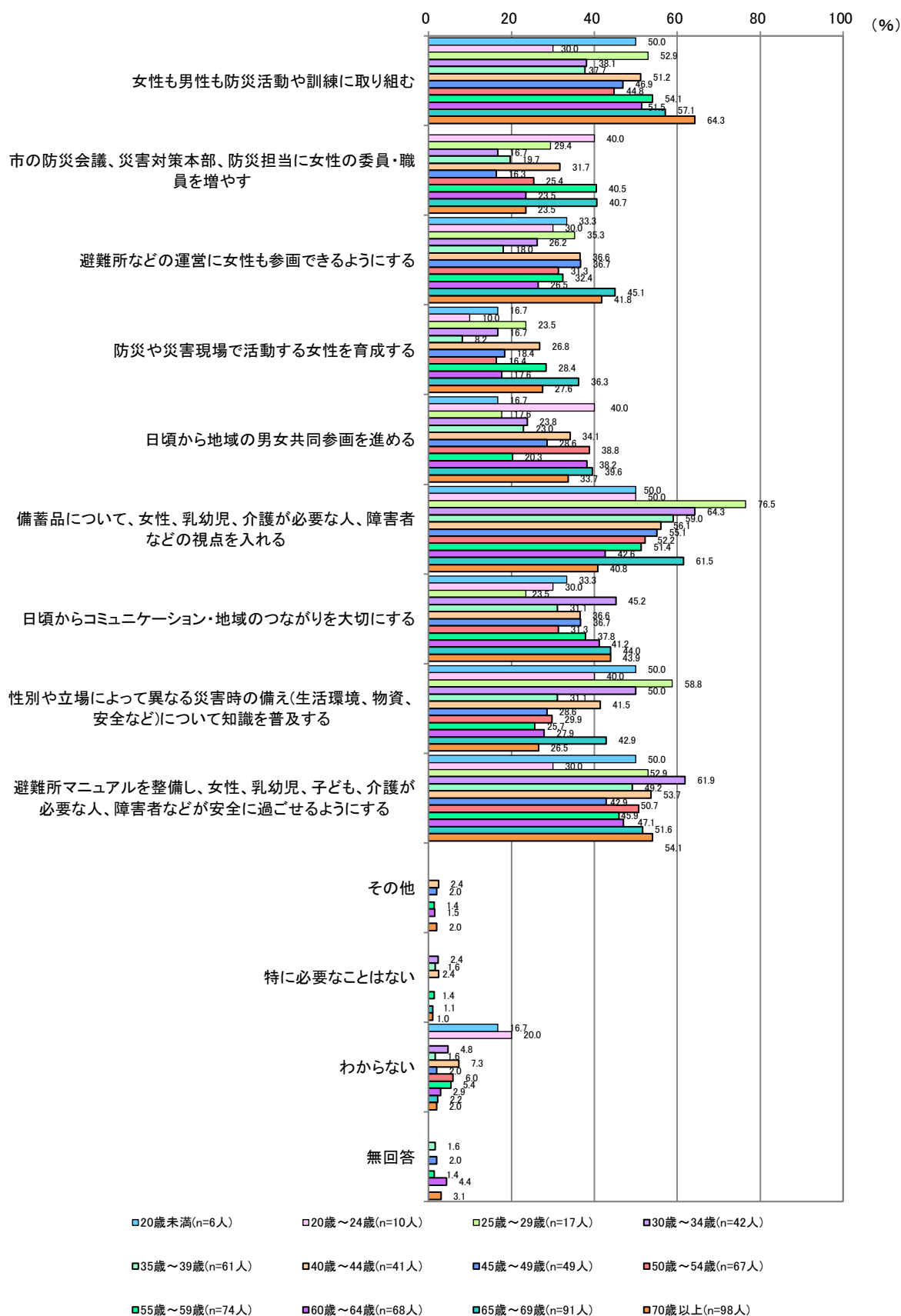
問 36 平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- ・全体でみると、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」(53.1%) が約5割と最も多くなっている。次に、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(51.0%)、「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする」(50.4%)と続いている。
- ・性別でみると、女性は、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」(57.5%) が最も多くなっている。一方、男性は、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(55.6%) が最も多くなっている。



- ・年代別で見ると、55歳～64歳、70歳以上で「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が最も多くなっている。20歳～54歳、65歳～69歳では、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」が最も多くなっている。

【年代別】



---

---

## 男女の人権に関することについて

---

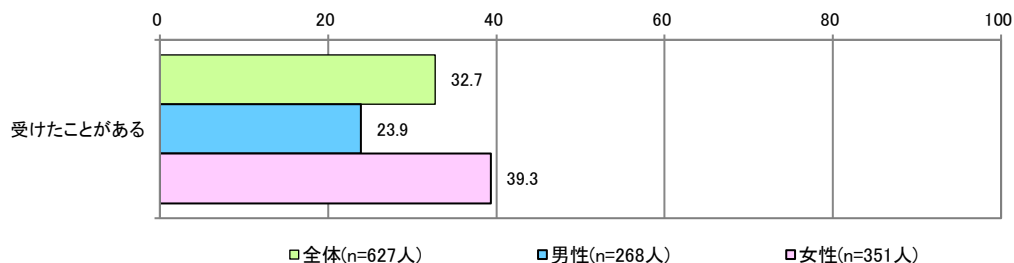
---





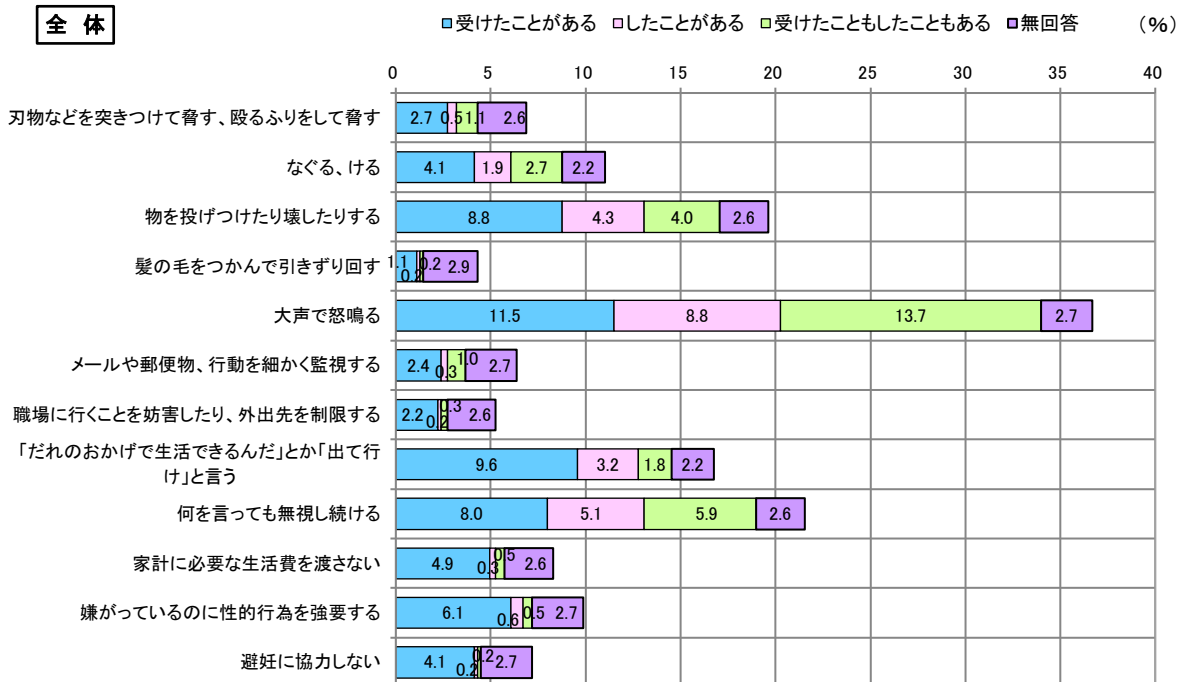
問 37 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。  
あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。（それぞれ○は1つ）

- ・いずれかを「受けたことがある」という回答は、全体では32.7%となっている。
- ・性別で見ると、男性では23.9%、女性では39.3%となっている。



- ・具体的な内容としては、全体で見ると、「受けたことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(11.5%)が最も多くなっており、次いで『だれのおかげで生活できるんだ』とか『出て行け』と言う(9.6%)、「物を投げつけたり壊したりする」(8.8%)と続いている。「したことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(8.8%)が最も多くなっており、次いで、「何を言っても無視し続ける」(5.1%)、「物を投げつけたり壊したりする」(4.3%)と続いている。「受けたこともしたこともある」という回答では、「大声で怒鳴る」(13.7%)が最も多くなっており、次いで「何を言っても無視し続ける」(5.9%)、「物を投げつけたり壊したりする」(4.0%)と続いている。

**全体**

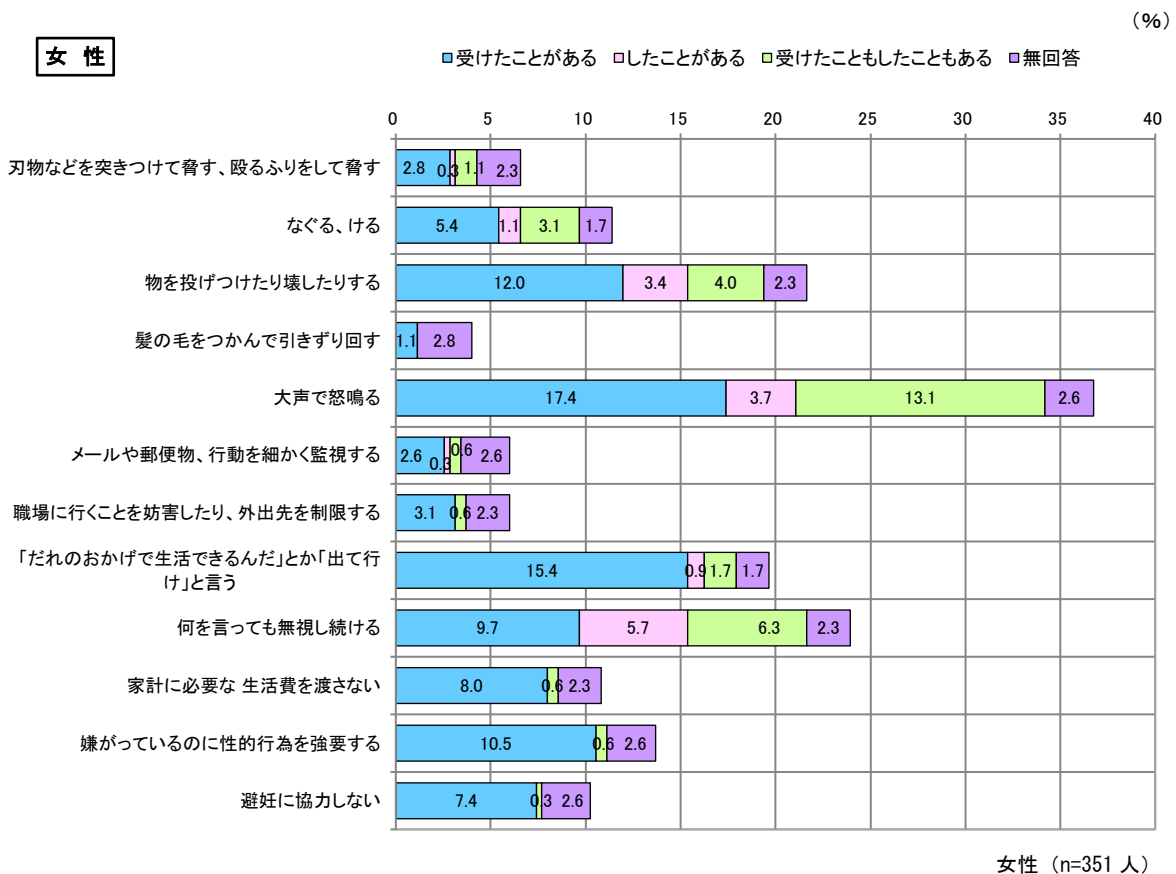
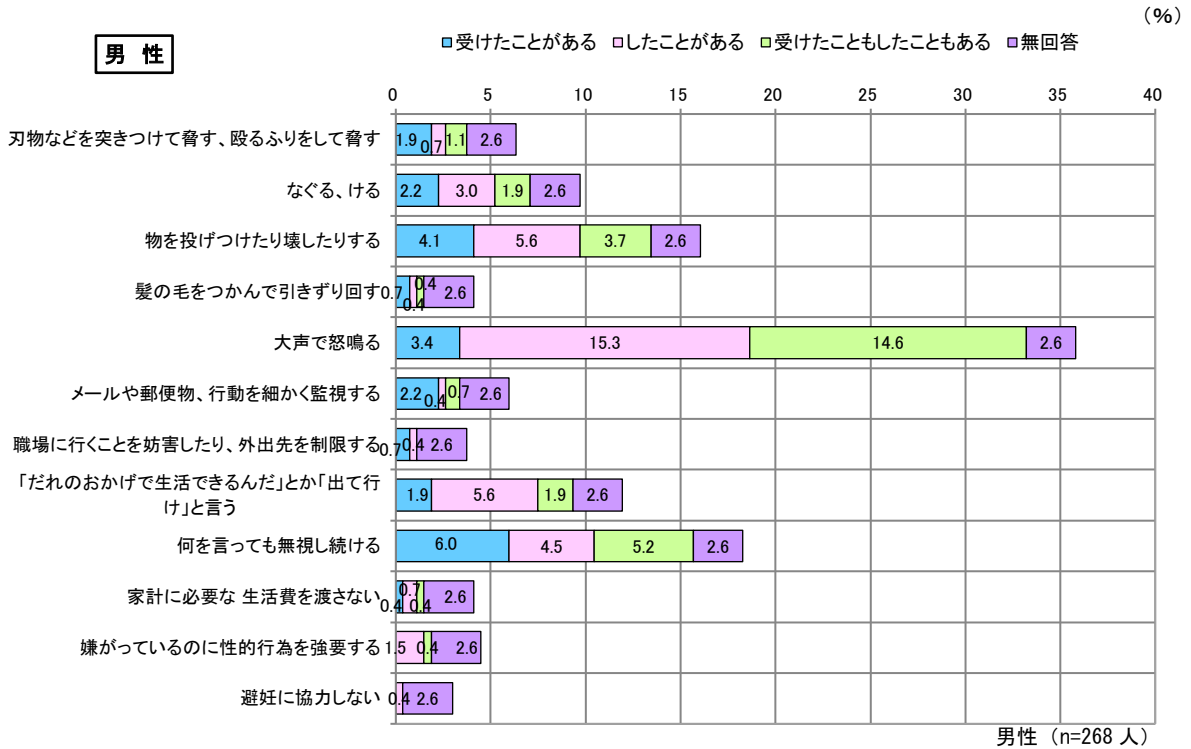


全体 (n=627人)

※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

・性別でみると、「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。

【性別】

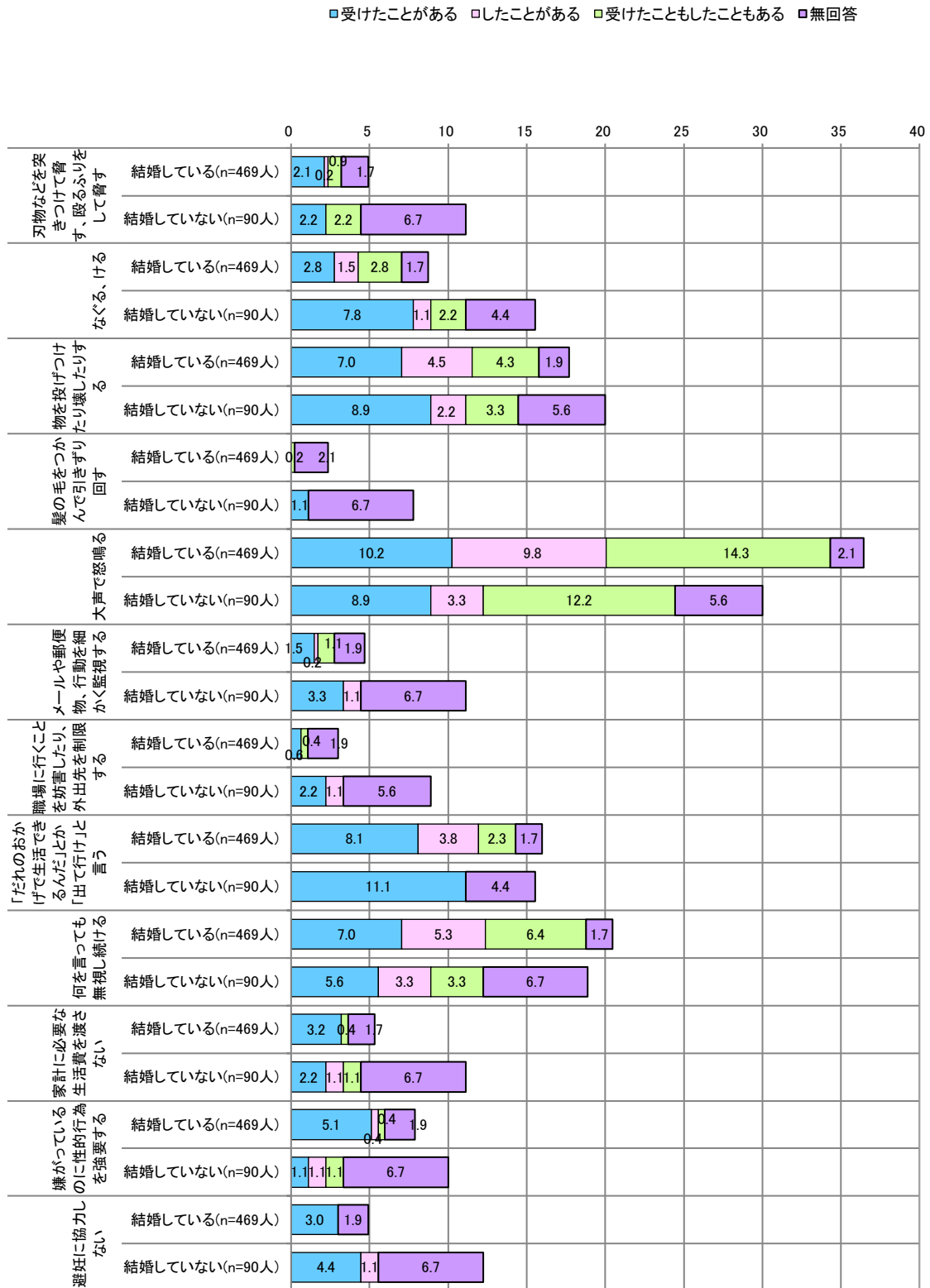


※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

- ・婚姻の有無別にみると、「大声で怒鳴る」、「物を投げつけたり壊したりする」、「何を言っても無視し続ける」では、「結婚している」が「結婚していない」よりも回答割合が多くなっている。

【婚姻の有無別】

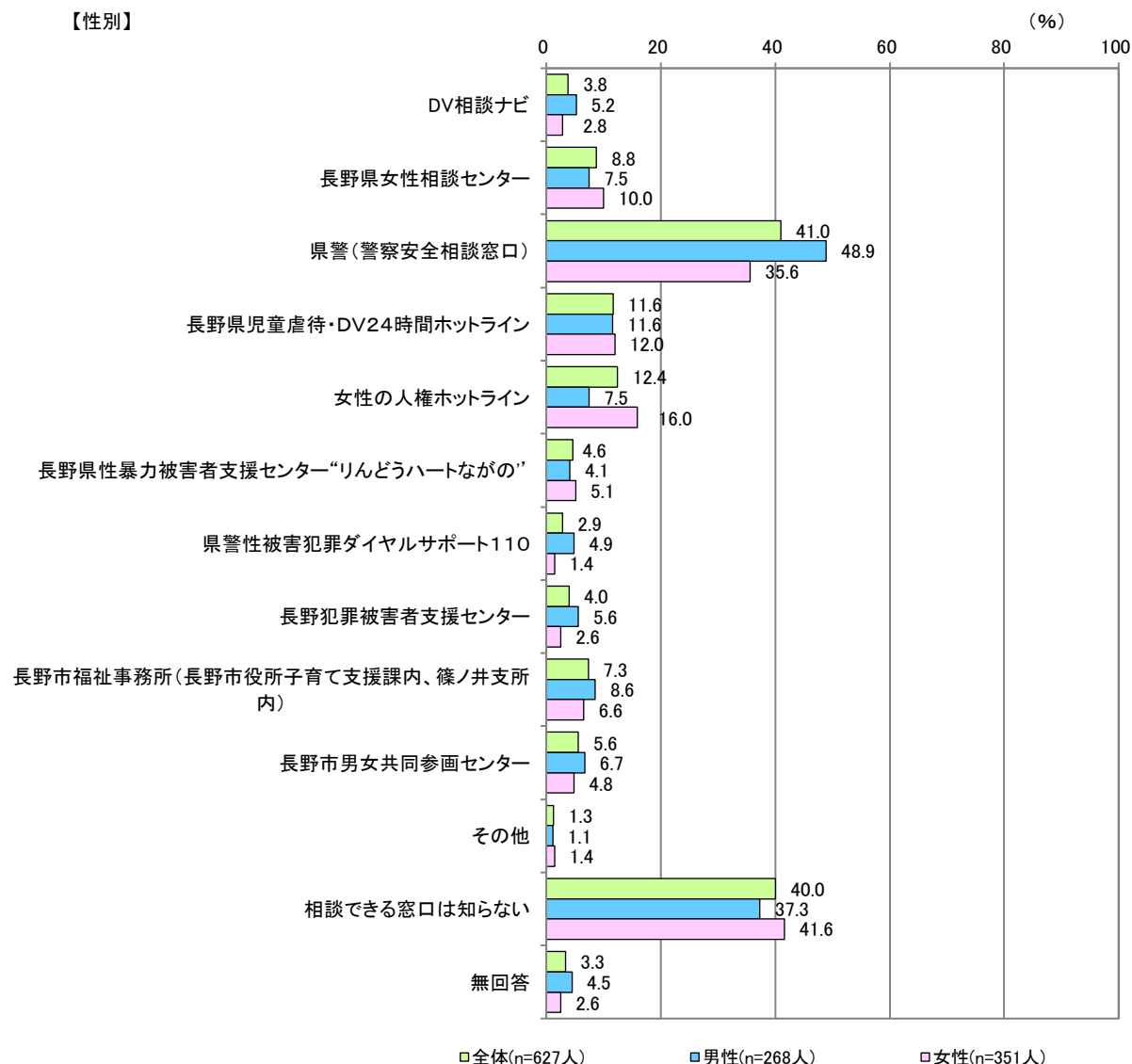
(%)



問 38 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口をお選びください。(〇はいくつでも)

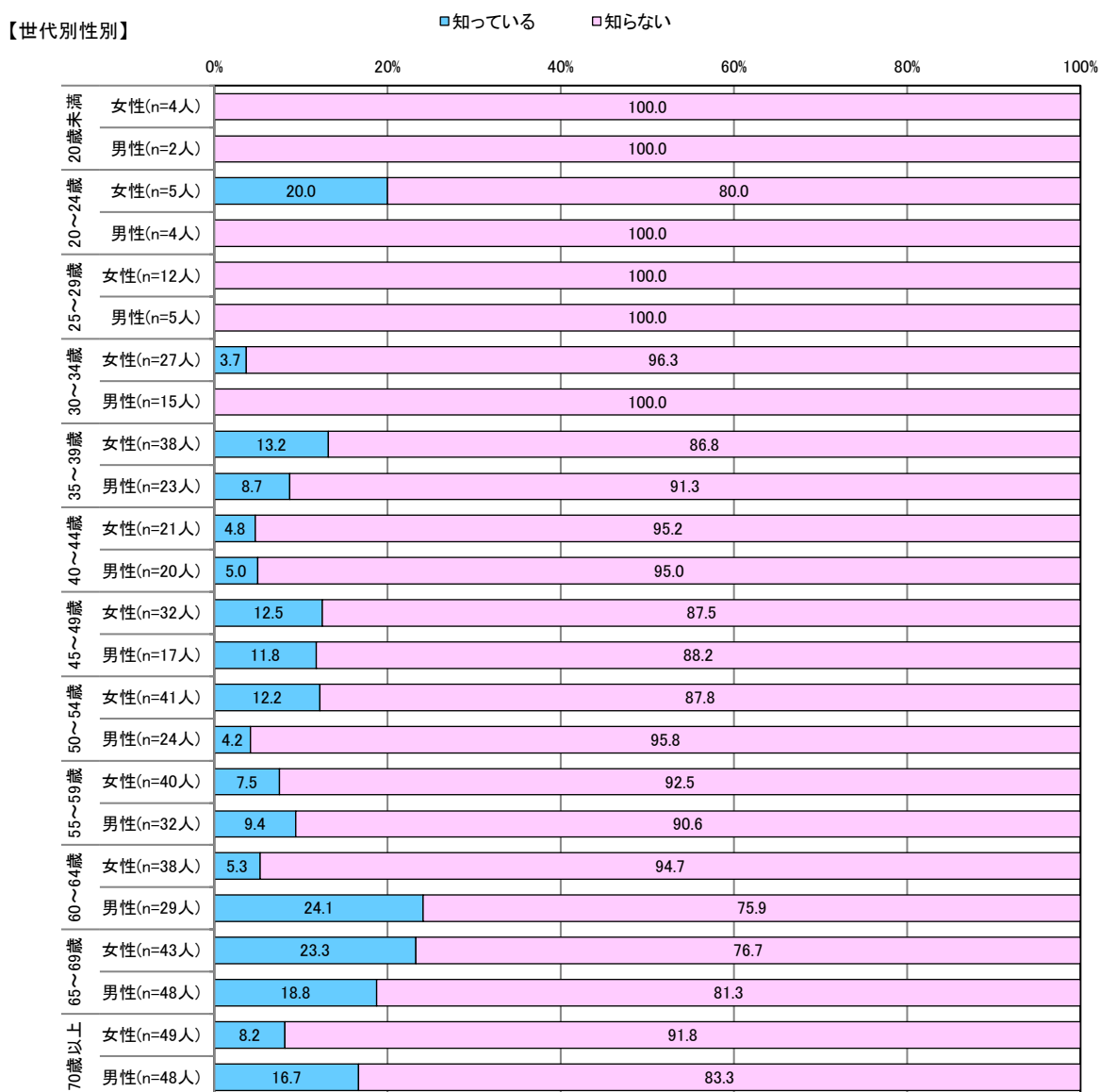
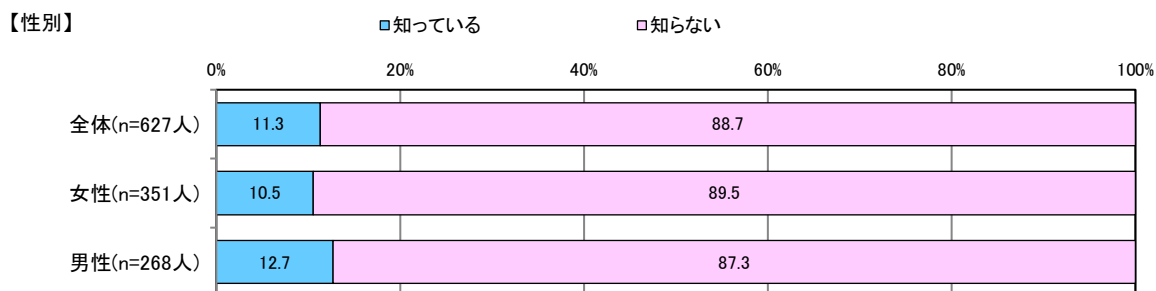
- ・全体で見ると、最も回答が多かったのは「県警(警察安全相談窓口)」(41.0%)で、約4割となっている。次いで、「相談できる窓口は知らない」(40.0%)、「女性の人権ホットライン」(12.4%)、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」(11.6%)、「長野県女性相談センター」(8.8%)、「長野市福祉事務所」(7.3%)と続いている。
- ・性別で見ると、男性においては、「県警(警察安全相談窓口)」(48.9%)が約5割と最も多くなっている。次に、「相談できる窓口は知らない」(37.3%)、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」(11.6%)、「長野市福祉事務所」(8.6%)の順となっている。一方、女性においては、「相談できる窓口は知らない」(41.6%)が最も多く、次に、「県警(警察安全相談窓口)」(35.6%)、「女性の人権ホットライン」(16.0%)、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」(12.0%)となっており、男性とは異なる回答となり、男女の認知度に差がある。

【性別】

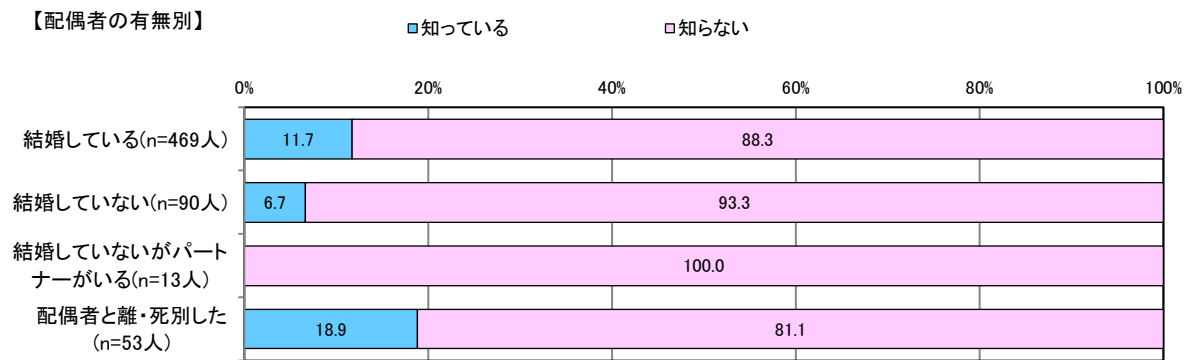


## <DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

- ・問 38 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答は、約1割（11.3%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答は、「女性」（10.5%）の方が「男性」（12.7%）よりやや少なくなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の女性、60歳～64歳の男性、65歳～69歳の女性の世代で、「知っている」回答割合が2割を超えている。



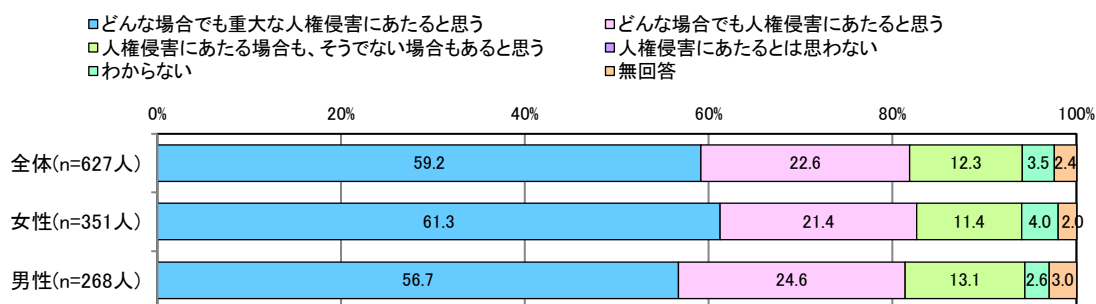
・配偶者の有無別で見ると、いずれも「知っている」が2割未満であった。特に、「結婚していない」では、6.7%となっている。



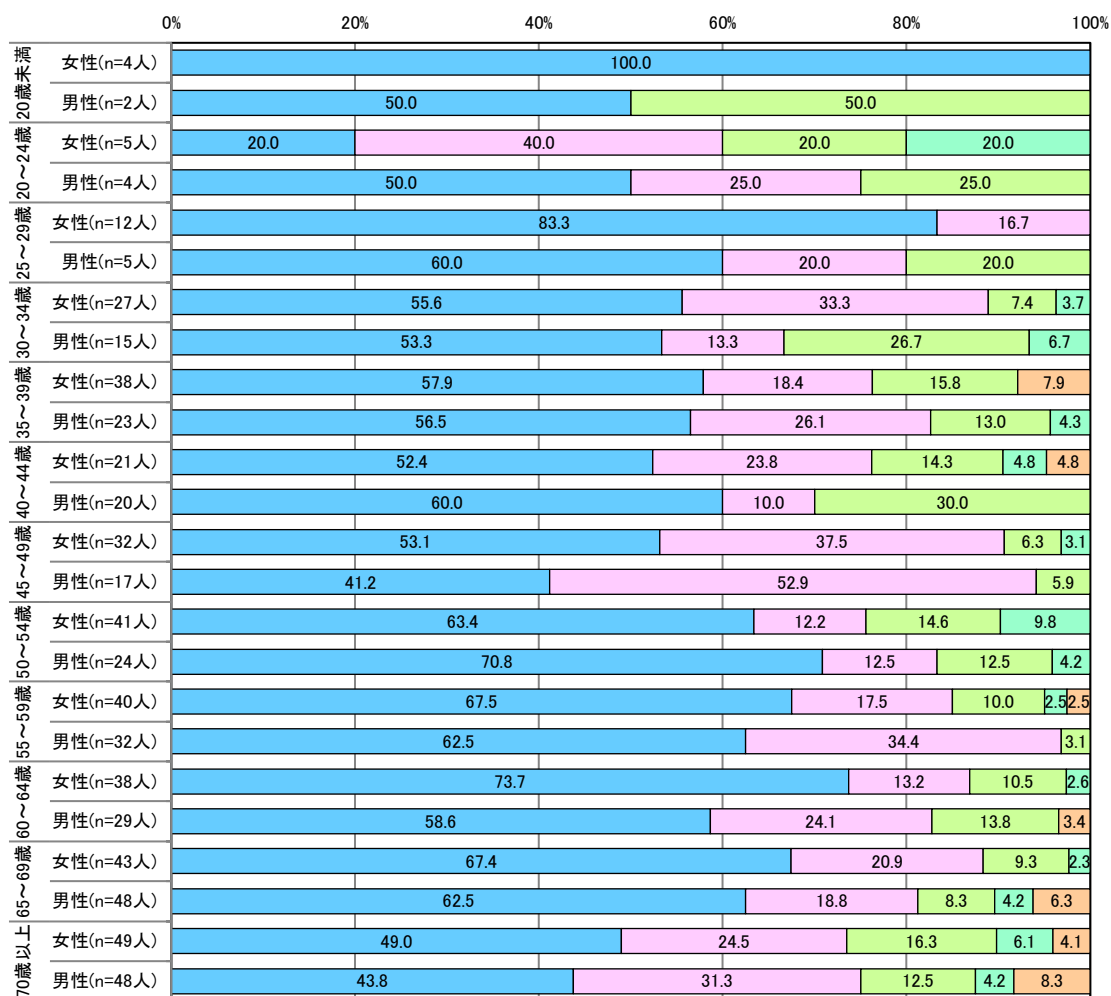
問 39 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。（○は1つ）

- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」（59.2%）が最も多い回答となり、約6割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（22.6%）、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（12.3%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」となり、次に「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答となっている。
- ・世代別性別でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」という回答は、20歳～24歳の女性を除く、いずれの世代でも4割以上と最も多い回答となっている。

【性別】



【世代別性別】



・配偶者の有無別でみると、いずれも、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、5割以上となっている。

【配偶者の有無別】

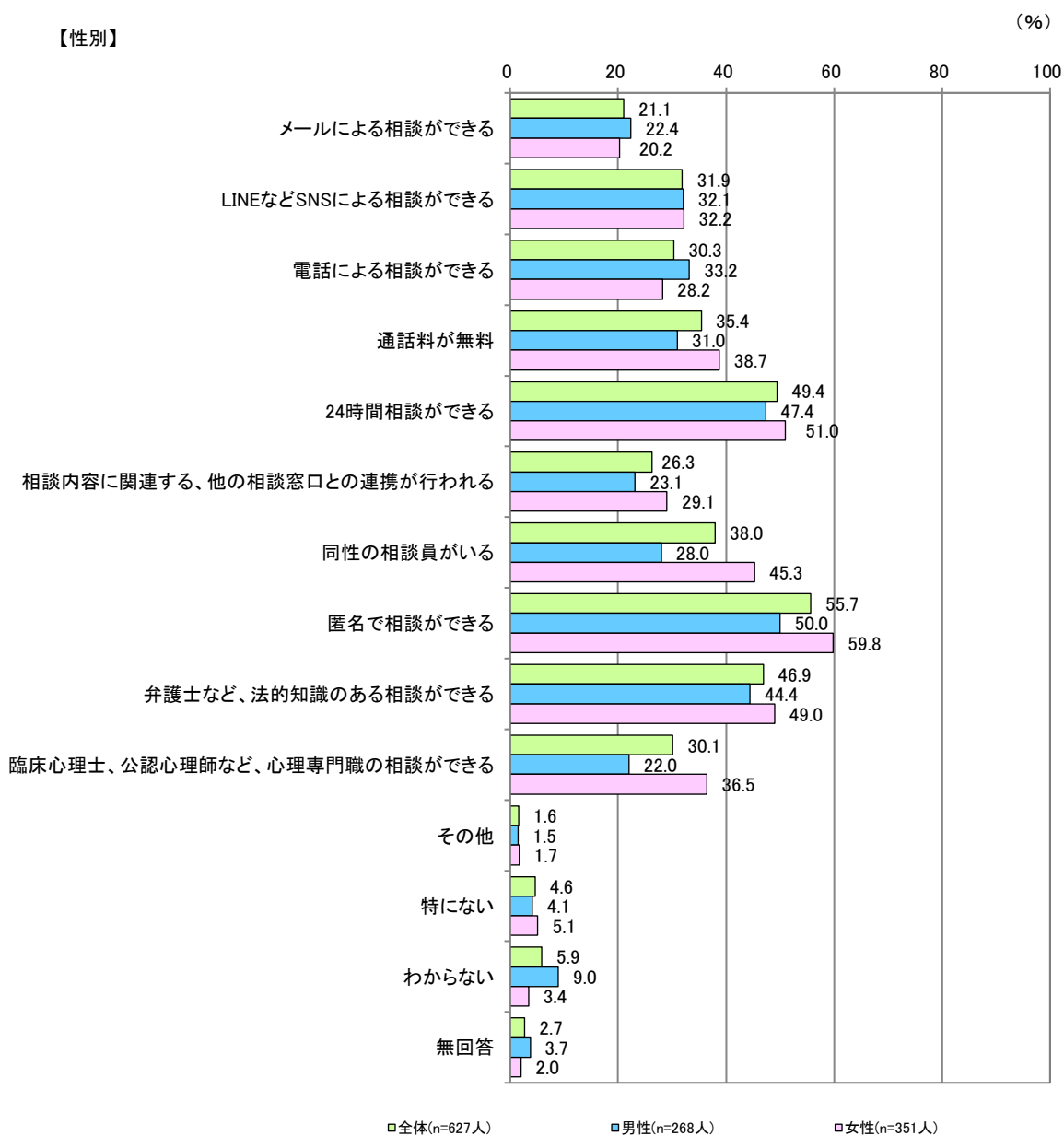
- どの場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- どの場合でも人権侵害にあたると思う
- 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 人権侵害にあたるとは思わない
- わからない
- 無回答





問 40 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。（〇はいくつでも）

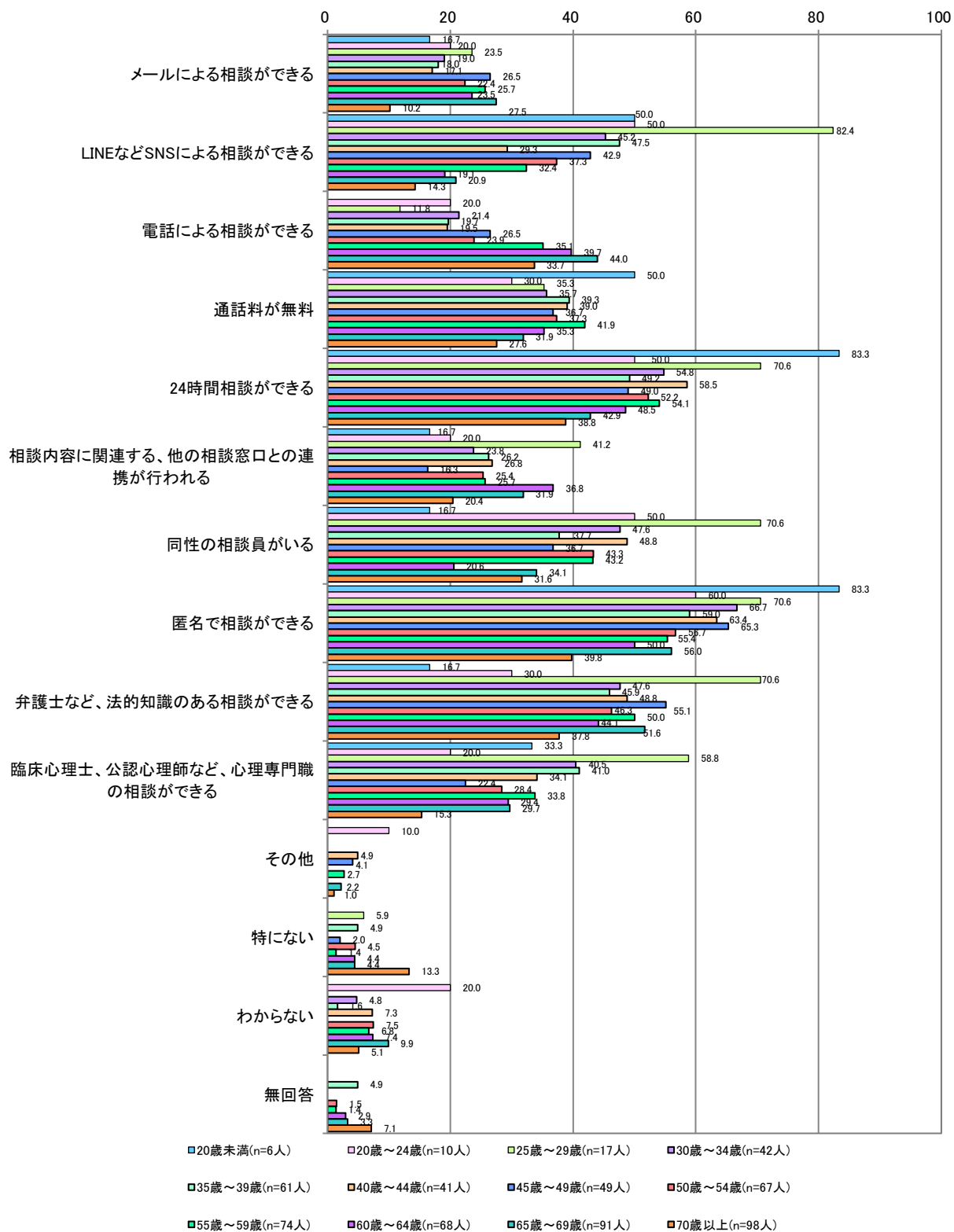
- ・全体で見ると、最も回答が多かったのは「匿名で相談ができる」(55.7%)で、約6割となっている。次いで、「24時間相談ができる」(49.4%)、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」(46.9%)、「同性の相談員がいる」(38.0%)、「通話料が無料」(35.4%)、「電話による相談ができる」(30.3%)と続いている。
- ・性別で見ると、男女ともに、「匿名で相談ができる」が最も多くなっている。次に、「24時間相談ができる」、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」となっている。
- ・「同性の相談員がいる」という回答では、女性の回答割合が約5割と、男性よりも高くなっている。



- ・年代別で見ると、25歳～29歳を除く世代で、「匿名で相談ができる」が最も多い回答となっている。25歳～29歳では、「LINEなどSNSによる相談ができる」が最も多くなっている。

【年代別】

(%)



---

---

## 「性」の多様性に関することについて

---

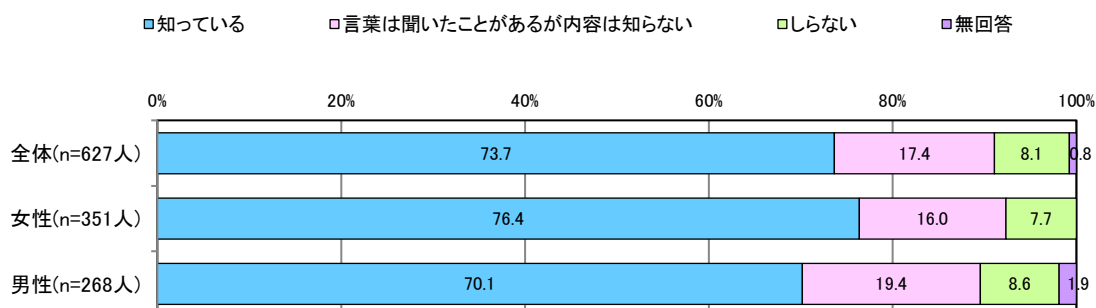
---



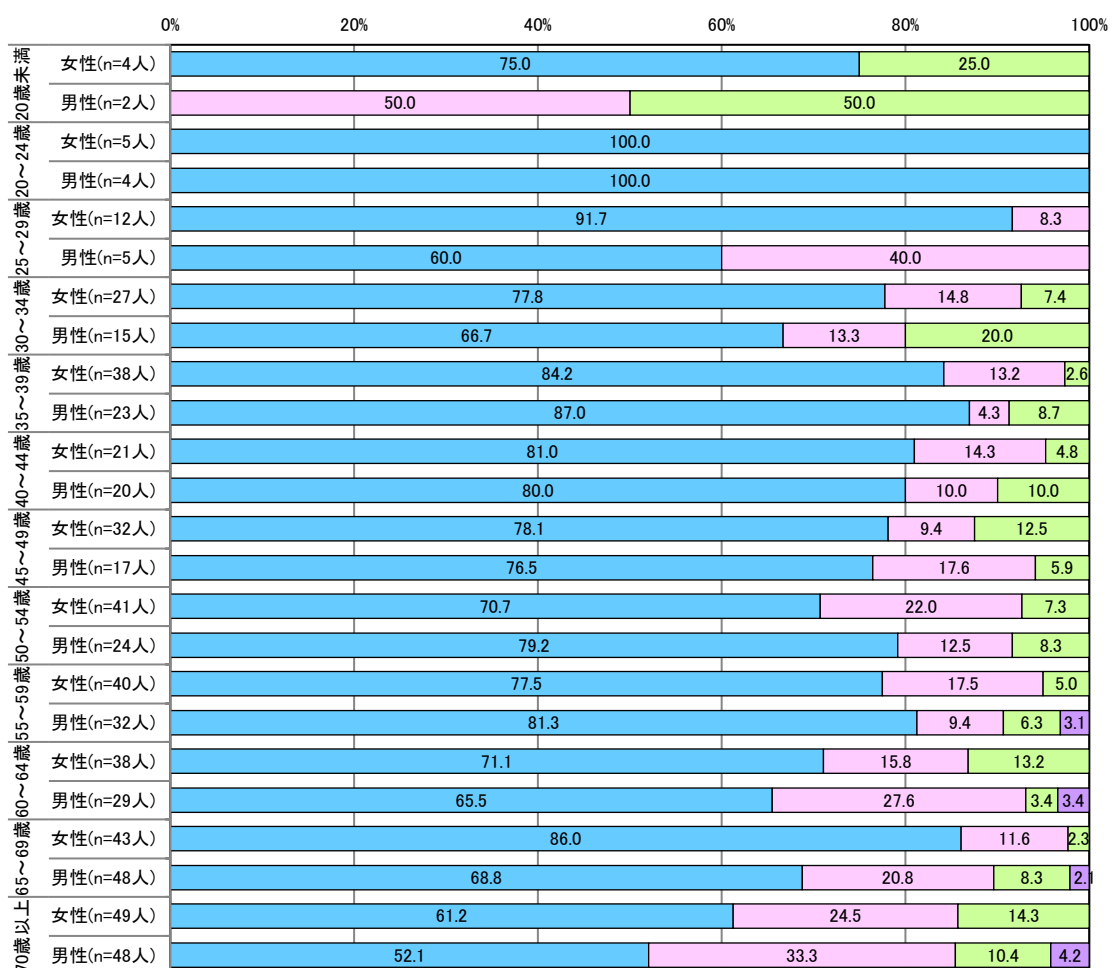
問 41 あなたは「性的マイノリティ(性的少数者)」または「LGBTQ」という言葉を(どちらか一方でも)知っているか、または聞いたことがありますか。

- ・全体でみると、「知っている」(73.7%)が最も多い回答となっており、約7割となる。次いで、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」(17.4%)、「知らない」(8.1%)と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「知っている」となり、次に「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、「知っている」という回答は、20歳未満の男性を除き、いずれの世代でも6割以上と最も多い回答となっている。

【性別】



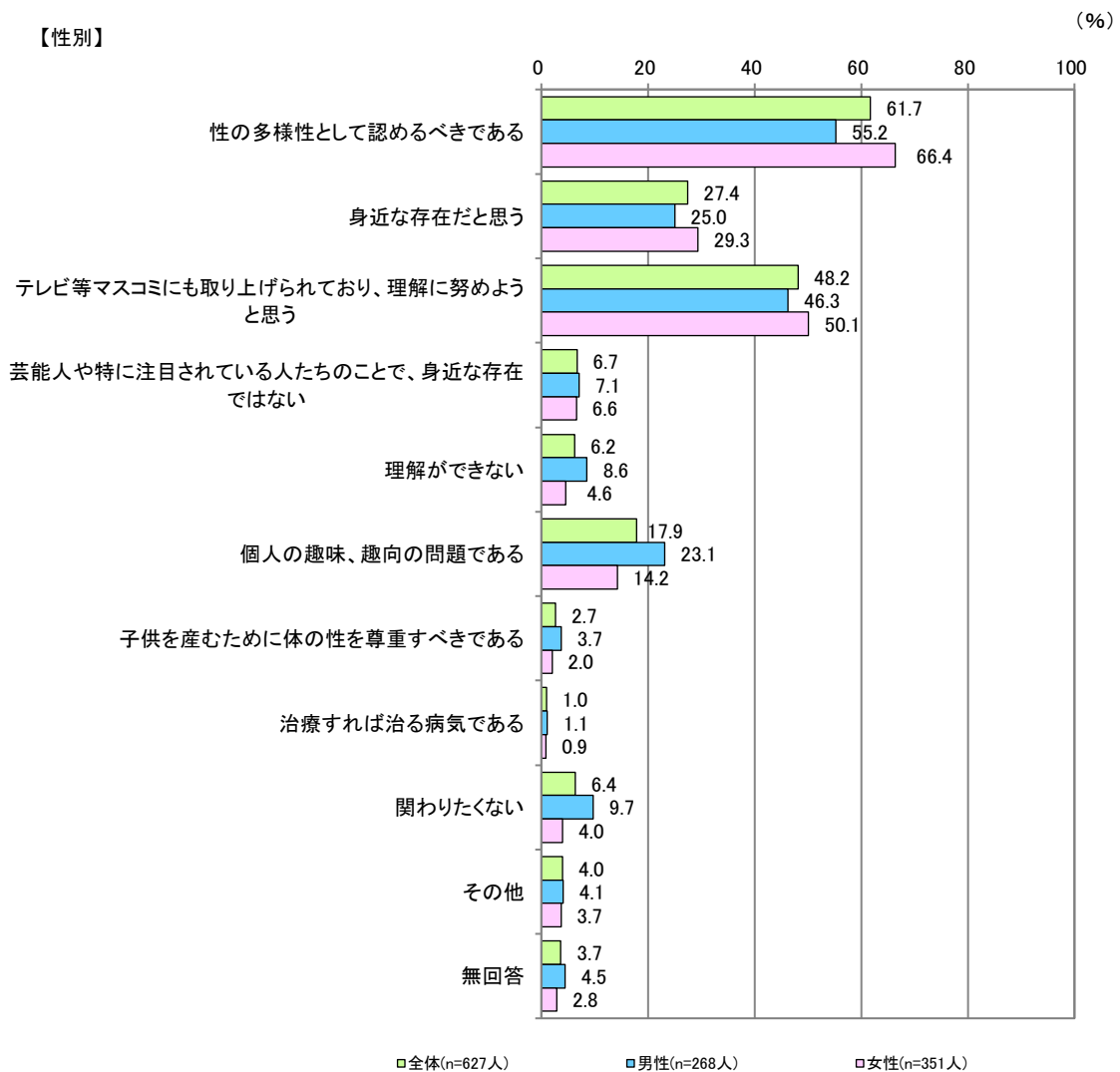
【世代別性別】



問 42 性的マイノリティ(性的少数者)についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。あなたの考えに近いものをお選び下さい。(○は3つ)

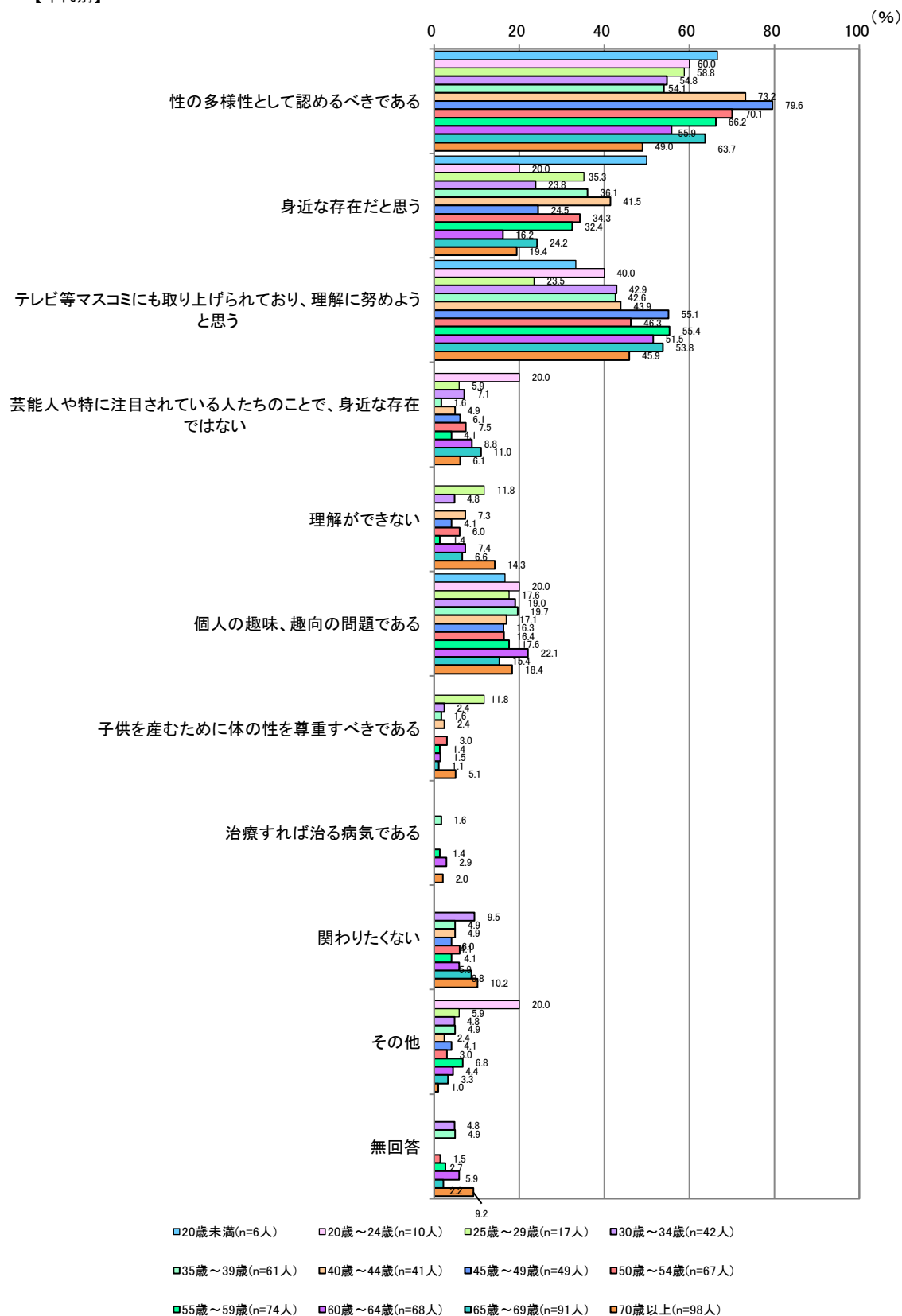
・全体で見ると、最も回答が多かったのは「性の多様性として認めるべきである」(61.7%)で、約6割となっている。次いで、「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」(48.2%)、「身近な存在だと思う」(27.4%)、「個人の趣味、趣向の問題である」(17.9%)と続いている。

・性別で見ると、男女ともに「性の多様性として認めるべきである」が、最も多くなっている。次いで、「テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う」、「身近な存在だと思う」と続いている。「個人の趣味、趣向の問題である」という回答では、男性の回答が23.1%と、女性の回答14.2%よりも約1割多くなっている。



- ・年代別で見ると、いずれの年代でも、「性の多様性として認めるべきである」が最も多い回答となっている。

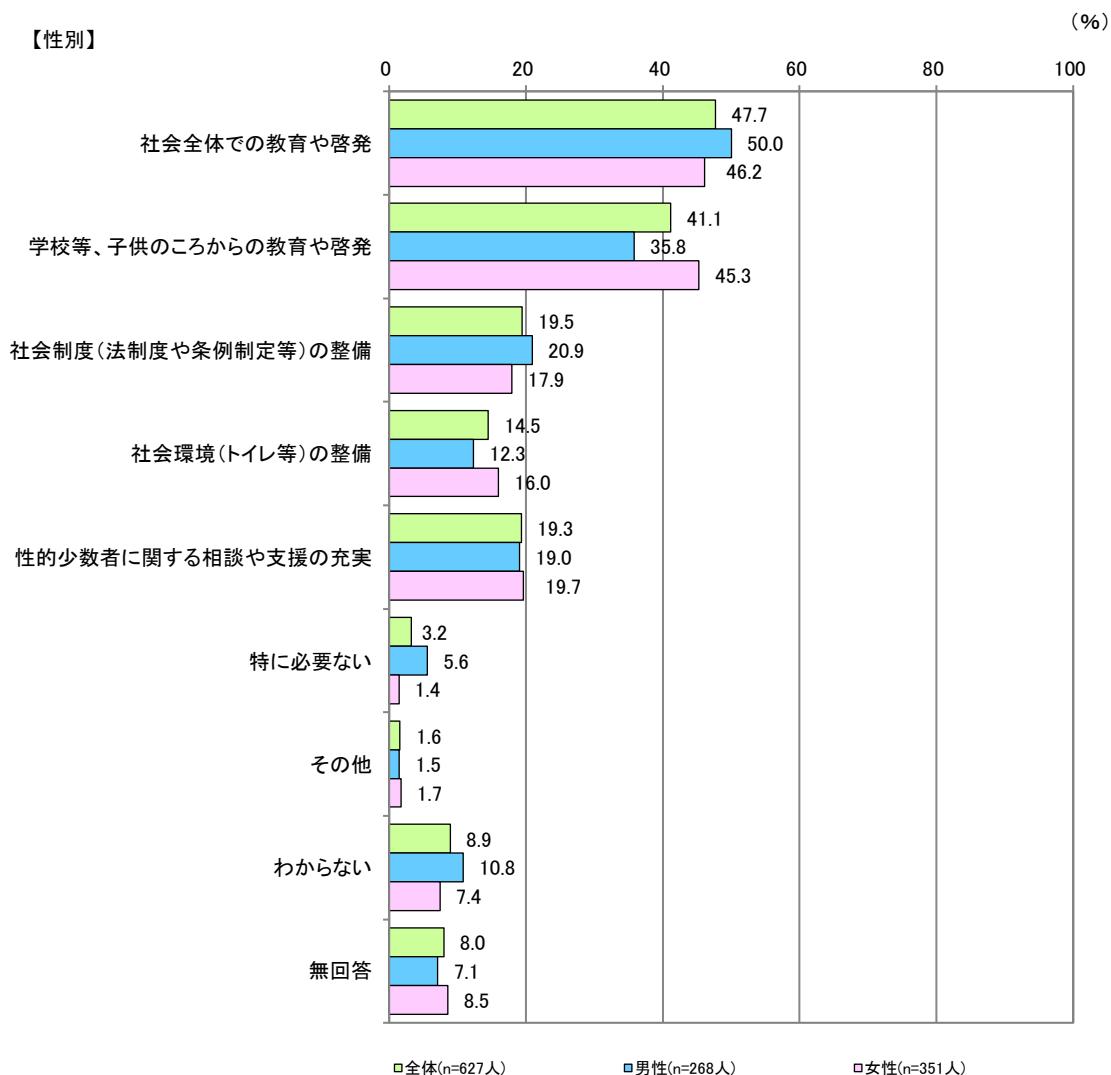
【年代別】



問 43 性的マイノリティ(性的少数者)の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。

あなたの考えに近いものをお選びください。(〇は2つ)

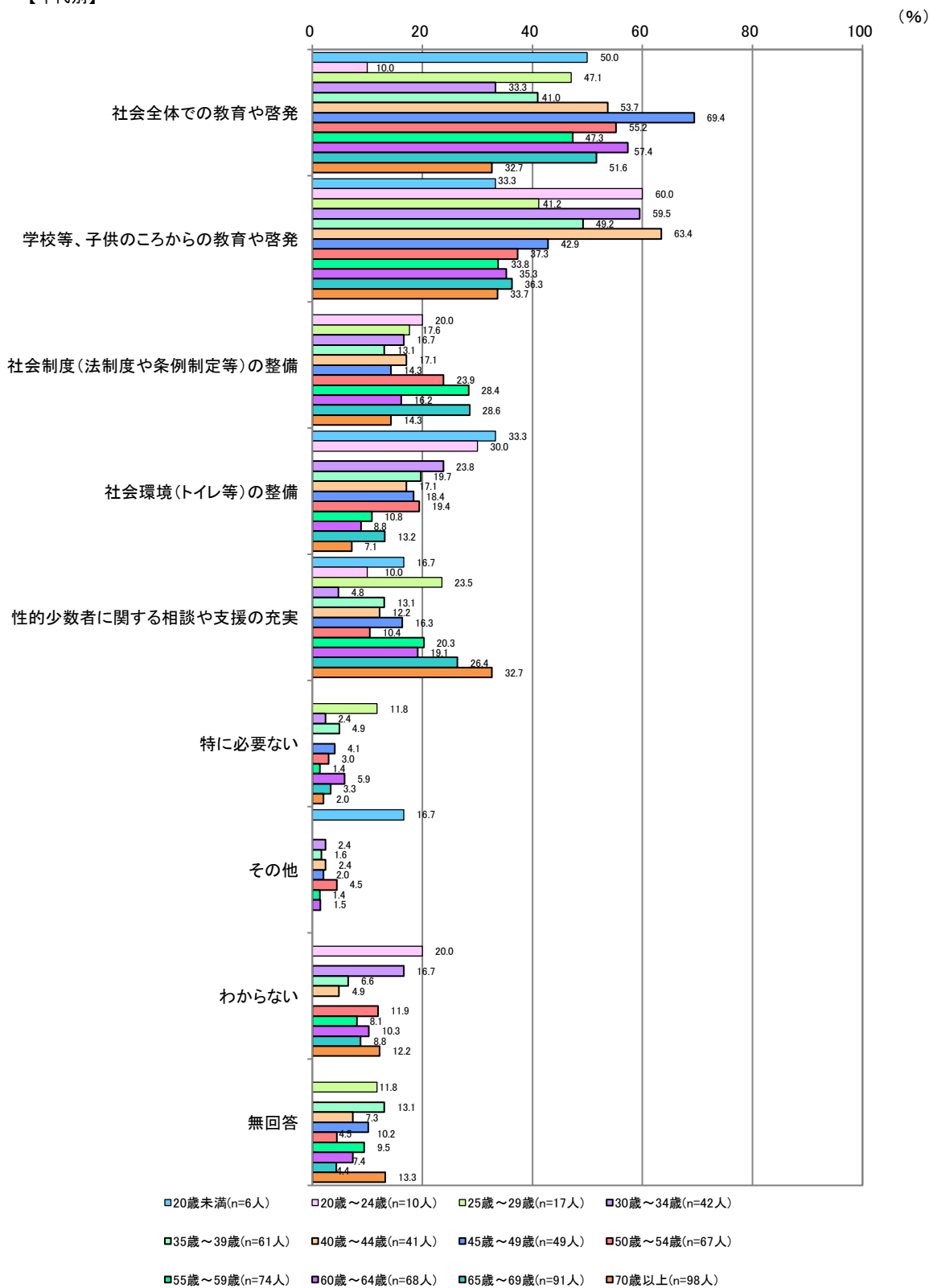
- ・全体で見ると、最も回答が多かったのは「社会全体での教育や啓発」(47.7%)で、約5割となっている。次いで、「学校等、子供のころからの教育や啓発」(41.1%)、「社会制度(法制度や条例制定等)の整備」(19.5%)、「性的少数者に関する相談や支援の充実」(19.3%)、「社会環境(トイレ等)の整備」(14.5%)と続いている。
- ・性別で見ると、男女ともに「社会全体での教育や啓発」が最も多くなっている。次いで、「学校等、子供のころからの教育や啓発」となっている。男性は「社会制度(法制度や条例制定等)の整備」(20.9%)、女性は「性的少数者に関する相談や支援の充実」(19.7%)となっている。「学校等、子供のころからの教育や啓発」という回答では、女性の回答割合が約5割と、男性の約4割よりも1割多くなっている。





- ・年代別で見ると、20歳～24歳、30歳～44歳、70歳以上の年代で、「学校等、子供のころからの教育や啓発」が最も多い回答となっている。一方他の年代では、「社会全体での教育や啓発」が最も多い回答となっている。

【年代別】





---

---

## 男女共同参画施策に関するについて

---

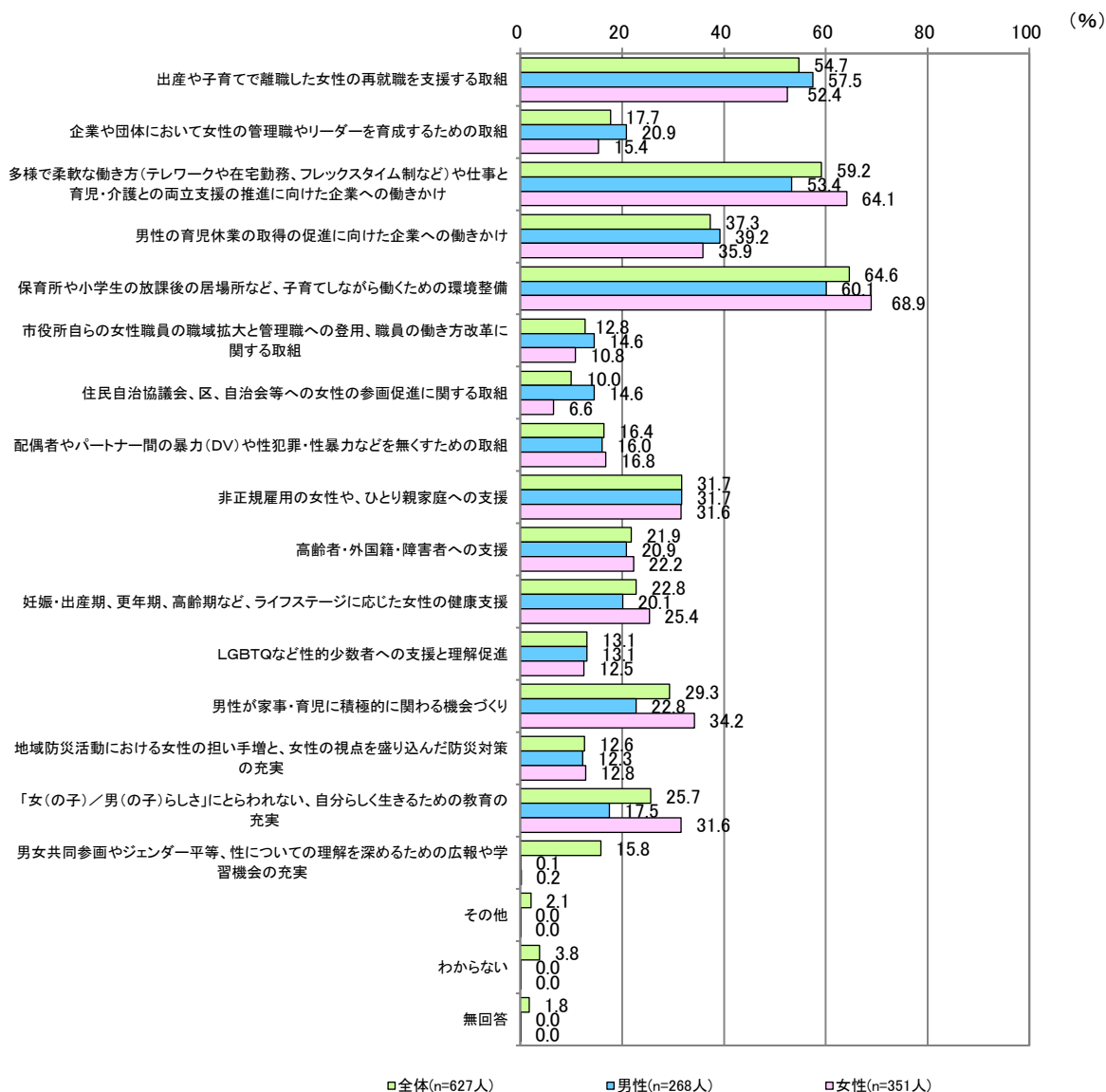
---



問 44 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。（〇はいくつでも）

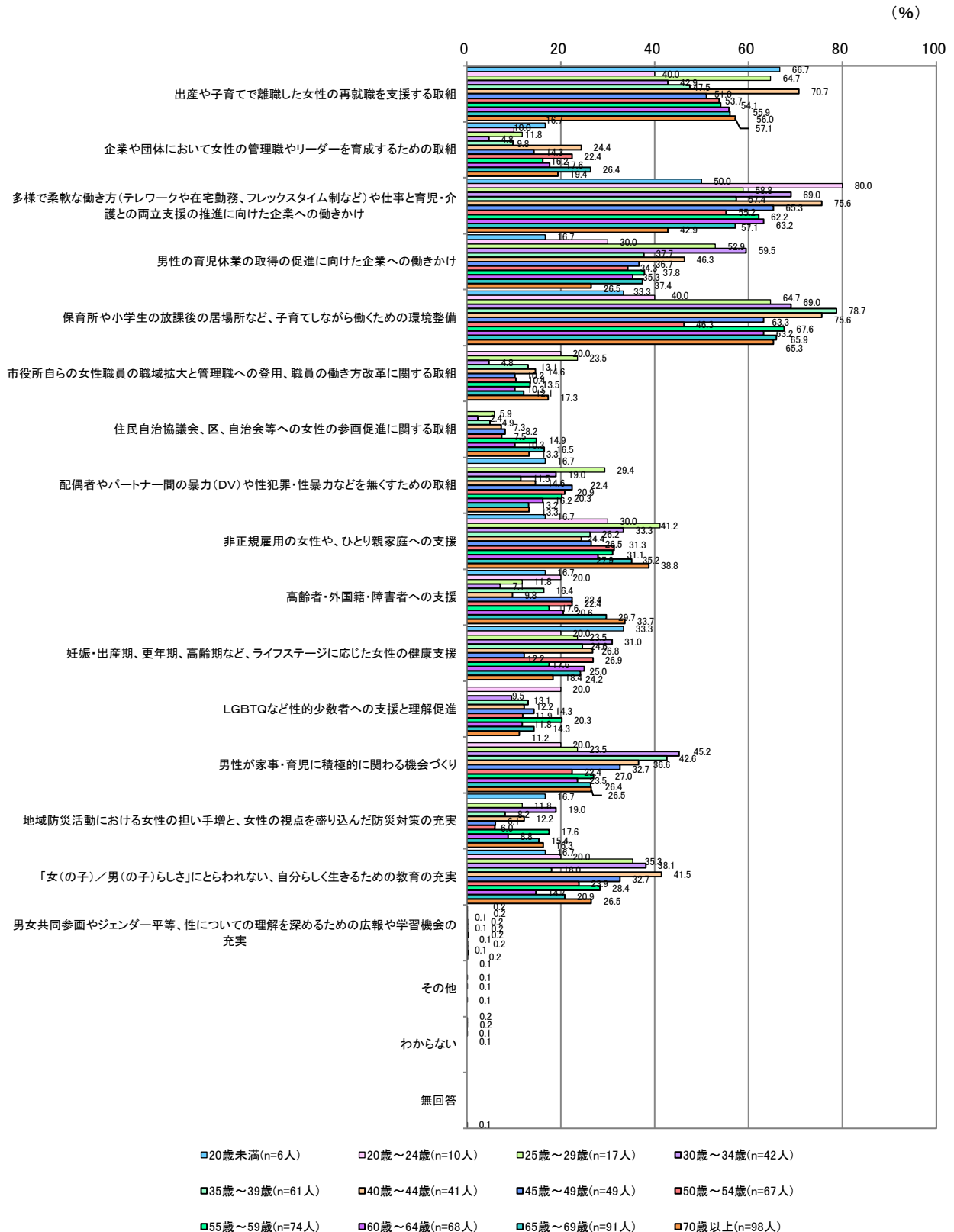
- ・全体でみると、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」（64.6%）が最も多く、6割以上となっている。次いで、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」（59.2%）、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」（54.7%）となっている。
- ・性別でみると、男女とも、「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」が最も多くなっている。次に、女性は、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」と続いている。一方、男性は、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」となっている。

【性別】



- ・年代別でみると、20歳未満、25歳～29歳、35歳～39歳、55歳～59歳、65歳以上では、「多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」が最も多くなっている。一方、他の年代では、「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」が最も多くなっている。

【年代別】



---

---

資 料

---

---





---

---

## 単純集計

---

---



## 「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	627	31.4%

**あなた自身のことについておたずねします。**

F1 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)※戸籍上の性別とは関係なく、ご自身の主観でご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性	351	56.0%
②男性	268	42.7%
③その他	1	0.2%
④回答したくない	4	0.6%
無回答	3	0.5%
合計	627	100.0%

F2 あなたの年齢について教えてください。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①20歳未満	6	1.0%
②20歳～24歳	10	1.6%
③25歳～29歳	17	2.7%
④30歳～34歳	42	6.7%
⑤35歳～39歳	61	9.7%
⑥40歳～44歳	41	6.5%
⑦45歳～49歳	49	7.8%
⑧50歳～54歳	67	10.7%
⑨55歳～59歳	74	11.8%
⑩60歳～64歳	68	10.8%
⑪65歳～69歳	91	14.5%
⑫70歳以上	98	15.6%
無回答	3	0.5%
合計	627	100.0%

F3 あなたの職業を教えてください。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	15	2.4%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	29	4.6%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	6	1.0%
④会社役員・経営者	33	5.3%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	209	33.3%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	176	28.1%
⑦家事専業者	61	9.7%
⑧学生	7	1.1%
⑨無職	86	13.7%
⑩その他	4	0.6%
無回答	1	0.2%
合計	627	100.0%

F4 あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	65	10.4%
②一世代世帯(夫婦・カップルだけ)	182	29.0%
③二世帯世帯(親と子)	326	52.0%
④三世帯世帯(親と子と孫)	49	7.8%
⑤その他	2	0.3%
無回答	3	0.5%
合計	627	100.0%

F5 あなたは現在、結婚していますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	469	74.8%
②結婚していない	90	14.4%
③結婚していないがパートナーがいる	13	2.1%
④配偶者と離・死別した	53	8.5%
無回答	2	0.3%
合計	627	100.0%

F6 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①いる	458	73.0%
②いない	162	25.8%
無回答	7	1.1%
合計	627	100.0%

**結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。**

F7 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①いる(正規の社員・職員)	219	45.4%
②いる(非正規:勤務時間は正規雇用と同じ)	23	4.8%
③いる(非正規:パート・アルバイト)	88	18.3%
④いる(その他)	32	6.6%
⑤いない	118	24.5%
無回答	2	0.4%
合計	482	100.0%

**一般的なことでおたずねします。**

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。(それぞれ〇は1つ)

#### 1家庭生活

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	68	10.8%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	279	44.5%
③平等である	192	30.6%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	31	4.9%
⑤女性の方が非常に優遇されている	6	1.0%
⑥わからない	40	6.4%
無回答	11	1.8%
無回答	627	100.0%

#### 2学校教育の場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	24	3.8%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	80	12.8%
③平等である	372	59.3%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	14	2.2%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.3%
⑥わからない	119	19.0%
無回答	16	2.6%
合計	627	100.0%

### 3地域社会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	66	10.5%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	282	45.0%
③平等である	165	26.3%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	30	4.8%
⑤女性の方が非常に優遇されている	3	0.5%
⑥わからない	70	11.2%
無回答	11	1.8%
合計	627	100.0%

### 4職場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	65	10.4%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	271	43.2%
③平等である	166	26.5%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	49	7.8%
⑤女性の方が非常に優遇されている	4	0.6%
⑥わからない	59	9.4%
無回答	13	2.1%
合計	627	100.0%

### 5法律や制度の上

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	56	8.9%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	208	33.2%
③平等である	231	36.8%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	31	4.9%
⑤女性の方が非常に優遇されている	8	1.3%
⑥わからない	82	13.1%
無回答	11	1.8%
合計	627	100.0%

### 6社会通念・慣習・しきたり

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	146	23.3%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	346	55.2%
③平等である	67	10.7%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	15	2.4%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.3%
⑥わからない	38	6.1%
無回答	13	2.1%
合計	627	100.0%

### 7政治の場

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	212	33.8%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	286	45.6%
③平等である	62	9.9%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	9	1.4%
⑤女性の方が非常に優遇されている	0	0.0%
⑥わからない	49	7.8%
無回答	9	1.4%
合計	627	100.0%

## 8社会全体

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	82	13.1%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	399	63.6%
③平等である	67	10.7%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	24	3.8%
⑤女性の方が非常に優遇されている	3	0.5%
⑥わからない	39	6.2%
無回答	13	2.1%
合計	627	100.0%

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。(それぞれ○は1つ)

## 1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	276	44.0%
②聞いたことがある	242	38.6%
③知らない	105	16.7%
無回答	4	0.6%
合計	627	100.0%

## 2 女子差別撤廃条約

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	118	18.8%
②聞いたことがある	235	37.5%
③知らない	267	42.6%
無回答	7	1.1%
合計	627	100.0%

## 3 ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	73	11.6%
②聞いたことがある	152	24.2%
③知らない	391	62.4%
無回答	11	1.8%
合計	627	100.0%

## 4 ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	448	71.5%
②聞いたことがある	148	23.6%
③知らない	24	3.8%
無回答	7	1.1%
合計	627	100.0%

## 5 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	158	25.2%
②聞いたことがある	248	39.6%
③知らない	217	34.6%
無回答	4	0.6%
合計	627	100.0%

6 候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	94	15.0%
②聞いたことがある	199	31.7%
③知らない	330	52.6%
無回答	4	0.6%
合計	627	100.0%

7 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	68	10.8%
②聞いたことがある	199	31.7%
③知らない	355	56.6%
無回答	5	0.8%
合計	627	100.0%

問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	7	1.1%
②どちらかといえば賛成	90	14.4%
③どちらかといえば反対	219	34.9%
④反対	252	40.2%
⑤わからない	55	8.8%
無回答	4	0.6%
合計	627	100.0%

問4 日常生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①よくある	125	19.9%
②たまにある	328	52.3%
③ない	171	27.3%
無回答	3	0.5%
合計	627	100.0%

問4で「1.よくある」または「2.たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問5 どのような場で言われたり、期待されたりしますか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①家庭	207	45.7%
②職場	195	43.0%
③学校	28	6.2%
④地域・近隣	203	44.8%
⑤友人関係	25	5.5%
⑥親族関係	167	36.9%
⑦社会全体(メディアや広告など)	112	24.7%
⑧その他	8	1.8%
無回答	3	0.7%
対象	453	-

問6 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①言葉づかい	126	27.8%
②容姿(顔立ち、体つきなど)	85	18.8%
③服装や身だしなみ	117	25.8%
④行動の仕方	195	43.0%
⑤感情表現(泣く、怒るなど)	55	12.1%
⑥進学、進路選択	26	5.7%
⑦ライフイベント(結婚、出産など)	136	30.0%
⑧趣味やスポーツ	26	5.7%
⑨家事・育児・介護	254	56.1%
⑩働き方や仕事内容	236	52.1%
⑪お金(収入や支出に関すること)	74	16.3%
⑫その他	10	2.2%
無回答	6	1.3%
対象	453	-

問7 日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①よく感じる	48	10.6%
②たまに感じる	242	53.4%
③感じない	159	35.1%
無回答	4	0.9%
合計	453	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問8 子ども時代に「女の子／男の子だから〇〇しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①あった	421	67.1%
②なかった	91	14.5%
③覚えていない	112	17.9%
無回答	3	0.5%
合計	627	100.0%

問8で「1.あった」を選ばれた方におたずねします。

問9 それは、誰に言われましたか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①母親	315	74.8%
②父親	203	48.2%
③兄弟姉妹	39	9.3%
④祖母	137	32.5%
⑤祖父	67	15.9%
⑥その他の親族	122	29.0%
⑦近隣住民	77	18.3%
⑧学校の先生	162	38.5%
⑨クラブや習い事の先生	35	8.3%
⑩友人や同じ学校の児童・生徒	58	13.8%
⑪その他	11	2.6%
無回答	0	0.0%
対象	421	-



問10 それは、どのような内容に関することですか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①言葉づかい	214	50.8%
②容姿(顔立ち、体つきなど)	82	19.5%
③服装や身だしなみ	197	46.8%
④行動の仕方	276	65.6%
⑤感情表現(泣く、怒るなど)	106	25.2%
⑥進学、進路選択	94	22.3%
⑦ライフイベント(結婚、出産など)	72	17.1%
⑧趣味やスポーツ	36	8.6%
⑨家事・育児・介護	103	24.5%
⑩働き方や仕事内容	79	18.8%
⑪お金(収入や支出に関すること)	23	5.5%
⑫その他	8	1.9%
無回答	0	0.0%
対象	421	-

問11 子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①影響した	76	18.1%
②少し影響した	178	42.3%
③影響しなかった	165	39.2%
合計	421	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問12 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①女性は職業をもたない方がよい	2	0.3%
②結婚するまでは職業をもつ方がよい	6	1.0%
③子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	24	3.8%
④子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	326	52.0%
⑤子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	132	21.1%
⑥その他	95	15.2%
⑦わからない	36	5.7%
無回答	6	1.0%
合計	627	100.0%

職場における「女性活躍と就労」に関することでおたずねします。

問13 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどのようにお考えですか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①必要だと思う	412	65.7%
②どちらかといえば必要だと思う	200	31.9%
③必要ないと思う	8	1.3%
無回答	7	1.1%
合計	627	100.0%

**現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。**

問14 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。(それぞれ〇は1つ)

## 1 賃金

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	61	13.0%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	104	22.2%
③平等である	225	48.1%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	0	0.0%
⑤女性の方が非常に優遇されている	0	0.0%
⑥わからない	50	10.7%
無回答	28	6.0%
合計	468	100.0%

## 2 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	72	15.4%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	142	30.3%
③平等である	155	33.1%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	13	2.8%
⑤女性の方が非常に優遇されている	1	0.2%
⑥わからない	53	11.3%
無回答	32	6.8%
合計	468	100.0%

## 3 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	36	7.7%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	101	21.6%
③平等である	203	43.4%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	41	8.8%
⑤女性の方が非常に優遇されている	8	1.7%
⑥わからない	46	9.8%
無回答	33	7.1%
合計	468	100.0%

## 4 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	28	6.0%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	62	13.2%
③平等である	286	61.1%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	4	0.9%
⑤女性の方が非常に優遇されている	1	0.2%
⑥わからない	55	11.8%
無回答	32	6.8%
合計	468	100.0%

## 5 経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	36	7.7%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	116	24.8%
③平等である	229	48.9%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	7	1.5%
⑤女性の方が非常に優遇されている	1	0.2%
⑥わからない	48	10.3%
無回答	31	6.6%
合計	468	100.0%

問15 あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①進んでいる	108	23.1%
②どちらかといえば進んでいる	173	37.0%
③あまり進んでいない	79	16.9%
④進んでいない	29	6.2%
⑤わからない	52	11.1%
無回答	27	5.8%
合計	468	100.0%

問16 今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。(それぞれ〇は1つ)

1 あなた自身は活躍したい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	154	32.9%
②やや思う	155	33.1%
③あまり思わない	96	20.5%
④思わない	20	4.3%
⑤わからない	15	3.2%
無回答	28	6.0%
合計	468	100.0%

2 現在の生活や仕事に満足している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	109	23.3%
②やや思う	184	39.3%
③あまり思わない	82	17.5%
④思わない	50	10.7%
⑤わからない	14	3.0%
無回答	29	6.2%
合計	468	100.0%

3 女性が社会で働くには不利な点が多い

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	107	22.9%
②やや思う	180	38.5%
③あまり思わない	87	18.6%
④思わない	49	10.5%
⑤わからない	15	3.2%
無回答	30	6.4%
合計	468	100.0%

4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	118	25.2%
②やや思う	145	31.0%
③あまり思わない	106	22.6%
④思わない	50	10.7%
⑤わからない	20	4.3%
無回答	29	6.2%
合計	468	100.0%

5 管理職への打診があれば受けてみたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	67	14.3%
②やや思う	85	18.2%
③あまり思わない	123	26.3%
④思わない	126	26.9%
⑤わからない	38	8.1%
無回答	29	6.2%
合計	468	100.0%

6 退職して仕事に就かない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	25	5.3%
②やや思う	39	8.3%
③あまり思わない	109	23.3%
④思わない	194	41.5%
⑤わからない	69	14.7%
無回答	32	6.8%
合計	468	100.0%

7 女性も管理職として活躍している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	108	23.1%
②やや思う	159	34.0%
③あまり思わない	70	15.0%
④思わない	62	13.2%
⑤わからない	38	8.1%
無回答	31	6.6%
合計	468	100.0%

8 女性の管理職の部下には、なりたくない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	12	2.6%
②やや思う	34	7.3%
③あまり思わない	106	22.6%
④思わない	252	53.8%
⑤わからない	34	7.3%
無回答	30	6.4%
合計	468	100.0%

現在職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問17 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。(それぞれ○は1つ)

1 女性を管理職へ積極的に登用する

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	206	33.3%
②まあ重要だと思う	244	39.4%
③重要だと思わない	71	11.5%
④わからない	41	6.6%
無回答	57	9.2%
合計	619	100.0%

2 女性社員・職員の採用拡大

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	245	39.6%
②まあ重要だと思う	248	40.1%
③重要だと思わない	37	6.0%
④わからない	31	5.0%
無回答	58	9.4%
合計	619	100.0%

3 非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	287	46.4%
②まあ重要だと思う	200	32.3%
③重要だと思わない	41	6.6%
④わからない	26	4.2%
無回答	65	10.5%
合計	619	100.0%

4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	346	55.9%
②まあ重要だと思う	173	27.9%
③重要だと思わない	20	3.2%
④わからない	21	3.4%
無回答	59	9.5%
合計	619	100.0%

5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	386	62.4%
②まあ重要だと思う	146	23.6%
③重要だと思わない	17	2.7%
④わからない	13	2.1%
無回答	57	9.2%
合計	619	100.0%

6 企業内託児所や学童保育所などの設置

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	352	56.9%
②まあ重要だと思う	158	25.5%
③重要だと思わない	22	3.6%
④わからない	30	4.8%
無回答	57	9.2%
合計	619	100.0%

**離職されている方におたずねします。**

問18 再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①正規の社員・職員	13	8.8%
②派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員	14	9.5%
③パート・アルバイト(家に子どもがいない時間のみなど)	53	36.1%
④その他	11	7.5%
無回答	56	38.1%
合計	147	100.0%

問18で「2・派遣・嘱託などの社員・職員」または「3・パート・アルバイト」を選ばれた方におたずねします。

問19 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①家事や育児などで家族の協力や理解が得られないから	6	9.0%
②正規の社員・職員で雇用する企業が少ないから	4	6.0%
③仕事より家庭生活を優先したいから	29	43.3%
④時間外勤務や休日出勤を避けたいから	27	40.3%
⑤配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから	17	25.4%
⑥積極的に仕事に就くつもりがないから	20	29.9%
⑦その他	7	10.4%
無回答	4	6.0%
対象数	67	-

離職経験のある方におたずねします。

問20 離職の原因(理由)としてあてはまるものをお選びください。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①結婚	86	16.1%
②出産	90	16.9%
③育児	51	9.6%
④看護	1	0.2%
⑤介護	23	4.3%
⑥転職・起業	56	10.5%
⑦配偶者の転勤	19	3.6%
⑧健康上の理由	40	7.5%
⑨給料が少ない	35	6.6%
⑩定年退職	31	5.8%
⑪解雇等職場の都合	32	6.0%
⑫特に理由はない	9	1.7%
⑬その他	35	6.6%
対象数	533	-

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問21 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①家事・育児などと仕事の両立が難しい	502	80.1%
②女性が就ける仕事に限られている	111	17.7%
③活躍したいと思える仕事がない	23	3.7%
④活躍を望む女性が少ない	97	15.5%
⑤お手本となる「活躍する女性」が身近にいない	57	9.1%
⑥結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い	294	46.9%
⑦上司・同僚の男性の認識、理解が不十分	209	33.3%
⑧家族の理解が不十分	110	17.5%
⑨その他	17	2.7%
⑩わからない	19	3.0%
無回答	33	5.3%
対象数	627	-

問22 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①女性の積極的登用	109	17.4%
②能力開発、自己啓発	49	7.8%
③働き方改革の推進	145	23.1%
④福利厚生 の 充実	122	19.5%
⑤賃金の男女平等	168	26.8%
⑥正規雇用と非正規雇用との待遇差の解消	102	16.3%
⑦家族の理解や協力	209	33.3%
⑧職場の理解や協力	197	31.4%
⑨経営者・管理職の意識改革	120	19.1%
⑩女性自身の意識改革	90	14.4%
⑪育児・介護に関する制度の充実	256	40.8%
⑫ロールモデル(自分が目指したい事を実践している手本となる人)	21	3.3%
⑬その他	10	1.6%
⑭わからない	13	2.1%
無回答	42	6.7%
対象数	627	-

問23 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	322	51.4%
②求人情報や就職ガイダ ンスの充実	50	8.0%
③再就職に関する相談体制の充実	133	21.2%
④再就職のための講座やセミナーの充実	39	6.2%
⑤子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	505	80.5%
⑥保育所などの保育施設の充実	389	62.0%
⑦その他	7	1.1%
⑧わからない	11	1.8%
無回答	32	5.1%
対象数	627	-

**「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。**

問24 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	248	39.6%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	208	33.2%
③知らない	165	26.3%
無回答	6	1.0%
合計	627	100.0%

問25 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度についてあなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものをお選びください。(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	15	2.4%
②「家庭生活」優先	120	19.1%
③「地域活動・個人の生活」優先	24	3.8%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	226	36.0%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	15	2.4%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	68	10.8%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	155	24.7%
無回答	4	0.6%
合計	627	100.0%

問26 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について  
あなたの現実(現状)の生活に最も近いものをお選びください。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	136	21.7%
②「家庭生活」優先	164	26.2%
③「地域活動・個人の生活」優先	27	4.3%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	169	27.0%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	24	3.8%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	55	8.8%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	46	7.3%
無回答	6	1.0%
合計	627	100.0%

問27あなたは次にあげる家事をしていますか。(それぞれ○は1つ)

#### 1 掃除

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	261	46.9%
②自分と家族が同じ程度している	140	25.1%
③自分は手伝い程度している	103	18.5%
④していない	50	9.0%
無回答	3	0.5%
合計	557	100.0%

#### 2 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	265	47.6%
②自分と家族が同じ程度している	115	20.6%
③自分は手伝い程度している	79	14.2%
④していない	94	16.9%
無回答	4	0.7%
合計	557	100.0%

#### 3 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	240	43.1%
②自分と家族が同じ程度している	179	32.1%
③自分は手伝い程度している	101	18.1%
④していない	33	5.9%
無回答	4	0.7%
合計	557	100.0%

#### 4 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	261	46.9%
②自分と家族が同じ程度している	100	18.0%
③自分は手伝い程度している	102	18.3%
④していない	90	16.2%
無回答	4	0.7%
合計	557	100.0%



5 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	250	44.9%
②自分と家族が同じ程度している	148	26.6%
③自分は手伝い程度している	108	19.4%
④していない	47	8.4%
無回答	4	0.7%
合計	557	100.0%

6 ごみ捨て

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	240	43.1%
②自分と家族が同じ程度している	143	25.7%
③自分は手伝い程度している	87	15.6%
④していない	84	15.1%
無回答	3	0.5%
合計	557	100.0%

問28 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	142	22.6%
②1～2時間未満	161	25.7%
③2～3時間未満	137	21.9%
④3～5時間未満	119	19.0%
⑤5時間以上	63	10.0%
無回答	5	0.8%
合計	627	100.0%

問29 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	91	14.5%
②1～2時間未満	144	23.0%
③2～3時間未満	170	27.1%
④3～5時間未満	124	19.8%
⑤5時間以上	92	14.7%
無回答	6	1.0%
合計	627	100.0%

**身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。**

問30 あなたは育児または介護をどの程度していますか。それぞれ○は1つ

1 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	88	28.8%
②自分と家族が同じ程度している	39	12.7%
③自分は手伝い程度している	75	24.5%
④していない	104	34.0%
合計	306	100.0%

## 2 介護

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	40	13.1%
②自分と家族が同じ程度している	17	5.6%
③自分は手伝い程度している	29	9.5%
④していない	220	71.9%
合計	306	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問31 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	311	49.6%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	363	57.9%
③上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから	366	58.4%
④育児、介護は女性の方が向いているから	85	13.6%
⑤昇給、昇格に影響すると考えるから	184	29.3%
⑥その他	39	6.2%
⑦わからない	26	4.1%
無回答	16	2.6%
対象数	627	-

問32 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	273	43.5%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	188	30.0%
③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する	98	15.6%
④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる	163	26.0%
⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	303	48.3%
⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	165	26.3%
⑦男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	37	5.9%
⑧男性のための仲間(ネットワーク)作りを進める	20	3.2%
⑨男性が相談しやすい窓口を設ける	29	4.6%
⑩官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	191	30.5%
⑪その他	13	2.1%
⑫特に必要なことはない	4	0.6%
⑬わからない	25	4.0%
無回答	20	3.2%
対象数	627	-

「地域社会」に関することにおたずねします。

問33 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・その他のほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。(それぞれ〇は1つ)

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	113	18.0%
②そうではない	237	37.8%
③わからない	265	42.3%
無回答	12	1.9%
合計	627	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	299	47.7%
②そうではない	153	24.4%
③わからない	164	26.2%
無回答	11	1.8%
合計	627	100.0%

3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	94	15.0%
②そうではない	258	41.1%
③わからない	262	41.8%
無回答	13	2.1%
合計	627	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	131	20.9%
②そうではない	188	30.0%
③わからない	293	46.7%
無回答	15	2.4%
合計	627	100.0%

5 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	151	24.1%
②そうではない	141	22.5%
③わからない	322	51.4%
無回答	13	2.1%
合計	627	100.0%

6 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	29	4.6%
②そうではない	225	35.9%
③わからない	360	57.4%
無回答	13	2.1%
合計	627	100.0%

問34 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。(それぞれ○は1つ)

1 自治会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	315	50.2%
②女性	6	1.0%
③男性も女性も	155	24.7%
④わからない	142	22.6%
無回答	9	1.4%
合計	627	100.0%

2 自治会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	228	36.4%
②女性	11	1.8%
③男性も女性も	235	37.5%
④わからない	146	23.3%
無回答	7	1.1%
合計	627	100.0%

3 PTAの役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	57	9.1%
②女性	79	12.6%
③男性も女性も	202	32.2%
④わからない	277	44.2%
無回答	12	1.9%
合計	627	100.0%

4 PTAの行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	39	6.2%
②女性	90	14.4%
③男性も女性も	210	33.5%
④わからない	275	43.9%
無回答	13	2.1%
合計	627	100.0%

5 育成会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	51	8.1%
②女性	132	21.1%
③男性も女性も	177	28.2%
④わからない	256	40.8%
無回答	11	1.8%
合計	627	100.0%

6 育成会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	36	5.7%
②女性	129	20.6%
③男性も女性も	194	30.9%
④わからない	258	41.1%
無回答	10	1.6%
合計	627	100.0%

問35 持続可能な地域づくりのためには、活動の企画立案、方針決定の場に、あらゆる世代の男女が互いを尊重し、参画することが重要です。そのためには、女性も地域の重要な方針決定に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。  
(〇は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	80	12.8%
②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	154	24.6%
③地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと	128	20.4%
④女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	56	8.9%
⑤女性が積極的に役職につく意識をもつこと	59	9.4%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	5	0.8%
⑦その他	13	2.1%
⑧わからない	93	14.8%
無回答	39	6.2%
合計	627	100.0%

問36 平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	320	51.0%
②市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす	173	27.6%
③避難所などの運営に女性も参画できるようにする	213	34.0%
④防災や災害現場で活動する女性を育成する	142	22.6%
⑤日頃から地域の男女共同参画を進める	197	31.4%
⑥備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる	333	53.1%
⑦日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする	242	38.6%
⑧性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境、物資、安全など)について知識を普及する	213	34.0%
⑨避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする	316	50.4%
⑩その他	6	1.0%
⑪特に必要なことはない	6	1.0%
⑫わからない	24	3.8%
無回答	9	1.4%
対象数	627	-

### 男女の「人権」に関することでおたずねします。

問37 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DVドメスティック・バイオレンスとして問題になっています。次にあげる行為は、DVIにあたる行為です。

あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。(それぞれ〇は1つ)

1 刃物などを突きつけて脅す、殴るふりをして脅す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	17	2.7%
②したことがある	3	0.5%
③受けたこともしたこともある	7	1.1%
④受けたこともしたこともない	584	93.1%
無回答	16	2.6%
合計	627	100.0%

2 なぐる、ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	26	4.1%
②したことがある	12	1.9%
③受けたこともしたこともある	17	2.7%
④受けたこともしたこともない	558	89.0%
無回答	14	2.2%
合計	627	100.0%

3 物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	55	8.8%
②したことがある	27	4.3%
③受けたこともしたこともある	25	4.0%
④受けたこともしたこともない	504	80.4%
無回答	16	2.6%
合計	627	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	7	1.1%
②したことがある	1	0.2%
③受けたこともしたこともある	1	0.2%
④受けたこともしたこともない	600	95.7%
無回答	18	2.9%
合計	627	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	72	11.5%
②したことがある	55	8.8%
③受けたこともしたこともある	86	13.7%
④受けたこともしたこともない	397	63.3%
無回答	17	2.7%
合計	627	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	15	2.4%
②したことがある	2	0.3%
③受けたこともしたこともある	6	1.0%
④受けたこともしたこともない	587	93.6%
無回答	17	2.7%
合計	627	100.0%

7 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	14	2.2%
②したことがある	1	0.2%
③受けたこともしたこともある	2	0.3%
④受けたこともしたこともない	594	94.7%
無回答	16	2.6%
合計	627	100.0%

8 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	60	9.6%
②したことがある	20	3.2%
③受けたこともしたこともある	11	1.8%
④受けたこともしたこともない	522	83.3%
無回答	14	2.2%
合計	627	100.0%

## 9 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	50	8.0%
②したことがある	32	5.1%
③受けたこともしたこともある	37	5.9%
④受けたこともしたこともない	492	78.5%
無回答	16	2.6%
合計	627	100.0%

## 10 家計に必要な生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	31	4.9%
②したことがある	2	0.3%
③受けたこともしたこともある	3	0.5%
④受けたこともしたこともない	575	91.7%
無回答	16	2.6%
合計	627	100.0%

## 11 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	38	6.1%
②したことがある	4	0.6%
③受けたこともしたこともある	3	0.5%
④受けたこともしたこともない	565	90.1%
無回答	17	2.7%
合計	627	100.0%

## 12 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	26	4.1%
②したことがある	1	0.2%
③受けたこともしたこともある	1	0.2%
④受けたこともしたこともない	582	92.8%
無回答	17	2.7%
合計	627	100.0%

問38 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。  
知っている相談窓口をお選びください。(〇はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①DV相談ナビ	24	3.8%
②長野県女性相談センター	55	8.8%
③県警(警察安全相談窓口)	257	41.0%
④長野県児童虐待・DV24時間ホットライン	73	11.6%
⑤女性の人権ホットライン	78	12.4%
⑥長野県性暴力被害者支援センター“りんどうハートながの”	29	4.6%
⑦県警性被害犯罪ダイヤルサポート110	18	2.9%
⑧長野犯罪被害者支援センター	25	4.0%
⑨長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)	46	7.3%
⑩長野市男女共同参画センター	35	5.6%
⑪その他	8	1.3%
⑫相談できる窓口は知らない	251	40.0%
無回答	21	3.3%
対象数	627	-

問39 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。(○は1つ)

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	371	59.2%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	142	22.6%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	77	12.3%
④人権侵害にあたるとは思わない	0	0.0%
⑤わからない	22	3.5%
無回答	15	2.4%
合計	627	100.0%

問40 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①メールによる相談ができる	132	21.1%
②LINEなどSNSによる相談ができる	200	31.9%
③電話による相談ができる	190	30.3%
④通話料が無料	222	35.4%
⑤24時間相談ができる	310	49.4%
⑥相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	165	26.3%
⑦同性の相談員がいる	238	38.0%
⑧匿名で相談ができる	349	55.7%
⑨弁護士など、法的知識のある相談ができる	294	46.9%
⑩臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談ができる	189	30.1%
⑪その他	10	1.6%
⑫特になし	29	4.6%
⑬わからない	37	5.9%
無回答	17	2.7%
対象数	627	-

#### 「性」の多様性に関することでおたずねします。

問41 あなたは「性的マイノリティ(性的少数者)」または「LGBTQ」という言葉を(どちらか一方でも)知っているか、または聞いたことがありますか。

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	462	73.7%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	109	17.4%
③しらない	51	8.1%
無回答	5	0.8%
合計	627	100.0%

問42 性的マイノリティ(性的少数者)についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は3つ)

選択肢	回答数	回答割合
①性の多様性として認めるべきである	387	61.7%
②身近な存在だと思う	172	27.4%
③テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う	302	48.2%
④芸能人や特に注目されている人たちのことで、身近な存在ではない	42	6.7%
⑤理解ができない	39	6.2%
⑥個人の趣味、趣向の問題である	112	17.9%
⑦子供を産むために体の性を尊重すべきである	17	2.7%
⑧治療すれば治る病気である	6	1.0%
⑨関わりたくない	40	6.4%
⑩その他	25	4.0%
無回答	23	3.7%
対象数	627	-



問43 性的マイノリティ(性的少数者)の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください(○は2つ)

選択肢	回答数	回答割合
①社会全体での教育や啓発	299	47.7%
②学校等、子供のころからの教育や啓発	258	41.1%
③社会制度(法制度や条例制定等)の整備	122	19.5%
④社会環境(トイレ等)の整備	91	14.5%
⑤性的少数者に関する相談や支援の充実	121	19.3%
⑥特に必要ない	20	3.2%
⑦その他	10	1.6%
⑧わからない	56	8.9%
無回答	50	8.0%
対象数	627	-

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問44 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。(○はいくつでも)

選択肢	回答数	回答割合
①出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組	343	54.7%
②企業や団体において女性の管理職やリーダーを育成するための取組	111	17.7%
③多様で柔軟な働き方(テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など)や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ	371	59.2%
④男性の育児休業の取得の促進に向けた企業への働きかけ	234	37.3%
⑤保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備	405	64.6%
⑥市役所自らの女性職員の職域拡大と管理職への登用、職員の働き方改革に関する取組	80	12.8%
⑦住民自治協議会、区、自治会等への女性の参画促進に関する取組	63	10.0%
⑧配偶者やパートナー間の暴力(DV)や性犯罪・性暴力などを無くすための取組	103	16.4%
⑨非正規雇用の女性や、ひとり親家庭への支援	199	31.7%
⑩高齢者・外国籍・障害者への支援	137	21.9%
⑪妊娠・出産期、更年期、高齢期など、ライフステージに応じた女性の健康支援	143	22.8%
⑫LGBTQなど性的少数者への支援と理解促進	82	13.1%
⑬男性が家事・育児に積極的に関わる機会づくり	184	29.3%
⑭地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実	79	12.6%
⑮「女(の子)／男(の子)らしさ」にとられない、自分らしく生きるための教育の充実	161	25.7%
⑯男女共同参画やジェンダー平等、性についての理解を深めるための広報や学習機会の充実	99	15.8%
⑰その他	13	2.1%
⑱わからない	24	3.8%
無回答	11	1.8%
対象数	627	-

問45 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①文章回答あり	96	15.3%
②文章回答無し	531	84.7%
合計	627	100.0%



---

---

調査票

---

---



各 位



NAGANO

長野市男女共同参画シンボルマーク

## 「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」ご協力をお願い

平素から、市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、心豊かで生きがいのある社会を形成するために、男女が社会の対等な構成員として喜びと責任を共に分かちあい、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる男女共同参画社会の実現のため様々な施策を進めています。

この調査は、男女共同参画や女性活躍の推進など各種施策の基礎資料とするため、令和6年7月1日現在、市内にお住いの18歳以上75歳未満の市民の皆様から、男女2,000人を年代別に無作為によって選ばせていただいた中のお一人としてお願いするものです。

なお、この調査は無記名で行い、お答えはすべて数値に置き換え、統計的に処理した上で分析します。今後の施策推進や啓発のために使用し、集計結果として公表することはありますが、皆様にご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和6年8月

長野市長 荻原健司

### ご記入にあたってのお願い

- ☆ お答えは、当てはまる番号に○を付けてください。
- ☆ 「その他」に当てはまる場合は、お手数をおかけしますが〔 〕内になるべく具体的に記入してください。
- ☆ 一部の方だけお答えいただく設問もあります。
- ☆ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに令和6年8月30日(金)までにポストに投函してください。

この調査についてのお問い合わせは

長野市地域・市民生活部人権・男女共同参画課

電 話：224-5428 (直通)

ファクス：224-7547 担当：瀧澤までお願いします。



# 「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」調査票

- この調査は、あなた(あて名の方)ご自身のお考えでご記入ください。
- ご回答は、特に説明のない限り、あてはまる項目を選び、その番号を○で囲んでください。

## あなた自身のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別※を教えてください。(○は1つ) ※戸籍上の性別とは関係なく、ご自身の主観でご記入ください。

- |       |       |        |            |
|-------|-------|--------|------------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 | 4. 回答したくない |
|-------|-------|--------|------------|

F 2 あなたの年齢について教えてください。(○は1つ)

- |            |             |             |            |
|------------|-------------|-------------|------------|
| 1. 20歳未満   | 2. 20歳～24歳  | 3. 25歳～29歳  | 4. 30歳～34歳 |
| 5. 35歳～39歳 | 6. 40歳～44歳  | 7. 45歳～49歳  | 8. 50歳～54歳 |
| 9. 55歳～59歳 | 10. 60歳～64歳 | 11. 65歳～69歳 | 12. 70歳以上  |

F 3 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 農林漁業の自営業主・家族従業者              |
| 2. 農林漁業以外の自営業主・家族従業者            |
| 3. 自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)   |
| 4. 会社役員・経営者                     |
| 5. 正社員・正職員などの正規雇用者              |
| 6. パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者 |
| 7. 家事専業者                        |
| 8. 学生                           |
| 9. 無職                           |
| 10. その他 [ ]                     |

F 4 あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。(○は1つ)

- |                |                     |
|----------------|---------------------|
| 1. 単身世帯(含単身赴任) | 2. 一世帯世帯(夫婦・カップルだけ) |
| 3. 二世帯世帯(親と子)  | 4. 三世帯世帯(親と子と孫)     |
| 5. その他 [ ]     |                     |

F 5 あなたは現在、結婚していますか。(○は1つ)

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| 1. 結婚している           | 2. 結婚していない    |
| 3. 結婚していないがパートナーがいる | 4. 配偶者と離・死別した |

F 6 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。(○は1つ)

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

## 結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

F 7 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。(○は1つ)

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1. いる(正規の社員・職員)      | 2. いる(非正規:勤務時間は正規雇用と同じ) |
| 3. いる(非正規:パート・アルバイト) | 4. いる(その他: )            |
| 5. いない               |                         |

**一般的なことでおたずねします。**

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。(それぞれ○は1つ)

	男性の方が 非常に優遇されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が 非常に優遇されている	わからない
1. 家庭生活	1	2	3	4	5	6
2. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
3. 地域社会	1	2	3	4	5	6
4. 職場	1	2	3	4	5	6
5. 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
6. 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
7. 政治の場	1	2	3	4	5	6
8. 社会全体	1	2	3	4	5	6

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。(それぞれ○は1つ)

	知っている	ある 聞いたことが	知らない
1. 男女共同参画社会	1	2	3
2. 女子差別撤廃条約	1	2	3
3. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
4. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	1	2	3
5. 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3
6. 候補者男女均等法（政治分野における男女共同参画の推進に関する法律）	1	2	3
7. 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3

問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。(○は1つ)

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらかといえば反対	4. 反対	5. わからない
-------	---------------	---------------	-------	----------

問4 日常生活で、「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などを言われたり、期待されたりすることはありますか。(○は1つ)

1. よくある	2. たまにある	3. ない
---------	----------	-------



問4で「1.よくある」または「2.たまにある」を選ばれた方におたずねします。

問5 どのような場で言われたり、期待されたりしますか。(○はいくつでも)

- |         |                    |         |          |         |
|---------|--------------------|---------|----------|---------|
| 1. 家庭   | 2. 職場              | 3. 学校   | 4. 地域・近隣 | 5. 友人関係 |
| 6. 親族関係 | 7. 社会全体（メディアや広告など） | 8. その他〔 | 〕        |         |

問6 それは、どのような内容に関することですか。(○はいくつでも)

- |                     |                     |             |   |  |
|---------------------|---------------------|-------------|---|--|
| 1. 言葉づかい            | 2. 容姿（顔立ち、体つきなど）    | 3. 服装や身だしなみ |   |  |
| 4. 行動の仕方            | 5. 感情表現（泣く、怒るなど）    | 6. 進学、進路選択  |   |  |
| 7. ライフイベント（結婚、出産など） | 8. 趣味やスポーツ          | 9. 家事・育児・介護 |   |  |
| 10. 働き方や仕事内容        | 11. お金（収入や支出に関すること） | 12. その他〔    | 〕 |  |

問7 日常生活における「女らしさ・男らしさ」や「女性の役割・男性の役割」などについて、不便さや不快感、生きづらさを感じますか。(○は1つ)

- |          |           |         |
|----------|-----------|---------|
| 1. よく感じる | 2. たまに感じる | 3. 感じない |
|----------|-----------|---------|

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問8 子ども時代に「女の子／男の子だから〇〇しなさい」や「女の子らしく・男の子らしく」などと言われたことがありましたか。(○は1つ)

- |        |         |           |
|--------|---------|-----------|
| 1. あった | 2. なかった | 3. 覚えていない |
|--------|---------|-----------|

問8で「1. あった」を選ばれた方におたずねします。

問9 それは、誰に言われましたか。(○はいくつでも)

- |                   |          |          |               |       |
|-------------------|----------|----------|---------------|-------|
| 1. 母親             | 2. 父親    | 3. 兄弟姉妹  | 4. 祖母         | 5. 祖父 |
| 6. その他の親族         | 7. 近隣住民  | 8. 学校の先生 | 9. クラブや習い事の先生 |       |
| 10. 友人や同じ学校の児童・生徒 | 11. その他〔 | 〕        |               |       |

問10 それは、どのような内容に関することですか。(○はいくつでも)

- |                     |                     |             |   |  |
|---------------------|---------------------|-------------|---|--|
| 1. 言葉づかい            | 2. 容姿（顔立ち、体つきなど）    | 3. 服装や身だしなみ |   |  |
| 4. 行動の仕方            | 5. 感情表現（泣く、怒るなど）    | 6. 進学、進路選択  |   |  |
| 7. ライフイベント（結婚、出産など） | 8. 趣味やスポーツ          | 9. 家事・育児・介護 |   |  |
| 10. 働き方や仕事内容        | 11. お金（収入や支出に関すること） | 12. その他〔    | 〕 |  |

問11 子ども時代に「女らしさ・男らしさ」を言われたことについて、あなたの生き方に影響したと思いますか。(○は1つ)

- |         |           |            |
|---------|-----------|------------|
| 1. 影響した | 2. 少し影響した | 3. 影響しなかった |
|---------|-----------|------------|

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問12 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。(〇は1つ)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
5. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
6. その他 [ ]
7. わからない

**職場における「女性活躍と就労」に関することにおたずねします。**

問13 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうお考えですか。(〇は1つ)

1. 必要だと思う
2. どちらかといえば必要だと思う
3. 必要ないと思う

現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問14 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。(それぞれ〇は1つ)

	優遇されている 非常に 男性の方が	優遇されている 男性の方が どちらかといえば	平等である	優遇されている 女性の方が どちらかといえば	優遇されている 非常に 女性の方が	わからない
1. 賃金	1	2	3	4	5	6
2. 昇進や昇格	1	2	3	4	5	6
3. 仕事の内容	1	2	3	4	5	6
4. 研修の機会や内容	1	2	3	4	5	6
5. 経験や能力を発揮する機会	1	2	3	4	5	6

問15 あなたの職場では女性の雇用や登用は進んでいると思いますか。(〇は1つ)

1. 進んでいる
2. どちらかといえば進んでいる
3. あまり進んでいない
4. 進んでいない
5. わからない

問16 今の職場について、あなたのお考えに近い番号をお選びください。(それぞれ○は1つ)

	そう思う	やや思う	あまり 思わない	思わない	わからない
1. あなた自身は活躍したい	1	2	3	4	5
2. 現在の生活や仕事に満足している	1	2	3	4	5
3. 女性が社会で働くには不利な点が多い	1	2	3	4	5
4. 仕事を続けキャリアを積んでいきたい	1	2	3	4	5
5. 管理職への打診があれば受けてみたい	1	2	3	4	5
6. 退職して仕事に就かない	1	2	3	4	5
7. 女性も管理職として活躍している	1	2	3	4	5
8. 女性の管理職の部下には、なりたくない	1	2	3	4	5

現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問17 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。(それぞれ○は1つ)

	だとも重要 だと思っ	まあ重要 だと思っ	重要だと 思わない	わからない
1. 女性を管理職へ積極的に登用する	1	2	3	4
2. 女性社員・職員の採用拡大	1	2	3	4
3. 非正規労働者の正社員・職員への転換・待遇改善	1	2	3	4
4. 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化	1	2	3	4
5. 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入	1	2	3	4
6. 企業内託児所や学童保育所などの設置	1	2	3	4

離職されている方におたずねします。

問18 再就職される場合の雇用形態について希望されるものをお選びください。(○は1つ)

1. 正規の社員・職員
2. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員
3. パート・アルバイト（家に子どもがいない時間のみなど）
4. その他 [ ]

問18で「2. 派遣・嘱託などの社員・職員」または「3. パート・アルバイト」を選ばれた方におたずねします。

問19 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものをお選びください。(○は3つまで)

1. 家事や育児などで家族の協力や理解が得られないから	2. 正規の社員・職員で雇用する企業が少ないから
3. 仕事より家庭生活を優先したいから	4. 時間外勤務や休日出勤を避けたいから
5. 配偶者（特別）控除の範囲内で働きたいから	6. 積極的に仕事に就くつもりがないから
7. その他 [ ]	

離職経験のある方におたずねします。

問20 離職の原因（理由）としてあてはまるものをお選びください。（○は3つまで）

- |              |             |           |           |          |
|--------------|-------------|-----------|-----------|----------|
| 1. 結婚        | 2. 出産       | 3. 育児     | 4. 看護     | 5. 介護    |
| 6. 転職・起業     | 7. 配偶者の転勤   | 8. 健康上の理由 | 9. 給料が少ない | 10. 定年退職 |
| 11. 解雇等職場の都合 | 12. 特に理由はない | 13. その他〔  |           | 〕        |

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問21 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。（○は3つまで）

- |                          |                               |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. 家事・育児などと仕事の両立が難しい     | 2. 女性が就ける仕事に限られている            |
| 3. 活躍したいと思える仕事がない        | 4. 活躍を望む女性が少ない                |
| 5. お手本となる「活躍する女性」が身近にいない | 6. 結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い |
| 7. 上司・同僚の男性の認識、理解が不十分    | 8. 家族の理解が不十分                  |
| 9. その他〔                  | 〕                             |
| 10. わからない                |                               |

問22 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。（○は3つまで）

- |                    |                                    |
|--------------------|------------------------------------|
| 1. 女性の積極的登用        | 2. 能力開発、自己啓発                       |
| 3. 働き方改革の推進        | 4. 福利厚生の実施                         |
| 5. 賃金の男女平等         | 6. 正規雇用と非正規雇用との待遇差の解消              |
| 7. 家族の理解や協力        | 8. 職場の理解や協力                        |
| 9. 経営者・管理職の意識改革    | 10. 女性自身の意識改革                      |
| 11. 育児・介護に関する制度の実施 | 12. ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人） |
| 13. その他〔           | 〕                                  |
| 14. わからない          |                                    |

問23 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。（○は3つまで）

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| 1. 離職しても同一企業に再雇用されるようにすること | 2. 求人情報や就職ガイダンスの実施   |
| 3. 再就職に関する相談体制の実施          | 4. 再就職のための講座やセミナーの実施 |
| 5. 子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備   | 6. 保育所などの保育施設の実施     |
| 7. その他〔                    | 〕                    |
| 8. わからない                   |                      |

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することにおたずねします。

問24 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。（○は1つ）

- |                |                        |         |
|----------------|------------------------|---------|
| 1. 言葉も内容も知っている | 2. 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない | 3. 知らない |
|----------------|------------------------|---------|

問25 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度についてあなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものをお選びください。（○は1つ）

1. 「仕事」優先
2. 「家庭生活」優先
3. 「地域活動・個人の生活」優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問26 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度についてあなたの現実（現状）の生活に最も近いものをお選びください。（○は1つ）

1. 「仕事」優先
2. 「家庭生活」優先
3. 「地域活動・個人の生活」優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問27 あなたは次にあげる家事をしていますか。（それぞれ○は1つ）

	主に自分がしている	家族が同じ程度している	自分と手伝い程度している	自分はいない
1. 掃除	1	2	3	4
2. 洗濯	1	2	3	4
3. 食料品、日用品などの買物	1	2	3	4
4. 食事のしたく	1	2	3	4
5. 食事の後かたづけ	1	2	3	4
6. ごみ捨て	1	2	3	4

問28 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。（○は1つ）

1. 0～1 時間未満
2. 1～2 時間未満
3. 2～3 時間未満
4. 3～5 時間未満
5. 5 時間以上

問29 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。（○は1つ）

1. 0～1 時間未満
2. 1～2 時間未満
3. 2～3 時間未満
4. 3～5 時間未満
5. 5 時間以上

身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問30 あなたは育児または介護をどの程度していますか。(それぞれ○は1つ)

	主に自分が している	自分と 家族が 同じ程度 している	自分は 手伝い程度 している	していない
1. 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4
2. 介護	1	2	3	4

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問31 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。  
(○は3つまで)

1. 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
2. 職場や同僚に迷惑がかかるから
3. 上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから
4. 育児、介護は女性の方が向いているから
5. 昇給、昇格に影響すると考えるから
6. その他 [ ]
7. わからない

問32 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 男女の固定的な役割分担意識を改める
2. 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
3. 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
4. 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
5. 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
6. 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
7. 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
8. 男性のための仲間（ネットワーク）作りを進める
9. 男性が相談しやすい窓口を設ける
10. 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
11. その他 [ ]
12. 特に必要なことはない
13. わからない

**「地域社会」に関することでおたずねします。**

問33 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。(それぞれ○は1つ)

	そうである	そうではない	わからない
1. 自治会やPTAの会長は、男性と決まっている	1	2	3
2. 自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である	1	2	3
3. 役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている	1	2	3
4. 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3
5. 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている	1	2	3
6. 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3

問34 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。(それぞれ○は1つ)

	男性	女性	男性も女性も	わからない
1. 自治会の役員活動	1	2	3	4
2. 自治会の行事等の活動	1	2	3	4
3. PTAの役員活動	1	2	3	4
4. PTAの行事等の活動	1	2	3	4
5. 育成会の役員活動	1	2	3	4
6. 育成会の行事等の活動	1	2	3	4

問35 持続可能な地域づくりのためには、活動の企画立案・方針決定の場に、あらゆる世代の男女が、互いを尊重し、参画することが重要です。そのためには、女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。(○は1つ)

1. 役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)※を導入すること
2. 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
3. 地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと
4. 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
5. 女性が積極的に役職につく意識をもつこと
6. パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者
7. その他 [ ]
8. わからない

※ 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)  
男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいいます。

問36 平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要です。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
2. 市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす
3. 避難所などの運営に女性も参画できるようにする
4. 防災や災害現場で活動する女性を育成する
5. 日頃から地域の男女共同参画を進める
6. 備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人障害者などの視点を入れる
7. 日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする
8. 性別や立場によって異なる災害時の備え（生活環境、物資、安全など）について知識を普及する
9. 避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする
10. その他 [ ]
11. 特に必要なことはない
12. わからない

### 男女の「人権」に関することでおたずねします。

問37 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)※として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。

あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。(それぞれ〇は1つ)

※DV(ドメスティック・バイオレンス)・・・配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為をいいます。

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともある	受けたこともしたこともない
1. 刃物などを突きつけて脅す、殴るふりをして脅す	1	2	3	4
2. なぐる、ける	1	2	3	4
3. 物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4
4. 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4
5. 大声で怒鳴る	1	2	3	4
6. メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4
7. 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3	4
8. 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4
9. 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4
10. 家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3	4
11. 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4
12. 避妊に協力しない	1	2	3	4



問38 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口をお選びください。(〇はいくつでも)

1. DV相談ナビ
2. 長野県女性相談センター
3. 県警(警察安全相談窓口)
4. 長野県児童虐待・DV24時間ホットライン
5. 女性の人権ホットライン
6. 長野県性暴力被害者支援センター“りんどうハートながの”
7. 県警性被害犯罪ダイヤルサポート110
8. 長野犯罪被害者支援センター
9. 長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)
10. 長野市男女共同参画センター
11. その他 [ ]
12. 相談できる窓口は知らない

問39 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。(〇は1つ)

1. どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
2. どんな場合でも人権侵害にあたると思う
3. 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
4. 人権侵害にあたるとは思わない
5. わからない

問40 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

1. メールによる相談ができる
2. LINEなどSNSによる相談ができる
3. 電話による相談ができる
4. 通話料が無料
5. 24時間相談ができる
6. 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる
7. 同性の相談員がいる
8. 匿名で相談ができる
9. 弁護士など、法的知識のある相談ができる
10. 臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談ができる
11. その他 [ ]
12. 特にない
13. わからない

**「性」の多様性に関することでおたずねします。**

問 41 あなたは「性的マイノリティ（性的少数者）」または「LGBTQ」という言葉を（どちらか一方でも）知っているか、または聞いたことがありますか。

1. 知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
3. しらない

問 42 性的マイノリティ（性的少数者）についてどのような考えや、イメージをお持ちですか。あなたの考えに近いものをお選びください。（○は3つ）

1. 性の多様性として認めるべきである
2. 身近な存在だと思う
3. テレビ等マスコミにも取り上げられており、理解に努めようと思う
4. 芸能人や特に注目されている人たちのことで、身近な存在ではない
5. 理解ができない
6. 個人の趣味、趣向の問題である
7. 子供を産むために体の性を尊重すべきである
8. 治療すれば治る病気である
9. 関わりたくない
10. その他〔具体的に

〕

問 43 性的マイノリティ（性的少数者）の人権を守るためにどのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください（○は2つ）

1. 社会全体での教育や啓発
2. 学校等、子供のころからの教育や啓発
3. 社会制度（法制度や条例制定等）の整備
4. 社会環境（トイレ等）の整備
5. 性的少数者に関する相談や支援の充実
6. 特に必要ない
7. その他〔具体的に
8. わからない

〕

**「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。**

問 44 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、長野市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。  
(〇はいくつでも)

1. 出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組
2. 企業や団体において女性の管理職やリーダーを育成するための取組
3. 多様で柔軟な働き方（テレワークや在宅勤務、フレックスタイム制など）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ
4. 男性の育児休業の取得の促進に向けた企業への働きかけ
5. 保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備
6. 市役所自らの女性職員の職域拡大と管理職への登用、職員の働き方改革に関する取組
7. 住民自治協議会、区、自治会等への女性の参画促進に関する取組
8. 配偶者やパートナー間の暴力（DV）や性犯罪・性暴力などを無くすための取組
9. 非正規雇用の女性や、ひとり親家庭への支援
10. 高齢者・外国籍・障害者への支援
11. 妊娠・出産期、更年期、高齢期など、ライフステージに応じた女性の健康支援
12. L G B T Q などの性的少数者への支援と理解促進
13. 男性が家事・育児に積極的に関わる機会づくり
14. 地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実
15. 「女（の子）／男（の子）らしさ」にとらわれない、自分らしく生きるための教育の充実
16. 男女共同参画やジェンダー平等、性についての理解を深めるための広報や学習機会の充実
17. その他 [ ]
18. わからない

問 45 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

アンケート調査はこれで終了です。お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。



問 45 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」についての自由意見

性別	年齢	職業	記入内容
女性	20歳未満	正社員・正職員などの正規雇用者	男女で筋力の差があるように、体の構造上の差に配慮し、それ以外の個人差については、男女問わず配慮するような取り組みをしてください。
女性	20歳～24歳	正社員・正職員などの正規雇用者	育休か産休の取得は大切だが、その間どうするのか、時短で女性が帰って男性職員が残って仕事をするのも違うと思うので、周囲のフォローや、コミュニケーションでお互いやりやすくなってほしいと思います。どちらも気を遣って「言えない」ことが一番良くないと思う。
女性	25歳～29歳	正社員・正職員などの正規雇用者	昇格へ意欲のある女性をどんどん活躍させるべきだと思います。また、出産等で、昇格が遅れる不安を取り除く取り組みが必要だと思う。
女性	25歳～29歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	女性に視点がもっと必要だと思います。
女性	35歳～39歳	正社員・正職員などの正規雇用者	アンケートを答えていて、「女性はー」と問われること自体に違和感があった。行政がこのような立ち位置で施策を検討しているとなれば、問題だと思う。数や立場で女性と男性が同等になることが男女共同参画ではないと思う。女性が活躍できる社会を目指そうとなれば、表面的な結果と人々の生きやすさはかけ離れていくだろう。今がそうだ。そうではなくて、誰もが活躍できる社会を目指すべきだし、行政はそうであってほしい。
女性	35歳～39歳	正社員・正職員などの正規雇用者	子どもが小さいうちはどうしても子どもの体調不良等で仕事を休まざるを得ないことが多々あり。職場にも迷惑がかかったり、子どもの送迎等で短時間勤務で働かざるを得ないことがほとんどで、そこで昇進コースから外れる。じゃあ、男性がもっと家事・育児に協力して平等に働けるようにと思って、男性が子どもの体調不良等で早退・欠勤や育児のために短時間労働にすると経済的にも厳しくなる。かつ、やはり昇進に影響が出る。給与面ではやはり男性の方が高いことが多いので、女性側が仕事を犠牲にするしかない。
女性	35歳～39歳	正社員・正職員などの正規雇用者	夫宛しか来なかったもので、妻が答えてしまいました。私は結婚しても出産しても仕事を続けたい、続けられると思っていましたが、予想の数倍難しいです。その中で夫の育休は本当に助かりました。出産後が大変なのはもちろん、その後の育児にも大きな差が出ると思いました。
女性	35歳～39歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	子育て世代は男女共に時間の余裕がなく、地域の仕組み作りへの参画を実現するのは難しいなというのが現状ではありますが、長野駅前の「じゃんけんぼん」のような施設のリニューアルなどは、ぜひ実際に利用する女性の意見を取り入れたものにしていただけたらと思います。
女性	35歳～39歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	私は前職で産休は取得できましたが、産んで戻ってきた人がいないからという理由で育休は取得できませんでした(総務課長から直接言われました)。失業手当をもらった方が得とも言われ、退職せざるを得ませんでした。子育てに専念はできましたが、当時の事を思い出すと今もくやしいです。こんな思いをする女性がいなくなればいいな。誰でも会社大小関係なく産休・育休を取得できる社会になればいいなと思います。
女性	35歳～39歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	女性が社会進出することに重きが置かれるが、逆に男性が家庭進出するのにおいて何が必要なのか、進出したいと考える男性は何に困っていたり悩んでいるのかも探っていくことが大事なのではないかと思いました。
女性	35歳～39歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	性の多様性を尊重することは大切だが、それを悪用して性犯罪をしたり、女性を不安にさせるような行動をとる「偽のトランスジェンダー」も存在するようなので、そこへの対策はきちんとしてほしい。そうでないと、女性はもちろん、本当に性的マイノリティで悩んでいる方たちが生きづらいと思います。
女性	35歳～39歳	家事専業者	学校教育現場で女性校長の割合が少ないと感じます。男女半々くらいにしてほしいです。長野市の教育長も女性にしてほしいです。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	40歳～44歳	正社員・正職員などの正規雇用者	我が子が小学生なのですが、いまだに「女の子なんだから」「男の子なのに」と先生や同級生から言われるそうです。ジェンダーについての認知認識が昭和のままなのも個人の自由ですが、親の思想でまだ色のついていない子ども達が固定観念をうえつけられたまま成長していくようでは男女共同参画等について道のりは長いのでは？と感じています。
女性	40歳～44歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	夫の育児や家事参加を促す働きかけを町や市全体でしてくれたら、働くママ達の心強い応援になると思います。自分の子どもには、積極的に家事ができるようになって欲しいと思い、お手伝いをしてもらって家族の一員という意識を持ってもらっています。私や夫の子どもの頃はまだ働くお母さんがあまりいなかったのも、父親はゴロゴロして新聞を読んでご飯が出来るのを待つというイメージが強かったです(普段の仕事を言い訳にして)。家事も育児もお互いが分担し、分け合うのが当たり前になるといいなと思います。
女性	40歳～44歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	問44の解答例にあるように、やることはわかっているんだと思うけど、なぜこんなにジェンダー平等にならないのか、不思議。世代交代が起こらないと変わらないのかと思った。でも自分より若い世代でも男尊女卑的な言動する人がいるので、よくわからない。政治家や役所の男性にもうんざり。でも希望は持っているし、自分も行動しているので、頑張っしてほしい。
女性	45歳～49歳	農林漁業の自営業主・家族従業者	周囲や世の中から「女は家で家事、育児、介護」と言われるのも、女性活躍で「外で働き(男性と同等に)、リーダーになれ」と言われるのも正直どっちもいやです。本人が自由に生き方を選択して、周りもそれを認めてお互い(みんなが)協力できる社会であればと思う。男女である前に一人の人として生活したり人間関係を作りたい。
女性	45歳～49歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	女性活躍ではなく男女共同が当たり前だと思います。しかしながら、男性女性でそれぞれ特性があり、向き不向きの活動がありますので全てにおいて男女共同は不可能だと思います。そもそも男女と記している時点で男性が優位に思えるのは私だけでしょうか？
女性	45歳～49歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	男性の育児休暇取得により、かえって迷惑だったという友人の話も聞くので、行政から企業への働きかけは慎重にお願いしたいと思う。
女性	45歳～49歳	正社員・正職員などの正規雇用者	PTA・地域は、特に旧態然としている。一方、女性も表に出たくない気持ちが多く(良し悪しは別として)バランスは取れているかもしれない。時代が変わり、男女対等に活躍するには、簡略できるところは略し、負担感の少ない活動としていくべきだと思う。
女性	45歳～49歳	正社員・正職員などの正規雇用者	職場は女性が多い環境なので男女差をあまり意識することがない。社会の中で男性と接する中で女性を下に見る男性が多いと感じる。そのような男性が居なくなるといくら制度を充実しても変わらないのではないかと思います。
女性	45歳～49歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男性だけでなく、女性も変わることを受け入れる思考、努力が必要だと思います。そして、女性が強い思いを持つことが大切だと思います。
女性	45歳～49歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	今までの固定概念をなくす。家事は原則女がやるものではない。夫も当事者意識を持ち、積極的に参加、協力し、家庭を作るべき。
女性	45歳～49歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	男は仕事、女は家庭と言う固定概念は特に年齢が上がる程強い。それを変えることはほぼ不可能に近いと感じる。平等だからと、急に洗濯や料理をしると言っても、子どもの頃家庭科での学習をしていない時代の男性たちにはかなりハードルが高い。女性はその点、仕事も家事も両方経験値は高い。ならば、未来を担う子どもたちへの教育、意識改革がとても重要だと思う。家事や育児を頑張っても、仕事の様に給料がもらえる訳でもなく、誰からも評価されないのが悲しい現実である。だから、「俺が食わせてやってる」という発想が生まれてしまう。仕事ができるのは誰かが家庭を回しているからだと思っしてほしい。
女性	50歳～54歳	正社員・正職員などの正規雇用者	8/4付け信毎新聞に掲載された、女性管理職の少なさや、賃金格差など、企業ごとに調査をしてどんどん発信して欲しいです。それによって企業の悪しき慣習が見直されるきっかけとなると思います。
女性	50歳～54歳	正社員・正職員などの正規雇用者	この言葉があるイコール平等ではないという事。しかしこれ以上女性を働かせるのかと思っている人も多い。つまり、今の状況では女性の負担が増えるのみである。社会が変われなければ、実現できないと思う。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	50歳～54歳	正社員・正職員などの正規雇用者	育児はクローズアップされているが、介護については理解や支援が非常に少ないと感じる。今、働き盛りの女性で介護で苦しんでる人が多数いると思う。介護している女性への支援拡充をぜひお願いしたいです。
女性	50歳～54歳	正社員・正職員などの正規雇用者	私が子どもを産んだ20年前と比べたらかなり子育て中の働き方など良くなったと思います。子育ては男だろうが女だろうが、積極的に関わることが当たり前というアンコンシャスバイアスとすること、子育て中でも働ける環境である事が大切だと思います。正社員として理解の中で仕事ができれば、パワハラ、モラハラ夫から逃げる事もできるし、1人でも子どもを大学まで出す事もできます。私のように。
女性	50歳～54歳	正社員・正職員などの正規雇用者	上記の質問のその他に書いたように女性、人の扱い、家事、育児介護の講座をしてくれたら嬉しいです。
女性	50歳～54歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	家事や育児の価値を認め、家庭の中で、対価を得られるようにするべき。家事や育児は女性の活躍しやすい分野であり、この事の社会的価値も無視している事は間違っている。女性軽視の重大な要因となっている。
女性	50歳～54歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	放課後の子ども達に関わる仕事をしています。男性も女性も性的マイノリティの方も誰でも社会で活躍して生きられることは大切なことだとは思いますが、子どもが子供らしく生きられることも重要に思います。保護者の就労のため、夏休みの今も毎日朝から晩まで預けられている子どもたちを毎日見ている。具合が悪くても薬を飲んできている子どもが今は大勢います。就労していなくても預けられるようになった今は、家族が家にいるとわかっていながらいやいや連れてこられている子もいます。延長時間を増やし、盆休みにも受け入れし、土曜も一日預かりし、次々大人の為だけのサービスを拡大していく現状に不安を覚えます。現場は子どもファーストで考えているのです。子ども達にも、心豊かで生きがいのある社会を。親と過ごしたい子が一緒に過ごしたいと言えるそんな施策も考えてください。
女性	55歳～59歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	対等、対等と言葉だけが先歩きしている。女性は出産・子育ての間だけの大変さを理解していない。まずは、安心して子育てできる環境が必要。仕事場から帰っても育児は24時間続く。ジェンダー平等？←バカみたい。
女性	55歳～59歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男性、女性に関わらずモラルのない方が居る。しつこくクレームを入れたりする人に対応するのは男性の方がいいのかな？と自分は思っています。そういう面では男女平等にはいかないと思います。
女性	55歳～59歳	正社員・正職員などの正規雇用者	幅広い世代から意見を集めるためにアンケートだから、紙ベースなのだと思いますが、今どき紙ベース？と言うのが驚きでした。皆で仕事を減らし、家庭に帰るためにも、ICT関係はどんどん使うべきです。
女性	55歳～59歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	私の住んでいる地域には長野市でも田舎な所で、地区の会合があると公民館で女性に「お燗番(おかんぼん)」といって、お酒をお燗したり、飲食の用意をさせられる。いまだに、お勝手(台所)仕事を女性にさせることがおかしい。男性が動いてほしい。切に願う。お寺でも同様に集まりの時女性に台所でやらされる。接待させられてとても嫌です。「男女共同参画及び女性活躍推進」とは違うことをかき申し訳ありません。
女性	55歳～59歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	大切にしたい「女／男らしさ」も存在すると思う。まず、女性が社会活動に参画したいのにできない、実現できない原因に1つ1つ丁寧に取り組み、解決していかないといけないと思う。他を思いやることのできる心の教育(心理士等、メンタルサポートできる方々に)の早期実現(幼少期から)と充実が必要と思う。自分を大切にすることの重要性を学ぶ機会を増やす。
女性	55歳～59歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	地域、学校の役員など、会議や慰労会など、余計な集まりが多い事が役員になる人が居なくなることに繋がっていると思う。負担を少なくし、今までやってきたからと同じ行事を押し付けず、時代に合った内容で検討してくれると有難いです。若い人の参加が少なく、高齢者ばかりの集まりなので仕方ありませんが、頭の切り替えをしてほしいです。
女性	55歳～59歳	家事専業者	女性だからといって、活躍の場を割り当てるのではなく、各人の希望や能力にあった参画が選択できるように平等な機会や評価が得られれば良いと思う。
女性	60歳～64歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	少子化対策について、子どもをもう一人欲しいと思ってても今の社会の状況ではとてももう一人とは思えないと思う。少し具合が悪いとすぐに保育園から呼ばれ仕事に迷惑がかかる。長野市で現役引退した看護師さんとかにお願いして、各保育所に配置してもらえば少しは状況が良くなる気がする

性別	年齢	職業	記入内容
			いつも思っている。私は家に母が居てくれたので今でも現役で仕事が出来ているが、長男夫婦は大変だ。
女性	60歳～64歳	会社役員・経営者	このアンケートの内容に偏りがあるように感じました。男女同数で企画されましたか？現在の問題の洗い出し、世界の男女に対する理想と現在の日本の違いを明らかにし、希望的社会、子どもを持ちたい、結婚したい、結婚生活をする人生を選ぶ気持ちになってもらうには、どんな社会になれば進めるのか、もっと考察してからアンケートを作成してほしいです。
女性	60歳～64歳	正社員・正職員などの正規雇用者	個々の意識の問題が多く、社会的に形造りばかりしても変化は難しいと思う。特に県民性は受け入れがたい所もあり、出る杭は打たれる様な県民性については、男女共に強い意志を持ち道徳を重んじて欲しい。
女性	60歳～64歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	現役で働いている方がこれからの世の中が働きやすく子育て、介護もできる環境を作るために意見を出し合える場が必要だと思います。60代の私には、若い方たちが今、どうして欲しいかもわからなければ毎年、女性担当の町の役が回ってこないかビクビクしています。アンケートは、60歳未満の方々の対象がいいのではないのでしょうか？
女性	60歳～64歳	家事専業者	ド田舎はもう周りは年配者ばかり。毎年役員回ってくるスーパーも銀行へ行くにも町へ下りるのにバス廃止。町へ行くなら連れて行くとと言われると大変疲れる。
女性	60歳～64歳	家事専業者	パートに出ていた時期、同じ職場で働く母子家庭の女性(母親)の大変さをとても感じました。支援を充実してほしいと思います。
女性	60歳～64歳	家事専業者	女性も今以上に活躍できる社会にすることは、素晴らしいことだと思いますが、例えば管理職の女性の割合を高めるなど、重要な職に女性を就かせることをするのはどうかと思います。女性でも男性でも能力のある人が重要な職に就くべきであって、女性の数を多くしようとして、能力のあまりない人が女性だからそういうポストに就く、ということのないように対策を進めてほしいと思います。
女性	60歳～64歳	家事専業者	昭和の時代はこのようなこと考えなかったね。大変だね。
女性	60歳～64歳	家事専業者	全てを平等とすることが平等ではなく、生まれ持った男性らしさ、女性らしさを生かして、男女協力し合っていくことが大切かと思います。
女性	60歳～64歳	無職	女らしく、男らしくも大切だと思う。そういわれて、いやだと思ったら「嫌だ」と伝えることが出来てそれを受け入れることが大切。「らしく」あることが自分の役割を見つける一つのヒントであり、存在価値を感じることもできると思う。
女性	65歳～69歳	農林漁業の自営業主・家族従業者	まず協力してくれる家族がいる事と働きやすい環境が必要だと思います。女性が社会に出て働くということは協力なくしては、なかなか出来ないと思います。
女性	65歳～69歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	身近なところから意識を変えていく。まず、女性自身が意識を変えないとただ上からの圧力とか折々を変えても負担が増えるばかりになるのではないかという不安が大きい。
女性	65歳～69歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	長野は男性の意識が低いと思う。男性の意識を高める教育が必要かと思う。
女性	65歳～69歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	夫について、女性は、仕事の有無にかかわらず、家事育児を行うべきであるという考えは、根本的に根強いと思いますし、女性が社会で活躍すると、自分が、家事、育児の負担が増すということが考えられるからだだと思います。
女性	65歳～69歳	家事専業者	差別や人権侵害により女性が能力を生かせないのは社会の損失でもあります。「今までずっとこのやり方だったから」とか「世の中に、こういうものだ」とか言ってるのは学びが無いと思います。長野県は日本一「公民館が多い」と聞いたことがあります。公民館でも病院の待合でも役所でも学校でも家庭でも、老若男女に関わらずすべての人々があらゆる機会にもっと正しい知識を学習すれば、世の中良い方に変わっていくのではないのでしょうか？情報通で議論好きの長野県民には「学習」がいいと思います。



性別	年齢	職業	記入内容
女性	65歳～69歳	家事専業者	子育てと仕事の両立は、本当に大変だと思う。特に子どもが急に体調を崩した時等、どうしても母親に負担がかかってしまう。ベビーシッターの費用も高く、利用は大変です。育休取得の男性が新聞記事になるような、「特別な事」にならない日は、遠いと思います。
女性	65歳～69歳	無職	国、地方(県・市)が連携しつつも、市行政としての課題や生活する上での身近な問題の受け皿として積極的な取組を期待します。(上記問44における5-7-14などは長野市として極めて重要な取組になると思われる)。
女性	65歳～69歳	無職	若い女性が結婚しながらないことが多い。自分の能力を生かして働くこともでき、パートナーと対等に家庭生活を営んでいけるようになって欲しい。私は仕事をしながら、出産、育児を経験してきたが、それが可能だったのは、第一に職場の理解があったからだと思う。その上に、家事の分担ができれば申し分なかったが…。男性も料理をするのが当たり前。男性も育児をするのが当たり前と、年長者も、当の男性も、もっと強く意識でき、実際に出来るようになれば、女性が家庭を持つ気は起こりにくいのではないかと思う。
女性	70歳以上	農林漁業の自営業主・家族従業者	男性も女性も仕事中心の生活になると子どもの事がおろそかになります。子どものいる人ばかりでなくすべての人が子供ファーストの考え方になった時、世の中が変わってくれるのではないかと思います。
女性	70歳以上	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	私の育った時代に比べると、今は何かと生きづらい世の中になった様に思います。昔も大なり小なり問題はあったと思います。皆が平等に生活しやすい世の中になることを願っています。
女性	70歳以上	会社役員・経営者	男性が育児休業を取っても、家でやれる仕事は参加する(テレワーク)。女性が出来る管理職など、本人の選択により参画していただく。
女性	70歳以上	家事専業者	まずは、女性の子育て、家事の負担を減らす事からしないと社会に出て、活躍するチャンスは無いと思う。
女性	70歳以上	家事専業者	もっと当事者の話を聞くといいと思う。例えば、「育児・介護休業制度」も利用した男性・出産したパートナーの職場の雰囲気等。
女性	70歳以上	無職	公の行政機関で、女性の視点を積極的に取り入れていただくことで、女性の持つ問題解決が、スムーズに行われるのではないかと思う(他県から施設に入ったので、自治体については分かりませんでした)。
女性	70歳以上	無職	昔から比べると女性も活躍の場が多くなってきて良かったと思います。子育てをしながらの仕事は大変だと思いますが、これからどんどん女性も仕事に出て管理職に付いて働いていける時代になると良いと思います。
女性	無回答	家事専業者	高齢者・障がい者など育児・介護。企業・家族も含めまだまだ理解されないことが多いです。
男性	20歳～24歳	学生	市の中心部や中山間地域において、子育てのパパママの交流会を開く。1人親世帯に対する経済面における支援の拡充をする。市も企業も男女能力問わず、新卒採用する。多目的トイレやミルクルームなどを増やす。管理職の女性採用率を上げる。ワークライフ・バランスが取れるような働き方改革をする。保健などの学校教育において、性に関する教育を充実させる。学童に預けて働きに行かなくてはいけない親がいるため、学童に対する人的支援と親のカウンセラー支援をする。
男性	30歳～34歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	税金を安くしてください。お願いします。
男性	30歳～34歳	会社役員・経営者	どんな人でも平和な世界で暮らしていけばいいと思うし、差別するのは良くないと思います。
男性	30歳～34歳	正社員・正職員などの正規雇用者	子どもがいないと将来の発展は望めないで、地域の子どもが増えるような制度設計が必要。子育て中の女性が望む期間休職・金銭保証を受けやすい環境を作ることで女性の活躍環境や個人の意識(労働に対する)の改善につながるのではないかと。まずは地方自治体から成功例を作り国を動かす必要があると思う。子育て環境の充実を頑張ってもらいたい。産前の産休期間が短いので、10週間くらいからは休めるようにしてほしい。育休も3年までは半年毎の申請をしなくても希望者は一括で取れるようにするなど、手続きを簡単にしてほしい。
男性	30歳～34歳	正社員・正職員などの正規雇用者	子育て相談できる場、機会を増やしてほしいです。助産師さんとの交流など。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	30歳～34歳	正社員・正職員などの正規雇用者	出産や育児等により退職する女性は多いと思う。退職すると、その後の再就職が非常に手間がかかるし、年数によってはなかなか思うような仕事に就けない。退職せずとも出産や育児ができるような環境を労働時間・賃金の両面で充実させてほしい。また、家事や育児に参加したくても仕事の都合で、なかなかできない男性も多いと思う。男性の労働環境の改善も、女性(妻)が働くことができるようになるために必要。あと、自分の好きな事の前に、まずは家事・育児をする意識も重要(男性に向けて)。
男性	35歳～39歳	会社役員・経営者	男女平等と言いつつも、やはり男の方が活躍していると思う。PTAも会長は男性と決まっている。家事育児もほとんどは母がやっているし、なかなか変わらない。
男性	40歳～44歳	正社員・正職員などの正規雇用者	企業に向けた取り組みの強化を法律で規制を作るなど、企業が厳守する内容を作って欲しい。
男性	40歳～44歳	正社員・正職員などの正規雇用者	今まさに子育てをしている女性の声を多く聞いて、施策に反映してほしい。関係機関の役員や委員とは違う視点で意見が上がると思います。
男性	40歳～44歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性と男性を同じ(平等)にする。扱うのではなく、違いを認めた上で「対等」になれる様な社会にしたい。一緒である必要はないのではないかなと思う。
男性	40歳～44歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男性、女性、LGBTQ、それぞれの特性を社会が知ることが第一歩だと考えます。優位な点があれば、自ずと雇用に繋がると思うので。また、現在は、それぞれの定義が変化していると思うので、どう判断してどう区別するのが、大変難しい点だと思います。
男性	40歳～44歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男性、女性、それぞれが意識改革していく必要があると思います。
男性	45歳～49歳	正社員・正職員などの正規雇用者	産休は少数の企業や営業所などは取りづらいし、代替りの人間もすぐには見つからない。
男性	50歳～54歳	正社員・正職員などの正規雇用者	LGBTQは、勉強してこなかった世代なので、何もかも分かりません。分かりやすく、県民の大人に教科書的なものを、配ってほしいです。理解したい気持ちはあるのですが、もともとわからないので困っています。
男性	50歳～54歳	正社員・正職員などの正規雇用者	女性が社会の中で同等に生活し、活躍することは非常に大切ではあるが、欧米と比較して、その状況が進まないのはモデルとする環境や人物がいなことが多い。また、企業で管理職が進まないのも、男性と同様の働き方を求められるためであり、そのような働き方が家庭や育児を持つ女性には困難となっていることも一理ある。「女性モデル」を作ることも大切であるが、男性自体の働き方が女性でもできると思われるような働き方へ変えていくことも必要と感じる。
男性	50歳～54歳	正社員・正職員などの正規雇用者	人間としての能力で評価すべきで男女の性別に拘る必要ないと思っています。
男性	55歳～59歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	男女共同参画と言う物自体知らなかった。こういうことは、これからとても大事だと思う。もっと上手く告知していくべきだと思う。
-0 男性	55歳～59歳	正社員・正職員などの正規雇用者	男女を問わず、能力の有るものを尊重するだけで上手く廻ると思う。男女共同参画の様にせねばならないと企画することで取り組みが大きさになり、普及に時間がかかるのではないかと考えます。
男性	55歳～59歳	無職	やはり一番は、働く企業、大企業の誘致が必要。安定した収入とゆとりのある生活がなければ活躍は見込めない。これは男女ともにあると思う。個人的なお願いが農業振興地域はなくしてほしい。
男性	60歳～64歳	正社員・正職員などの正規雇用者	どんな生き物でも雄と雌に役割があるように、ヒトにも身体的特徴と役割があるはず。それと差別を同じ次元で話をしていることがおかしい。特徴、役割はとても大切であり、敬意を払うべきこと。
男性	60歳～64歳	正社員・正職員などの正規雇用者	画一的な制度では難しいと考えています。男女共同参画において、男性では出来ない事(授乳、母性愛等)もあり、完全に平等とはならないと思います。女性と男性に機会の平等は必須と思いますが、数値目標を作って無理矢理男女比を上げるのは違うと考えています。諸外国において女性の参加、向上意欲が高く、それによって比率が上がっていると考えられ、向上心の無い人にまで機会を与えるのは逆に不平等と考えます。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	60歳～64歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	男女共同参画の取組と並行して少子化の根本的対策を行うべき。女性が本当に安心して出産から子育てができる長野市にしないと長野市から女性が消え市が消滅してしまいます。例えば、全ての企業、団体において女性管理職の最低割合のノルマを課す等。
男性	65歳～69歳	農林漁業以外の自営業主・家族従業者	女系天皇は一般世論はOKと言っても政治的には前進する事が無く、潜在的に男尊女卑の意識が根付いているのでは無いか？政治家(特に国会議員)が超保守的であれば基本的に変化は望めないのではないかとと思われる。
男性	65歳～69歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	ポジティブ・アクションの強制的導入。
男性	65歳～69歳	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	区の役員、公民館の役員の成り手が少なくなっています。特に区長、定年延長も影響していると思う。区長手当等の改善が必要と思います。
男性	70歳以上	自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	すばらしい実態調査だと思います。ご苦労様です。真剣に考えていなかったもので、回答には難しすぎました。
男性	70歳以上	正社員・正職員などの正規雇用者	この調査を発案され、この調査を開始されたことに賛成です。項目も多く、まとめるためには大変だと思いますが頑張ってください(私75歳です)。
男性	70歳以上	正社員・正職員などの正規雇用者	仕事100%やろうとしたら、家庭・子育て・介護はできない。パートナーが犠牲になるか、公的なカバーが必要。パートナー間で「男女共同参画」とはどういう意味か足して100%ならよいがそれぞれ100%=200%はあり得ない。「女性活動推進」もその分パートナーがカバー？
男性	70歳以上	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	シングルマザー家庭に関して、もっと手厚い支援が必要だと思います。また、ヤングケアラーの方々にも同じことが言えると思います。※市役所では、シングルマザー、ヤングケアラーの家庭状況を把握し、適切な対応をしているのか、見えて来ません。家庭調査は、していますか。民生委員がそれなのかな。
男性	70歳以上	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	人間を「産む」ことが出来るのは「女性」のみです。←これが第一。女性が子を産むことが可能な状態にすることが必要(社会、家庭も)。声高に「女性優遇」を叫ばなくても、能力のある女性は優遇されるべきだが、「女性だから優遇するべき」というのは誤り。女性でも、社会で活躍したくなく、男性に「リード」される方が楽だと思う人も多いと思う。
男性	70歳以上	パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	性的多数者に対する女として、男として生きるための教育、取り組みが必要だと思います。このベースがしっかりしていれば自然と人口は増え、過ごしやすい社会が築けると思います。
男性	70歳以上	無職	子育て離職後、再び元の職場で慣れた仕事につける様、就いた時、上司・同僚の理解が必要だと思う。「ご苦労様でした」の意識が必要。



令和6年11月発行

発行 長野市

編集 長野市地域・市民生活部 人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町1613番地 電話026(224)5032(直通)

E-mail : [jinken-danjo@city.nagano.lg.jp](mailto:jinken-danjo@city.nagano.lg.jp)

集計 協同組合長野シーアイ開発センター